

# 看護学専攻

開設科目	形態機能学 I	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	野垣宏、清水昭彦、服部幸夫				

授業の概要 保健学科の授業は人体の構造を基礎に形作られている部分が多い。したがって、解剖学用語がわかっていないと学習がはかどらない。しかも、実際の医療では解剖学用語は日本語だけでなく、しばしば英語が使われる。しかし単なる用語の丸暗記では実用的ではない。よって、この授業では形態と機能を結びつけて理解する。 / 検索キーワード 人体、形態、機能

授業の一般目標 人体の各部位を日本語と英語で覚える。教科書の説明を読み、機能を理解しながら覚える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：人体の肉眼的構造を理解する。 思考・判断の観点：人体の構成と、それがいかなる機能を行っているかを理解する。 関心・意欲の観点：人体はいわば小宇宙ともいえる。その入り口に立っていることを自覚し、これからの医学知識獲得への関心を持つ。 態度の観点：医学・医療には膨大な知識が必要とされる。これを理解してはじめてまともな医療従事者となりうる。そのためには真摯に努力を重ねる態度が求められる。また同時に、常に医学を「科学」としてとらえる態度が医療従事者としての職務を豊かにしてくれる。

授業の計画 (全体) 人体の構造 (位置関係、名前) を、多くのイラスト、ビデオを見ながら学ぶ。デジタル化された「からだの地図帳」を電子辞書で英語の発音をさせながら正しい発音で脳に刻みつける。その作業を自分でやって授業に臨む。小テストも行う。これは完全に IT 化されており、自分のパソコンに解答を記入し教員へ E-mail で送る (専門用語のリスニングも含まれる。)

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション頭と首
- 第 2 回 項目 頭と首
- 第 3 回 項目 胸部
- 第 4 回 項目 胸部
- 第 5 回 項目 腹部
- 第 6 回 項目 全身
- 第 7 回 項目 全身
- 第 8 回 項目 手と足
- 第 9 回 項目 手と足
- 第 10 回 項目 腹部
- 第 11 回 項目 腹部
- 第 12 回 項目 腹部
- 第 13 回 項目 まとめ
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 筆記試験 (小テストを含む) で評価する。

教科書・参考書 教科書：からだの地図帳, 高橋長雄, 講談社, 1989 年; 英辞郎, 道端秀樹, アルク, 2006 年 / 参考書：ネッター解剖学アトラス, F. H. Netter, 南江堂, 2004 年

メッセージ 「英辞郎」は医学専門用語も含めた全ての単語 (英和 / 和英、100 万語) をカバーする電子辞書 (CD) です。授業はほとんど IT 授業の予定です。毎回、パソコンが必携です。

連絡先・オフィスアワー nogaki@yamaguchi-u.ac.jp ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp hattori-ygc@umin.ac.jp

開設科目	形態機能学 II	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	野垣宏、清水昭彦、篠田晃、大和田祐二				

授業の概要 人の生命システムの構造基盤について広く具体的知識を獲得できるよう、実際の体や臓器の観察を通じて形態学の講義を行う（実習は医学部解剖学実習室と組織学実習室で行う。） / 検索キーワード 解剖生理学、肉眼解剖、組織観察、脳、献体

授業の一般目標 実際の人体や臓器に接し、講義と観察を通じて、病態の基盤となる解剖生理学的知識を獲得し、人体の構造と機能について有機的に説明できる。また献体の意義や死生観について自分の考えを述べることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：人体を理解するため必要な解剖学的構造の名称を述べ、機能を説明できる。 思考・判断の観点：主たる構造についてその障害が起こる原因や臨床症状について説明できる。 関心・意欲の観点：人体の構造のルールや発生・進化、臨床的意義について自分で調べ、整理できる。 態度の観点：積極的に講義や実習に参加し、他者と議論し、自分の知識や考えを整理できる。 技能・表現の観点：積極的に解剖実習に参加し、観察法を体得し、自分の考えをまとめて表現できる。 その他の観点：実際の御遺体を観察し、献体の意義や死生観について自分の考えを説明できる。

授業の計画（全体）人体の構造と機能を、単に名称を記憶するのではなく、実際の人体を観察しながらその構造と機能を理解する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義 内容 解剖学 1（組織学）
- 第 2 回 項目 講義 内容 解剖学 2（内臓）
- 第 3 回 項目 講義 内容 解剖学 3（骨格、筋肉、神経）
- 第 4 回 項目 実習 内容 組織学実習
- 第 5 回 項目 実習 内容 組織学実習
- 第 6 回 項目 実習 内容 肉眼解剖の観察（筋肉）
- 第 7 回 項目 実習 内容 肉眼解剖の観察（筋肉）
- 第 8 回 項目 実習 内容 肉眼解剖の観察（内臓 1）
- 第 9 回 項目 実習 内容 肉眼解剖の観察（内臓 1）
- 第 10 回 項目 実習 内容 肉眼解剖の観察（内臓 2）
- 第 11 回 項目 実習 内容 肉眼解剖の観察（内臓 2）
- 第 12 回 項目 講義 内容 中枢神経
- 第 13 回 項目 実習 内容 脳の観察
- 第 14 回 項目 実習 内容 脳の観察
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合）提出物で評価する。

教科書・参考書 教科書：トートラ人体解剖生理学（原書 7 版）、佐伯由香・他 編訳、丸善、2007 年

メッセージ 御遺体や臓器の保存のために、ホルムアルデヒドによる防腐措置が施されています。化学物質に過敏な体質をお持ちの方は申し出てください。

連絡先・オフィスアワー nogaki@yamaguchi-u.ac.jp ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	生化学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	田中経彦				

授業の概要 保健学科看護学学生を対象とする生化学です。現代の医学は、人体、病原体を形成している生体物質の性質、役割を知らずには理解できない。生体物質の性質、役割を勉強するのが生化学 Biochemistry です。生体物質を化学的手段で解明するのが生化学です。これから看護師として栄養学、遺伝学、微生物学、免疫学、病理学等を学ぶのですが、形態学、生理学と並ぶ医学の基礎知識生化学がないと理解できなくなります。 / 検索キーワード 生化学

授業の一般目標 細胞を構成し出入りする生体物質の性質を知り、その細胞内、人体内、病原体での役割を理解できるようにし、医学の基礎常識を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 看護師として最低限の常識的知識が備わること。 思考・判断の観点： 生化学用語を使った医学に関する虚偽を見破る力をつけること。

授業の計画（全体） 教科書を中心に行う

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 人体の仕組み、栄養素の消化・吸収
- 第 2 回 項目 糖質の構造とはたらき、脂質の構造とはたらき
- 第 3 回 項目 蛋白質の構造とはたらき
- 第 4 回 項目 酵素の性質とはたらき 1
- 第 5 回 項目 酵素の性質とはたらき 2 ビタミンの種類とはたらき
- 第 6 回 項目 糖質の代謝
- 第 7 回 項目 脂質の代謝
- 第 8 回 項目 アミノ酸の代謝
- 第 9 回 項目 糖新生、グリコーゲン、
- 第 10 回 項目 生体の恒常性を保つシステム
- 第 11 回 項目 エネルギーの消費と供給
- 第 12 回 項目 DNA の構造と複製
- 第 13 回 項目 蛋白質の合成
- 第 14 回 項目 期末試験
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 正確な知識が何もないと、考えることはできない。あれば、それについて判断力が生まれる。生化学の場合、知識を取り込むのが先決と考えるので、成績評価も知識、理解 についてになる。

教科書・参考書 教科書： 生化学入門, 相原英孝, 東京教学社

メッセージ 生化学は、内容が多く、理解しにくいと言われます。1年かけたい所ですが、半年でしなければなりません。欲張らず基本に絞って講義したいと思います。化学を全く知らないと生化学は理解できませんが、できるだけ砕いて説明しようと思ってます。

連絡先・オフィスアワー <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/tatehiko/po-login/index.html> ここから質問とその回答を掲載したページへ行けるようにします。授業の終わりに質問を受け付けるつもりですが、不足であれば金曜日の昼休みに後日連絡する教室に質問受付のためにいます。メール連絡先： [tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	環境衛生学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	常岡英弘				

**授業の概要** 環境衛生学は、保健学科のカリキュラム編成に当たり、公衆衛生学の一分野であったものが独立した授業科目である。環境問題は1970年代の公害防止対策から環境影響評価、さらに地球環境問題、廃棄物や自動車公害等へと変化してきた。看護師、保健師としての立場で、身近な居住環境から地球規模の人間居住環境に至るまでの環境を説明し、さらに環境と人の健康との関わりを説明する。また食中毒や食品添加物等の食品衛生についてもこの授業で説明する。/検索キーワード 健康、公衆衛生、環境衛生、産業衛生、食品衛生

**授業の一般目標** (1) 水環境の変化と健康影響を理解する。(2) 大気環境の変化と健康影響を理解する。(3) 物理的環境の変化と健康影響を理解する。(4) 産業職場の環境変化と健康影響について理解する。(5) 地球規模の環境変化と健康影響について理解する。(6) 栄養と健康について理解する。(7) 食品衛生と健康について知る。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** (1) 水環境の変化と健康影響を説明できる。(2) 大気環境の変化と健康影響を説明できる。(3) 物理的環境の変化と健康影響を説明できる。(4) 産業職場の環境変化と健康影響について説明できる。(5) 地球規模の環境変化と健康影響について説明できる。(6) 栄養と健康について説明できる。(7) 食品衛生と健康について説明できる。  
**思考・判断の観点:** 環境が及ぼす人の健康について自分の意見を述べる事が出来る。  
**関心・意欲の観点:** 生活の中での環境問題に関心をひろげ、問題意識を高める事が出来る。  
**態度の観点:** 日常生活の中で環境問題について主体的に考える事が出来る。  
**技能・表現の観点:** 地球環境問題について説明あるいはプレゼンテーションする事が出来る。

**授業の計画(全体)** 授業は毎回プロジェクトを用いる。時々宿題を出すので、レポート提出する。最後の宿題は地球環境問題についてを課し、数人の学生に説明あるいはパワーポイントによる発表をしてもらう。

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 環境衛生概論
- 第2回 項目 生活環境と健康：上水
- 第3回 項目 生活環境と健康：下水 廃棄物
- 第4回 項目 室内環境
- 第5回 項目 環境保健：大気 汚染
- 第6回 項目 環境保健：水質 汚濁
- 第7回 項目 騒音・振動
- 第8回 項目 I. 産業職場の環境衛生(産業衛生)
- 第9回 項目 II. 産業職場の環境衛生(産業衛生)
- 第10回 項目 栄養
- 第11回 項目 食品衛生
- 第12回 項目 電磁波と健康
- 第13回 項目 地球環境
- 第14回 項目 その他
- 第15回 項目 その他

**成績評価方法(総合)** 期末試験で主に評価するが、授業の出席状況、宿題レポート提出状態、レポート内容、授業内でのプレゼンテーションも加味して総合評価する。

**教科書・参考書** 教科書：公衆衛生学, 眞野喜洋, 医歯薬出版株式会社, 2006年

**連絡先・オフィスアワー** htsune@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：医学部保健学科4階

開設科目	看護学原論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	正村啓子				

授業の概要 看護の真髄を流れる概念は、人間のケアである。ケアの本質、看護、人間、健康、生活について教授するとともに、ヘルスケアチームにおける看護の位置を知り、看護の概念の理解を目指す。さらに、看護倫理、看護の変遷、看護の役割について概説する。/ 検索キーワード 看護、ケア、健康、生活、人間、ヘルスケアチーム、

授業の一般目標 現代社会において看護の果たすべき役割を認識し、ケアを基盤に据えた質の高い看護を実践できるために、ケア・看護・健康・生活・人間についてその本質を具体的な実践とのつながりで理解するとともに、ヘルスケアチームにおける相互協力の重要性を認識し、看護を学ぶ喜び・課題を感じとり、今後の学習に積極的に取り組むことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 現代の社会情勢における健康問題と求められる看護について述べるができる。 2. 日本の看護教育制度の変遷のポイントを説明することができる。 3. ケア・看護・健康・生活・人間について連関をおさえて説明できる。 4. ヘルスケアチームについて理解し、その中の看護の位置を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 提示された事例、テーマに対して、自分の意見を述べるができる。 2. 学習したことと自己のそれまでの考えとの違い、他の学生との違いに気付き、自分の考えを発展させることができる。 3. 学んだことをもとに自己の日常生活を評価し、活用できる。 関心・意欲の観点： 1. 学習したことをさらに深く広く発展させ、疑問点を解決しようと行動できる。 2. 看護における先達の遺産を原著で読むことの喜びを実感できる。 態度の観点： 1. 学習したことをすすんで自己の生活に活かす取り組みができる。 技能・表現の観点： 1. 学習による気付き、疑問、自己の取り組みを他者に解るように表現できる。

授業の計画（全体） 授業は、講義形式でグループワークを取り入れながら進行する。資料の小冊子を配布し、また、随時必要な資料を配布し、上記目標達成を目指して授業を構成し展開する。重要な概念の理解は、原著ですすめる。また、看護学生の実践例も用いるので、資料をよく読んでおく。講義終了前5分間で、学んだこと・質問・意見・感想を書いてもらい、次回、参考になる学び・意見・感想を紹介し、質問に対応する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 序論（その1）：看護に期待されること 内容 1. 看護学を1年生で学ぶ意味 2. 日本の看護教育制度の変遷 3. 現代の社会情勢と健康問題 4. 21世紀に求められる質の高い看護 授業外指示 1. 課題：「入学の動機、将来の夢」についてレポート作成。次回提出。 授業記録 1. 資料 P.1-16
- 第 2 回 項目 序論（その2）：看護の学問としての累積的な発展を 内容 1. 大学で看護学を学ぶ意味 2. 看護学の構築の遅れの理由 3. 人間科学としての看護学 4. 学問としての累積的発展の必要性 5. 看護基礎教育の全体像 授業外指示 1. 次回の予習：資料 P.26-29 の看護学生の実践例のプロセスレコードを読んで、自分の考えをメモしておく。 授業記録 1. 資料 P.17-21
- 第 3 回 項目 'Care' ということ（その1）：他者の成長を助ける 'care' 内容 1. '今' 私の考える 'Care' とは、をメモする。 2. 資料の「患児を怒らせてしまった看護学生の児へのかかわりの記録」を読んで感じたことについてグループで話し合う。 3. 2. の成果を OHP シートにまとめる。 授業外指示 次回の予習：1. 資料 P.22-25 のメイヤロフ著 'On Caring' (原文) をよく読んでおく。 2. 資料 P.37-39 の 'F. Nightingale' の 'What is a nurse?' を読んでおく。 3. 資料 P.48-53 の「もう一人の自分」を読んでおく。 授業記録 1. 資料 P.26-29 2. OHP シート
- 第 4 回 項目 'Care' ということ（その2）：Care に重要な要素 内容（前回の続き）1. グループ討議の成果を発表・質疑・応答 2. 他者の成長を助けるとはどういうことか、事例を通して考える。 3. もう一人の自分」の働き 授業外指示 1. 課題：「看護の歴史」を概観し、さらに、興味ある

- テーマを設定し、調べて、レポート提出。第6回講義時提出。授業記録 1. 資料 P.22-25,48-53  
2.OHP
- 第5回 項目 'Care' ということ(その3): 'Care' と '看護' 内容 1.care とは? On caring (Milton Mayeroff) を読む。 2. 看護学生のその後の見へのかかわりの変化 3. 'Care' と '看護' の関連  
授業外指示 次回の予習: 1. 資料 P.30-36 の 'Notes on nursing' の 'What it is, and what it is not.' (F.Nightingale) を原文でよく読んでおく。 授業記録 1.On caring 日本語版を配布 2. 看護学生のその後の看護の資料配布
- 第6回 項目 看護とは(その1): 看護師とは何か? 内容 1.'What is a nurse?' ('Notes on nursing':F.Nightingale) を読む。 2.'Care' と '看護' の関連について 3. 課題: 食生活調査の方法について説明 授業外指示 1. 課題: 食生活を調査・評価改善への取り組みについてレポートする。(第10回講義の時に提出) 授業記録 1. 資料 P.54-65 及び調査紙を配布
- 第7回 項目 看護とは(その2): 看護とは何か? 内容 1.F.Nightingale の 'Notes on nursing' と歴史的  
背景 2.'What it is, and what it is not.' を読む 授業外指示 1. 次回の予習: 資料 P.66-73 の  
'看護の定義' を原文と照らし合わせてよく読んでおく。 授業記録 1.'What it is, and what it  
is not. の解説資料配布
- 第8回 項目 看護とは(その3): 看護の定義 内容 1. 前回の F.Nightingale の看護とは何か、のまとめ  
2.Henderson Virginia; Basic Principle of Nursing Care: 看護の基本となるもの 3.ICN 4. 日  
本看護協会 5. 保健師助産師看護師法 授業外指示 1. 次回の予習: 資料 P.74-81 「ヘルスケアチ  
ームの一員としての看護師」を読んでおく。 授業記録 1. 資料 P.66-73
- 第9回 項目 看護とは(その4): ヘルスケアチームの中での看護師の位置 内容 1. ヘルスケアチ  
ームについて 2. 看護師と他のヘルスケアチームとの連携・実践 4 事例 3. 介護福祉師と看護師 授業  
外指示 1. 食生活の調査を実施、評価して提出(来週迄) 授業記録 1. 資料 P.74-81
- 第10回 項目 生活とは(その1) 内容 1. 基本的看護の構成要素: 1) 「日々繰り返される生活行動とそ  
の意味について」・グループワー ク・発表・まとめ 2. 生活行動とそ  
の意味 授業外指示 1. 次  
回予習: 資料 P.82-89 を読んでおく。 授業記録 1. 資料 P.82-89 2.OHP シート 3. 食調査レポ  
ート提出
- 第11回 項目 生活とは(その2) 内容 1.24 時間の生活リズム 1) 健康的でない生活リズム 2) 生活リ  
ズムを意識した生活 2. 自己の食生活の調査結果の評価と今後の目標設定 3. 看護・健康・生  
活の関連の理解 授業外指示 1. 次回の予習: 「健康とは何か」自分の考えをメモしてくる。 授業  
記録 1. 資料 P.82-89
- 第12回 項目 健康とは 内容 1. 学生の考える '健康' とは何か 1) グループワーク 2) 発表 2. 健康観の変遷 3.  
健康の定義 授業外指示 1. 次回の予習: 資料 P.94-99 を読んでおく。 授業記録 1. 資料 P.90-93
- 第13回 項目 人間とは 内容 看護における人間とは? 1. 人間は生理的に早産である 2. 生物体、生活体  
の統一体 3. 人間を操る脳の仕組み 4. マズローの欲求の段階 授業外指示 1. 次回の予習: 資料  
P.101-105 該を読んでおく。 授業記録 1. 資料 P.94-99
- 第14回 項目 ライフサイクルと看護・看護師の倫理 内容 1. ライフサイクルの各期ステージとその意味  
と看護 1) 第一の人生 2) 第二の人生 3) 第三の人生 2.4 年間のカリキュラムの構造 3. 「看護  
師の規律」( ICN, 日本看護協会 ) 授業記録 1. 資料 P.101-105
- 第15回 項目 試験

教科書・参考書 教科書: 看護学概論, 川村佐和子他編, メディカ出版, 2005年; 必ず購入しておいて下さい。 / 参考書: NOTES ON NURSING(原文看護学選集1), Florence Nightingale, 現代社, 2001年; ケアの本質, ミルトン・メイヤロフ, 田村真他訳, ゆみる出版, 1998年; On Caring, MILTON MAYEROFF, Herper Perennial, 1990年; ケアの本質, ミルトン・メイヤロフ, 田村真他訳, ゆみる出版, 1998年

連絡先・オフィスアワー E-mail:masamura@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2860 研究室: 医学部保健学科、3階

開設科目	看護理論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	藤澤怜子				

授業の概要 看護の専門職としての責務、看護業務に伴う法的責任と看護倫理、看護活動と保健医療福祉、看護活動と管理、看護実践の思考過程など、看護の機能と役割を法的側面、医療チームの中での役割を中心に教授する。

授業の一般目標 看護概論Iで学んだことを基に、看護の専門職者としての資格、期待される役割、看護の機能と実践について学習し、看護学の基盤となる知識・態度を深める

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 看護職とその資格について述べることができる。 2. 内的規範である看護倫理と外的規範である法的側面について説明できる。 3. 看護行為の成り立ちについて概要が説明できる。 思考・判断の観点： 1. 習得した情報から自分考える大枠でのナース像を伝えることができる。 2. 看護の専門職になるために個々が必要と考える学びについて説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 課題に積極的に取り組み報告できる。 態度の観点： 1. 人と人との関わりについて、自己の役割を考えながら行動できる。 技能・表現の観点： 1. グループワークで自分の意見を述べるることができる。

授業の計画(全体) 看護基礎教育について概説し、看護職者として必要な知識・技術・態度とは何かをグループ討議をまじえながら授業をすすめる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 看護学の学習プロセス 内容 1. 授業の目標とスケジュール 2. 看護職に必要な知識・技術・態度・能力をどのように学ぶか
- 第 2 回 項目 看護職者の姿勢 内容 看護職と資格 看護職者と倫理
- 第 3 回 項目 看護職者の役割 内容 看護職に期待される行動・行為
- 第 4 回 項目 看護の機能と実践 (1) 内容 看護の機能とは
- 第 5 回 項目 看護の機能と実践 (2) 内容 看護技術の考え方と実践 (1)
- 第 6 回 項目 看護の機能と実践 (3) 内容 看護技術の考え方と実践 (2)
- 第 7 回 項目 看護の機能と実践 (4) 内容 看護実践における看護過程の展開
- 第 8 回 項目 看護の機能と実践 (5) 内容 看護実践における看護過程の展開
- 第 9 回 項目 看護の機能と実践 (6) 内容 看護論を実践に活用する
- 第 10 回 項目 看護の実践と組織 (1) 内容 適切な看護を提供するための看護管理
- 第 11 回 項目 看護の実践と組織 (2) 内容 チーム医療について
- 第 12 回 項目 看護と法 内容 看護に関連する法の理解
- 第 13 回 項目 医療安全について (1) 内容 医療事事故例をもとに医療安全についてグループ討議
- 第 14 回 項目 医療安全について (2) 内容 看護活動に伴う危険とは、患者の安全を守るための知識・技術とは
- 第 15 回 項目 試験 内容 ペーパーテスト

成績評価方法(総合) 期末試験 80%、課題レポート 20%で評価する。出席数が規定に満たないものは期末試験の受験資格が与えられないので注意する。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：TEL0836-22-2814 reiko@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	人間関係論	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	清俊夫				

授業の概要 援助者に必要なコミュニケーションと対人関係の持ち方について、心理学、社会学、社会心理学の基礎知識を元に学ぶ。その場合、援助的態度、コミュニケーション技法、コミュニケーションと対人関係の関連性を知ることが大切である。 / 検索キーワード コミュニケーション、対人関係、援助的

授業の一般目標 援助的コミュニケーションとそのために必要な人間関係のあり方を学び、援助の技法についての基礎的知識を獲得し、援助への構えを形成する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：援助のための人間関係とコミュニケーションについて、その原理と技法の基礎知識を獲得する。 思考・判断の観点：援助が必要な人に、どのような援助が必要かを判断できる。 関心・意欲の観点：援助の必要性を持った人と適切な関係を作り、コミュニケーションの技法を用いて援助をしようということに積極的な関心を持つ。医療心理学をさらに深く学びたいという関心を持つ。 態度の観点：援助の必要性を持つ人に暖かい共感的な構えを身につける。 技能・表現の観点：援助が必要な人に、コミュニケーション技法の初歩的な部分を用いて、話をよく聞くことができる。

授業の計画（全体） まず、援助の心、援助の態度、援助の技術を講義し、ついで、対人関係について、対人感情、対人認知、コミュニケーション、集団過程、家族力動について講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 援助的態度－援助のための六つの態度 内容 無防衛 共感 受容 熱意 距離
- 第 2 回 項目 コミュニケーション技法－援助的態度を実現する 10 の技法 内容 促しの技法 繰り返しの技法 要約の技法 解釈の技法 共感の技法 保証の技法 沈黙の技法 明確化の技法 質問の技法 対決の技法
- 第 3 回 項目 コミュニケーションと人間関係（1）対人感情を中心に 内容 個人と集団 対人感情（1）好き・嫌いの人 間関係 対人感情（2）大好きと大嫌い
- 第 4 回 項目 コミュニケーションと人間関係（2）対人認知を中心に 内容 対人認知と自己認知 他者認知
- 第 5 回 項目 コミュニケーションと人間関係（3）コミュニケーション論を中心に 内容 コミュニケーションの二重構造 非言語的コミュニケーション 主張行動と集団圧力 単方向と双方向
- 第 6 回 項目 コミュニケーションと人間関係（4）役割理論を中心に 内容 リーダーシップ 協調関係と競争関係 集団凝集性
- 第 7 回 項目 家族内力動 - 家族システム論を中心に 内容 家族の構造と機能 システムとしての家族
- 第 8 回 項目 期末試験
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験 50 %、小テスト 40 %、出席 10 %（ただし 2 回以上欠席したものは出席点はない。遅刻は 1 回につき-1 点）。出席を確認してから、断りなく、教室を抜け出したものは、1 回であっても、出席点はなくなる。

教科書・参考書 教科書：援助者のためのコミュニケーションと対人関係、諏訪茂樹、建ぱく社、1997 年

メッセージ 心理学、社会学を履修していることが望ましい。遠慮なく、メールで連絡、質問をして欲しい。再試験は行わない。

連絡先・オフィスアワー e-mail: seitoshi-ygc@umin.ac.jp office phone: 0836-22-2802 office hours: 月曜から金曜まで、8:30-5:00 まで随時(ただし授業、会議等で不在のときを除く)

開設科目	生理機能学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	清水昭彦 武藤正彦 奥屋茂 村上弘明 山縣芳明 山田治 福田憲 野垣宏 福田てる代 日野啓輔 松山豪泰 橋本誠 峯孝友				

授業の概要 生理機能を人体を構成している種々の系統(循環系、神経系、消化器系、呼吸器系、運動機能系、聴覚・視覚系、口腔歯科系、等)単位で学ぶ。また、生理機能を測定、検査する方法を学ぶ。 / 検索キーワード 生理学、検査

授業の一般目標 人体の生理機能を理解する。また、生理機能検査法を学び正常値を把握する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：人体を構成している生理機能システムの名称を覚え、その機能を理解する。 思考・判断の観点：人体を構成している生理機能システムの相互関係を思考する。 関心・意欲の観点：人の生理機能の統合性を理解することに意欲を持つ。 態度の観点：生理学を熱心に学ぶ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 清水 (9・10 時限)
- 第 2 回 項目 循環系 清水 (3・4 時限) 内容 解剖生理
- 第 3 回 項目 循環系 清水 (7・8 時限) 内容 生理機能検査 I
- 第 4 回 項目 循環系 清水 (9・10 時限) 内容 生理機能検査 II
- 第 5 回 項目 内分泌系 奥屋 (7・8 時限) 内容 解剖とホルモン機能
- 第 6 回 項目 刺激伝導系 清水 (9・10 時限) 内容 心電図
- 第 7 回 項目 女性生殖系と解剖生理学 田村 (7・8 時限)
- 第 8 回 項目 視力系 福田憲 (9・10 時限) 内容 眼球および眼球附属器の解剖、屈折異常、弱視・斜視・斜位、色覚異常
- 第 9 回 項目 体液とその調節 藤井 (7・8 時限)
- 第 10 回 項目 血液 山田 (9・10 時限) 内容 基礎的知識
- 第 11 回 項目 自己学習 清水 (3・4 時限)
- 第 12 回 項目 呼吸器系 清水 (7・8 時限) 内容 解剖と生理学
- 第 13 回 項目 中枢神経系 野垣 (9・10 時限) 内容 解剖と生理機能
- 第 14 回 項目 歯科口腔系 福田てる代 (7・8 時限) 内容 口腔の基礎的知識
- 第 15 回 項目 呼吸器系 清水 (9・10 時限) 内容 生理機能検査
- 第 16 回 項目 女性生殖系 田村 (7・8 時限) 内容 生理機能・ホルモン
- 第 17 回 項目 消化器系 日野 (9・10 時限) 内容 消化管の解剖と生理機能
- 第 18 回 項目 泌尿器系 松山 (9・10 時限) 内容 解剖と生理機能
- 第 19 回 項目 消化器系 日野 (9・10 時限) 内容 肝・胆・膵の解剖と生理機能
- 第 20 回 項目 免疫応答系 清水 (3・4 時限) 内容 感染症
- 第 21 回 項目 聴覚、平衡感覚系 橋本 (7・8 時限) 内容 解剖と生理機能
- 第 22 回 項目 骨格、運動系 脇阪 (9・10 時限) 内容 運動器の特徴
- 第 23 回 項目 体温とその調節 清水 (7・8 時限)
- 第 24 回 項目 皮膚系 武藤 (9・10 時限) 内容 解剖と生理機能
- 第 25 回 項目 自己学習 清水 (9・10 時限)
- 第 26 回 項目 自己学習 清水 (9・10 時限)
- 第 27 回 項目 自己学習 清水 (7・8 時限)
- 第 28 回 項目 自己学習 清水 (9・10 時限)
- 第 29 回 項目 自己学習 清水 (7・8 時限)
- 第 30 回 項目 試験 清水 (9・10 時限)

成績評価方法(総合) 主に試験の成績で判定する。

教科書・参考書 教科書：シンプル生理学, 貴邑富久子、根来英雄 (共著), 南江堂, 2006 年

連絡先・オフィスアワー 清水：ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	免疫学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	*				

授業の概要 1)免疫学の概念 2)免疫担当細胞についての基礎知識 3)抗体-免疫グロブリンの機能 4)補体の活性化機構とその機能 5)主要組織適合遺伝子複合体 6)免疫応答とその調節 7)生体内の免疫応答 8)抗原・抗体反応とその原理 9)試験管内抗原・抗体反応 10)アレルギー反応について授業を行う。/検索キーワード 免疫、抗原、抗体、補体、免疫グロブリン、免疫担当細胞、免疫応答

授業の一般目標 免疫学全般についてまず概念を理解する。免疫検査の理解に必要な総論を十分に理解し、免疫反応のしくみについて学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：免疫学の概念として免疫担当細胞にはどのようなものが存在するかを説明できる。また、生体の免疫反応として自然免疫と獲得免疫の概念を理解し、その違いを説明できる。免疫反応に関与する分子のうち主要組織適合遺伝子複合体の役割、補体の活性化機構、役割について説明できる。基本的な試験管内の抗原・抗体反応の種類を挙げることができ、その原理を説明できる。思考・判断の観点：生体の免疫反応を考える際に、自然免疫、獲得免疫に分けて関与する免疫担当細胞について考察し、どのような機序でその免疫反応が起きるのかを考察することができる。各種の試験管内免疫反応が医学において何故必要なのかを考え、その意義を考察することができる。関心・意欲の観点：自ら疑問点を解決すべく、講義中あるいは講義終了後に質問をする。教員からの質問に対して、単に知っているあるいは知らないというだけでなく、答えを導き出そうと考察し努力する。態度の観点：大学生として受身の授業に終始するのではなく、積極的に授業に参加しようとする。学生、教員間だけでなく、学生間においても自らの疑問を解決しようと積極的に努力する。技能・表現の観点：疑問点を明確に表すことができる。質問に対して的確な表現で回答することができる。

授業の計画(全体) 授業の概要で示した内容について授業を行っていく。理解の到達度をチェックするために、随時授業中に質問を行うか小テストを行う可能性もある。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 免疫学の概念 内容 プリントに沿って授業を行う。液性免疫、細胞性免疫等の概念を説明する。
- 第2回 項目 免疫担当細胞 内容 抗原提示細胞、リンパ球、貪食細胞等の機能と免疫反応における役割を説明する。
- 第3回 項目 抗体・免疫グロブリン 内容 抗体・免疫グロブリンの構造と働きについて説明する。また、免疫学的に種々に分類された抗原、抗体の意味について説明する。
- 第4回 項目 補体の活性化 内容 補体の活性化経路ならびに活性化因子について説明する。
- 第5回 項目 補体の機能 内容 免疫反応における補体の生物学的役割について説明する。
- 第6回 項目 主要組織適合遺伝子複合体 内容 主要組織適合遺伝子複合体の構造と機能について説明する。また、免疫反応における主要組織適合遺伝子複合体の役割について説明する。
- 第7回 項目 免疫応答とその調節 内容 サイトカインを中心とした免疫応答の調節機構について説明する。
- 第8回 項目 免疫応答とその調節 内容 液性免疫、細胞性免疫の調節や互いの応答について説明する。
- 第9回 項目 生体内の免疫応答 内容 主としてアレルギー反応について解説し、分類、発現機序について説明する。
- 第10回 項目 抗原・抗体反応とその原理 内容 抗原・抗体反応の基本原理について解説する。
- 第11回 項目 抗原・抗体反応とその原理 内容 各種抗原・抗体反応の種類とその異同について解説する。
- 第12回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 沈降反応、凝集反応について解説する。
- 第13回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 溶解、中和反応について解説する。

第 14 回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 免疫化学分析方法について解説する。

第 15 回 項目 免疫学総括

成績評価方法 (総合) 前期末試験の成績を最重要視する。但し、出席率も考慮する。

教科書・参考書 教科書：臨床検査技術学 13 免疫検査学, 小島健一他, 医学書院, 1998 年; 講義用に作成したプリントも使用する。 / 参考書：臨床免疫学, 福岡良男他, 医歯薬出版株式会社, 2001 年

メッセージ 疑問点をそのままにせずに積極的に質問してほしい。

連絡先・オフィスアワー 日野研究室 (22 - 2824)

開設科目	病理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	高橋睦夫				

授業の概要 病理学は医学的知識を習得するための基本になる学問であり、医療従事者の一員としての看護師もその業務を遂行するためには、各疾患の概念、病態などを理解していることが大切である。本授業では疾病について総合的に概説し、さらに基本的な疾患についてもその概念や病因、臨床症状、診断、治療法、経過・転帰などを講義する。 / 検索キーワード 病因 疾患概念 病理組織

授業の一般目標 基本的な疾患の概念や病態を理解し、各疾患の臨床病理像、治療法などを把握できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本的な疾患について、その概念や病因、診断法、臨床病理学的特徴像、治療法、経過・転帰などを理解し、説明できる。 思考・判断の観点：臨床症状や理学的所見から疾患を推定することができる。 関心・意欲の観点：看護師として、患者のケアに寄与できる。 態度の観点：医療人の一員として、チーム医療に参加できる。

授業の計画（全体） 授業の前半に病理学総論を講義し、後半に各論（各臓器の疾患）を講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 病因，退行性病変と代謝異常

第 2 回 項目 循環障害，進行性病変

第 3 回 項目 炎症，免疫

第 4 回 項目 感染症，腫瘍

第 5 回 項目 腫瘍の続き

第 6 回 項目 奇形・先天異常，老化

第 7 回 項目 各論（循環器系）

第 8 回 項目 各論（呼吸器系）

第 9 回 項目 各論（消化器系）

第 10 回 項目 各論（内分泌系）

第 11 回 項目 各論（泌尿器系）

第 12 回 項目 各論（生殖器系）

第 13 回 項目 各論（造血器・神経系）

第 14 回 項目 各論（感覚器・運動器系・皮膚）

第 15 回 項目 予備

成績評価方法（総合） 定期試験（50点満点）と小テスト（50点満点）で総合評価し、授業態度の不良者や規程の出席回数に充たないものは欠格条件とする。

教科書・参考書 教科書：わかりやすい病理学 改訂第4版，岩田隆子、恒吉正澄、宮原晋一編，南江堂，2005年

メッセージ 各週に小テスト（7回を予定）を行い、その合計点を50点満点に換算して期末テスト（50点満点）と総合して評価します。しっかり復習して、小テストを頑張るように。

連絡先・オフィスアワー E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845, 研究室：保健学科研究棟1，オフィスアワー：随時

開設科目	微生物学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	梅田昭子				

授業の概要 病原微生物の種類・構造・感染の概念・治療と予防法についての総論、および各病原微生物についての各論の講義を行なう。 / 検索キーワード 病原微生物、感染

授業の一般目標 感染について正しく理解することを目標とする。すなわち、感染の定義、病原微生物とヒトに常在する微生物との違い、常在微生物でもヒトの健康状態により感染原因となりうること、感染症の種類とその原因微生物の主要な性質、感染症の予防と治療法等について知識と理解を深め、実際の医療現場での感染症にたいして適切に対処できる応用力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：一般目標に記載している通り、感染症とその原因となる病原微生物(細菌・真菌・ウイルス他)についての基礎的知識を深め、各感染症やその起因微生物に対しての予防法や治療法について、何故この感染症に対してはこの治療法や予防法なのかを理解する。 思考・判断の観点：感染についての知識を深めたことにより、医療従事者として感染症の患者にたいして適切な判断と対応ができる応用力を養う。 関心・意欲の観点：感染症は、医療現場での患者のみならず、医療従事者本人への脅威でもある。この点をよく理解し、全ての感染症について自分自身のこととして関心を持つよう心掛ける。 その他の観点：関心の観点と重複するが、現在では地球上のある地域で発生した感染症が瞬く間に世界中に広がるので、日本国内および世界での感染症の動向に注意を向けるよう心掛ける。

授業の計画(全体) 講義を主軸に、感染症とその起因微生物(細菌・真菌・ウイルス他)について解説し、各感染症にたいしての予防法と治療法を解説すると共に、対処法について各自の思考をうながす。また、ヒトの体内や表皮他には種々の常在微生物が共存しているが、そのうち鼻腔内に常在する細菌を採取する実習も組み込む予定で、環境に存在する微生物への理解を深めたい。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 微生物の種類と分類・構造・増殖機構
- 第2回 項目 微生物の感染機構
- 第3回 項目 常在細菌と感染
- 第4回 項目 滅菌と消毒
- 第5回 項目 化学療法・ワクチン
- 第6回 項目 各論1：グラム陽性・陰性球菌
- 第7回 項目 各論2：グラム陰性通性嫌気性菌(腸内細菌科)
- 第8回 項目 各論3：ヘモフィルス・レジオネラ 他
- 第9回 項目 各論4：嫌気性菌
- 第10回 項目 各論5：スピロヘータ・クラミジア・リケッチア
- 第11回 項目 ウイルス1
- 第12回 項目 ウイルス2
- 第13回 項目 真菌1
- 第14回 項目 真菌2
- 第15回 項目 まとめ

成績評価方法(総合) 主に期末試験を主として評価するが、小試験やレポートを総合して判断する。

教科書・参考書 教科書：系統看護学講座6「微生物学」、天児和暢、南嶋洋一、医学書院、2002年 / 参考書：標準微生物学、平松啓一・山西弘一、医学書院、2002年；戸田新細菌学、吉田真一・柳雄介、南山堂、2002年



開設科目	病態栄養学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	田坂 克子				

授業の概要 適切な栄養管理は、患者の生命維持に必須であるばかりでなく、疾病の治療・予防や周術期の管理を効果的に実施する上で基本となる治療法である。また、患者の QOL 向上させる重要な要因である。この講義では病態の改善に食事療法が重要な位置を占める代表的疾患をとりあげ、その概念、病態、診断、治療（食事療法を中心に）の原則について概説する。

授業の一般目標 1. 栄養素の種類と機能に関する基礎知識をもとに栄養所要量、栄養法の種類と適応、栄養障害の評価方法、治療方法を理解する。2. 腸疾患、肝臓病、腎臓病の病態と栄養サポートに関する知識を習得する。3. 生活習慣病の考え方を理解し、肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧の病態と食事療法を中心とした治療法を理解する。

教科書・参考書 参考書：授業中に適宜紹介する。

開設科目	臨床薬理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	神谷晃・尾家重治				

授業の概要 看護の立場から必須の医薬品に関する知識(薬物の作用、吸収と分布と排泄、効果と副作用、各種剤型とその特徴など)について講義する。

教科書・参考書 教科書：系統看護学講座 専門基礎5 薬理学, 医学書院

開設科目	保健学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山崎秀夫				

授業の概要 地域で生活する人々の健康の保持・増進のための方策を公衆衛生的な視点から教授する。  
 / 検索キーワード 健康、保健、公衆衛生

授業の一般目標 1. 健康増進対策と保健対策について理解する。 2. 望まれる健康増進対策と保健対策を考察する。 3. 健康水準の把握・評価について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：健康水準を把握・評価方法について述べるができる。ヘルスプロモーションを要約できる。日本の健康対策とその経緯が説明できる。 思考・判断の観点：健康問題対策の問題点を指摘できる。

授業の計画(全体) 講義の概要説明 ヘルスプロモーション 保健衛生行政と生活・健康 公衆衛生と保健学 健康をめぐる諸問題 国民の健康と保健統計 疫学と疾病予防 健康教育とその展開 公衆衛生・保健活動の実際・課題 まとめ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の概要説明 内容 担当教員やシラバについて説明する。
- 第 2 回 項目 ヘルスプロモーション 1 内容 ヘルスプロモーションの背景、意義、内容等、ヘルスプロモーションの枠組みについて説明する。
- 第 3 回 項目 ヘルスプロモーション 2 内容 ヘルスプロモーションについて、施策的視点からアプローチし、その実際を説明する。
- 第 4 回 項目 保健衛生行政と健康・生活 1 内容 保健衛生行政の組織的構成と健康政策策定のプロセス等について説明する。
- 第 5 回 項目 保健衛生行政と健康・生活 2 内容 保健衛生行政と国民の生活について説明する。
- 第 6 回 項目 公衆衛生と保健学 内容 公衆衛生と保健学の関わりや相違について説明する。
- 第 7 回 項目 健康をめぐる諸問題 1 内容 健康問題との関わりから人口問題を取り扱い、世界人口、日本人口等について説明する。
- 第 8 回 項目 健康をめぐる諸問題 2 内容 環境問題や食に関わる問題を保健学的視点から説明する。
- 第 9 回 項目 国民の健康と保健統計 内容 国民の健康状態の実態と健康水準を示す諸指標について説明する。
- 第 10 回 項目 疫学と疾病予防 内容 健康問題の本質を探る手法としての疫学や疾病予防の方法等について説明する。
- 第 11 回 項目 健康教育とその展開 内容 健康教育の目的、目標、内容、方法、評価等について説明する。
- 第 12 回 項目 公衆衛生・保健活動の実際・課題 1 内容 公衆衛生活動や保健活動の実際等について説明する。
- 第 13 回 項目 公衆衛生・保健活動の実際・課題 2 内容 公衆衛生活動や保健活動の課題等について説明する。
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 全体的なまとめを行う。
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 筆記試験と出席により評価する。

教科書・参考書 教科書：公衆衛生学、小野寺伸夫編、メヂカルフレンド社、2004年

開設科目	医療放射線学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	松永尚文				

授業の概要 放射線医学の診断、核医学、放射線治療の日常放射線診療の実際を理解するために、画像の成り立ちと各疾患における特徴像、臓器特異性の核種を用いて機能的情報を提供する核医学的診断、放射線診断技術の治療的応用 (IVR) や集学的治療の臨床応用など、high technology を駆使した放射線診療を学習し、低侵襲的な検査の読影と集学的治療の役割を習熟する。また、放射線治療の日常診療の実際を理解するために、悪性腫瘍の由来の性質と放射線治療に対する腫瘍の感受性を学習し、放射線治療の役割を習熟する。 / 検索キーワード 放射線診断、核医学、放射線治療

授業の一般目標 1) 放射線医学の歴史を述べることができる。 2) 放射線医学の基本的事項を説明できる。 3) 単純 X 線写真の画像の成り立ちと所見を説明できる。 4) 超音波の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。 5) CT の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。 6) MRI の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。 7) 血管造影・Interventional Radiology の手技と有用性について説明できる。 8) 核医学の核種、その画像の成り立ちと所見を説明できる。 9) 放射線治療の有用性について説明できる。 10) 放射線被曝と放射線安全防護について説明できる

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 放射線医学総論 内容 放射線医学の歴史、診断に利用される X 線の性質、X 線装置を理解する。
- 第 2 回 項目 X 線診断 内容 造影検査、造影剤について理解する。X 線像診断の基本的なアプローチと心がまえを理解する。
- 第 3 回 項目 X 線診断 内容 X 線検査の基本的装置、検査法の種類と、画像診断の成り立ちを理解する。
- 第 4 回 項目 CT 診断 内容 CT の原理、断層画像表示の要点、造影 CT 検査の適切な施行方法、その意義と臨床的有用性を理解する。CT による全身の断層解剖を理解し、正常像と異常像の区別を理解する。
- 第 5 回 項目 血管造影 内容 血管造影の歴史、血管造影の利点、血管造影の手技、主要な血管造影所見、臨床的有用性と合併症およびその対策を理解する。
- 第 6 回 項目 IVR 内容 Interventional Radiology の概念、種類、臨床的有用性と限界、合併症とその対策を理解する。
- 第 7 回 項目 MRI 内容 MR の原理、MR の各種撮像法の特徴、アーチファクトの種類と原因と対策、MR 検査を安全に行うために留意すべき点、MR 用造影剤についてその種類、使用法などを理解する。
- 第 8 回 項目 超音波診断 内容 超音波診断の原理、各疾患に特徴的な超音波像を理解する。
- 第 9 回 項目 核医学診断の基礎 内容 放射性同位元素の定義と性質、放射性医薬品の特徴、放射線計測原理と使用目的、シンチカメラの構造と撮像原理、各種放射性医薬品で標的臓器が描出される原理、SPECT と PET 検査の原理を理解する。
- 第 10 回 項目 核医学診断の臨床 (1) 内容 各種疾患におけるシンチグラフィ所見を理解する。
- 第 11 回 項目 核医学診断の臨床 (2) 内容 各種疾患におけるシンチグラフィ所見を理解する。
- 第 12 回 項目 放射線治療、1 回目 内容 放射線治療に必要な放射線物理学 (単位、装置等)、生物学的基礎 (放射線の作用機序と感受性)、放射線治療 (根治治療と対症照射) の適応、照射技術、放射線治療の副作用 (急性障害と慢性障害) を理解する。
- 第 13 回 項目 放射線治療、2 回目 内容 放射線治療の適応疾患、その有効性、放射線治療手技 (外部照射法、内部照射法)、放射線治療の副作用と対策を理解する。
- 第 14 回 項目 放射線障害と健康管理 内容 自然放射線、医療被曝定量的に理解する。被曝提言策、放射線防護、健康管理についても理解する。
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書：臨床放射線医学、医学書院（2,000円） / 参考書：標準放射線医学 (Standard textbook) 第6版, ”高島力, 佐々木康人監修；中田肇 [ほか] 編集；中田肇 [ほか] 執筆”, 医学書院, 2001年；標準放射線医学（第6版）(CD付) (医学書院、12,000円)

メッセージ 臨床放射線医学を教科書とし、教科書に沿って講義をするので、必ず予習、復習してください。

連絡先・オフィスアワー 松永尚文：matsuna@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22-2282

開設科目	緩和ケア論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	東玲子、齊田菜穂子				

授業の概要 健康レベルが終末期にある人々とその家族を理解し、終末期患者及び家族のニーズ・健康問題を解決するために必要な考え方、理論及び具体的な方法を学ぶ。また、医療現場で患者や家族を取り巻く倫理的課題や終末期患者及び家族に対する看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を学ぶ。  
/ 検索キーワード 終末期看護、緩和ケア、人間としての尊厳、生命の質(QOL)

授業の一般目標 1. 緩和ケア・終末期ケアの概念・意味とその歴史的背景を理解する。2. 終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。3. 健康レベルの低下に伴い生じてくるニーズ・問題に対して、その人らしさを重視して質の高い生活を送れるような方向で援助する方法を理解する。4. 終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 緩和ケア・終末期ケアの概念とその歴史的背景を述べることができる。2. 終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を述べるができる(進行がんの一般的な病態生理、告知・病状進行・死別による生理的・心理的反応)。3. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を述べるができる。4. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を述べるができる。5. 終末期患者の生活の質に関わる要因とその測定方法を述べるができる。思考・判断の観点：1. 対象の生活・生命の質を維持・向上させるような方向で援助することの意味を述べるができる。2. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題をアセスメントできる。3. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を選択できる。関心・意欲の観点：レポート、グループ討議に際して人間の生と死の意味、生命・人間の尊厳、終末医療現場の現状と課題、終末期患者の生活の質(QOL)に関わる要因等の情報収集・活用ができる。態度の観点：1. 終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を述べるができる。2. グループ討議に積極的に参加している。技能・表現の観点：グループ討議時の発表、レポートの表現が論理的である。明快な表現ができる。

授業の計画(全体) 前半は緩和ケア・終末期ケアの概念・意味とその歴史的背景、終末期医療の現状と課題について教授し、人にとっての死の意味や人としての尊厳を考察する。後半は終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴、健康レベルの低下に伴い生じてくるニーズ・問題に対する具体的な援助法を教授する。具体的な事例を用いてグループ討議をし、倫理的課題や看護者の役割・姿勢を考察する。中間と終末でグループ討議・発表を行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 終末期に関わる概念と意味及びその歴史的背景 内容 人間の死の意味 緩和ケア、ターミナルケアの概念と意味
- 第2回 項目 終末期医療の現状と課題 終末期医療の倫理的課題 内容 告知とインフォームドコンセント 患者の権利、援助に関わる倫理的課題
- 第3回 項目 グループ討議 内容 テーマは授業の中で提示する。
- 第4回 項目 終末期患者と家族の理解 終末期患者と家族の苦痛と援助 I 内容 終末期患者の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛と援助
- 第5回 項目 終末期患者と家族の苦痛と援助 II 内容 終末期患者の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛と援助
- 第6回 項目 ホスピスケア 内容 ホスピスケアの理念 ホスピスの歴史 わが国のホスピスの現状と課題
- 第7回 項目 事例をグループ討議する。発表 内容 事例は授業の中で提示する。授業外指示 レポート提出
- 第8回
- 第9回

- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 期末試験:80 %、授業様:10 %、授業態度・参加度 10 %

教科書・参考書 教科書：系統看護学講座 別巻 10 ターミナルケア, 柏木哲夫、藤腹明子編集, 医学書院, 2000 年 / 参考書：がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア, ”WHO 編, 武田文和訳”, ”金原出版”, 1994 年

連絡先・オフィスアワー 東 玲子 tel:0836-22-2813 azumar@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。 齊田菜穂子 tel:0836-22-2864 naho@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。

開設科目	医療情報学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	清水昭彦・篠原紀幸				

授業の概要 医療情報に関して特に倫理面・病院総合システムの概略を学ぶ、また、情報を扱い処理する演習を学ぶ / 検索キーワード 基本コンピューターソフト、医療情報

授業の一般目標 基本コンピューターソフトを扱うことができ、また、医療情報の特に倫理面・病院総合システムの概略を学んで適切に管理できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：基本コンピューターソフトの使用法を知り理解する。また、医療情報の特に倫理面・病院総合システムの概略を知り、理解する。 思考・判断の観点：基本コンピューターソフトの使用法を知り理解する。また、医療情報の特に倫理面・病院総合システムの概略を知り、理解する。 関心・意欲の観点：基本コンピューターソフトを使用法に関心を示し、医療情報の特に倫理面・病院総合システムに対する理解に意欲を示す。 態度の観点：基本コンピューターソフトを使用法に関心を示し、医療情報の特に倫理面・病院総合システムを学ぼうとする。 技能・表現の観点：基本コンピューターソフトを使用して、自分作品を発表できる。

授業の計画(全体) 【週単位】15回【全体】オリエンテーション/エクセルの基本操作(I & II), エクセルによるデータ解析法(実習&講義), エクセルによるデータ解析と作図, エクセルとデータ解析(I & II), パワーポイントの基本操作(I & II), プレゼンテーションの進め方(1),(2),(3),(4)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション/ エクセルの基本操作(I) 内容 篠原 実習
- 第2回 項目 エクセルの基本操作(II) 内容 篠原 実習
- 第3回 項目 エクセルによるデータ解析法 内容 篠原 実習
- 第4回 項目 エクセルによるデータ解析法 内容 篠原 講義
- 第5回 項目 エクセルによるデータ解析と作図 内容 篠原 実習
- 第6回 項目 エクセルとデータ解析(I) 内容 篠原 実習
- 第7回 項目 エクセルとデータ解析(II) 内容 篠原 実習
- 第8回 項目 パワーポイントの基本操作(I) 内容 篠原 実習
- 第9回 項目 パワーポイントの基本操作(II) 内容 篠原 実習
- 第10回 項目 プレゼンテーションの進め方(1) 内容 清水 講義・レポート
- 第11回 項目 プレゼンテーションの進め方(2) 内容 清水 講義・レポート
- 第12回 項目 プレゼンテーションの進め方(3) 内容 清水 講義・レポート
- 第13回 項目 プレゼンテーションの進め方4 内容 清水 講義・レポート
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) レポート、作品、出席等を総合的に判断する。

教科書・参考書 教科書：系統看護講座・基礎(8) 情報科学, , 2006年

連絡先・オフィスアワー 清水：ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	看護援助技術演習	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	3単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	正村啓子・藤澤怜子・稲垣順子・伊東美佐江・生田奈美可・掛田崇寛中尾富士子				

授業の概要 「看護援助技術論」及び「看護援助技術演習」は、看護を実践するために必要な基礎技術を学習する科目である。日常生活の援助技術、診療時の援助技術、健康状態の評価、指導技術について、看護援助を受ける人のニーズを総合的にアセスメントし、安全・安楽・自立・能率の視点から、適切に実施できるようこれらの技術を教授する。なお、「看護援助技術論」及び「看護援助技術演習」は、教育効果を考慮し、同時進行する。

授業の一般目標 看護に必要な基本技術である日常生活の援助技術、診療時の援助技術、健康状態の評価、指導技術について、看護援助を受ける人のニーズを総合的にアセスメントし、安全・安楽・自立・能率の視点から、実施できるための基礎的知識・技術・態度を習得する。この二つの教科を通して、看護に対する関心や興味を抱き、後続の学習への動機付けを図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 各単元の学習内容に関する基礎的知識を理解し説明できる。

思考・判断の観点： 1. 援助技術を行なう際の危険因子、及び、安楽・自立・能率を高める因子をについて説明できる。 2. 援助技術を行なう際、行動の意味づけを考えながら実施できる。 関心・意欲の観点： 1. 患者に有効な技術となるよう患者への影響を観察しながら、技術の向上を目指すことができる。

態度の観点： 1. 実際の看護場面を想定し、真剣な態度で臨むことができる。 技能・表現の観点： 1. 危険因子、及び、安楽・自立・能率を高める因子を考慮して判断しながら患者のために技術を使うことができる。

授業の計画(全体) 講義の後演習を行います。演習は3人編成で、患者役、看護者役、観察者となって演習し、技術を修得します。 単元毎に、講義予告を行います。その時、詳細は提示します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション, 安全1 内容 1. 看護援助技術とは何か、看護援助技術の学び方 2. 演習・実習室使用についてのオリエンテーション 3. 感染防御と手洗い 4. ユニフォームについて
- 第2回 項目 環境 内容 1. 病院での療養環境とベッドメイキングについて 2. 環境調整とベッドメイキングについて
- 第3回 項目 観察1 内容 1. 看護アセスメント 2. 観察とバイタルサインの測定
- 第4回 項目 観察2 内容 1. 入院時の観察 2. 身体各部の測定
- 第5回 項目 観察3 活動と休息1 内容 1. 看護記録の機能と役割 2. 看護記録の法的な位置づけ 3. 看護記録の構成要素と記載方法 4. ボディメカニクスについて 5. 体位・体位変換・移動・活動について 6. 活動と休息に関する援助について
- 第6回 項目 活動と休息2 内容 1. 体位変換の介助 2. 移動(車椅子・ストレッチャー・担架)の介助
- 第7回 項目 衣生活 内容 1. 人間にとっての衣服の意義、健康障害のある対象者に対する援助について 2. 病床環境を整えるために必要な技術 3. シーツ交換・寝衣交換
- 第8回 項目 技術確認 内容 バイタルサインの測定・車椅子の移動の技術確認
- 第9回 項目 安楽 内容 1. 安楽と看護技術 2. 看護にいかすリラクゼーション・鼈法について 3. 湯たんぽ・氷枕・漸進的筋弛緩法・マッサージ・指圧
- 第10回 項目 清潔1 内容 1. 清潔の意義 2. 健康が障害されているときの清潔の援助方法 3. 口腔の清潔保持と顔面清拭・ 4. 消毒薬の調合
- 第11回 項目 清潔2 内容 1. 全身清拭・足浴、洗髪について
- 第12回 項目 清潔3 内容 1. 全身清拭・足浴、洗髪について(続き) 2. 清潔に関する市販製品
- 第13回 項目 栄養 内容 1. 栄養のアセスメントと各種栄養法について 2. 食事の介助、経管栄養の演習
- 第14回 項目 総合演習 内容 前期で習った技術の習得
- 第15回 項目 定期試験 内容 ペーパーテスト・実技試験

- 第16回 項目 安全1 内容 1. 医療事故防止と感染予防 2. ガウンテクニックと抑制
- 第17回 項目 安全2 内容 1. 滅菌物の取り扱いと無菌操作 2. 滅菌手袋の着脱方法
- 第18回 項目 皮膚の保護 内容 1. 創傷の治癒過程 2. 褥瘡とケア 3. 創傷保護の方法と包帯法
- 第19回 項目 排泄1 内容 1. 排泄の生理、アセスメント、援助方法について 2. 便器・尿器の当て方・外陰部洗浄の演習
- 第20回 項目 排泄2 内容 1. 排便障害とその看護 2. 浣腸の演習
- 第21回 項目 排泄3 内容 1. 排尿障害とその看護 2. 導尿の演習
- 第22回 項目 検査と看護1 内容 1. 検査とその看護 2. 採血の演習
- 第23回 項目 検査と看護2 内容 1. 採血・検尿の演習(実施) 2. 真空管採血
- 第24回 項目 与薬1 内容 1. 与薬の目的・各職種間の権限と責任・薬物療法と看護について 2. 経口与薬・皮下注射・筋肉注射について 3.2. の演習
- 第25回 項目 与薬2 内容 1. 経口与薬・皮下注射・筋肉注射の演習(続き)
- 第26回 項目 与薬3 内容 1. 静脈注射・点滴静脈内注射と看護・輸血と看護・与薬における医療事故防止について 2. 点滴静脈内注射の演習
- 第27回 項目 吸引・吸入 内容 1. ネブライザー吸入・酸素吸入・酸素ボンベ・一時吸引・低圧持続吸引について講義と演習
- 第28回 項目 入退院時の看護 危篤時の看護 内容 1. 入退院時の看護 2. 危篤時の患者・家族への看護 3. 死後の処置(ビデオ聴取)
- 第29回 項目 総合演習 内容 前期で習った技術の習得
- 第30回 項目 定期試験 内容 ペーパーテスト・実技試験

教科書・参考書 教科書：実践的看護マニュアル, 川島みどり編著, 看護の科学者, 2003年; フィジカルアセスメント完全ガイド, 藤崎郁, 学研, 2001年

メッセージ 単元毎に講義内容の予告をします。テキストのその日の授業の内容の該当箇所を、必ず読んで下さい。

連絡先・オフィスアワー 正村啓子: E-mail masamura@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2860 藤澤怜子: E-mail reiko@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2814 稲垣順子: E-mail jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2851 伊東美佐江: E-mail mito@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2815 生田奈美可: E-mail ikuta@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2841 掛田崇寛: E-mail kakeda@yamaguchi-u.ac.jp Tel 2839

開設科目	基礎看護学実習	区分	講義と演習	学年	2年生
対象学生		単位	3単位	開設期	後期
担当教官	正村啓子・藤澤怜子・稲垣順子・伊東美佐江・生田奈美可				

授業の概要 「基礎看護学実習 I,II」では、初回の臨地実習として、看護実践能力の基本を養う。入院中の患者の生活とその環境を理解し、健康上の問題をもつ患者と直接かかわり看護の援助的人間関係を築き、看護過程の展開の基本を学ぶ。さらに、看護の働きについても理解を深め、ヘルスケアチームの一員としての自覚を育む。 / 検索キーワード 基礎看護学、臨床実習、看護師、ヘルスケアチーム

授業の一般目標 「基礎看護学実習 I」では、看護実践の実際を見学および実習することにより、看護師の役割や患者の入院生活およびその援助について理解を深めるとともに、今後の学習の動機づけとする。また、ヘルスケアチームについて理解し、ヘルスケアチームの一員としての看護師の役割を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：実習要項参照。 思考・判断の観点：実習要項参照。 関心・意欲の観点：実習要項参照。 態度の観点：実習要項参照。 技能・表現の観点：実習要項参照。

授業の計画（全体） 1. 基礎看護学実習 1 は 9 月下旬に 1 週間、基礎看護学実習 2 は 2 月下旬に 2 週間を予定しています。決まり次第掲載します。 2. 詳細は実習要項にて説明します。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 実習要項参照。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

教科書・参考書 教科書：実践的看護マニュアル，川島みどり編著，看護の科学者，2003 年；フィジカルアセスメント完全ガイド，藤崎郁，学研，2001 年；基本から学ぶ看護過程と看護診断，R. アルファロール フィーヴァ，医学書院，2000 年；看護診断ハンドブック，新道幸恵監訳，医学書院，2002 年；基準値ハンドブック，巽典之編著，南江堂，2003 年

メッセージ 基礎看護学実習 1・2 共に、実習前に実習オリエンテーションを行います。詳細は実習要項により各実習のオリエンテーションの時に説明します。

連絡先・オフィスアワー 正村啓子：E-mail masamura@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 22 - 2860 藤澤怜子：E-mail reiko@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 22 - 2814 稲垣順子：E-mail jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 22 - 2851 伊東美佐江：E-mail mito@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 22 - 2815 生田奈美可：E-mail ikuta@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 22 - 2841

備考 集中授業

開設科目	成人看護学 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	山勢博彰、立野淳子、田代明子、中尾富士子、江藤亜矢子				

授業の概要 既習の基礎看護学および周辺諸科学の知識を基盤として、成人急性期・回復期病態にある対象（主に手術を受ける患者）に対して看護ケアを提供するために必要な基礎的理論・概念および援助技術について教授する。併せて看護過程を用いて看護実践を組み立てる方法と臨床看護技術の一部を演習する。/ 検索キーワード 成人看護学、急性期、回復期、看護過程

授業の一般目標 1. 成人周手術期にある患者の特徴を理解する。 2. 成人周手術期にある患者の看護問題を解決するために必要な実践的な思考プロセス（判断能力・応用能力・問題解決能力）を養う。 3. 成人周手術期にある患者に提供する臨床看護技術について理解を深める。 4. 成人周手術期にある患者のケアを行う際に必要となる倫理的判断に対して、自分の意見を持つことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 成人周手術期にある患者の特徴を述べるができる。 2. 看護ケアを提供するために必要な理論や概念を述べるができる。 思考・判断の観点： 1. 看護過程を用いて看護実践を組み立てる方法について説明できる。 関心・意欲の観点： 1. 成人急性期・回復期病態にある対象に対する関心を持つ 2. 対象の看護問題に焦点を当てた討議ができる 技能・表現の観点： 1. 安全・安楽の視点で援助ケアの工夫ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 急性期・回復期病態にある人の理解と看護 (1) 内容 急性期看護概論
- 第 2 回 項目 急性期・回復期病態にある人の理解と看護 (2) 内容 周手術期とクリティカルケア
- 第 3 回 項目 急性期・回復期病態にある人の理解と看護 (3) 内容 活用概念・理論
- 第 4 回 項目 周手術期における看護 (1) 術前の看護 内容 術前アセスメントと看護
- 第 5 回 項目 周手術期における看護 (2) 看護技術 内容 術前の患者指導
- 第 6 回 項目 周手術期における看護 (3) 術中の看護 内容 麻酔看護
- 第 7 回 項目 周手術期における看護 (4) 術中の看護 内容 手術室看護師の役割と看護
- 第 8 回 項目 周手術期における看護 (5) 術後の看護 内容 手術侵襲と回復過程の促進
- 第 9 回 項目 周手術期における看護 (6) 術後の看護 内容 術後合併症の予防と回復過程の促進
- 第 10 回 項目 周手術期における看護 (7) 看護技術 内容 術後観察とアセスメント
- 第 11 回 項目 周手術期における看護 (8) 看護技術 内容 疼痛管理, ドレーン管理
- 第 12 回 項目 周手術期における看護 (9) 看護技術 内容 創傷管理
- 第 13 回 項目 手術療法に伴う看護 (1) 内容 心・血管系手術と看護
- 第 14 回 項目 手術療法に伴う看護 (2) 内容 呼吸器系手術と看護
- 第 15 回 項目 手術療法に伴う看護 (3) 内容 消化・吸収系手術と看護 (1)
- 第 16 回 項目 手術療法に伴う看護 (4) 内容 消化・吸収系手術と看護 (2)
- 第 17 回 項目 手術療法に伴う看護 (5) 内容 感覚認知系手術と看護 (脳神経系)
- 第 18 回 項目 手術療法に伴う看護 (6) 内容 性・生殖系手術と看護
- 第 19 回 項目 手術療法に伴う看護 (7) 内容 骨・関節系手術と看護
- 第 20 回 項目 手術療法に伴う看護 (8) 内容 演習 (1)
- 第 21 回 項目 手術療法に伴う看護 (9) 内容 演習 (2)
- 第 22 回 項目 手術療法に伴う看護 (10) 内容 演習 (3)
- 第 23 回 項目 医療機器の使用と看護 (1) 内容 ME 機器の原理
- 第 24 回 項目 医療機器の使用と看護 (2) 内容 各種モニター類
- 第 25 回 項目 医療機器の使用と看護 (3) 内容 人工呼吸器、血液浄化など
- 第 26 回 項目 成人 I 看護技術演習 (1) 内容 ガイダンス他
- 第 27 回 項目 成人 I 看護技術演習 (2)
- 第 28 回 項目 成人 I 看護技術演習 (3)

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 期末試験を行う。課題レポートを作成し提出する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：急性期にある患者の看護 II 周手術期看護, 氏家幸子監修, 廣川書店, 2003 年 /  
参考書：成人看護技術 II 急性期にある患者の看護技術, 氏家幸子監修, 廣川書店, 2003 年

開設科目	成人看護学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	2 単位	開設期	後期
担当教官	東玲子・齊田菜穂子・近沢三枝・中尾富士子・江藤亜矢子				

授業の概要 本授業では成人期(青年期、壮年期、中年期)で、慢性期・終末期病態にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、看護の対象となる健康問題を明らかにし、その健康問題を解決するための知識、理論、技術を教授する。慢性期看護では、慢性期病態にある人々の生活をできるだけ普通に保ち、かつ QOL (Quality of Life) を高めるための援助に必要な知識と技術を学ぶ。がん患者の看護では、がんを病む人々ががんとともに生きて行く過程を総合的に援助するための知識と技術を学ぶ。終末期看護では、終末期病態にある人が全人的な痛み(身体的、精神的、社会的、霊的)が和らぎ、安寧な死が迎えられるように家族とともに援助する看護の知識と技術を学ぶ。 / 検索キーワード 成人期、慢性期看護、終末期看護、がん患者の看護

授業の一般目標 1. 慢性期・終末期病態にある成人期の人々とその家族を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。2. 対象者の健康問題を理解し、解決するための知識と技術を理解する。3. 継続看護の必要性を理解し、社会復帰への援助方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 成人期の身体・心理・社会的特徴を説明できる。2. 成人期に生じやすい健康問題を説明できる。3. 成人期にある人に対する看護の特徴を説明できる。4. 慢性期・終末期看護の特徴および概要を説明できる。5. 慢性期・終末期病態にある人やその家族を理解し、看護を行っていくために必要な諸理論を理解できる。6. 成人期における各系の機能障害出現のメカニズムと成り行きを述べることができる。7. 成人期にある人が活用可能な医療、保健、福祉サービスを説明できる。

思考・判断の観点: 1. 各系の機能障害をもつ人は、いかなる健康問題および生活上の困難を抱えるかを説明できる。2. 機能障害をもった慢性期・終末期病態にある成人患者の健康問題を解決するための看護を根拠とともに説明できる。3. 慢性期・終末期看護で求められる看護師の能力について、自らの考えを記述・口述できる。 関心・意欲の観点: 病を持つ成人患者や家族の体験に関心を持つ。 態度の観点: 機能障害と健康問題および生活上の困難との関連を理解しようと自己学習する。 技能・表現の観点: レポートおよびプレゼンテーション課題に対し、Technical terms を適切に用いて、自らの意見・考えを論理的に記述・口述できる。

授業の計画(全体) 授業の前半は、成人期および慢性期・終末期病態にある人を理解し、看護を行っていくための基本的な概念、理論、後半は、各系の機能障害を持つ成人の健康問題とそれへの看護方法について根拠を含めて概説していく。授業の大半は、学生への質問や学生のプレゼンテーションで進める。また、複数のレポートを課すので、計画的かつ主体的な予習・復習が必要である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 成人看護学授業 ガイダンス: 成人期にある人の生活と健康問題(1) 内容 成人看護学 II の理念 授業外指示 シラバスを読んでおく 授業記録 いずれの授業も 配布資料あり
- 第 2 回 項目 成人期にある人の生活と健康問題(2)
- 第 3 回 項目 成人期にある人の生活と健康問題(3)
- 第 4 回 項目 慢性期病態にある人の理解と看護(1) 内容 慢性期病態にある人の理解と看護 看護の特徴、活用概念・理論: 病みの軌跡、慢性疾患を生きる 授業外指示 主要な活用概念・理論は、テキスト・配布資料・参考文献で 予習・復習する
- 第 5 回 項目 慢性期病態にある人の理解と看護(2) 内容 慢性期病態にある人の理解と看護 活用概念・理論: セルフケア 理論・患者教育
- 第 6 回 項目 がんを病む人の理解と看護の特徴(1) 内容 がんを病む人の理解と看護の特徴 活用概念・理論: 危機、喪失と悲嘆のプロセス
- 第 7 回 項目 呼吸機能に障害を持つ患者の看護(1) 内容 呼吸機能に障害を持つ患者の看護 機能のメカニズムとアセスメント

- 第 8 回 項目 がんを病む人の 理解と看護 (2) 内容 がんを病む人の 理解と看護 活用概念・理 念：がんとの共 生、症状マネジ メント
- 第 9 回 項目 循環機能に障害 を持つ患者の看護 (1) 内容 循環機能に障害 を持つ患者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント 授業外指示 機能障害を持つ 人の看護については、いずれの 講義も、病態生 理を含め関連箇 所をテキスト・ 参考書で予習・ 復習しておく
- 第 10 回 項目 終末期病態にあ る人の理解と看護
- 第 11 回 項目 循環機能に障害 を持つ患者の看護 (2) 内容 循環機能に障害 を持つ患者の看護 慢性心不全
- 第 12 回 項目 循環機能に障害 を持つ患者の看護 (3) 内容 循環機能に障害 を持つ患者の看護 心筋梗塞
- 第 13 回 項目 中間試験
- 第 14 回 項目 腎・排泄機能に 障害を持つ患者 の看護 (1) 内容 腎・排泄機能に 障害を持つ患者 の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント、腎不全
- 第 15 回 項目 演習ガイダンス
- 第 16 回 項目 呼吸機能に障害 を持つ患者の看護 (2) 内容 呼吸機能に障害 を持つ患者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント
- 第 17 回 項目 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 (1) 内容 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント
- 第 18 回 項目 呼吸機能に障害 を持つ患者の看護 (3) 内容 呼吸機能に障害 を持つ患者の看護 慢性呼吸不全
- 第 19 回 項目 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 (2) 内容 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 糖尿病
- 第 20 回 項目 呼吸機能に障害 を持つ患者の看護 (4) 内容 呼吸機能に障害 を持つ患者の看護 慢性呼吸不全
- 第 21 回 項目 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 ( 3 ) 内容 調節 (内分泌) 機 能に障害を持つ 患者の看護 糖尿病
- 第 22 回 項目 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 (1) 内容 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント (1)
- 第 23 回 項目 感覚・認知機 能に障害を持つ 患者の看護 内容 感覚・認知機 能に障害を持つ 患者の看護 脳梗塞
- 第 24 回 項目 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 (2) 内容 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント (2)
- 第 25 回 項目 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 (3) 内容 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 肝硬変
- 第 26 回 項目 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 (4) 内容 消化・吸収機能 に障害を持つ患 者の看護 潰瘍性大腸炎
- 第 27 回 項目 生態防御 (免疫) 機能に障害を持 つ患者の看護 (1) 内容 生態防御 (免疫) 機能に障害を持 つ患者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント、全身性エリ テマトーデ、 成人臨床看護技 術演習ガイダ ンス
- 第 28 回 項目 生態防御 (造 血) 機能に障害を持 つ患者の看護 (2) 内容 生態防御 (造血) 機能に障害を持 つ患者の看護 機能のメカニズ ムとアセスメント、白血病
- 第 29 回 項目 成人臨床看護技 術演習 (1) 内容 呼吸理学療法、慢性疾患患者の自己管理を支えるアセスメント技術
- 第 30 回 項目 成人臨床看護技 術演習 (2) 内容 呼吸理学療法、慢性疾患患者の自己管理を支えるアセスメント技術

成績評価方法 (総合) 1. 定期試験 ( 中間試験、期末試験 ) 2. 慢性期看護に関するレポート、3. 機能障害をもつ人の看護についてのプレゼンテーション・演習を、下記の観点で評価する。なお、レポートが未提

出の場合、単位の認定ができないので注意する。

教科書・参考書 教科書：系統看護学講座専門分野 5～11.14（成人看護学 1～7.10）医学書院 2003 / 参考書：図解知っておきたい病態生理, 西崎統著, 医学書院, 2002 年; 病態生理できた内科学, 五幸恵著, 医学教育出版社; 成人看護学 A. 成人看護学原論, 氏家幸子監、土井洋子 泉キヨ子編, 広川書店, 2001 年; 看護過程に沿った対象看護「病態生理と看護のポイント」, 高木永子監修, 医学書院, 1999 年; 臨床看護学セミナー 1-7.9、黒田裕子監修、メヂカルフレンド社、1997. 図解知っておきたい病態生理、西崎統、医学書院、2002. 病態生理できた内科学 1～6、五幸恵、医学教育出版社 その他、必要に応じ、関連授業で提示する

メッセージ 機能障害を持つ人の看護については、いずれの講義も、病態生理を含め関連箇所をテキスト・参考書で予習・復習しておく

連絡先・オフィスアワー 東玲子 tel:0836-22-2813, e-mail:azumar@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。 齊田菜穂子 tel:0836-22-2864,e-mail:naho@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。



開設科目	成人疾病学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	清水昭彦 山田治 福田憲 村上弘明 日野啓輔 奥屋茂 武藤武彦 中村浩士 野村貞宏 福田てる代 福田憲 峯孝友 橋本誠 松山豪泰				

授業の概要 人体に起こる病気の中でも、循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症に関して講義形式で行う。/検索キーワード 循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症

授業の一般目標 循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症の診断方法、治療に関して理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症への知識 思考・判断の観点：循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症への治療 関心・意欲の観点：循環器、神経、血液・アレルギー、泌尿器、眼科、婦人科、感染症の関心 態度の観点：学習態度

授業計画（授業単位）/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 血液 山田 (9・10 時限) 内容 各種貧血：鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血
- 第 2 回 項目 循環器 清水 (3・4 時限) 内容 症状と病態生理
- 第 3 回 項目 眼科 福田憲 (7・8 時限) 内容 糖尿病網膜症、高血圧性網膜症、網膜剥離、眼底出血
- 第 4 回 項目 眼科 福田憲 (9・10 時限) 内容 角結膜の炎症性疾患、白内障、緑内障、ぶどう膜炎、未熟児網膜症
- 第 5 回 項目 循環器 清水 (7・8 時限) 内容 先天性心疾患、リュウマチ熱/感染性心内膜炎/弁膜症
- 第 6 回 項目 循環器 清水 (9・10 時限) 内容 虚血性心疾患 (I)
- 第 7 回 項目 血液 山田 (9・10 時限) 内容 白血球系疾患：HIV 感染症、白血病、悪性リンパ腫、骨髄腫
- 第 8 回 項目 循環器 清水 (3・4 時限) 内容 虚血性心疾患 (II)
- 第 9 回 項目 循環器 清水 (7・8 時限) 内容 心膜炎/心筋疾患/肺性心/血圧異常
- 第 10 回 項目 神経 野垣 (9・10 時限) 内容 脳血管障害
- 第 11 回 項目 循環器 清水 (7・8 時限) 内容 不整脈 総論/徐脈性不整脈
- 第 12 回 項目 循環器 清水 (9・10 時限) 内容 頻脈性不整脈
- 第 13 回 項目 血液 山田 (9・10 時限) 内容 出血凝固系疾患：特発性血小板減少性紫斑病、血友病について
- 第 14 回 項目 循環器 清水 (3・4 時限) 内容 血管の疾患
- 第 15 回 項目 感染症 清水 (9・10 時限) 内容 一般的感染症の治療
- 第 16 回 項目 血液 山田 (9・10 時限) 内容 アレルギー性疾患：反応の 4 型。蕁麻疹、気管支喘息について
- 第 17 回 項目 感染症 清水 (3・4 時限) 内容 ウィルス感染症、細菌感染
- 第 18 回 項目 神経 野垣 (7・8 時限) 内容 脳炎症・脱髄疾患・脊髄疾患、運動ニューロン疾患、脳変性疾患
- 第 19 回 項目 感染症 清水 (7・8 時限) 内容 細菌感染
- 第 20 回 項目 婦人科 田村 (9・10 時限) 内容 外陰・膣の疾患
- 第 21 回 項目 泌尿器 松山 (9・10 時限)
- 第 22 回 項目 神経 野垣 (3・4 時限) 内容 末梢神経疾患、筋肉疾患/疼痛性神経疾患（頭痛など）、てんかん、
- 第 23 回 項目 婦人科 田村 (9・10 時限) 内容 子宮良性疾患（子宮筋腫、子宮内膜症など）
- 第 24 回 項目 自己学習 清水 (7・8 時限) 内容 心不全の機序
- 第 25 回 項目 婦人科 田村 (9・10 時限) 内容 子宮悪性腫瘍（子宮頸癌、子宮体癌）
- 第 26 回 項目 感染症 清水 (7・8 時限) 内容 細菌感染 その他
- 第 27 回 項目 婦人科 田村 (9・10 時限) 内容 卵巣腫瘍（卵巣嚢腫、卵巣癌など）
- 第 28 回 項目 泌尿器 松山 (9・10 時限) 内容 尿路・性器の疾患（尿路悪性腫瘍、尿路結石）

第 29 回 項目 婦人科 田村 (9・10 時限) 内容 婦人科内分泌学、不妊症

第 30 回 項目 泌尿器 松山 (9・10 時限) 内容 膀胱・性器の疾患 (男性不妊、性機能障害)

成績評価方法 (総合) 筆記試験が主体である。

教科書・参考書 教科書：脳・神経疾患ナーシング, , 学習研究社, 2001 年；系統看護学講座専門 6・7・8・9・10・11・13・14・15・17・18, , 医学書院, 2006 年；野垣先生は脳・神経疾患ナーシング (学研)

連絡先・オフィスアワー 清水：ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	精神看護学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山根俊恵				

授業の概要 1. 健康・不健康を問わず、あらゆる成長・発達段階にある対象の精神的な問題と精神保健についての概要を講義する

2. 精神に障害を持つ人の身体的・社会的・心理的側面と看護者の役割および、精神看護を実践するために必要な基礎的知識を教授する / 検索キーワード 精神看護、精神保健、メンタルヘルス

授業の一般目標 1) 成長発達段階における、心の健康・不健康の問題について理解する. 2) 社会における心の問題を理解するとともに精神科医療の歴史と精神障がい者の人権について理解を深める. 3) 精神科におけるチーム医療の中の看護者の役割を理解する. 4) 精神障がい者がその人らしく生きる力を支えるための諸制度や諸理論を学ぶ. 5) 精神の健康問題を抱え入院治療を必要としている対象に対して、治療と看護アプローチ法を学ぶ.

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 精神医療や精神科看護の変遷について理解する 精神保健医療システムについて理解できる 精神障がい者とそれを取り巻く現状について理解し、適切な援助方法が理解できる 精神的な病を持つ人への看護ケアの基礎を理解できる 思考・判断の観点: あらゆる看護場面において精神看護の必要性と応用の方法を理解できる 精神的な病を持つ人を全人的に理解し、必要な看護について述べるができる 関心・意欲の観点: 精神保健福祉活動に対する関心を深める 精神医療、看護における問題について関心をもてる 態度の観点: ケーススタディを通じて、他の人の意見を尊重しながら自分の意見を述べるができる、意見全体をまとめることができる 技能・表現の観点: ケースワークを通じて学習した内容がプレゼンテーションできる

授業の計画(全体) 講義と演習形式で行う 必要に応じてプリントの配布を行う

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 精神看護の考え方 内容 精神看護とは 精神看護学の位置づけ、精神看護師の役割について
- 第 2 回 項目 心の健康とは、環境と精神保健 内容 心の健康とは、心の構造
- 第 3 回 項目 心の発達とライフサイクル 内容 ライフサイクルにおける精神的な問題とその対応
- 第 4 回 項目 危機的状況と心の問題、リエゾン精神看護 内容 様々な場面における危機的な状況と援助
- 第 5 回 項目 精神保健の歴史の変遷と精神保健福祉法 内容 精神医療と看護における歴史的背景 精神保健福祉法の概要
- 第 6 回 項目 我が国の精神医療と制度 内容 精神保健福祉に関する制度と精神保健の現状
- 第 7 回 項目 精神看護の人権 内容 精神医療における人権、倫理的問題、医療事故など
- 第 8 回 項目 精神障がい者の理解 1 内容 精神障害とは
- 第 9 回 項目 精神障がい者の理解 2 内容 精神障害者に対する理解と看護
- 第 10 回 項目 精神科看護の役割と治療的關係 内容 患者と看護者との關係の持ち方 コミュニケーション技術
- 第 11 回 項目 面接法・コミュニケーション技法 内容 コミュニケーション技術、精神看護技術とは
- 第 12 回 項目 精神科における観察と記録 内容 観察の方法とポイント 記録について
- 第 13 回 項目 精神障がい者を抱える家族への援助 内容 家族の心理と援助の方法
- 第 14 回 項目 精神科における治療と看護 内容 精神科における様々な治療法とそれに対する看護
- 第 15 回 項目 精神症状と看護 内容 精神症状とそれに対する看護の方法
- 第 16 回 項目 精神症状と看護 内容 精神症状とそれに対する看護の方法
- 第 17 回 項目 精神科における急性期看護 内容 急性期の患者の特徴とケア
- 第 18 回 項目 精神科における回復期・慢性期看護 内容 回復期・慢性期の患者の特徴とケア
- 第 19 回 項目 精神科リハビリテーションと看護の役割 内容 精神科リハビリテーションの内容と看護の役割
- 第 20 回 項目 地域精神保健福祉活動における看護の役割 内容 地域における精神保健活動と看護の役割

- 第 21 回 項目 認知症に対するケアの実際 内容 認知症に対するケアの実際  
第 22 回 項目 気分障害に対する ケアの実際 内容 気分障害（躁うつ病）に対するケアの実際  
第 23 回 項目 統合失調症に対するケアの実際 内容 統合失調症の患者へのケアの実際  
第 24 回 項目 アディクション・人格障害・摂食障害に対するケアの実際 内容 アディクション（主にアルコール依存症）および人格障害、摂食障害に対するケアの実際  
第 25 回 項目 \*ケーススタディ 内容 精神科における看護過程を事例を取り上げて演習する  
第 26 回 項目 \*ケーススタディ 内容 精神科における看護過程を事例を取り上げて演習する  
第 27 回 項目 \*ケーススタディ 内容 精神科における看護過程を事例を取り上げて演習する  
第 28 回 項目 \*ケーススタディ 内容 精神科における看護過程を事例を取り上げて演習する  
第 29 回  
第 30 回

成績評価方法（総合） 中間試験、期末試験を行う。必要に応じて授業内、外にレポートを課す ケーススタディに関してはプレゼンテーションをおこなう 出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない

教科書・参考書 教科書：新体系看護学 32 精神看護学 (1) 精神看護概論・精神保健, , メヂカルフレンド社；新体系看護学 33 精神看護学 (2) 精神障害を持つ人の看護, , メヂカルフレンド社；我が国の精神保健福祉（精神保健福祉ハンドブック）平成 16 年版, , 精神保健福祉研究会；新体系看護学 33 精神看護学 (2) 精神障害を持つ人の看護

メッセージ 精神疾病学を十分復習して授業に望んで下さい

連絡先・オフィスアワー tyamane@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	精神疾病学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	渡邊義文・秋元隆志・西田朗・橋本学・末次正知				

授業の概要 精神障害についての知識を講義する。精神障害を抱える患者さんを援助するためには、良い人間関係を築くことが第一である。そのためには、先入観や偏見なしに一人の人間として、患者さんに接するとともに、精神障害に特徴的な問題点への理解が必要である。講義では、精神障害を抱えた患者さんの理解を助けるために、さまざまな知識を系統的に講義する。/ 検索キーワード 精神障害、ストレス

授業の一般目標 精神障害についての知識を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：精神障害について説明できる。個々の精神疾患の特徴を説明できる。精神科における診断や治療法について説明できる。

授業の計画(全体) 教科書(新版 看護学全書36, 精神看護学2、メヂカルフレンド社)に基づいて、講義する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目【項目】総論【内容】精神疾患、精神障害について
- 第2回 項目【項目】精神症状学【内容】精神症状の医学的な捉え方について
- 第3回 項目【項目】診断の基礎と要点【内容】精神疾患の診断の方法について
- 第4回 項目【項目】検査、心理テスト【内容】生物学的、心理学的検査法について
- 第5回 項目【項目】薬物療法【内容】生物学的な治療法について
- 第6回 項目【項目】精神療法、社会復帰【内容】心理的な治療的関わりについて
- 第7回 項目【項目】統合失調症【内容】統合失調症について
- 第8回 項目【項目】躁うつ病【内容】躁うつ病について
- 第9回 項目【項目】てんかん、睡眠障害【内容】上記の疾患について
- 第10回 項目【項目】神経症と心因反応、性格異常【内容】上記の疾患について
- 第11回 項目【項目】痴呆性疾患、老年期の精神障害【内容】上記の疾患について
- 第12回 項目【項目】器質・症状性精神障害【内容】身体疾患に伴って起きる精神障害について
- 第13回 項目【項目】アルコール依存と薬物依存【内容】上記の精神障害について
- 第14回 項目【項目】児童思春期の精神障害【内容】上記の精神障害について
- 第15回

教科書・参考書 教科書：新版看護学全書 精神看護学 (1)(2), , メヂカルフレンド社；新版 看護学全書36, 精神看護学2、メヂカルフレンド社

開設科目	母性対象論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	田中満由美・戸部郁代・田村博				
<p>授業の概要 ヒトの性・生殖に関する健康・健康問題に支援を行なう看護を教授する 母性の健康に関する看護の概念を基に、妊娠期にある女性とおよびその家族の援助に必要な、基本的な知識を教授する。母性看護の意義・母性看護の基礎となる概念について教授する。/ 検索キーワード 生殖 母性 女性 母性看護</p> <p>授業の一般目標 1. 母性看護の基礎となる概念を理解する 2. ヒトの性と生殖の健康に関する基本的知識を理解する</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 母性の意味を説明できる 2. 母性看護の目的を説明できる (リプロダクティブヘルス意味を説明できる) 3. 母性看護の対象である、母性の身体的・心理的・社会的・霊的特性を説明できる 4. 女性の生殖に関する形態・機能を説明できる 5. 生殖と人間について理解し、成熟女性の生殖機能を説明できる 6. 生殖に関する形態・機能・生理を述べることができる。 7. 妊娠の生理を述べることができる。 8. 妊娠に伴う母体の身体的変化およびマイナートラブルを述べることができる。 9. 正常な胎児の発育について述べるができる。 10. 胎児付属物の形態・機能・生理について述べるができる。 11. 正常妊娠経過を説明できる。 12. 胎児-胎盤系の生理を理解し、モニタリングの結果を解釈できる。 思考・判断の観点： 1. 妊娠各期における妊婦の正常な母体の変化と順調な胎児の発育がアセスメントできる。 2. FHRモニタリングの結果を分析・解釈し、母体-胎児間の状態をアセスメントすることができる。 関心・意欲の観点： 1. 生命の開始前を含み、生命の尊厳を感じることができる 2. 日常生活の中で妊産褥婦や新生児に関わる出来事や問題点について関心がもてる。 3. 生命の尊厳について考えることができる。 態度の観点： 1. 科学的根拠に基づいた資料・他者の意見を尊重できる 2. 提示資料を理解した上で、意見を述べるができる 3. ディスカッション時には、専門用語を用いて簡潔に意見を述べるができる。 4. 提示された資料は、事前学習できている。 5. 課題には、積極的、意欲的に取り組める。 6. 生命倫理・看護倫理を重要視できる 技能・表現の観点： 1. 母性を把握し、自らの母性観を表現できる</p> <p>授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 オリエンテーション、母性看護学の意味、母性看護の主な概念・母性看護の対象 (1) 内容 授業目的・授業の進め方、シラバス活用、評価方法、母性の意味、母性の定義を説明する。</p> <p>第 2 回 項目 母性看護の主な概念・母性看護の対象 (2) 内容 母性看護の基礎となる概念を説明する。リプロダクティブヘルスの意味を説明する。母性の身体的・心理的・社会的・霊的特性を解説する。母性看護における倫理的課題を提示する</p> <p>第 3 回 項目 母性看護の発達と歴史 内容 母性看護の歴史的変遷と現状</p> <p>第 4 回 項目 母性看護の動向 内容 母子保健統計から見た動向</p> <p>第 5 回 項目 母性看護の倫理 内容 生命倫理と看護倫理、看護における倫理的意思決定</p> <p>第 6 回 項目 母性看護に関連する法令 内容 母子保健法、労働基準法、児童福祉法、母体保護法、男女雇用機会均等法等、</p> <p>第 7 回 項目 ライフサイクル各期の健康と健康課題 (1) 内容 思春期の定義、思春期の心理的・身体的・社会的特徴と問題、看護援助</p> <p>第 8 回 項目 ライフサイクル各期の健康と健康課題 (2) 内容 更年期の定義、更年期の心理的・身体的・社会的特徴と問題、看護援助</p> <p>第 9 回 項目 妊娠の生理 (女性の生殖に関する形態・機能を含む) 内容 妊娠の定義、妊娠の成立、胎児付属物の形成と生理</p> <p>第 10 回 項目 母体の変化と胎児の発育・生理 内容 生殖器における変化、母体の全身変化、胎児の発育と生理</p> <p>第 11 回 項目 妊娠への適応と妊娠各期の心理的特性 内容 妊娠の受容、妊娠初期の心理特性、妊娠中期の心理特性、妊娠末期の心理特性</p>					

- 第 12 回 項目 妊婦の健康管理とマイナートラブル 内容 妊婦の健康診査、保健指導、マイナートラブルへの対処法(つわり、腰背部痛、静脈瘤、下肢の痙攣、浮腫、便秘、頻尿、妊娠性帯下)
- 第 13 回 項目 妊婦の日常生活援助(1) 内容 栄養、排泄、姿勢と運動、活動、睡眠と休息
- 第 14 回 項目 妊婦の日常生活援助(1) 内容 身体の清潔、衣類、嗜好品、性生活、分娩準備教育、育児準備
- 第 15 回 項目 期末試験

成績評価方法(総合) \* 授業の中で、小テスト、宿題による課題レポートを行なう。

教科書・参考書 教科書：看護のための最新医学講座〔第2版〕15 産科疾患, 日野原重明, 中山書店, 2005年; 系統看護学講座 2 4 母性看護学 I 母性看護学概論, 松本清一編集, 医学書院, 2007年; 系統看護学講座 2 5 母性看護学 2 母性看護学各論, 松本清一編集, 医学書院, 2007年

メッセージ 山口大学の理念は、発見し、はぐくみ、かたちにする、知の広場です、自から学びとってください、自から学んでください。

連絡先・オフィスアワー 田中満由美：E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2821 戸部郁代：研究室 22-2829

開設科目	母性看護学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田中満由美、戸部郁代、田中奈美、山元公美子				

授業の概要 ヒトの性・生殖に関する健康・健康問題に支援を行なう看護を教授する 母性の健康に関する看護の概念を基に、対象者の援助に必要な、基本的な知識・技術・態度を講義する 母性看護の対象者の心身の特徴・機能を理解するとともに、母性看護の意義・母性保健の必要性および母性に影響を及ぼす諸因子を講義する 母性看護の対象者が、健康を維持・増進できる看護を教授する。本授業では、妊娠期・分娩期・産褥期にある女性と新生児期にある乳児、およびその家族の看護課題と看護援助に関する基本的知識および各期に起こりうる健康の逸脱と回復にむけての看護援助に関する基本的知識について教授する。さらに、女性のライフサイクルにおける性と生殖の健康に関する保健行動について教授する。  
/ 検索キーワード 妊娠, 分娩, 産褥, 胎児・新生児, 家族, 看護

授業の一般目標 1. 妊産褥婦および新生児の正常な経過を理解し、母子とその家族が健康を保持増進し、正常からの逸脱を予防するための看護援助方法を習得することができる。 2. 親と子のきずな、家族関係の基盤作り、育児、親の成長について考えることができる。 3. 対象の看護援助に必要な看護技術を習得することができる。 4. 母子の健康状態をアセスメントし、適切な看護援助方法を考えることができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 合併症妊娠・異常妊娠について概説することができる。 2. 異常妊娠の援助方法を述べることができる。 3. 正常分娩経過を述べることができる。 4. 主な異常分娩(遷延分娩, 回旋異常, 前置胎盤, 常位胎盤早期剥離, 弛緩出血, 分娩損傷)について概説できる。 5. 産科手術, 産科救急について概説できる。 6. 分娩にむけての援助方法を述べることができる。 7. 分娩期の安全・安楽にむけての援助方法を述べることができる。 8. 産科合併症を有する産婦に対する援助方法を述べることができる。(前期 破水, 軟産道裂傷, 産科出血, 陣痛異常, 胎盤異常) 9. 帝王切開時の援助方法を述べることができる。 10. 正常産褥経過を述べることができる。 11. 主な異常産褥(復古不全, 産褥熱, 乳腺炎)について概説できる。 12. 産褥期の退行性変化を促進させるための援助方法を述べることができる。 13. 母乳栄養の確立にむけての援助方法を述べることができる。 14. 母子(親子)相互作用の確立にむけての援助方法を述べることができる。 15. 母親の育児技術習得にむけての援助方法を述べることができる。 16. 産褥期における健康の逸脱からの回復にむけての援助方法を述べることができる。 17. 家族関係の調整, 社会的資源の活用方法についての援助方法を述べることができる。 18. 新生児の生理的特徴を述べることができる。 19. 新生児特有の生理的变化について述べることができる。 20. 新生児の胎外生活適応促進にむけての援助方法を述べることができる。 21. 健康から逸脱した新生児の回復にむけての援助方法を述べることができる。 22. ハイリスク新生児(新生児仮死, 分娩外傷, 低出生体重児)について概説できる。 23. ハイリスク新生児に対する基本的な援助方法を述べることができる。

思考・判断の観点: 1. 妊娠の経過をアセスメントすることができる。 2. 妊婦のセルフケア能力をアセスメントできる。 分娩の順調な進行と産婦のセルフケア能力をアセスメントすることができる。 3. 産褥期の退行性変化および進行性変化の経過をアセスメントすることができる。 4. 産褥期における褥婦のセルフケア能力をアセスメントできる。 5. 母子(親子)相互作用, 母親の養育・育児能力をアセスメントできる。 6. 新生児の胎外生活適応の状態をアセスメントできる。 関心・意欲の観点: 1. 演習項目における技術能力を自己評価し, 不足部分は自己学習によって能力を向上させることができる。 2. 日常生活の中で妊産褥婦や新生児に関わる出来事や問題点について関心を高める。 態度の観点: 1. 演習は欠席および遅刻をせず, 積極的態で参加する。 2. 日常生活の中で妊産褥婦や新生児に関わる出来事や問題点について主体的に考えることができる。 技能・表現の観点: 1. 妊婦健康診査に必要な技術を実践できる。 1-1. 腹囲, 子宮底長が正しく測定できる。 1-2. 浮腫の程度が正しく判定できる。 1-3. 尿検査項目を正しく判定できる。 1-4. 胎児心拍が聴取できる。 1-5. FHRモニタリング機器を正しく装着できる。 1-6. 骨盤外計測を正しく行うことができる。 2. 分娩時の産痛緩和方法を実践できる。 2-1. 呼吸法・補助動作を分娩進行状態に応じて実践できる。 2-2. 弛緩法, マッサージ法, 圧迫法を実践できる。 3. 悪露交換が実践できる。 3-1. 外陰部, 悪露の観察項目を適切に述べるすることができる。 3-2. 外陰部の洗浄・消毒を正しく実践できる。 3-3. 褥婦の羞恥心に配慮して実践することができる。



4. 産褥体操を実践できる。 5. 乳房ケアを実践できる。 5-1. 乳頭マッサージ, 乳管開通法を実践できる。 5-2. SMC式乳房マッサージを正しく実践できる。 6. 新生児の看護に必要な技術を実践できる。  
6-1. 全身状態の観察を正しく実践できる。 6-2. 新生児を正しく抱くことができる。 6-3. 新生児の衣服の着脱ができる。 6-4. 新生児のおむつ交換ができる。 6-5. 新生児の沐浴ができる。

授業の計画(全体) 授業は、各回毎のオムニバス形式で行う。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 合併症妊娠 内容 糖尿病、心疾患、内分泌異常、自己免疫性疾患、血液疾患、感染症 授業記録 担当：医師
- 第 2 回 項目 異常妊娠 内容 流産・早産、子宮外妊娠、胞状奇胎、妊娠高血圧症、多胎妊娠、胎位異常 授業記録 担当：医師
- 第 3 回 項目 異常妊婦の看護 内容 妊娠高血圧症の妊婦、子宮収縮のある妊婦、出血のある妊婦、破水している妊婦ね胎児-胎盤系に異常のある妊婦 授業記録 担当：田中満由美
- 第 4 回 項目 正常分娩(1) 内容 分娩の生理、分娩の三要素、分娩の機序 授業記録 担当：田中満由美
- 第 5 回 項目 正常分娩(2) 内容 同上 授業記録 担当：田中満由美
- 第 6 回 項目 妊婦の健康診査技術(演習) 内容 妊婦体験ジャケット、診察の介助 授業外指示 田中奈美、山元公美子 授業記録 担当：戸部郁代
- 第 7 回 項目 妊婦の健康診査技術(演習) 内容 同上 授業外指示 田中奈美、山元公美子 授業記録 担当：田中
- 第 8 回 項目 産婦の観察と健康援助(1) 内容 産婦の心理的特徴、分娩開始前の看護、分娩第一期の看護 授業記録 担当：田中満由美
- 第 9 回 項目 産婦の観察と健康援助(2) 内容 分娩第二期の看護、分娩第三期の看護、分娩終了直後から2時間までの看護 授業記録 担当：田中満由美
- 第 10 回 項目 産婦の援助技術(演習) 内容 レオポルド腹部触診法、胎児心音の聴取、分娩時の呼吸法・補助動作、産痛緩和法(圧迫法、マッサージ法、弛緩法) 授業外指示 田中奈美、山元公美子 授業記録 担当：戸部郁代
- 第 11 回 項目 産婦の援助技術(演習) 内容 同上 授業外指示 田中奈美、山元公美子 授業記録 担当：戸部郁代
- 第 12 回 項目 正常産褥と異常産褥 内容 正常産褥経過、復古不全、産褥感染症
- 第 13 回 項目 産褥の看護(1) 退行性変化の促進と逸脱の予防 内容 退行性変化(全身及び生殖器)の観察と促進への援助、子宮復古不全の予防と援助、産褥感染症に対する予防と援助
- 第 14 回 項目 産褥の看護(2) 進行性変化の促進と逸脱の予防、母子・父子相互作用、親役割獲得、家族関係の調整 内容 母乳栄養確立にむけての援助、健康 逸脱から回復にむけての援助、母子・父子相互作用の促進にむけての援助、親役割獲得にむけての援助、家族関係の調整への援助
- 第 15 回 項目 産褥の看護(3) 産褥精神障害、家族計画、産褥と社会 内容 産褥の心理的特徴、マタニティブルー、産褥うつ病、家族計画、ソーシャルサポート、関連法令
- 第 16 回 項目 帝王切開時の看護 内容 手術前の産婦の看護、手術後に起こる看護問題と援助 方法
- 第 17 回 項目 産褥の援助技術(演習) 内容 産褥子宮復古の観察、産褥体操、悪露交換、SMC式乳房マッサージ、乳管開通法、搾乳法 授業外指示 田中奈美、山元公美子 授業記録 担当：
- 第 18 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 田中奈美、山元公美子 授業記録 担当：
- 第 19 回 項目 正常新生児と主な異常新生児 内容 新生児の定義と分類、正常新生児の生理、新生児仮死、分娩外傷、低出生体重児 授業記録 担当：戸部郁代
- 第 20 回 項目 新生児の看護(1) 内容 新生児の看護の原則、出生直後の新生児の看護、胎外生活適応促進にむけての援助 授業記録 担当：戸部郁代
- 第 21 回 項目 新生児の看護(2) 内容 適応促進にむけての援助 授業記録 担当：戸部郁代
- 第 22 回 項目 新生児の看護(3) 内容 健康逸脱した新生児、ハイリスク新生児の看護(低出生体重

- 児，分娩外傷）授業記録 担当：戸部郁代
- 第 23 回 項目 新生児の健康アセスメントと日常生活の援助（演習）内容 新生児の観察，抱き方，衣服の着脱，おむつ交換，沐浴 授業外指示 田中奈美、山元公美子 授業記録 担当：
- 第 24 回 項目 同上 内容 同上 授業外指示 田中奈美、山元公美子 授業記録 担当：
- 第 25 回 項目 看護過程の展開 内容 看護過程の展開
- 第 26 回 項目 看護過程の展開（演習）
- 第 27 回 項目 同上
- 第 28 回 項目 不妊症の人の看護 授業記録 担当：戸部郁代
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法（総合）出席が全講義回数数の 3 分の 2 以上をもって期末試験の受験資格を与える。

教科書・参考書 教科書：看護のための最新医学講座〔第 2 版〕15 産科疾患，日野原重明，中山書店，2005 年；系統看護学講座 2 4 母性看護学 1 母性看護学概論，松本清一他，医学書院，2007 年；系統看護学講座 2 5 母性看護学 2 母性看護学各論，松本清一他，医学書院，2007 年 / 参考書：周産期医学，東京医学社；助産雑誌 = The Japanese journal for midwives，医学書院；ペリネイタル・ケア，メディカ出版；臨床看護技術（母性・小児編）-その手順の根拠-，内山和美・小野正子，メヂカルフレンド社，2007 年

メッセージ 教科書は全員必ず購入すること

連絡先・オフィスアワー 田中満由美：E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp，研究室 22-2821 戸部郁代：E-mail tobegon@yamaguchi-u.ac.jp，研究室 22-2825 田中奈美：E-mail nami73@yamaguchi-u.ac.jp，研究室 22-2819 山元公美子：E-mail yamagenk@yamaguchi-u.ac.jp，研究室 22-2819

開設科目	救急医療概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山勢博彰				

授業の概要 緊急に対応を迫られる救急医療の概要と救急医療システムを解説し、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動について、必要な知識と方法を教授する。また、救急医療で遭遇する事多い疾患・外傷等について解説する。 / 検索キーワード 救急医療、救急医学、救急看護、災害医療、災害看護、外傷、外傷看護

授業の一般目標 1、救急医療の概要と救急医療システムを理解できる。2、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動(災害医療を含む)について理解できる。3、救急医療で遭遇する事多い疾患・外傷などの病態とケアについて理解できる。4、基本となる救命技術を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1、救急医療の概要と救急医療システムについて説明できる。2、救急状況にある患者とその家族について説明できる。3、救急医療にかかわる医療職者および看護活動(災害医療を含む)について説明できる。4、救急医療で遭遇する事多い疾患・外傷などの病態とケアについて説明できる。5、心肺蘇生法について説明できる。 思考・判断の観点：1、救急患者のアセスメント能力を高めることができる。2、救急医療に関する諸問題を考えることができる。 関心・意欲の観点：1、救急医療の理解を通して、救命への関心を高めることができる。 技能・表現の観点：心肺蘇生法を実施することができる。

授業の計画(全体) 前半は救急医療や救急医療システム、救急看護全般について解説する。その後、救急患者のアセスメント、家族ケアの考え方、災害医療、救急医療に関する諸問題について講義をし、最後に心肺蘇生法の演習を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 救急医療の概要と特徴1 内容 救急医療とは、救急医療の特徴、日本の救急医療システム、救急医療の今日的課題
- 第2回 項目 救急医療の概要と特徴2 内容 救急医療とは、救急医療の特徴、日本の救急医療システム、救急医療の今日的課題
- 第3回 項目 救急患者と家族の特徴 内容 トリアージと全身の系統的観察、フィジカルアセスメントの考え方と実際
- 第4回 項目 救急患者のアセスメント1 内容 トリアージと全身のアセスメント
- 第5回 項目 救急患者のアセスメント2 内容 呼吸、循環器系のアセスメント
- 第6回 項目 救急患者のアセスメント3 内容 腹部、その他のアセスメント
- 第7回 項目 救急医療で見られる特殊な疾患と外傷1 内容 CPAOA、ショック
- 第8回 項目 救急医療で見られる特殊な疾患と外傷2 内容 循環器、呼吸器疾患
- 第9回 項目 救急医療で見られる特殊な疾患と外傷に対する看護 内容 急性疾患、外傷等に対する看護の考え方と実際
- 第10回 項目 災害医療の概要と特徴 内容 災害医療が展開される状況、災害医療における看護の役割
- 第11回 項目 救急患者への対応 救急医療をめぐる問題 内容 法律、倫理など
- 第12回 項目 救急患者への対応 救急医療をめぐる問題 内容 心肺蘇生法のプロトコール、救急処置と心肺蘇生法
- 第13回 項目 救急患者への対応 内容 心肺蘇生法のプロトコール、救急処置と心肺蘇生法の実際(演習)
- 第14回 項目 救急患者への対応 内容 心肺蘇生法のプロトコール、救急処置と心肺蘇生法の実際(演習)
- 第15回

成績評価方法(総合) 期末試験を主にする。レポート課題有り。

教科書・参考書 教科書：救急看護学, 山勢博彰ほか, 医学書院, 2006年 / 参考書：院内エマージェンシー, 山勢博彰, メヂカルフレンド, 2004年；急変・救急時看護スキル, 山勢博彰, 照林社, 2004年；救急看護論, 山勢博彰, ニューヴェルヒロカワ, 2005年

開設科目	老年疾病学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	野垣宏				

授業の概要 老化とは何か、および加齢による臓器・器官の形態学的、生理学的、生化学的变化について概説し、老年患者のアセスメントおよび老年者に多くみられる疾病の病態・治療・予後等について教授する。/ 検索キーワード 老化、老年症候群、老年病

授業の一般目標 老化とは、老年者の特徴、老年症候群、主な老年病について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 老化、老年者の特徴、主な老年病の病態を説明できる。

授業の計画（全体） 老化、老年症候群、老年病について、医学的立場から解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 老化とは 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 2 回 項目 老年病・老年症候群 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 3 回 項目 老年者のアセスメント 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 4 回 項目 脳血管障害 1 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 5 回 項目 脳血管障害 2 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 6 回 項目 老年者の難病 1 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 7 回 項目 老年者の難病 2 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 8 回 項目 痴呆性疾患 1 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 9 回 項目 痴呆性疾患 2 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 10 回 項目 老年者の循環器・呼吸器疾患 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 11 回 項目 老年者の代謝・内分泌疾患、尿路疾患 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 12 回 項目 老年者の骨・関節・筋肉疾患 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 13 回 項目 老年者に好発するその他の疾患 授業記録 配付資料（プリント）
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 学期末試験で評価する。

教科書・参考書 教科書：プリント配付

メッセージ 遅刻厳禁

連絡先・オフィスアワー nogaki@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	在宅看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官					

授業の概要 1. 当授業では、在宅看護学の概念を学び、在宅療養者および家族の生きがいを見出す方法を系統的に学習する。2. 在宅療養者および家族の特性を理解し、健康や生活の維持・向上を図るとともに、支援する機能としての保健・医療・福祉の連携を図る方策を学ぶ。3. 看護の対象個々に応じた看護の展開、QOLの向上を目指した看護のあり方について考える機会とする。 / 検索キーワード 在宅看護学、在宅看護の現状、生きがい、QOL、継続看護、支援システム

授業の一般目標 1. 在宅看護が必要とされてきた社会的背景を理解し、その目的および看護の果たす役割について理解する。2. 地域で健康上の問題を持ちながら生活する療養者とその家族に対して、個人の生活を支え、生きがいのあるその人らしい生き方の実現を援助する看護の理論と実際を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 在宅看護を必要とする社会の変遷および在宅看護の目的・看護者の役割について説明できる。2. 地域ケア体制と在宅看護における連携の必要性について説明できる。

思考・判断の観点：1. 地域で生活する人々の健康上の問題とその対処方法を説明できる。2. 在宅看護の対象である療養者および家族のQOLの向上を支援するための方法を説明できる。 関心・意欲の観点： 広く国内外の在宅看護に関連する情報を意欲的に収集することができる。 態度の観点： 講義・演習などの時間において、看護者を目指す者としての責務と役割を認識した行動ができる。 技能・表現の観点： 1. エビデンスに基づき判断できる。2. 安全・安楽な技術を行うことができる。3. 在宅看護を行うに必要な看護の工夫ができる。

授業の計画(全体) 【全体】1. 適宜、演習やグループワークを取り入れながら授業を行います。2. 学生の皆さんが、在宅看護をイメージ化できるようにしたいと思います。【週単位】第1週：ガイダンス、在宅看護学総論(1) 第2週：在宅看護学総論(2)(3) 第3週：看護の対象者の理解と看護(1) 第4週：看護の対象者の理解と看護(2) 第5週：在宅看護の方法(1) 第6週：在宅看護の方法(2) 第7週：自立支援とQOLの向上を目指した在宅看護(1) 第8週：自立支援とQOLの向上を目指した在宅看護(2) 第9週：在宅高齢者の基本的な日常生活行動援助(1) 第10週：在宅高齢者の基本的な日常生活行動援助(2) 第11週：特殊な技術を伴う在宅看護(1) 第12週：特殊な技術を伴う在宅看護(2) 第13週：在宅看護の展開(1) 第14週：在宅看護の展開(2) 第15週：在宅看護の展望と課題、まとめ

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 ガイダンス、在宅看護学総論(1)
- 第2回 項目 在宅看護学総論(2)(3)
- 第3回 項目 看護の対象者の理解と看護(1)
- 第4回 項目 看護の対象者の理解と看護(2)
- 第5回 項目 在宅看護の方法(1)
- 第6回 項目 在宅看護の方法(2)
- 第7回 項目 自立支援とQOLの向上を目指した在宅看護(1)
- 第8回 項目 自立支援とQOLの向上を目指した在宅看護(2)
- 第9回 項目 在宅高齢者の基本的な日常生活行動援助(1)
- 第10回 項目 在宅高齢者の基本的な日常生活行動援助(2)
- 第11回 項目 特殊な技術を伴う在宅看護(1)
- 第12回 項目 特殊な技術を伴う在宅看護(2)
- 第13回 項目 在宅看護の展開(1)
- 第14回 項目 在宅看護の展開(2)
- 第15回 項目 在宅看護の展望と課題、まとめ

成績評価方法(総合)【全体】定期試験,演習,グループワークの経過・発表内容・取り組みなどを総合的に評価する。授業への出席回数が規定に満たない場合は,定期試験の受験資格を失う。【観点別】知識・技術・態度について,の観点から総合的に評価する。

教科書・参考書 教科書:新体系看護学第34巻 在宅看護論,村松静子,メヂカルフレンド社,2005年;高齢者ケア「疑問すっきり」便利事典、在宅編,阿部芳江責任編集,金芳堂,2006年;新クイックマスター在宅看護論改訂2版,高崎絹子他編集,医学芸術社,2005年;・教科書は適時紹介します。/参考書:適宜,プリントを配布します。

メッセージ 在宅看護を行うには,生活をしている人を知ることとともに,日常生活における生活体験を多くしておくことが大切です。

開設科目	保健統計学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山崎秀夫				

**授業の概要** 本授業は保健統計学であり、保健情報や看護研究を考えていく上で統計学を応用できることを目的とする。具体的には、必要な統計学の基礎知識を踏まえ、あるデータが得られた時にどのような統計が使えるか、また、その結果を読み取るにはどうしたらよいかを説明する。授業では、健康指標の説明から始まり、データの種類、統計の種類、統計における基礎的な指標、統計的推定、統計的検定、相関と回帰、等を説明する。疫学と共に、保健師国家試験に必須の科目である。/ 検索キーワード 人口統計、健康指標、二乗検定、t検定、ノンパラメトリックの検定、相関

**授業の一般目標** 1. 人口統計を理解する。2. 健康指標の概念を理解する。3. 統計学の基礎となる確率・分布理論を理解する。4. 測定データから適切な検定方法を使用する。5. 統計解析結果を考察する。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** 1. 人口統計を説明できる。2. 健康指標の概念を説明できる。3. 統計学の基礎となる確率・分布理論を説明できる。4. 測定データから選ぶべき適切な検定方法を説明できる。5. 統計解析結果を説明できる。  
**思考・判断の観点:** 国民保健統計を読み取り、考察出来る。測定データから適切な検定方法を類別できる。

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 保健統計と統計の基礎
- 第 2 回 項目 母集団と標本調査 内容 母集団と標本、無作為抽出法
- 第 3 回 項目 データとその表示方法 内容 データの分類、図表による表示方法
- 第 4 回 項目 代表値と散布度 内容 平均値、中央値、最頻値、分散、標準偏差、変動係数
- 第 5 回 項目 推定と検定の基礎 内容 推定とは、検定とは、統計学用いられる主な分布
- 第 6 回 項目 関係・関連の指標 内容 相関係数、回帰直線、順位相関係数
- 第 7 回 項目 検定と推定の基礎 1 内容 クロス表、カイ 2 乗検定
- 第 8 回 項目 検定と推定の基礎 2 内容 t 検定、F 検定
- 第 9 回 項目 検定と推定の基礎 3 内容 母相関係数、母割合、母平均値、ノンパラメトリック法
- 第 10 回 項目 検定と推定の実際 内容 国家試験問題を解く
- 第 11 回 項目 保健統計 1 内容 保健統計と健康指標
- 第 12 回 項目 保健統計 2 内容 人口静態統計と人口動態統計
- 第 13 回 項目 保健統計 3 内容 保健統計調査
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回 項目 試験

**成績評価方法 (総合)** 筆記試験、出席、授業内レポートで評価する。

**教科書・参考書** 教科書: 最新保健学講座 7 疫学 / 保健統計, 丸井英二(編), メヂカルフレンド社, 2004年



開設科目	成人看護学実習 I	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	4 単位	開設期	前期
担当教官	山勢博彰・本山仁美・鳩山淳子				

授業の概要 成人看護学 I 実習は、周手術期実習と重症集中ケア実習とがあり合計 4 単位の臨地実習を行う。周手術期は、病棟で一人の患者を受け持ち、術前・術中・術後をとおして看護過程の展開を行う。実習場所は、外科系病棟、手術室、術後 ICU で行う。また、重症集中ケア実習は、高度救急 救命センター、集中治療病棟で実施する。 / 検索キーワード 周手術期、臨地実習

授業の一般目標 1. 手術を必要とする患者とその家族の心理状態を理解する。 2. 患者の病態と手術療法を理解する。 3. 周手術期に必要な基本的な看護について理解し実践できる。 4. 手術後の身体機能やボディイメージの変化に対する看護を理解する。 5. 患者の持つ障害を評価し、QOL を高める生活機能の回復と社会復帰への援助を理解する。 6. 生命の危機状態にある患者と家族の状況と特徴を理解する。 7. 生命の危機状態にある患者に必要な看護の役割機能を認識し、基本的な援助を修得する。 8. 救急医療のシステムを理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 手術を必要とする患者とその家族の心理状態を述べるができる。 2. 受持患者の病態と手術療法が説明できる。 3. 周手術期に必要な基本的な看護について説明できる。 4. 手術後の身体機能やボディイメージの変化に対する看護を説明できる。 5. 生命の危機状態にある患者と家族の状況や特徴を述べるができる。 6. 生命の危機状態にある患者に必要な看護の役割機能を述べるができる。 7. 救急医療のシステムを述べるができる。 思考・判断の観点： 1. 受持患者を通して看護の対象を理解し、看護過程を用いて必要なケアが実践できる。 2. 患者の持つ障害を評価し、QOL を高める生活機能の回復と社会復帰への援助方法 が判断できる。 関心・意欲の観点： 1. 自分の立てた看護計画を教官、臨床指導者と討議できる。 2. 受持以外の患者ケアに関しても積極的に参加する。 態度の観点： 1. 看護を学ぶ学生として倫理観を持ち課題に取り組む姿勢を見せる。 2. 学生グループやナースと協調できる。 3. 患者に対し共感的態度で応えることができる。 技能・表現の観点： 1. 対象に応じた基本的看護ケアを実施できる。

成績評価方法 (総合) 看護過程、態度、ケア技術などについての実習評価基準を設け、教官、臨床指導者で総合評価する。なお、出席日数が所定の日数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 参考書：実習オリエンテーション時に参考文献一覧を配布する。

開設科目	成人看護学実習 II	区分	講義と演習	学年	3 年生
対象学生		単位	3 単位	開設期	前期
担当教官	東玲子、斉田菜穂子中尾富士子、江藤亜矢子				

授業の概要 成人期（青年期、壮年期、中年期）で、慢性期・終末期病態にある人々を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解し、看護の対象となる健康問題を明らかにし、その健康問題を解決するための知識、理論、技術及び態度を実習を通して習得する。慢性期看護では慢性期病態にある人々の生活をできるだけ普通に保ち、かつ QOL（Quality of Life）を高めるための援助に必要な知識と技術を習得する。終末期看護では、終末期病態にある人が全人的な痛み（身体的、精神的、社会的、霊的）が和らぎ、安寧な死が迎えられるように家族とともに援助する看護の知識、技術及び態度を習得する。 / 検索キーワード 成人看護学実習、慢性期実習、終末期実習

授業の一般目標 1. 慢性期・終末期病態にある成人期の人々とその家族を身体的・精神的・社会的側面から総合的に理解する。2. 患者及びその家族と有効な人間関係を成立させ、患者の健康問題を判断し、解決方法を計画し、実施、評価できる。3. 継続看護の必要性を理解し、社会復帰への援助方法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 慢性期・終末期病態にある成人期の人々の身体・心理・社会的特徴を説明できる。2. 患者に生じている機能障害出現のメカニズムと成り行きを説明できる。3. 患者やその家族を理解し、看護を行っていくために必要な諸理論を説明できる。4. 患者及び家族が活用可能な医療、保健、福祉サービスを説明できる。 思考・判断の観点： 1. 機能障害をもつ患者がいかなる健康問題および生活上の困難を抱えるかを説明できる。2. 機能障害をもった患者の健康問題を解決するための看護を根拠とともに説明できる。3. 慢性期・終末期看護で求められる看護師の能力について、自らの考えを記述・口述できる。 関心・意欲の観点： 病を持つ成人患者や家族の体験に関心を持つ。 態度の観点： 実習中の行動における自己客観性、責任性、協調性、共感性、規律性、積極性、慎重性、倫理性 \*いかなる場面においても、人権、生命の尊厳を尊ぶ態度がとれる。 \*人の死に直面している自分の情動反応を分析し、自己洞察できる。 技能・表現の観点： 看護技術の適切性・達成状況

授業の計画（全体） 既習の理論・知識、技術を統合して、成人期で慢性期・終末期病態にある人を理解し、患者の健康問題を明らかにし、それを解決するための方法を選択し、実施、評価する。実習は内科系病棟を使用し 3 週間継続して行う。1～2人の患者を担当して看護過程を展開する。また、担当患者の看護の他に検査時の看護、治療に伴う看護、継続看護への援助等を平行して行う。詳細は実習要項を参照

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 成人看護学 II ガ イダンス 内容 1. 成人看護学 II 実習の目的・目標・具体的な方法 2. 指定の記録用紙について 3. 実習に際しての心得 授業記録 実習中は看護過程の展開を指定の様式で記録する。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

## 第 15 回

成績評価方法 (総合) 1. 看護過程の展開状況と記録内容 70 % 2. 実習に臨む態度 (自己客観性、責任制、協調性、共感性、規律性、積極性、慎重性、倫理性) 30 % 3. 出席は欠格条件

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。 / 参考書：既習の全ての科目に関わる教科書・参考書を適宜活用して下さい。看護を展開する上で必要な理論書や機能障害のメカニズム等に関するものは必要に応じて求めて下さい。

メッセージ 実習中は日々のケアに向けて復習・予習が必要で、大変厳しい状況が続きますが、心身共に健やかな状態で実習に臨めますよう健康の自己管理を十分にして下さい。

連絡先・オフィスアワー 東玲子 (2813, azumar@yamaguchi-u.ac.), 齊田菜穂子 (2864 naho@yamaguchi-u.ac.jp)、中尾富士子 (2861, fu8nakao@yamaguchi-u.ac.jp) 江藤亜矢子 (2861, ayako@yamaguchi-u.ac.jp)  
オフィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。

開設科目	精神看護学実習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山根俊恵				

授業の概要 臨床の場において、精神障害や心の健康問題を抱える人とかかわり、その人が自分らしく生きる、あるいは生活できる為の問題解決方法を当事者ととも考える援助技術を修得する。また退院後の地域生活を支援するための看護師の役割について学習を深める。大学病院および外部の精神科病院において、病院実習を行う。実習は1人に1名の患者を受け持ち、看護を展開する。 / 検索キーワード 精神科看護 精神看護 看護学実習 精神看護学実習

授業の一般目標 1. 患者の抱える精神保健上の問題について、身体面・精神面・社会面から理解する。 2. 精神を病む人との関わりを通して、その人を理解する技術(コミュニケーション、接近技法)を学ぶ。 3. 患者の抱える問題や持っている力について、アセスメントする援助技術を学ぶ。 4. 精神障がい者を地域で支えるための制度や施策、社会資源などについて理解を深め、精神障がい者がその人らしく生活するために何が必要なのかを考えることが出来る。 5. 看護師としての自己を成長させるために自己の言動を振り返り、自己開発のための洞察を試みる。(プロセスレコード)

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：精神的な病についての理解を深める 精神的な病を持つ人のニーズを理解する 精神障害の特性を理解する 既習の知識について実習を通じて理解を深める 適切な看護ケアの方法について身につける 思考・判断の観点：病を持つ人のニーズを把握し、適切な援助を考え、実行する 精神的な状態がその人の日常生活に及ぼす影響について考える 患者を取り巻く環境について考える 関心・意欲の観点：精神的な病を持つ人のニーズやケア、その人を取り巻く環境について関心をもつ 日常生活における問題、困難などについて関心を持つ 態度の観点：病を持つ人を一人の人間として尊重し、適切な態度で接することができる 学生の考えを述べることができ、他の人の話や意見を聞くことができる 積極的に実習に望み、疑問点や問題点を解消できる 技能・表現の観点：自分の考えや意見を述べるができる

授業の計画(全体) 大学病院、その他の精神科病院での実習および学内演習をおこなう

成績評価方法(総合) 実習評価表、実習記録により評価する 実習態度や実習内容を重視する 臨地実習につき、欠席は原則として認めない

連絡先・オフィスアワー miyu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	母性看護学実習	区分	講義と演習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	田中満由美・戸部郁代・田中奈美・山元公美子				

授業の概要 妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期にある対象者、およびそれらを取り巻く家族を理解し、対象者の援助に必要な母性看護学としての知識・技術・態度を看護過程の展開を通して教授する。 / 検索キーワード 妊娠、分娩、産褥、胎児・新生児、看護過程、看護援助、看護技術

授業の一般目標 1. 母性看護学の対象者である妊婦・産婦・褥婦および新生児の健康状態をアセスメントするために必要な知識や技術を習得することができる。 2. 対象者の健康を保持・増進させるための看護展開(計画・立案、実践、看護評価)を習得することができる。 3. 健康から逸脱している場合は、その要因になっているものを追求でき、健康逸脱からの回復のための看護展開(計画・立案、実践、看護評価)を習得することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 妊婦の健康診査の目的と方法を説明することができる。 2. 正常妊娠経過および生理的・心理発達変化を説明できる。 3. 妊婦、胎児に必要な検査の種類・目的・方法を説明できる。 4. 胎児の発育と健康状態を把握する方法を説明できる。 5. 妊娠各期に必要な保健指導、生活援助方法を説明できる。 6. 妊娠による生理的变化とマイナートラブルの関連を説明できる。 7. マイナートラブルを解決するための援助方法を説明できる。 8. 妊娠各期に起こりうる異常の早期発見、治療法、援助方法について説明できる。 9. 陣痛発来と分娩機転、分娩による生理的变化を説明できる。 10. 分娩各期における保健指導、援助方法を説明できる。 11. 分娩直後の褥婦の生理的特徴を説明できる。 12. 出生直後の新生児の生理的特徴を説明できる。 13. 出生直後の新生児の診察技法、新生児の胎外生活適応への援助方法を説明できる。 14. 分娩各期に起こりうる異常とそれに対する援助方法を説明できる。 15. 産褥期における生理的变化を説明できる。 16. 産褥期における心理発達の変化・社会的変化を説明できる。 17. 褥婦に必要な保健指導、生活援助方法を説明できる。 18. 早期新生児の生理的变化を説明できる。 19. 新生児看護の原則を説明できる。 20. 産褥期におこりうる異常の早期発見とその対処方法を説明できる。 21. 新生児期に起こりうる異常の早期発見とその対処方法を説明できる。 思考・判断の観点: 1. 対象者の妊娠週数における正常な母体の変化と順調な胎児の発育がアセスメントできる。 2. 妊婦の日常生活適応とセルフケア能力をアセスメントできる。 3. 胎児の健康状態をアセスメントできる。 4. 集団指導として母親学級を、個別指導として助産師外来を見学し、対象者の学習効果を説明できる。 5. 分娩の順調な進行と産婦のセルフケア能力をアセスメントすることができる。 6. 胎児管理の目的を理解し、産婦および胎児の健康状態をアセスメントしてそれに対する援助方法を説明できる。 7. 褥婦の退行性変化および進行性変化の経過をアセスメントできる。 8. 褥婦の産褥経過に応じたセルフケア能力をアセスメントできる。 9. 母子(父子)愛着行動、母親の養育・育児能力をアセスメントできる。 10. 新しい家族(新生児)を迎える家族の関係をアセスメントできる。 11. 新生児の胎外生活適応の状態をアセスメントできる。 12. 対象者の理解、アセスメント、看護計画の立案・計画、看護実践、看護評価の一連の過程を科学的根拠にそって展開できる。 関心・意欲の観点: 1. 実習開始前に援助技術能力を自己評価し、不足部分は自己学習によって能力を向上できる。 2. 実習中における自己の健康管理を怠らない。 態度の観点: 1. 欠席や遅刻を一度もしない。 2. 指示された内容(対象者の秘密)を守ることができる。 3. 対象者に危害を加えたり、不快感を与えたりすることがない。 4. グループ、チーム内で協調行動がとれる。 5. 他人の意見を尊重して傾聴できる。 6. 責任感のある行動を取ることができる。 7. 自分の意見を簡潔に伝達・報告することができる。 8. 何事も積極的、意欲的に取り組むことができる。 9. 正しい言葉使いで会話することができる。 10. 身だしなみは母性看護学実習に適切なものである。 11. 対象者、指導者および関係者と円滑なコミュニケーションがとれる。 技能・表現の観点: 1. 妊婦看護に必要な情報(心理発達・社会経済的背景、日常生活背景)を、視診、触診、聴診、計測診などの基本的看護技術を適用して収集することができる(腹囲・子宮底長、浮腫、尿検査、胎児の健康、心理的適応、親への発達、家族役割の変更など)。 2. 妊婦に必要な保健指導や生活援助方法を実施できる。 3. 分娩各期の産痛緩和のための援助・指導ができる。 4. 分娩各期における産婦の心理的援助ができる。 5. 分娩各期における日常生活援助ができる。 6. 復古現象を促進させるための援助が実践できる(外陰部

観察、子宮状態の観察、悪露 交換、外陰部の清潔、産褥体操)、7. 母乳栄養を確立させるための援助が実践できる(乳房観察、泌乳ケア、乳房ケア、授乳援助)、8. 親子関係確立への援助ができる(母子・父子・家族との相互作用の観察、親密機会の援助、関係確立の援助、家族関係調整の援助)、9. 育児技術習得のための援助・指導ができる。10. 退院後の生活支援・指導ができる。11. 新生児の全身の観察、胎外生活への移行観察ができる。12. 新生児の日常生活援助(沐浴、栄養、衣服の着脱、おむつ交換、抱っこ、愛護、感染防止、事故防止)が安全・安楽に実施できる。13. カンファレンスにおいて自分が実践した対象に対する看護の内容および看護評価を簡潔に発表することができる。

授業の計画(全体) 実習は「臨地実習配置表」に基づき4月15日から7月25日までの2週間を実習期間とし、産婦人科外来、産婦人科病棟において実習する。詳細については母性看護学実習オリエンテーションにおいて説明する。[実習内容] 1) 妊婦を受け持ち、妊娠期の看護を展開する。(於:産婦人科外来) (1) 妊婦健康診査を通して妊婦(胎児)の身体的、心理・社会的背景をアセスメントする。(2) 対象者に必要な保健指導・看護援助を実践する。(3) 集団指導として母親学級、個別指導として助産師外来の見学を行なう。2) 産婦を受け持ち、分娩期の看護を展開する。(於:産婦人科病棟) (1) 分娩進行に応じた産婦の生活援助、産痛緩和、心理的援助を実践する。(2) 分娩進行過程を見学し、援助方法を学習する。3) 褥婦および新生児を受け持ち、看護過程にそって援助を実践する。(於:産婦人科病棟) (1) 退行性変化の状態をアセスメントし、復古現象の促進にむけての援助を実践する。(2) 進行性変化の状態をアセスメントし、母乳栄養の確立に向けて援助を実践する。(3) 褥婦の生活適応能力をアセスメントし、適応促進にむけての援助を実践する。(4) 母子(親子)関係の確立状態をアセスメントし、関係成立にむけての援助を実践する。(5) 母親の養育・育児技術習得にむけての援助を実践する。(6) 新生児の胎外生活適応状態をアセスメントし、適応を促進させるための日常生活援助を実践する。4) 正常新生児の看護を見学する (1) 新生児看護の原則である呼吸の助成、愛護、保温、感染予防、栄養、異常の早期発見、保健指導、親子相互関係の発達の促進が実践の場でどのように展開されているかを学習する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 内容 妊婦実習1週間と産婦・褥婦・新生児実習1週間の計2週間になります。詳細は実習要項を参照すること
- 第2回
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) 1) 実習は、全日出席によって評価を行なう。従って、指定された日程での実習を行わない場合は必要とする分の補習実習を実施しなければ単位は修得できない。2) 下記の演習は、実習のことである。3) 妊婦看護を1単位 産褥婦・新生児の看護を1単位として評価する。

教科書・参考書 教科書: 看護過程にそったポケットダブル・マニュアル母性看護, 嶋崎千壽他, 医歯薬出版株式会社, 2002年/ 参考書: 看護観察キーワードシリーズ母性I 妊婦/産婦, 宮崎和子監修, 前原

澄子編集, 中央法規出版, 2000 年 ; 看護観察キーポイントシリーズ母性 II 褥婦 / 新生児 / 婦人科疾患, 宮崎和子監修, 前原澄子編集, 中央法規出版, 2000 年 ; 臨床看護技術 (母性・小児編)-その手順の根拠-, 内山和美・小野正子, メヂカルフレンド社, 2007 年

メッセージ \* 授業にて、学習したことは、実習前に必ず事前学習・復習をして出席して ください。 \* 実習オリエンテーションには必ず出席すること。 \* 連絡および相談事項が生じた場合はできるだけ早期に行なうこと。

連絡先・オフィスアワー 田中満由美:0836-22-3821 戸部郁代 : 0836-22-2825 田中奈美 : 0836-22-2819 山元公美子 : 0836-22-2819

開設科目	看護研究概論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	正村啓子				

授業の概要 看護における研究の意義、看護研究の課題、研究過程と方法について概説する。更に 研究過程における文献検索の方法、看護に関連する研究論文の検討と活用、研究計画等の演習を行う。 / 検索キーワード 看護研究、概論、研究デザイン、研究計画書、Small Group Learning

授業の一般目標 看護研究における基礎を理解し、興味を持って看護問題に研究的に取り組む姿勢を培うとともに、看護研究における自己の興味を探る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1) 学問とは・研究とは・科学とはについて、その連関をおさえて説明できる。 2) 「看護研究とは何か」を理解し、その特長を説明できる。 3) 研究のプロセス、文献検索・検討、研究デザイン、研究計画書について基本的事項について説明できる。 4) 看護研究における倫理性について説明できる。 思考・判断の観点： 1) 代表的な研究デザインを用いた研究論文を読み比較検討し、その特長を説明できる。 関心・意欲の観点： 1) 自己の興味ある看護研究のテーマを探り、文献を読み、研究計画書の作成を試みる。 態度の観点： 1) 看護研究の基礎的知識の学習、自己の研究テーマの設定、研究計画書作成に主体的に取り組むことができる。 技能・表現の観点： 1) Small Group Learning (S.G.L.) において、効果的に Presentation ができる。 2) 研究計画書をわかりやすく表現できる。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 研究の芽、創造する喜び 2.Small Group Learning (1) 内容 1. 素数の話し 2. 科学と遊び 3. 独創がうまれない 4. 「理想の看護を見つめる目」と「現実の看護を見つめる目」 5.Small Group Learning について 6. グループ編成 7. 教科目の学習目標の理解 8. 担当した単元の一般目標・到達目標の設定 授業外指示 1. 担当した単元の一般目標・到達目標を設定し、4/15 迄に提出する。 授業記録 1. 資料 2. グループ討議
- 第 2 回 項目 3.Small Group Learning (2) 内容 1.S.G.L. の成果のまとめ方、発表の準備、発表の仕方について 2.. 担当単元について、学習目標を確認し、グループワークし成果をまとめる。 3. 発表の準備をする 4. 学習日程の確認 授業外指示 1. 担当した単元について、自主学習し、成果をまとめ、5/24 迄に提出する (期限厳守: 小冊子作成のため) 2. その後、発表の準備をしておく。 3. 次回発表内容を予習し、疑問点を明確にしておく。 授業記録 資料 5/25 小冊子作成し配布
- 第 3 回 項目 4. 発表 (1) 内容 1. 学問とは・研究とは・科学とは・看護研究とは.....1G 2. 研究のプロセス.....2G,3G 3. 質疑応答 4. 今日のポイント (講義) 授業外指示 1. 次回発表グループは、発表の準備 2. 次回発表内容を予習しておく。 授業記録 資料 OHP または OHC, パワーポイント
- 第 4 回 項目 5. 発表 (2) 内容 1. 文献検索・検討.....4G 2. 研究デザイン.....5G,6G 3. 今日のポイント (講義) 授業外指示 同上 授業記録 同上
- 第 5 回 項目 6. 発表 (3) 内容 1. 研究計画書.....7G,8G 2. 研究成果のまとめ方と実践への活用...9G 3. 今日のポイント (講義) 授業外指示 同上 授業記録 同上
- 第 6 回 項目 6. 発表 (4) 内容 1. 看護研究の現状と課題...10G 2. 看護研究における倫理性 ...11G,12G 3. 今日のポイント (講義) 授業外指示 同上 授業記録 同上
- 第 7 回 項目 7. 代表的な研究デザインの比較検討 内容 1.13G の計画により進行。 2. 今日のポイント (講義) 授業外指示 同上 授業記録 同上
- 第 8 回 項目 8. 作成した研究計画書の検討 9. まとめ 内容 1.14G の計画により進行。 2. 今日のポイント (講義) 授業外指示 研究計画書を作成し提出...期限は別途指示する 授業記録 同上
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回



第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法 (総合) 筆記試験は実施せず、研究計画書を評価の対象とする。詳細は下記の通りです。

教科書・参考書 教科書：看護学大系 10「看護における研究」, 井上幸子, 日本看護協会出版会 / 参考書：  
看護研究：原理と方法, ”D. F. ポーリット, B. P. ハングラー著；押尾祥子 [ほか] 訳”, 医学書院, 1994  
年；参考図書：看護研究 原理と方法, D.F. ポーリット、 B.P. ハングラー, 医学書院

連絡先・オフィスアワー e-mail adress:masamura@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：医学部保健学科,3 階

開設科目	疫学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	岩本美江子				

授業の概要 疫学とは人間集団を対象にして人間の健康およびその異常を宿主、病因、環境の各面から包括的に研究し、その増進と予防を図る学問である。人間集団における健康障害の頻度と分布を研究し、そしてそのような分布が生じる原因を統計学的手法を用いて究明する事を説明する。2年後期で学んだ保健学、3年前期で学んだ保健統計学を理解していることを前提として進める。保健師国家試験の必須科目となっている。 / 検索キーワード 健康事象、測定指標、疫学調査法、スクリーニング、感染症

授業の一般目標 (1) 疫学の定義と方法論を理解する。(2) 多様な研究デザインの利点と欠点を理解する。(3) 基礎的な疫学的尺度を理解する。(3) 疾病発生のパターンを理解する。(4) サーベイランスを理解する。(5) 疾患の集団発生を理解する。(6) スクリーニングを理解する。(7) コホート研究を理解する。(8) ケース・コントロール研究を理解する。(9) 実験型研究、介入研究を理解する (10) 因果関係を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： (1) 疫学の定義と方法論を説明できる。(2) 多様な研究デザインの利点と欠点を説明できる。(3) 基礎的な疫学的尺度を説明できる。(3) 疾病発生のパターンを説明できる。(4) サーベイランスを説明できる。(5) 疾患の集団発生を説明できる。(6) スクリーニングを説明できる。(7) コホート研究を説明できる。(8) ケース・コントロール研究を説明できる。(9) 実験型研究、介入研究を説明できる。(10) 因果関係を説明できる。 思考・判断の観点： 授業で取り上げた各領域について、自分の意見を論理的に述べる事が出来る。 関心・意欲の観点： 問題意識を高める事が出来る。

授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス
- 第 2 回 項目 疫学入門
- 第 3 回 項目 疫学的尺度
- 第 4 回 項目 疫学発生のパターン
- 第 5 回 項目 サーベイランス
- 第 6 回 項目 疾患の集団発生
- 第 7 回 項目 診断学的検査
- 第 8 回 項目 臨床試験
- 第 9 回 項目 コホート研究
- 第 10 回 項目 ケース・コントロール研究
- 第 11 回 項目 実験研究、介入研究
- 第 12 回 項目 バラツキとバイアス
- 第 13 回 項目 疫学の重要問題
- 第 14 回 項目 疫学文献の読み方
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法 (総合) 筆記試験、出席状況等で評価する。

教科書・参考書 教科書： 疫学 / 保健統計, 丸井英二, メヂカルフレンド社, 2004年

開設科目	老年看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官					

授業の概要 当授業では、老年看護学の概念および基本となる理論について教授するとともに、既習学習の統合を行い、高齢者の QOL の向上を目指した看護の継続、保健・医療・福祉の連携および支援システムについて教授する。その上で、老年看護学の目的・目標、看護師の責務と役割および看護の方法を教授し、高齢者に対する看護の展開ができる力を育成することを目的とする。 / 検索キーワード 老年看護学、高齢社会の現状、看護の継続、保健・医療・福祉の連携、高齢者の QOL、生きがい

授業の一般目標 1. 看護の対象である高齢者および家族の特性を、身体的、精神・心理的、社会的側面から理解し、看護の展開に必要な基礎的知識および技術を習得する。 2. 国内外における高齢社会の現状および課題、高齢者施策の動向を理解し、高齢者の QOL ( Quality of Life : 生命の質、生活の質、人生の質) を向上させる看護者の役割を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 老年看護学の概念および看護の目的、看護職の果たす役割について説明できる。 2. 老化に伴う高齢者の身体的、精神・心理的、社会的側面の変化を説明できる。 3. 看護を行う上で必要な、看護の継続、支援システムに果たす役割を説明できる。 思考・判断の観点： 1. 病院・施設、在宅等、様々な場所で生活する高齢者に対し、QOL 向上のために必要な生活上の支援方法について説明できる。 2. エビデンスに基づく思考ができる。 関心・意欲の観点： 国内外における高齢者の置かれている現状および看護を行う上で必要な情報を意欲的に得ることができる。 態度の観点： 専門職を目指す者としての責務・役割を認識した行動ができる。 技能・表現の観点： 1. 高齢者の多面的な理解ができる。 2. 高齢者のアセスメントが適切にできる。 3. 安全・安楽な援助技術ができる。 その他の観点： 演習やグループワークにおいては、課題の達成のためにグループの一員として力を発揮し協力することができる。

授業の計画(全体) 【全体】高齢社会の現状および高齢者の看護について、講義や演習を行います。学生の皆さんが、関心を持って学習ができるようにしていきたいと思います。【週単位】第1週：老年看護学を学ぶに当たってのガイダンス、老年看護学概論(1) 第2週：老年看護学概論(2) 第3週：老年看護学概論(3) 第4週：老年看護学概論(4) 第5週：老年看護学概論(5) 第6週：老年看護学概論(6) 第7週：高齢者の包括的アセスメント(1) 第8週：高齢者の包括的アセスメント(2) 第9週：高齢者の包括的アセスメント(3) 第10週：高齢者の包括的アセスメント(4) 第11週：老年看護学の基本と援助の方法(1) 第12週：老年看護学の基本と援助の方法(2) 第13週：老年看護学の基本と援助の方法(3) 第14週：老年看護学の基本と援助の方法(4) 第15週：老年看護学の基本と援助の方法(5) 第16週：健康障害を持つ高齢者の理解と看護(1) 第17週：健康障害を持つ高齢者の理解と看護(2) 第18週：健康障害を持つ高齢者の理解と看護(3) 第19週：健康障害を持つ高齢者の理解と看護(4) 第20週：健康障害を持つ高齢者の理解と看護(5) 第21週：健康障害を持つ高齢者の理解と看護(6) 第22週：健康障害を持つ高齢者の理解と看護(7) 第23週：高齢者の看護過程と事例展開(1) 第24週：高齢者の看護過程と事例展開(2) 第25週：高齢者の看護過程と事例展開(3) 第26週：高齢者の看護過程と事例展開(4) 第27週：高齢者の看護過程と事例展開(5) 第28週：老年看護学の展望と課題、まとめ(1) 第29週：老年看護学の展望と課題、まとめ(2) 第30週：老年看護学の展望と課題、まとめ(3)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 老年看護学：ガイダンス、老年看護学概論(1)
- 第2回 項目 老年看護学概論(2)
- 第3回 項目 老年看護学概論(3)
- 第4回 項目 老年看護学概論(4)
- 第5回 項目 老年看護学概論(5)
- 第6回 項目 老年看護学概論(6)
- 第7回 項目 高齢者の包括的アセスメント(1)

- 第 8 回 項目 高齢者の包括的アセスメント (2)
- 第 9 回 項目 高齢者の包括的アセスメント (3)
- 第 10 回 項目 高齢者の包括的アセスメント (4)
- 第 11 回 項目 老年看護学の基本と援助の方法 (1)
- 第 12 回 項目 老年看護学の基本と援助の方法 (2)
- 第 13 回 項目 老年看護学の基本と援助の方法 (3)
- 第 14 回 項目 老年看護学の基本と援助の方法 (4)
- 第 15 回 項目 老年看護学の基本と援助の方法 (5)
- 第 16 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (1)
- 第 17 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (2)
- 第 18 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (3)
- 第 19 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (4)
- 第 20 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (5)
- 第 21 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (6)
- 第 22 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (7)
- 第 23 回 項目 高齢者の看護課程と事例展開 (1)
- 第 24 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (2)
- 第 25 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (3)
- 第 26 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (4)
- 第 27 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (5)
- 第 28 回 項目 老年看護学の展望と課題、まとめ (1)
- 第 29 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (2)
- 第 30 回 項目 健康障害を持つ高齢者の理解と看護 (3)

成績評価方法 (総合) 【全体】定期試験, 授業内レポート, 演習, 授業に取り組む姿勢, 参加度などを総合的に評価します。授業への出席は規定に満たないと定期試験の受験資格を失いますので注意して下さい。【観点別】知識, 技術, 講義や演習, グループワークなどに臨む態度などの面から, 評価を行います。

教科書・参考書 教科書: 実践に生かす看護理論 19, 城ヶ端初子編著, 医学芸術社, 2007 年; 高齢者ケア「疑問すっきり」便利事典, 阿部芳江編集, 金芳堂, 2007 年; 老年看護学 I, 奥野茂代他編, ヌーベルヒロカワ, 2007 年; 老年看護学 II, 奥野茂代他編, ヌーベルヒロカワ, 2007 年; ・教科書については, 適宜紹介します。・適時, プリントを配布します。/ 参考書: 看護のための最新医学講座第 17 巻老人の医療, 日野原重明他, 中山書店, 2005 年; 看護・介護のための基本から学ぶ高齢者ケア, 生野繁子他, 金芳堂, 2006 年; 新体系看護学第 26 巻 老年看護概論, 鎌田ケイ子他, メジカルフレンド社, 2006 年; 新体系看護学第 27 巻 健康障害を持つ高齢者の看護, 鎌田ケイ子他, メジカルフレンド社, 2006 年; ・参考書は適時紹介します。

メッセージ 高齢社会の現状や高齢者に関する様々な情報が連日ニュースや新聞などでも報道されています。学生の皆さんもこれらの報道を日頃から意識して見るようにして下さい。

連絡先・オフィスアワー 阿部研究室: TEL/FAX: 0836-22-2818 mail: yoshiea@yamaguchi-u.ac.jp  
 オフィスアワー: 随時: 先に連絡をいただくとより確実です。

開設科目	小児疾病学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	辻野久美子・村上京子・飯野英親				

授業の概要 小児は新生児期から思春期に至るまで常に身体的、精神的に発育・発達し続ける個体である。従って、小児医療を実践する際には、常に発育・発達を念頭に置いたきめ細やかな配慮が要求される。小児は出生から成人に至るまでに、種々の疾病に罹患し、それらは小児の発達段階に応じた特色をもつ。本講義では小児疾病の特性について学ぶ。 / 検索キーワード 小児、成長・発達、小児疾病

授業の一般目標 1. 小児の成長・発達の特性を理解する。 2. 小児に特有な疾病の概念、診断、検査法、治療法を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：小児の成長・発達の特徴を説明できる。小児疾患の病態生理を説明できる。小児に特有な疾患の概念・原因・症状・検査・診断・治療を説明できる。小児疾病の予防方法を説明できる。現場で用いられる医療英語を理解できる。 思考・判断の観点：小児の発達段階に応じた視点で、小児疾病を考えることができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 新生児疾患
- 第 2 回 項目 遺伝性疾患, 染色体異常, 奇形
- 第 3 回 項目 先天代謝異常, 代謝疾患
- 第 4 回 項目 内分泌疾患
- 第 5 回 項目 免疫疾患
- 第 6 回 項目 アレルギー疾患, 膠原病および類縁疾患
- 第 7 回 項目 感染症
- 第 8 回 項目 呼吸器疾患
- 第 9 回 項目 循環器疾患
- 第 10 回 項目 消化器疾患
- 第 11 回 項目 血液・造血器疾患
- 第 12 回 項目 腎泌尿・生殖器疾患
- 第 13 回 項目 神経疾患
- 第 14 回 項目 神経・筋疾患, 精神疾患・心身医学的問題
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) レポート、試験、出席率などによる (単位認定の最低条件: 総授業数の 2/3 以上の出席およびレポート提出)

教科書・参考書 教科書: ナースとコメディカルのための小児科学, 白木和夫, 高田哲編集, 日本小児医事出版社

開設科目	保健管理学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	守田孝恵・山崎秀夫・高橋郁子・檀原三七子・小野順子				

授業の概要 地域の保健管理、つまり地域の人々の健康づくり・健康管理・疾病予防等が、地域において実際にどのように行われているのかを解説し、演習を行う。また、この科目は、地域看護学総論と連動させながら進める。/ 検索キーワード 地域保健、健康、生活、公衆衛生、ヘルスプロモーション、住民参加、地域診断、地域保健計画

授業の一般目標 1. 健康づくりの基本的な考え方が理解できる。 2. 地域保健計画や住民参加の意義について学ぶ。 3. 地域看護における対象別看護の展開が理解できる。 4. 地域看護の方法の一部を演習で体験し学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地域看護における対象別看護の展開の実際をイメージできる。

思考・判断の観点： 地域の保健活動の実践事例から、保健管理（保健計画と実践、評価）のあり方を考えることができる。 関心・意欲の観点： 主体的に学習する。 態度の観点： 課題について、主体的に情報を収集する。 技能・表現の観点： 地域の保健活動の方法や技術（家庭訪問・健康教育・グループ支援）を理解し、健康教育については実施できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地域における保健管理の考え方
- 第 2 回 項目 地域保健のキーワード
- 第 3 回 項目 地域診断と保健師活動
- 第 4 回 項目 地域診断と保健師活動
- 第 5 回 項目 健康管理
- 第 6 回 項目 保健活動演習
- 第 7 回 項目 保健活動演習
- 第 8 回 項目 学校保健
- 第 9 回 項目 学校保健
- 第 10 回 項目 学校保健
- 第 11 回 項目 学校保健
- 第 12 回 項目 保健活動演習
- 第 13 回 項目 地域保健活動の評価
- 第 14 回 項目 地域保健活動の評価
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 試験・演習・講義出席

教科書・参考書 教科書：改訂第2版地域看護学.jp, 荒賀直子、後閑容子編, インターメディカル, 2007年；  
国民衛生の動向, 厚生衛生協会, 2008年

メッセージ 教科書は地域看護学総論と共通で使用する。

開設科目	助産学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田中満由美・戸部郁代・田中奈美				

授業の概要 (1) 助産学における基本的概念、基盤となる理論、助産師の責務と役割について教授する。(2) 助産業務の展開に必要な性・生殖系の仕組みについて教授する。(3) ライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける母性・父性の心理について教授する。(4) 助産実践に必要な文化的要因、家族および家族関係について教授する。(5) 助産所の運営および助産業務の管理に必要な基本的能力を養う。 / 検索キーワード 助産概論、母性・父性の心理、助産社会学、助産管理

授業の一般目標 (1) 助産学における基本的概念、基盤となる理論、助産師の責務と役割について理解する。(2) 助産業務の展開に必要な性・生殖系の仕組みについて理解する。(3) ライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける母性・父性の心理について理解する。(4) 助産実践に必要な文化的要因、家族および家族関係について理解する。(5) 助産所の運営および助産業務の管理に必要な基本的能力を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 助産学における基本的概念、基盤となる理論、助産師の責務と役割について説明できる。(2) 助産業務の展開に必要な性・生殖系の仕組みについて説明できる。(3) ライフサイクルおよびマタニティサイクルにおける母性・父性の心理について説明できる。(4) 助産実践に必要な文化的要因、家族および家族関係について説明できる。(5) 助産所の運営および助産業務の管理に必要な基本的法律の条文について説明できる。 思考・判断の観点：物事をクリティカルに考えることができ、エビデンスに基づき判断できる。 関心・意欲の観点：看護に必要な社会の情勢に関する新しい情報を得ることができる。 態度の観点：専門職としての責任、役割を認識し、キャリア形成の基盤をつくることのできる。 専門職としての職業アイデンティティの形成ができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1. 妊娠の成立 2. 妊娠に伴う母体の変化(胎児胎盤系、ホルモン、羊水)
- 第 2 回 項目 3.4. 助産の基本的概念
- 第 3 回 項目 5. 助産・母子保健の変遷 6. 母子保健の動向と諸制度
- 第 4 回 項目 7. セクシャリティ 8. リプロダクティブヘルス/ライツ
- 第 5 回 項目 9. 助産師の職性と業務(職業倫理を含む) 10. 助産師の現状と将来展望・諸外国の助産師活動
- 第 6 回 項目 11. 思春期におけるホルモンの変化とおもな疾患 12. 更年期・老年期におけるホルモンの変化とおもな疾患
- 第 7 回 項目 13. ライフサイクル各期の母性・父性 14. マタニティサイクルにおける母性・父性
- 第 8 回 項目 15. 母子・父子関係の形成過程 16. 母性・父性の諸問題
- 第 9 回 項目 17. ライフサイクル各期における家族の発達と役割 18. 妊娠・出産・育児に伴う家族の役割と関係
- 第 10 回 項目 19. 性の社会・文化的側面と倫理 20. 近代家族が抱える諸問題
- 第 11 回 項目 21.22. 助産師と教育・研究
- 第 12 回 項目 23. 助産業務と管理 24. 助産業務と社会保障制度
- 第 13 回 項目 25. 業務管理の実際 - 助産所・施設 26. 助産業務と関連法規
- 第 14 回 項目 27. 医療事故と助産師の業務責任 28. トピックス
- 第 15 回 項目 期末テスト

教科書・参考書 教科書：助産学大系, 日本看護協会出版会, 2002年; 助産学大系 1~12, 青木康子他, 日本看護協会出版会, 2007年 / 参考書：母性の心理社会的側面と看護ケア, 新道幸恵, 和田サヨ子著, 医学書院, 1990年; 国民衛生の動向(厚生指標臨時増刊), 厚生統計協会編, 厚生統計協会; (1) 母性の心理社会的側面と看護ケア, 新道幸恵他, 医学書院 (2) 国民衛生の動向 (3) 助産婦業務要覧, 青木康子他, 日本看護協会出版会

メッセージ 助産コースを選択した人のみ履修可能 毎回プリントを配布します。

連絡先・オフィスアワー 田中満由美：E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2821、オフィスアワー金曜日 10:00～14:00 戸部郁代：E-mail tobegon@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2825 田中奈美：22-2819 山元公美子：22-2819



開設科目	助産技術学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	3単位	開設期	後期
担当教官	田中満由美、戸部郁代、田中奈美、山元公美子				

授業の概要 助産師として必要な診断学と基本的な助産技術(分娩介助、乳房マッサージ、助産計画、モニター判読、保健指導の技術、異常時における第一次救急医療への対応技術、新生児蘇生術、異常分娩介補、避妊法の指導)を教授する。/検索キーワード 妊娠の診断、分娩介助、乳房マッサージ、助産計画、モニター判読、新生児蘇生術、異常分娩介補、受胎調節

授業の一般目標 (1)助産師が行う妊産婦、褥婦、新生児の助産診断を行う上で、その基礎となる診断能力を習得する。(2)助産の実践に必要な基本的技術が習得できる。

授業の到達目標/知識・理解の観点:(1)妊娠の診断に必要な項目が説明できる。(2)正常な分娩の原理・経過が説明できる。(3)分娩経過の予測が説明できる。(4)分娩時間の予測が説明できる。(3)正常な産褥の経過が説明できる。(4)正常な新生児の経過が説明できる。思考・判断の観点:妊娠・分娩・産褥・新生児期にある対象の助産診断ができる。関心・意欲の観点:助産診断・助産技術に関心を持ち、他者とディスカッションする。助産診断・助産技術に関心を持ち、関連文献に興味を持つ。積極的に課題に取り組む。態度の観点:積極的に分娩介助術の練習、乳房マッサージの練習、骨盤位牽出術の練習を行う。技能・表現の観点:妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象の助産診断ができる。対象にあった助産過程の展開ができる。分娩介助ができる。骨盤位牽出術ができる。異常分娩の介補ができる。乳房マッサージができる。乳房自己マッサージの指導ができる。健康教育(母親学級・家庭訪問)の企画運営ができる。避妊法の指導ができる。新生児蘇生ができる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 1.助産診断 2.妊娠の診断 3.妊娠期の診断 - 妊娠初期
- 第2回 項目 4.妊娠期の診断 - 妊娠中期 5.妊娠期の診断 - 妊娠後期 6.妊娠期の診断 - モニタリング
- 第3回 項目 7.助産診断に必要な診察技法 8.助産診断に必要な診察技法 9.分娩期の助産診断
- 第4回 項目 10.分娩期の助産診断 - 分娩進行状態の診断 11.分娩期の助産診断 - 分娩進行状態の診断 12.内診技術
- 第5回 項目 13.産婦の援助技術 14.分娩介助術 - 分娩介助の意義、分娩介助の原理 15.分娩介助術 - 正常分娩介助法、会陰保護、児娩出
- 第6回 項目 16.分娩介助術 - 胎盤娩出、胎盤検査 17.分娩介助術 - 出生直後の新生児のケア 18.分娩介助術(演習)
- 第7回 項目 19.20.21.分娩介助(演習)
- 第8回 項目 22.23.24.分娩介助(演習)
- 第9回 項目 25.26.27.分娩介助(演習)
- 第10回 項目 28.29.30.乳房マッサージ
- 第11回 項目 31.32.33.健康教育 - 母親学級に向けて(32.33.演習)
- 第12回 項目 34.新生児の蘇生 35.36.受胎調節(演習)
- 第13回 項目 37.38.健康教育の企画-家庭訪問 39.助産計画の立案(演習)
- 第14回 項目 40.41.42.分娩介助 チェック
- 第15回
- 第16回
- 第17回
- 第18回
- 第19回
- 第20回
- 第21回
- 第22回

- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

教科書・参考書 教科書：第 3 版助産学体系, 青木康子, 日本看護協会出版会, 2003 年；今日の助産, 北川眞理子他, 南江堂, 2004 年；看護のための, 日野原重明, 中山, 2005 年 / 参考書：基本分娩介助学, 進純郎、荒木勤, 医学書院, 1998 年；分娩介助と周産期管理, 寺尾俊彦, メディカ出版, 1998 年

メッセージ 毎回プリント配布 助産コースを選択した人のみ履修可能

連絡先・オフィスアワー 田中満由美：E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2821 戸部郁代 22-2825 田中奈美:22-2819 山元公美子 22-2819

開設科目	周産期看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	田中満由美・戸部郁代・田中奈美・中田雅彦				
<p>授業の概要 (1) 妊娠、分娩、産褥及び乳汁分泌、胎児、胎児付属物の異常、及び治療について教授する(医師担当分)。(2) 妊娠、分娩、産褥期の対象者のセルフケア能力とケア及び新生児・乳幼児のケアについて教授する(看護教官担当分) / 検索キーワード 周産期の異常、セルフケア能力、</p> <p>授業の一般目標 (1) 周産期医療現場における必須の知識を高め、異常に対する診断及び治療方法を理解する。(2) 助産の実践に必要な基本的ケアの習得をする。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 周産期の疾患について定義・臨床症状・病態生理・診断・治療の説明ができる。(2) 妊娠、分娩、産褥期の対象者のセルフケア能力とケア及び新生児・乳児のケアについて説明できる。 思考・判断の観点：(1) 妊産褥婦及び新生児、乳児の状態について、正常と異常疾患の判断ができる。(2) 妊産褥婦及び新生児、乳児の状態についてアセスメントすることができる。(助産コースの方は対象に対して、助産診断ができる。) 関心・意欲の観点：妊産褥婦並びに新生児看護に関心を持ち、他者と討議する。 技能・表現の観点：助産コースの方は、対象に対して、助産診断ができる。助産コースの方は、対象に対して、保健指導ができる。助産コース以外の方は、対象に対して、看護診断ができる。</p> <p>授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等</p> <p>第 1 回 項目 1. 異常妊娠(妊娠悪阻、流早産、子宮外妊娠、胞状奇胎)(超音波の扱いを含む)</p> <p>第 2 回 項目 2. 異常妊娠(妊娠中毒症、多胎、IUGR)</p> <p>第 3 回 項目 3. 異常妊娠(前置胎盤、常位胎盤早期剥離、子宮破裂)</p> <p>第 4 回 項目 4. 合併症妊娠(感染症と内分泌疾患)</p> <p>第 5 回 項目 5. 合併症妊娠(心疾患、血液疾患、自己免疫疾患)</p> <p>第 6 回 項目 6. 合併症妊娠(婦人科疾患)</p> <p>第 7 回 項目 7. 異常分娩(胎位の異常、回旋異常、陣痛の異常)</p> <p>第 8 回 項目 8. 帝王切開と産科救急</p> <p>第 9 回 項目 9. 産褥期の異常と その対応</p> <p>第 10 回 項目 10. 新生児異常とそ の対応</p> <p>第 11 回 項目 11. ハイリスク新生児の管理</p> <p>第 12 回 項目 12. 性感染症</p> <p>第 13 回 項目 13. 不妊症</p> <p>第 14 回 項目 14. 妊婦のセルフケア能力とケア-妊娠初期</p> <p>第 15 回 項目 15. 妊婦のセルフケア能力とケア - 妊娠中期</p> <p>第 16 回 項目 16. 妊婦のセルフケア能力とケア - 妊娠末期</p> <p>第 17 回 項目 17. 分娩期のケア(弛緩出血、産科ショック)</p> <p>第 18 回 項目 18. 帝王切開の看護</p> <p>第 19 回 項目 19. 産褥期のケア(復古現象の異常)</p> <p>第 20 回 項目 20. 産褥期のケア(母乳哺育の援助)</p> <p>第 21 回 項目 21. 産褥期のケア</p> <p>第 22 回 項目 22 新生児のケア(胎外生活移行期の新生児のケア)</p> <p>第 23 回 項目 23. ハイリスク新生児のケア</p> <p>第 24 回 項目 24. 家族計画</p> <p>第 25 回 項目 25. 産褥期精神障害</p> <p>第 26 回 項目 26. 乳幼児の発達 - 身体的側面</p> <p>第 27 回 項目 27. 乳幼児の発達 - 心理的側面</p> <p>第 28 回 項目 28. 乳幼児の事故と主な疾患</p>					

第 29 回

第 30 回

教科書・参考書 教科書：助産大系, 青木康子他, 医学書院,, 2007 年；産科疾患, 日野原重明, 中山書店, 2007 年；今日の助産：マタニティサイクルの助産診断・実践過程 (Nursing) 改訂第 2 版, 北川真理子, 内山和美編集, 南江堂, 2007 年

メッセージ 毎回プリント配布 1～13 と 14～27 が同時進行であるため、講義日及び曜日に注意すること

連絡先・オフィスアワー 田中満由美：E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2821 戸部郁代：E-mail tobegon@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2825 田中奈美：22-2819

開設科目	地域看護学総論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	守田孝恵・山崎秀夫・高橋郁子・檀原三七子・小野順子				

授業の概要 地域看護学の概念と地域保健活動の展開について解説する。また、地域保健活動を展開する具体的な方法論について講義と演習を行う。／検索キーワード 地域保健、健康、生活、公衆衛生、ヘルスプロモーション、住民参加、地域診断、地域保健計画

授業の一般目標 1. 地域で生活している看護の対象を理解する。 2. 地域を対象とした保健活動の展開を理解する。 3. 地域保健活動に用いられる基本的な方法論を理解する。 4. 地域特性に応じた健康教育を実施できる。 5. 学校保健について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地域看護過程を展開できる。 思考・判断の観点： 地域看護過程のアセスメントの視点が適切である。 関心・意欲の観点： 主体的に演習に取り組む。 態度の観点： 主体的に学習に取り組む。 技能・表現の観点： 地域看護過程の展開を的確に表現できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 地域看護学の概念
- 第 2 回 項目 地域保健のキーワード 1
- 第 3 回 項目 地域保健のキーワード 2
- 第 4 回 項目 地域保健のキーワード 3
- 第 5 回 項目 地域診断と保健師活動 1
- 第 6 回 項目 地域診断と保健師活動 2
- 第 7 回 項目 地域診断と保健師活動 3
- 第 8 回 項目 健康教育演習
- 第 9 回 項目 健康教育演習
- 第 10 回 項目 健康教育演習
- 第 11 回 項目 健康教育演習
- 第 12 回 項目 健康教育演習
- 第 13 回 項目 保健活動の評価 1
- 第 14 回 項目 保健活動の評価 2
- 第 15 回 項目 まとめ

成績評価方法（総合） 講義やグループ演習への参加態度、演習、試験により判定する。

教科書・参考書 教科書： 国民衛生の動向, , 厚生統計協会, 2008 年； 改訂第 2 版地域看護学 .jp, 荒賀直子、後閑容子編, インターメディカル, 2007 年 / 参考書： エッセンシャル地域看護学, 平野かよ子, 建帛社, 2003 年

メッセージ 教科書は保健管理学と共通で使用する。

連絡先・オフィスアワー 内 2 8 2 7

開設科目	産業看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	加藤恵・石原逸子				

授業の概要 産業（職域）における看護活動の基本、職場環境・労働内容と労働者の健康度との関係、健康学習、健康相談の特性・方法・評価及び産業看護の役割について教授する。/ 検索キーワード 労働衛生、健康管理、作業管理、作業環境管理

授業の一般目標 1. 労働の意味、労働負荷と職業性疾病、労働衛生管理の基礎について学習する。 2. 産業保健の変遷と産業看護の役割の変遷、歴史について概観する。 3. 働く人々の健康管理についての基礎的な知識を得る。 4. 産業看護職の役割、職務、活動の実際について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：産業保健の基礎知識と産業看護職の役割 思考・判断の観点：働く人々の健康状態のアセスメント 態度の観点：授業の予習と出席、課題の達成

授業の計画（全体）産業看護の対象理解として、働く人々の健康状態、労働と健康の関係、労働環境と健康等を取り上げる。対象理解に基づく産業看護職の役割、職務、実際の活動などを具体例で紹介する。経済活動のグローバル化に伴う急激な労働環境の変化と働く人々の健康との関係について、いくつか今課題となっている事柄をトピックとして紹介し、これからの産業看護の展望を考える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 歴史と定義 内容 産業保健の変遷と産業看護の歴史 授業外指示 公衆衛生看護学体系 6 I - 9 頁
- 第 2 回 項目 労働衛生の基礎知識 内容 労働環境、労働負荷と職業性疾病 授業外指示 「労働衛生のしおり」I、II
- 第 3 回 項目 産業看護職の役割 内容 労働衛生マネジメントと産業看護職
- 第 4 回 項目 産業看護職の役割 内容 健康管理の実際、定期健康診断、健康相談、保健指導 授業外指示 「労働衛生のしおり」II の健康確保対策について
- 第 5 回 項目 産業看護職の役割 内容 労働衛生教育、リスクマネジメント 授業外指示 健康教育について関連文献の熟読
- 第 6 回 項目 法律と倫理 内容 労働安全衛生法、個人情報保護法、看護の倫理規定 授業外指示 個人情報と守秘義務についてインターネットで調べる
- 第 7 回 項目 産業看護概論 授業外指示 労働衛生のしおり
- 第 8 回 項目 働く人々の健康管理 内容 健康診断 授業外指示 労働衛生のしおり
- 第 9 回 項目 働く人々の健康管理 内容 VDT 作業者の健康管理事例学習 授業外指示 労働衛生のしおり
- 第 10 回 項目 働く人々の健康管理 内容 メンタルヘルス事例学習 授業外指示 労働衛生のしおり
- 第 11 回 項目 働く人々の健康管理 内容 有害物取扱者の健康管理 授業外指示 労働衛生のしおり
- 第 12 回 項目 働く人々の健康管理 内容 有害物（有機溶剤）取扱者の健康管理、事例学習 授業外指示 労働衛生のしおり
- 第 13 回 項目 働く人々の健康管理 内容 職場巡視 授業外指示 労働衛生のしおり
- 第 14 回 項目 働く人々の健康管理 内容 まとめ 授業外指示 労働衛生のしおり
- 第 15 回

成績評価方法（総合）定期試験と出席により評価する。

教科書・参考書 教科書：公衆衛生看護学体系 6，日本看護協会，日本看護協会；平成 16 年度労働衛生のしおり，厚生労働省，厚生労働省

開設科目	科学論文演習	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	野垣宏・辻野久美子				

授業の概要 学術雑誌、国際学会等は公用語として英語が用いられている。最新の医療情報を得たり、研究成果を発表するためには、英語の論文に親しむ必要がある。前半は英文で発表された科学論文を題材にして、論文の構成や記載法を理解させ、内容について討論させることにより知識の向上とともに、英語読解力の増強を図る。後半は和文献を用いて、論文のまとめ方と書き方について演習する。/ 検索キーワード 英文科学論文、和文献

授業の一般目標 1. 英文科学論文の内容を理解する。 2. 論文のまとめ方と書き方の基礎的知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 英文科学論文のノイエスを説明できる。 2. 論文のまとめ方と書き方の概要がわかる。

授業の計画(全体) 野垣は英文献、辻野は和文献を教材にする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 内容 なぜ英語の論文を読むのか、なぜ英語で論文を書くのか。インパクトファクターとは 授業外指示 インTRODクシヨンの和訳 授業記録 配付資料(英語学術論文)
- 第 2 回 項目 医学に関する英文論文 内容 イントロダクシヨン 授業外指示 対象の和訳
- 第 3 回 項目 医学に関する英文論文 内容 対象 授業外指示 方法の和訳
- 第 4 回 項目 医学に関する英文論文 内容 方法 授業外指示 結果の和訳
- 第 5 回 項目 医学に関する英文論文 内容 結果 授業外指示 考察の和訳
- 第 6 回 項目 医学に関する英文論文 内容 考察
- 第 7 回 項目 医学に関する英文論文 内容 まとめ
- 第 8 回 項目 オリエンテーション、グループ編成 内容 授業の進め方、何を書くか、何を伝えたいのか 授業外指示 関心のある和文の論文を1編以上持参する。 授業記録 配付資料
- 第 9 回 項目 論文のまとめ方と書き方(各グループで抄読会) 内容 持参した論文のまとめ方と書き方について、検討する。 授業外指示 発表者は資料を準備する。 授業記録 配付資料
- 第 10 回 項目 論文のまとめ方と書き方(各グループで抄読会) 内容 持参した論文のまとめ方と書き方について、検討する。 授業外指示 発表者は資料を準備する。 授業記録 配付資料
- 第 11 回 項目 論文のまとめ方と書き方(各グループで抄読会) 内容 持参した論文のまとめ方と書き方について、検討する。 授業外指示 発表者は資料を準備する。 授業記録 配付資料
- 第 12 回 項目 論文のまとめ方と書き方(各グループで抄読会) 内容 持参した論文のまとめ方と書き方について、検討する。 授業外指示 発表者は資料を準備する。 授業記録 配付資料
- 第 13 回 項目 論文のまとめ方と書き方(各グループで抄読会) 内容 持参した論文のまとめ方と書き方について、検討する。 授業外指示 発表者は資料を準備する。 授業記録 配付資料
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 論文のまとめ方と書き方 授業記録 配付資料
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

成績評価方法(総合) 授業への参加度、授業内での発表内容、レポートにより、総合的に評価を行う。

教科書・参考書 教科書: 保健・医療・福祉のための論文のまとめ方と書き方, 鈴木庄亮, 川田智之, 南江堂, 1999年; 英文科学論文配付

連絡先・オフィスアワー nogaki@yamaguchi-u.ac.jp tsujino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健福祉行政論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	檀原三七子				

**授業の概要** 地域看護を実践する際に必要となる知識として、保健医療福祉行政の根拠法令や仕組み、諸制度の変遷、保健福祉計画の策定から評価までプロセスを具体的に解説した上で、今後のわが国の社会保障制度改革の方向性と課題を考える。

**授業の一般目標** 保健医療福祉行政の根拠法令や仕組み、諸制度の変遷、保健福祉計画の策定から評価までプロセスを理解し、今後のわが国の社会保障制度改革の方向性と課題を考えることができる。

**授業の計画（全体）** 【全体】地域保健法を軸に、対象別の各種行政論と社会保障制度全体を学ぶ。【週単位】 1～2週目：保健医療福祉行政の理念と仕組み I、II 3～4週目：保健医療福祉制度の変遷 I、II 5～6週目：ヘルスプロモーション、医療制度改革 7～8週目：医療制度改革、社会保障制度 9週目：母子保健 10週目：高齢者保健 11週目：精神保健 12週目：難病、感染症対策 13週目：地域保健行政における保健師活動と役割 14週目：まとめ 15週目：試験

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 保健医療福祉行政の理念と仕組み I 内容 地域保健に関する制度と仕組みの解説
- 第 2 回 項目 保健医療福祉行政の理念と仕組み II 内容 地域保健に関する制度と仕組みの解説
- 第 3 回 項目 保健医療福祉制度の変遷 I 内容 地域保健に関する制度の変遷の解説
- 第 4 回 項目 保健医療福祉制度の変遷 II 内容 地域保健に関する制度の変遷の解説
- 第 5 回 項目 ヘルスプロモーション、医療制度改革 I 内容 ヘルスプロモーションと医療制度改革の解説
- 第 6 回 項目 ヘルスプロモーション、医療制度改革 II 内容 ヘルスプロモーションと医療制度改革の解説
- 第 7 回 項目 医療制度改革、社会保障制度 I 内容 医療制度改革と社会保障制度の解説
- 第 8 回 項目 医療制度改革、社会保障制度 II 内容 医療制度改革と社会保障制度の解説
- 第 9 回 項目 母子保健 内容 母子保健の制度に関する解説
- 第 10 回 項目 高齢者保健 内容 高齢者保健に関する解説
- 第 11 回 項目 精神保健福祉 内容 精神保健福祉に関する解説
- 第 12 回 項目 難病、感染症対策 内容 難病、感染症対策に関する解説
- 第 13 回 項目 地域保健行政における保健師活動と役割 内容 行政保健師の活動と役割について解説
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 追加資料を解説
- 第 15 回 項目 試験

**成績評価方法（総合）** 期末試験を行う。毎回出席をとる。

**教科書・参考書** 教科書：保健医療福祉行政論，医学書院，2007年；衛生行政六法平成20年版，新日本法規，2008年 / 参考書：国民衛生の動向2008年，厚生統計協会，2008年



開設科目	小児看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	辻野久美子・村上京子・沓脱小枝子				

授業の概要 小児は成長・発達の上にありやがて成人するが、小児は幼なければ幼い程、誰かに世話をされなければ生きていけない。小児看護は出生前期から学童・思春期頃までの小児とその家族を対象とし、健康・不健康を問わず広く小児を理解し、小児の健康に関する全ての問題に対応する。ここでは小児期各期の特性と、小児の成長発達の促進および健康の保持・増進・回復を支援するために必要な、小児看護の知識と技術について教示する。さらに疾病や障害、入院が、小児とその家族に及ぼす影響について概説し、子どもを看護するときの看護職者の態度や心構え、看護支援の方法について共に考える。授業は出来るだけ小児疾病学の学習内容に対応させながら進める。/ 検索キーワード 小児、成長・発達、小児看護、看護支援

授業の一般目標 (1) 小児看護の理念と目的、役割を理解する。(2) 健康な小児の成長・発達を理解する。(3) 小児期各期の特徴と生活について学び、小児に必要な生活の援助技術を習得する。(4) 小児に特有な疾患や症状・障害の看護について、知識と技術を習得する。(5) 小児とその家族への適切な看護支援について、考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：子どもの心身の未熟性(やがて成熟する!)を理解できる。子どもの成長・発達について理解できる。小児期各期の特徴と生活について理解できる。子どもに特有な疾患や症状・障害の看護について理解できる。思考・判断の観点：疾病や障害、入院が、子どもとその家族に及ぼす影響について考察できる。子どもとその家族への適切な看護支援について、考察できる。子どもを看護するときの看護職者の態度や心構えについて考察できる。子どもに特有な疾患や症状・障害について、適切な判断ができる。関心・意欲の観点：子どもの誕生から成人するまでのプロセスに、関心を持つことができる。その過程で求められる看護職者の役割を考えることができる。態度の観点：子どもの視点や気持ち・行動を理解しようと、努力することができる。子どもの看護に必要な知識と技術を習得しようと、努力することができる。技能・表現の観点：設定された演習の知識と技術を習得できる。その他の観点：グループワークを通して自分自身と仲間のことを知り、共同作業の成果と喜びを経験することができる。

授業の計画(全体) このシラバスは12月に作成したものであるため、実際の開講時(後期・10月)には、下記の授業計画は変更される可能性があります。その場合には、開講初日に変更内容を提示し、説明する予定です。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 オリエンテーション、小児看護の理念・目的、小児看護の視点 内容 担当教官の紹介、授業の進め方、シラバス説明、成績評価の方法について説明する。小児看護の理念・目的、小児看護の視点について解説する。授業外指示 シラバスを読んでおくこと 教科書を読んでおくこと 教科書1 (p10-14) 教科書2 (p43-59) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第2回 項目 小児の成長・発達と看護(1) 内容 主に乳幼児の成長・発達と看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書1 (p18-24) 教科書3 (p1-22) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第3回 項目 小児の栄養と看護(1) 内容 主に乳幼児の小児の栄養と看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書1 (p28-33) 教科書3 (p23-33) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第4回 項目 演習; バイタルサイン測定、調乳法 内容 バイタルサイン測定、調乳法について解説し、グループ演習を行う。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書1 (p63-82) 教科書2 (p3-5) 教科書3 (p4-10, p30-32) \* 試飲用コップを持参すること 授業記録 配布資料

- 第 5 回 項目 演習;バイタルサイン測定、調乳法 内容 バイタルサイン測定、調乳法について解説し、グループ演習を行う。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p63-82) 教科書 2 (p3-5) 教科書 3 (p4-10, p30-32) \* 試飲用コップ を持参すること 授業記録 配布資料
- 第 6 回 項目 小児の栄養と看護(2) 内容 離乳食、幼児・学童の栄養と看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p33-34) 教科書 2 (p3-7) 教科書 3 (p33-34) 授業記録 配布資料 パワーポイント ビデオテープ「乳児の食べる機能の発達と成長・発育-哺乳動作の発達-」
- 第 7 回 項目 小児の成長・発達と看護(2) 内容 Jピアジェの認知発達理論・エリクソンの発達課題を小児看護に適用し、子どもについて理解を深める。。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p61-63) 教科書 2 (p215-218) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 8 回 項目 人口動態統計、疾病・事故の動向 内容 人口動態統計、疾病・事故の動向について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 2 (p24-37) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 9 回 項目 小児の成長・発達と看護(3) 内容 反射の発達について解説し、その一部については、実際に体感してみる。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p81-82) 教科書 3 (p15-16) ジャージに着替えて参加すること。授業記録 配布資料 パワーポイント ビデオテープ「乳児の脳の発達と反射」、「健康な乳幼児の発達」
- 第 10 回 項目 症状の看護(発熱、下痢) 内容 子どもの発熱および下痢の看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (P84-97) 教科書 2 (p72-89) 教科書 3 (p94-95) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 11 回 項目 症状の看護(脱水、痙攣) 内容 子どもの脱水および痙攣の看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p91-98) 教科書 2 (p91-96) 教科書 3 (p184-189, p550-565, p576) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 12 回 項目 予防接種、感染症の子どもへの看護 内容 予防接種、感染症の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p8-10) 教科書 2 (p168-169) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 13 回 項目 消化器疾患の子どもへの看護 内容 消化器疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p91-98) 教科書 2 (p91-105) 教科書 3 (p434-435, p448-450, p102-106) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 14 回 項目 腎疾患の子どもへの看護 内容 腎疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p116-123) 教科書 2 (p129-138) 教科書 3 (p513-532) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 15 回 項目 急性期疾患の子どもへの看護・呼吸器疾患の子どもへの看護 内容 呼吸器疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 2 (p106-114) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 16 回 項目 検査・手術を受ける子どもへの看護、急性疾患の子どもへの看護 内容 検査・手術を受ける子どもへの看護、急性疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 2 (p57-69) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 17 回 項目 血液疾患の子どもへの看護 内容 血液疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p134-141) 教科書 2 (p153-170) 教科書 3 (p471-478) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 18 回 項目 川崎病の子どもへの看護 内容 川崎病の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 3 (p344-347, p427-428) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 19 回 項目 心疾患の子どもへの看護 内容 心疾患の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p107-115) 教科書 2 (p116-128) 教科書 3 (p383-432) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 20 回 項目 慢性期疾患の子どもへの看護・1型糖尿病の子どもへの看護 内容 糖尿病の子どもへの看護、慢

- 性疾患の子どもへの看護について考察する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p124-133) 教科書 2 (p139-152) 教科書 3 (p243-247) 2 型糖尿病について復習しておくこと 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 21 回 項目 小児の「遊び」への援助 内容 小児の「遊び」への援助について解説する。グループディスカッションをする。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p39-41) 教科書 2 (p19-23) 授業記録 配布資料
- 第 22 回 項目 低出生体重児の看護 内容 低出生体重児の看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 3 (p67-97) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 23 回 項目 演習；身体計測、保育器の管理、吸引法 内容 身体計測、保育器の管理、吸引法について解説し、グループ演習を行う。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p37-38) 教科書 2 (p12-19, p100-102) 「沐浴」を復習しておくこと 授業記録 配布資料
- 第 24 回 項目 演習；身体計測、保育器の管理、吸引法 内容 身体計測、保育器の管理、吸引法について解説し、グループ演習を行う。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p37-38) 教科書 2 (p12-19, p100-102) 「沐浴」を復習しておくこと 授業記録 配布資料
- 第 25 回 項目 障害をもつ子どもの看護 内容 障害をもつ子どもの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 2 (p153-170) 教科書 3 (p119-138) 授業記録 配布資料 パワーポイント ビデオテープ「発達相談；自閉症」
- 第 26 回 項目 終末期の子どもへの看護 内容 終末期の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p141) 教科書 2 (p202-222) 教科書 3 (p471-474, p492-498) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 27 回 項目 子どもの心の健康・心身症の子どもへの看護 内容 子どもの心の健康・心身症の子どもへの看護について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p42-56) 教科書 3 (p612-616) 授業記録 配布資料 パワーポイント
- 第 28 回 項目 児童虐待と看護の役割 内容 児童虐待と看護の役割について解説する。授業外指示 教科書を読んでおくこと 教科書 1 (p3-5, p49-56) 教科書 2 (p30) 教科書 3 (p616) 授業記録 配布資料 パワーポイント ビデオテープ「子育てに自信をなくしているあなたへ」
- 第 29 回 項目 子どもの「遊び」への支援；作品発表 内容 各グループの作品を発表する。授業外指示 作品を完成させ、プレゼンテーションの練習をしておくこと 補講期間に予定
- 第 30 回 項目 子どもの「遊び」への支援；作品発表 内容 各グループの作品を発表する。授業外指示 作品を完成させ、プレゼンテーションの練習をしておくこと 補講期間に予定

成績評価方法(総合)・試験を期末に実施します。・レポート提出は欠格条件(提出しない場合には単位を与えません)で、レポートの内容は全体評価として10%加算されます。・出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えません。

教科書・参考書 教科書：小児看護学, 岡田洋子・荃津智子・佐藤雅子・井上由紀子, 医歯薬出版株式会社, 2002年; 小児看護学2, 岡田洋子・荃津智子・佐藤雅子・井上由紀子・菅野予史季, 医歯薬出版株式会社, 2002年; ナースとコメディカルのための小児科学, 白木和夫, 高田哲編集, 日本小児医事出版社, 2006年; 教科書は看護学書2冊、医学書1冊の計3冊です。「授業外学習の指示」に従い、当日持参する教科書を選択してください。/ 参考書: 小児の看護アセスメント, ジョイス・エンゲル(塚原正人監訳), 医学書院, 2001年; 月刊誌「小児看護学」, へるす出版; 月刊誌「小児看護」「小児科」「小児科臨床」「小児外科」「小児内科」を活用して, 疾患の病態・治療・看護の理解に努めましょう!

メッセージ 子どもについて学ぶことは、自分自身や家族をみつめ直すことにつながるような気がしています。

連絡先・オフィスアワー 辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp (内線 2806) 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp (内線 2820)

開設科目	家族看護学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	高橋郁子・戸井間充子				

授業の概要 家族を理解するために必要な家族の概念や諸理論・戮砲甲い胴峙舛垢襦B 仇殃未諒欸鮎慎悔亡惋垢崙峙舛掩板輕 笋留藹 終損櫻垢襦 / 検索キーワード 家族、健康、システム理論

授業の一般目標 1. 家族の概念を理解できる。 2. 家族看護の諸理論やモデルを理解できる。 3. 家族看護過程の展開を理解できる。 4. 対象別の保健指導を理解できる。 5. 家庭訪問について理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 家族とは何か、家族への援助について説明できる。 思考・判断の観点： 家族看護過程のアセスメントが適切にできる。 関心・意欲の観点： 積極的に学習に取り組み、自分の意見を述べられる。 態度の観点： 主体的に講義、演習に参加する。 技能・表現の観点： 家庭訪問の方法がわかる。

授業の計画（全体） 家族看護の基本となる家族、家族看護の諸理論・モデル、家族看護の実践例を学び、家族看護過程の展開ができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション家族とは何か 授業記録 テキスト
- 第 2 回 項目 家族看護の諸理論 授業記録 非常勤講師 配布資料
- 第 3 回 項目 家族看護の諸理論 授業記録 非常勤講師 配布資料
- 第 4 回 項目 家族看護の諸理論 授業記録 非常勤講師 配布資料
- 第 5 回 項目 家族看護の諸理論 授業記録 非常勤講師 配布資料
- 第 6 回 項目 難病保健指導と家族看護過程 授業記録 テキスト
- 第 7 回 項目 感染症保健指導と家族看護過程 授業記録 テキスト
- 第 8 回 項目 結核保健活動と家族看護過程 授業記録 テキスト
- 第 9 回 項目 演習 地域の生活環境アセスメント 授業記録 テキスト
- 第 10 回 項目 母子保健指導と家族看護過程 授業記録 テキスト
- 第 11 回 項目 演習 家庭訪問と記録 授業記録 テキスト
- 第 12 回 項目 演習 家庭訪問と記録 授業記録 テキスト
- 第 13 回 項目 演習 家庭訪問と記録 授業記録 テキスト
- 第 14 回 項目 まとめ 授業記録 テキスト
- 第 15 回 項目 テスト

成績評価方法（総合） 課題レポート、講義とグループ討議への参加、演習レポート、出席にて行なう。

教科書・参考書 教科書： 家族看護学 理論と実践 第3版, 鈴木和子、渡辺祐子, 日本看護協会出版会, 2006年； 新版保健師業務要覧, 日本看護協会監修, 日本看護協会出版会, 2005年 / 参考書： 国民衛生の動向, 厚生統計協会, 2007年

連絡先・オフィスアワー 内線 2852 事前にご連絡ください。

開設科目	医療システム概論	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	清水昭彦, 市原清志				

授業の概要 医療従事者にとってもコンピュータに関わる基本的な知識は必須である。これまでにコンピュータに関する多くの知識を身につけて来たが、今回もう一度集中講義の形式でおさらいしておきたい。 / 検索キーワード 医療情報、多変量解析、研究デザイン、調査延久、個人情報保護

授業の一般目標 1. 医療情報技術者資格の認定試験に合格することを目標とする

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 研究デザインによって統計処理法が異なること、多変量解析の理論を理解できる 思考・判断の観点： 研究デザインによって、どの統計処理法が適切かを判断できる。多変量解析を用いた要因分析で、変数の選択を定説に行える。 関心・意欲の観点： 統計学のパワフルな情報解析能力の可能性に関心を抱く 態度の観点： 自らの研究の企画や研究結果の処理を念頭に置いて、講義演習を受けている 技能・表現の観点： 表計算ソフト、統計ソフトを医療情報の基礎的な処理と統計処理を行える

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コンピュータのハードウェア構成と役割
- 第 2 回 項目 2進数と2値論理、データ表現
- 第 3 回 項目 基本ソフトウェアの種類と役割
- 第 4 回 項目 ネットワークシステム
- 第 5 回 項目 医療情報システム(1)
- 第 6 回 項目 医療情報システム(2)
- 第 7 回 項目 医療情報システム(3)
- 第 8 回 項目 医療情報システム(4)
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 医療情報技師資格認定テスト合格者は受講を免除し単位 (優) を与える

教科書・参考書 参考書： 資料を授業中に適宜配布

メッセージ ハードウェア、基本ソフトウェア、応用ソフトウェア、ネットワーク、情報システム

連絡先・オフィスアワー <市原> E-mail: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2884 (大学)  
9:00 ~ 18:30 または 0836-35-5213

開設科目	看護管理学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	藤澤怜子・花田千鶴美				

**授業の概要** 看護管理は、看護の機能を効果的に発揮できるように、看護職個人ではなく組織を確立し、運営を適切にしていく管理技法であり、看護の対象である人間が基盤にある。管理的立場にないものにとっても、看護管理の基礎を理解することは、看護の効果をあげるのに役立つものである。本授業では、保健医療システムとその中での看護管理の位置づけ、看護管理の基礎となる理論や基礎知識、看護制度や法的問題、病院看護管理の実際について解説する。 / 検索キーワード 看護管理、看護システム、看護サービス、組織

**授業の一般目標** 1. 看護管理の基礎となる理論を理解する。 2. 看護管理のプロセスを学び、看護ケアの提供者として必要な看護の提供システムを理解する。 3. 人材育成の制度や実際を学び、将来看護職になるものとして自己能力を向上させる必要性を理解する。 4. 看護職が行政や政策にどのように関わっていくかを学び、看護職の社会性の向上や社会システムとして看護をとらえる視点を養う。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** 1. 看護管理の基礎となる理論をあげることができる。 2. 看護管理のプロセスが説明できる。 3. 日本の看護制度・行政について説明できる。 **思考・判断の観点:** 1. 看護をとりまく環境の変化を指摘できる。 2. 看護職員的能力を發揮できるような組織・運営について、自分の意見を述べる ことができる。 3. 看護専門職としての責務について述べる ことができる。

**関心・意欲の観点:** 1. 看護管理に関する課題に関心をもつ。 2. 看護職の社会性の向上や社会システムとして看護をとらえる視点を養う。 3. 看護の専門職として自己能力を向上させる必要性に気づく。

**態度の観点:** 1. 課題レポート作成のために情報収集が積極的にできる。

**授業の計画 (全体)** 看護管理の基礎となる理論、看護管理のプロセスを学び、看護ケアの提供者として必要な看護の提供システムを理解する。また人材育成の制度や実際を学ぶことで、将来看護職になる者として自己能力を向上させる必要性について考えていく。

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 看護管理の基礎 内容 看護管理とは何か、看護管理の基礎となる理論や考え方
- 第 2 回 項目 看護管理のプロセス 内容 看護管理のシステムと情報管理、看護職のキャリア開発
- 第 3 回 項目 日本における看護制度と看護行政 内容 保健医療制度と看護制度、医療施策と看護施策
- 第 4 回 項目 看護部の組織と看護のマネジメント 内容 看護師長、看護部長の機能と役割、看護の経営管理について
- 第 5 回 項目 看護管理の実際 内容 大学病院における看護管理の実際
- 第 6 回 項目 看護管理の動向と課題 内容 看護管理におけるリスクマネジメント、看護倫理、看護と法
- 第 7 回 項目 グループ討議 内容 課題学習をグループでまとめ発表する
- 第 8 回 項目 科目最終試験
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

**成績評価方法 (総合)** 期末試験を行う。看護管理に関する課題を学生主体で決定しレポートを作成する。以上を下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たない者には、単位を与えない。

**教科書・参考書** 教科書：授業毎に資料を配布する。

**連絡先・オフィスアワー** 藤澤怜子 reiko@yamaguchi-u.ac.jp 22-2814

開設科目	看護教育学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	藤澤怜子				

授業の概要 看護教育の歴史と看護師養成教育の変遷，看護教育の現状を学習し，そこから問題点や今後の課題を考える．また，カリキュラムの構成，授業展開，教育評価の基礎を学び，自分が受けた教育について確認し，キャリア発達に関連する看護継続教育の必要性を理解する．／検索キーワード 看護教育，看護師養成教育，カリキュラム，教育評価

授業の一般目標 看護教育の歴史と看護師養成教育の変遷を法的基盤，制度を学習することで，看護教育の現状と今後の課題を理解する．また，現行の看護教育制度から，自分が受けた教育について確認し，キャリア発達に関連する看護継続教育の必要性を理解する．

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1．日本における看護教育制度の変遷について説明できる． 2．現行の看護教育制度と社会が看護職に求める能力との関係が説明できる． 3．キャリア発達に関連する看護継続教育の必要性を述べる事が出来る． 思考・判断の観点： 1．課題についてのグループ討議で自分の意見を伝える事が出来る． 関心・意欲の観点： 1．課題についての事前学習を行い，積極的なグループ討議への参加ができる． 2．教員との質疑応答の時間を積極的に活用できる．

授業の計画（全体） 講義により看護師養成教育の変遷，法的基盤，制度を把握した後，看護学教育の形態，カリキュラムの構成，授業展開について講義とグループ討議をまじえながら授業を進める．

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 看護師養成教育の変遷 内容 看護教育学とは，職業としての看護師誕生から戦後の看護師養成教育への変遷
- 第 2 回 項目 看護師養成教育に関する法律 内容 看護教育制度を支える法と関連法規，看護師養成教育の特徴
- 第 3 回 項目 カリキュラムの構成 内容 カリキュラムとは，カリキュラムの変遷，カリキュラムの作成プロセス
- 第 4 回 項目 看護学の授業展開 内容 授業形態，学習形態，教育評価の種類，評価方法と用具
- 第 5 回 項目 看護継続教育 内容 キャリア開発，専門看護師，認定看護師教育，卒後教育
- 第 6 回 項目 グループ討議
- 第 7 回 項目 これからの看護職に求められる能力と教育
- 第 8 回 項目 筆記試験
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 期末試験 80 % と課題レポート他 20 % で評価する．2/3 以上の授業への出席を欠格条件とする．

教科書・参考書 教科書： 授業毎に資料を配布する．

連絡先・オフィスアワー 藤澤怜子 reiko@yamaguchi-u.ac.jp 22-2814

開設科目	看護経済学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	東 玲子・横田伸子・横山利枝				

授業の概要 経済学の概要、医療経済に関わる諸制度と改革の動向、先進諸外国との比較、さらに看護経済をめぐる諸問題、医療・看護サービスの経済的特徴、医療・看護の経済的評価、看護職からみた医療制度改革等についてについて概説する。ジェンダーの視点から女性労働実態・展望を教授する。 / 検索キーワード 医療経済、看護経済、医療制度

授業の一般目標 医療経済に関する概念及び活動の国際比較から我が国の特徴を理解する。我が国の医療制度の仕組み、診療報酬等に関するの現状と改革の動向、課題を理解する。医療・看護サービスの経済的特徴、医療・看護の経済的評価について理解する。女性労働の実態と展望についてジェンダーの視点から理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 我が国の医療財政の概要、保健医療制度の仕組みについて述べる事ができる。2. 医療・看護サービスの経済的特徴を述べる事ができる。3. 医療・看護の経済的評価について述べる事ができる。4. 女性労働の実態と展望についてジェンダーの視点から述べる事ができる。 思考・判断の観点：1. 医療・看護をめぐる経済問題、看護職からみた医療制度改革等について考察し述べる事ができる。2. 医療における看護経済の役割と機能及び課題について考察し述べる事ができる。 関心・意欲の観点：レポート、授業中の発言に医療・看護経済のトピックに関する情報を収集し活用できる。 態度の観点：熱心な聴講姿勢、積極的な質問・発言がみられる。

授業の計画(全体) 前半では、経済学の概要を教授し、医療経済に関する概念、諸制度の仕組みについて教授する。次いで、看護に関わる経済問題に焦点を当てて、医療・看護サービスの経済的特徴、経済的評価、看護職からみた医療制度改革等について教授する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 医療と経済学/経営学看護経済学とは？(1)
- 第 2 回 項目 わが国の医療経済的問題 医療制度改革の 動向と国際比較
- 第 3 回 項目 -ジェンダーの視点から - 女性労働の実態と展望 (1)
- 第 4 回 項目 -ジェンダーの視点から - 女性労働の実態と展望 (2)
- 第 5 回 項目 -ジェンダーの視点から - 女性労働の実態と展望 (3)
- 第 6 回 項目 看護職と医療制度改革、看護職者の役割、医療看護の経済的評価 (1)
- 第 7 回 項目 看護職と医療制度改革、看護職者の役割、医療看護の経済的評価 (1)
- 第 8 回 項目 グループ討議・発表 内容 テーマは授業の 中で提示する。 授業外指示 レポート提出
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 1. 定期試験(中間試験、期末試験) 2. 看護経済学に関するレポート 3. 授業参加度を記の観点で評価する。なお、レポートが未提出の場合、単位の認定ができないので注意する。

教科書・参考書 教科書：特に指定しない。 / 参考書：看護経済学 - マネジメントの基礎, 尾形裕也田村やよい, 2003年; 医療・看護の経済論, 長田 浩, 2002年

連絡先・オフィスアワー 東 玲子 tel:0836-22-2813 :azumar@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：メールあるいは、電話等で在否を確かめてから 研究室を訪ねて下さい。 横田伸子



tel:083-933-5559 email:ynobuko@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：メールあるいは、電話等で  
在否を確かめてから 研究室を訪ねて下さい。

開設科目	国際看護学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	S. テュラーリ				

**授業の概要** The profession of nursing is the largest group of disciplines in the health workforce, nationally and internationally. Since modern nursing began in the mid 19th Century great strides have been made in raising nursing standards internationally through nursing education and research, the development of policies and practices informed by international co-operation and the ability of nurses to effect change in the workplace. The role of international and nursing organizations in effecting this change is examined in this subject.

**授業の一般目標** The goal of this subject is to enable Japanese students of nursing to learn about international nursing. This is help to improve nursing practice and the health of people through better understanding of the international community of nursing and health care, and its implications for Japanese nursing.

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** Provide a definition of international nursing, its purposes and challenges as globalization increases its effects Demonstrate an understanding of selected international nursing and health organizations, their structures and goals including Japan's nursing structure, organization, education and issues in the context of a global workplace **思考・判断の観点:** Critically analyze specific international nursing issues such as the global shortage of registered nurses; the education and training of nurses to ensure a competent workforce; and the development of nursing standards and competencies **関心・意欲の観点:** Demonstrate a willingness to learn by actively participating in seminars, directed readings, internet searches, classroom discussion and group work **態度の観点:** Appreciate the importance of international and national efforts to improve health and the impact on nursing practice locally **技能・表現の観点:** Demonstrate new knowledge and critical thinking skills by passing brief papers, and a final examination

**授業の計画 (全体)** International Nursing will be taught in English, with translation available in class. Classes will take the form of seminars, with students expected to contribute and share their ideas and findings from assignment work.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

**第 1 回** 内容 Introduction to subject; brief history of nursing; defining nursing and international nursing. Preparation for Week 2: Explore the websites of the International Council of Nursing (ICN), the World Health Organization (WHO) and the Japanese Nurses Association (JNA). Make notes to answer the following questions: 1. What are the major roles of each organization? 2. What are the values of the ICN? 3. Describe one current major project/activity of each organization? Bring your answers to class so that you can contribute to classroom discussion:

**第 2 回** 内容 The role and activities of international and professional organizations in nursing and health care, including ICN, WHO, Sigma Theta Tau, and in-country associations such as the Japanese Nurses' Association and the Royal College of Nursing, Australia. Assignment due Week 3: Working with the group assigned in class, find one recent journal article that discusses the effects of globalization on nursing practice. Copy this paper, read it and in 200 of your group's own words, summarize one or two ideas/concepts that you found interesting about the paper. Hand in this assignment with a copy of the journal article so that references can be checked. (Assignment can earn up to 10 mark

**第 3 回** 内容 The effects of globalization on nursing practice: socio-economic, and political influences. The effects of ageing, AIDS and migration of populations. Preparation for Week 4: Working

in group assigned in class, download from the website of the ICN the following paper: Buchan, J. and Calman, L. (2005) Summary: The global shortage of registered nurses: an overview of issues and actions. ICN, Geneva. In your group answer the following questions: 1. List three critical challenges that effect nursing shortages in various countries and briefly explain why. 2. What is one problem in the health system of any country that may cause a nursing shortage? Hand in this paper in Class 4, (about one page in length) , making sure all group members ' names are included. (Assignment can earn up to 10 marks)

第 4 回 内容 The global shortage of registered nurses: issues such as the recruitment and retention, and migration of nurses. Preparation for next week. Working with your group, download the following paper from the ICN website: Bryant, R. (2005) Issue 1: Regulation, roles and competency development. ICN, Geneva. Read this paper to answer the following questions: 1. What is meant by competency development in nursing? 2. Briefly explain the difference between voluntary regulation of a profession and regulation by statute? 3. Do you think nurses should remain competent throughout their working lives? What is the reason for your answer? (Assignment can earn up to 10 marks)

第 5 回 内容 The regulation of nursing and competency development. Preparation for November 11 - Note there is no class next week: you should use this time to search out information to answer the following questions: 1. List the numbers of Japanese nurses registered in each category? 2. What are the ways in which a nurse can become registered in Japan? 3. List the different types of programs that students can undertake to become a nurse. 4. What other kinds of nursing are there in Japan, beside registered nurses? 5. Briefly discuss one major nursing issue facing the Japanese nursing profession now or in the future. This assignment must be done by the individual, not within a group, and should be about one and a half pages in length. A copy of any article you use must be handed in with your paper. (Assignment can earn up to 25 marks).

第 6 回 内容 International perspectives on nursing education and training, including Japan, Australia, Hong Kong, UK, USA

第 7 回 内容 The involvement of nurses in international nurse: enriching your career, the health of people and the profession.

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 内容 Final Examination: Date and time to be notified

成績評価方法 (総合) Gradings: A: 80-100 %, B: 70-79 %, C: 60-69 %, and D: Fail Grade Below 60 % If you fail either your exam or short assignments the decision to give a compensatory examination or a rewrite of any assignments rests with the Professor taking the subject. It is not automatic that this is given. Final gradings will be assessed by: Individual and group short assignments 55 % Final Exam 45 %

教科書・参考書 参考書 : Recommended References: There is no recommended textbook, but students are expected to undertake a wide range of reading in addition to articles in the schedule. Such articles are: Buchan, J. and Calman, L. (2005) Summary: The global shortage of registered nurses: an overview of issues and actions. ICN, Geneva. Bryant, R. (2005) Issue 1: Regulation,

roles and competency development. ICN, Geneva. International Council of Nurses (2003) Tackling the UN Millenium Goals. Available at: <http://www.icn.ch/bookshop.htm> Recommended internet sites: & # 8226; The International Council of Nurses (ICN): [www.icn.ch](http://www.icn.ch) This an excellent site with a wealth of information about international nursing - some areas to explore include: ICN Policies, Nursing Networks, Fact Sheets, Global Nursing Project, Guidelines. & # 8226; Blackwell Publishing: <http://www.blackwellsynergy.com> This site gives you many journals to explore, including our own journal Nursing and Health Sciences. & # 8226; Online Journal of Issues in Nursing: <http://www.nursingworld.org/ojin/> & # 8226; Japan Nurses Association: <http://www.nurse.or.jp/> & # 8226; Royal College of Nursing Australia: <http://www.rcna.org.au/> & # 8226; Google Print: <http://print.google.com/print?q=& btnG=Search+Print> On this site you should type in nursing or international nursing and you can view chapters of the latest books. See if you can find a book that has information about international nursing or health. You may find other sites that are useful - please share these with your colleagues. Some keywords for internet searches: international nursing, international health care, globalization and nursing, globalization of health care, international nursing issues.

**メッセージ** The responsibilities of students: 1. Every student is expected to undertake readings/work on the class topic before each class (see schedule over page). 2. Students are expected to attend all classes: Absences of three (3) or more classes will result in an automatic Fail Grade (D); Absences for any class requires emergency or medical reasoning. 3. Students should never copy of someone else 's work as this may result in a Fail Grade. The only exception to this is papers developed in group assignment work but direct quotes or ideas from other authors must always be referenced.

**連絡先・オフィスアワー** E-mail address: [sturale@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:sturale@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	学際的看護論	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	S. テュラーリ				

**授業の概要** This class focuses on an understanding of the development of nursing as a science, particularly in relationship to building on the knowledge base of disciplines in the natural, liberal and social sciences. Interdisciplinary studies of health, illness and health care in local, national and international settings are examined.

**授業の一般目標** The goal is to enable students to form a better appreciation of interdisciplinary scientific knowledge development and efforts to provide interdisciplinary and holistic health care.

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点** : 1. Understand the purpose and nature of interdisciplinary knowledge development and care delivery in local, national and international arenas (Knowledge and understanding); **思考・判断の観点** : 2. Critically analyze specific issues in interdisciplinary care, such as professional boundaries and interdisciplinary education; (Thinking and judgement) 3. Consider how disciplines can work together with government to help shape and implement health policy (Thinking and Judgement). **関心・意欲の観点** : 4. Demonstrate a willingness to learn by actively participating in class, directed readings, literature searches and group work (Interest and motivation). **態度の観点** : 5. Appreciate the development of nursing science built on interdisciplinary knowledge from the natural, liberal and social sciences (Attitude); **技能・表現の観点** : 6. Demonstrate new knowledge and critical thinking skills by actively passing brief papers, a group role play and a final examination (Skill and expression)

**授業の計画 (全体)** Interdisciplinary Nursing lectures will be taught in English, with translation into Japanese in class. Students will be expected to work on group projects and to share their ideas and findings in class.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 内容 Introduction to syllabus; Introduction to the development of nursing science and its relationship to the natural, liberal and social sciences. Assignment of student groups.
- 第 2 回 内容 The development of nursing science cont'd; Definitions. What do we mean by “interdisciplinary”? Is it the same as “multidisciplinary”? The branches and nature of interdisciplinary health care.
- 第 3 回 内容 Interdisciplinary health care: the big picture - international and national efforts to improve health. How can disciplines, including nurses, work with government and colleagues in other countries to develop knowledge and health policy?
- 第 4 回 内容 Interdisciplinary team work: Roles, processes and dynamics. Groups given topics and guidelines for Role Play on November 24
- 第 5 回 内容 Interdisciplinary team work processes cont'd.
- 第 6 回 内容 What do we mean by being a “professional”? What are the responsibilities of health professionals and how can we advance interdisciplinary approaches to health and knowledge generation?
- 第 7 回 内容 Interdisciplinary team work: Student Role Play presentations on a local health problem\* see below Discussion about examination
- 第 8 回 内容 Final Examination: Date and time to be notified
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

**成績評価方法 (総合)** The responsibilities of students: 1. Every student is expected to undertake readings/group assignment work on the class topic before each class (see schedule over page). 2. Students are expected to attend all classes: Absences of three (3) or more classes will result in an automatic Fail Grade (D). Absence in any class requires emergency or medical reasoning. 3. Students should always give full references when quoting someone else's ideas from the literature. 4. All group assignments must contain student names written in Roman and student numbers. Grading: A: 80-100 %, B: 70-79 %, C: 60-69 %, and D: Fail Grade Below 60 % If you fail either your exam or short assignments the decision to give a compensatory examination or a rewrite of any assignment rests with the Professor taking the subject. It is not automatic that this is given. Final Grading will be assessed by: Assignment 1 15 % Assignment 2 15 % Participation and effort in Role Play 25 % Final Examination 45 %

**教科書・参考書 参考書:** Recommended References: There is no recommended textbook that you have to buy. However, students are expected to undertake a wide range of reading themselves and there is a lot of information on the internet. Useful references: International Council of Nurses (2004) Global leaders team up for a better world health. *International Nursing Review*, 51, 132-136. (This also contains other articles) International Council of Nurses. (2005) *Guidelines for Shaping Effective Health Policy*. Geneva, ICN. Some recommended internet sites: & # 8226; World Health Organization (W.H.O.) : <http://www.who.int/en/> See especially the Index of topics at <http://www.who.int/topics/en/> See also the Bulletin of the W.H.O. at <http://www.who.int/bulletin/en/> & # 8226; Medical Education and Organizations can be found at <http://www.iime.org/links.htm> & # 8226; Interdisciplinary Education and Practice, an article by the American Association of Colleges of Nursing: <http://www.aacn.nche.edu/Publications/positions/interdis.htm> & # 8226; Blackwell Publishing: <http://www.blackwellsynergy.com> This site gives you many journals to explore, including Nursing and Health Sciences. & # 8226; Google Print: <http://print.google.com/print?q=&btnG=Search+Print> On this site you should type in nursing or international nursing and you can view chapters of the latest books. See if you can find a book that has information about interdisciplinary nursing, nursing science, or interdisciplinary health, for example: Omeri, A. et al. In *Search of Nursing Science*, pages 4, 5, 6 You may find other sites that are useful - please share these with your colleagues. Some keywords for internet searches: interdisciplinary nursing; nursing science; international health care; interdisciplinary health care; interdisciplinary teams; interdisciplinary health organizations.

**メッセージ ASSIGNMENTS** Assignment No 1, due on October 20 (15 marks) Working in groups: Find an international journal article written in English that describes in depth some aspect of interdisciplinary health care (practice or research). At least one of the authors of the article should be a nurse. 1. In about 60 words briefly summarise this article (do not copy the abstract - try to use the words of the group). 2. Briefly explain two important issues about interdisciplinary health practice or research discussed in the article (do not copy the article - try to write it in the words of the Group) 3. Discuss one of these issues in 100 words, making sure the opinions of the Group are included. Assignment No 2, due November 10 (15 marks) Working in groups assigned in class, access the World Health Organization (W.H.O.) homepage or some other internet site. Look for information about a major international, interdisciplinary attempt to address a global or international health issue: Write a paper of at least 200 words that : & # 8226; Lists the disciplines involved in the health care issue; & # 8226; Outlines the issue they were trying to address; and & # 8226; The outcomes or proposed outcomes of

their work. (10 marks) Guidelines for Both Assignments: 1. Assignments must be handed in on due date. 2. All the names and numbers of all the students in the Group must be included, names written in Romaji. 3. All assignments must be typed and double spaced. 4. Where information or ideas have been taken from literature these must be fully referenced according to information given in class. 5. Photocopy the article and hand in a copy with your assignment (this will be returned to your Group) 6. Give a full reference for the article (authors ' last names and initials) year of publication, the title of the article, the journal it was published in, the volume and index number and page numbers of the article). All references to any other literature must also be fully referenced Marks will be awarded for: & # 8226; Presentation of assignment (neatness, correct word limit, use of references) & # 8226; Relevance of the paper to topic & # 8226; Each question/point being answered & # 8226; Depth of analysis of answers Assessment of Role Play on November 24 (25 marks) Role play topics and guidelines will be given to Groups in class. Marks will be given for evidence of: 1. Good leadership 2. Good communication and interdisciplinary collaboration 3. Good conflict resolution 4. A creative approach to researching and solving the problem

備考 集中授業

開設科目	高度先進医療看護学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	山勢博彰, 清水昭彦				

授業の概要 高度先進医療の具体例を紹介し、それにかかわる看護の役割を教授する。また、高度医療にまつわる問題についても、看護の立場で考察できるようにする。/ 検索キーワード 高度先進医療、看護、医療倫理

授業の一般目標 1、高度先進医療と看護の関わりについて理解する。2、高度先進医療の具体例について説明できる。3、高度先進医療にまつわる問題について認識し、考察できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1、高度先進医療の概要について説明できる。2、主に集中治療、循環器領域、情報ネットワーク医療の場面で行われる高度医療に関する事項について説明できる。3、高度先進医療にまつわる問題について説明できる。4、高度医療にかかわる看護の役割を説明できる。  
 思考・判断の観点：1、脳死臓器移植を例に、高度医療がもたらす倫理的問題について考察できる  
 関心・意欲の観点：1、最先端医療について関心を持つことができる。

授業の計画（全体） 知識に関する教授は講義形式で行う。スライド等を用い、医療の実際をビジュアルに教授できるように考えている。また、脳死臓器移植に関する問題を題材に、グループディスカッションを通して考察できるようにする（レポート課題あり）。最後の授業では、まとめとしてテストを実施する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 高度先進医療と看護 内容 高度先進医療とは 高度先進医療における看護の役割（看護の専門化を含む）
- 第 2 回 項目 人工臓器 内容 人工臓器とは（人工肺、人工肝臓、人工血管、補助人工心臓、バイオマテリアルなど）人工臓器による医療の現状 人工臓器医療に関する看護のポイント
- 第 3 回 項目 臓器移植 内容 肝移植、腎移植、肺移植、心移植、ES細胞などの現状と医学的方法論 レシピエントの管理と看護 ドナーの管理と看護 臓器移植ネットワークについて
- 第 4 回 項目 臓器移植と脳死問題 1 内容 脳死臓器移植は必要か？（グループディスカッション）
- 第 5 回 項目 臓器移植と脳死問題 2 内容 脳死臓器移植は必要か？（グループディスカッション）
- 第 6 回 項目 臓器移植と脳死問題 3 内容 脳死臓器移植の現状と課題 脳死臓器移植に関する倫理的問題 脳死患者の看護と家族ケア
- 第 7 回 項目 集中治療下でおこなわれる主たる高度医療 1 内容 血液浄化法と看護 人工呼吸療法と看護 IABP、PCPS など
- 第 8 回 項目 集中治療下でおこなわれる主たる高度医療 2 内容 各種 ME 機器について ME 機器の管理 人工呼吸器の管理と看護
- 第 9 回 項目 集中治療下でおこなわれる主たる高度医療 3 内容 低体温療法と看護
- 第 10 回 項目 循環器領域での高度先進医療 内容 心不全と致死性不整脈
- 第 11 回 項目 情報ネットワークを利用した医療 内容 遠隔治療の現状と課題
- 第 12 回 項目 高度医療と医療費 内容 厚生労働省で承認されている高度先進医療とは 高度医療と医療費の問題
- 第 13 回 項目 まとめ 内容 まとめ 試験
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 試験を実施し、その結果と授業課題レポートを合わせて評価する。出席が所定の回数に満たない場合は、単位認定はできない。

教科書・参考書 教科書：教科書の指定はない。



開設科目	危機管理看護学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山勢博彰				

授業の概要 本授業では、「危機」をキーワードに現代社会における看護の役割について探求する。まず、危機管理に関する理解を深めるために基本的な事項について概説し、以後は提示する事例を基にグループ討議を中心に進める。

授業の一般目標 1. 対象が体験する様々な危機を認識する 2. 危機管理の基礎理論について理解を深める 3. 危機管理に関心を深め、主体的に考える姿勢を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 看護分野における様々な危機の状況・背景について説明できる 2. 危機理論に対する基礎知識を深めることができる 思考・判断の観点： 1. 危機の背景や危機回避について自分の考えを述べるができる 関心・意欲の観点： 1. 危機に関する関心を広げ、問題意識を高めることができる 態度の観点： 1. 日常生活の中で危機意識の醸成を図り、危機回避を図ることができる 技能・表現の観点： 1. 事前学習により討議のための準備ができる 2. 他人の意見を尊重し、協調的・建設的な議論が行える

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 看護と危機
- 第 2 回 項目 危機理論とは 1
- 第 3 回 項目 危機理論とは 2
- 第 4 回 項目 危機モデルの説明と実践での活用例
- 第 5 回 項目 危機モデル適応上の問題点、災害時の精神看護
- 第 6 回 項目 危機管理システム/医療経営と危機管理
- 第 7 回 項目 危機管理システム/働く人のための危機管理
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書：印刷物資料を別途準備する / 参考書：授業進度に応じ、随時紹介する

開設科目	リエゾン精神看護学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山根俊恵				

授業の概要 身体の病気で入院している患者で、一般の看護師では理解しがたい反応や行動をとる人に対し精神看護学の知識と技術を用いて問題の改善をするための介入方法について理解を深める。また、看護師のストレスとメンタルヘルスに与える影響について理解し、その支援方法を学ぶ。 / 検索キーワード リエゾン精神看護 コンサルテーションリエゾン 精神看護

授業の一般目標 1. リエゾン精神看護の役割および機能について理解する. 2. 身体を病む人への精神的ケアの重要性を理解する. 3. リエゾン精神看護活動に用いる看護ケア技術の基礎を理解できる. 4. 看護師のメンタルヘルス支援について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：リエゾン精神看護について、その機能および看護者の役割を理解できる 患者のニーズに応じた適切なケアが理解できる 思考・判断の観点：患者の精神的な局面を理解し、その人のニーズに沿った看護ケアを考えることができる 関心・意欲の観点：身体を病む人の精神看護の必要性とその方法について関心を持つ 態度の観点：演習を通じて学生個人の意見を述べることができ、また他の学生とのディスカッションを通じて患者の持つ精神的な問題とその看護について考える 技能・表現の観点：適切な方法でプレゼンテーションができる

授業の計画（全体） 講義および演習形式で進める 必要に応じて資料等を配布する

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 リエゾン精神看護 とは 1
- 第 2 回 項目 リエゾン精神看護とは 2
- 第 3 回 項目 リエゾン精神看護師の行うアプローチ
- 第 4 回 項目 精神的問題を抱える患者のアセスメント
- 第 5 回 項目 医療従事者のストレス
- 第 6 回 項目 医療現場で見られる精神的問題（演習）
- 第 7 回 項目 医療現場で見られる精神的問題（演習）
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

教科書・参考書 参考書：プリントを配布する

連絡先・オフィスアワー miyu@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	小児看護学実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	辻野久美子				

授業の概要 小児科病棟および保育所で、小児看護の実習を行う。病棟実習では、健康を損ない入院を余儀なくされた小児に対して看護を行い、実施した看護について考察する。受け持った患児の看護を通して小児の特性を理解し、入院が小児および家族におよぼすさまざまな影響や看護支援について洞察を深める。また小児看護に必要な知識・技術の習得に努め、小児看護の実践能力を養う。保育所実習では実際に保育活動に参加して子どもと触れ合い、健康な子どもの成長・発達や日常生活の様子などを観察し、小児看護の対象である子どもの理解に役立てる。 / 検索キーワード 小児看護学、実習、小児科病棟、保育所、看護実践能力、保育活動

授業の一般目標 小児科病棟実習；小児看護の対象を理解し、看護実践能力を養う。(1) 受け持ち患児に看護を展開し、実施した看護について考察する。(2) 小児期の疾病・障害の特徴を理解し、看護に必要な知識・技術を習得する。(3) 疾病や障害、入院が小児や家族に及ぼす影響について理解し、看護の役割がわかる。(4) 健康を障害された小児に対する保育(遊び、しつけを含む)の重要性を理解し、実践できる。(5) 入院中、小児が遭遇しやすい事故と安全対策・指導・環境整備について理解する。(6) 小児看護における福祉施策とその適用について学ぶ。 保育所実習；保育に参加し、健康な小児を理解する。(1) 保育に参加し、子どもと触れ合う。(2) 健康な子どもの成長・発達段階を理解する。(3) 小児各期の成長・発達に応じた保育について理解する。(4) 基本的な生活習慣の獲得を目指した育児、しつけ、生活指導について理解する。(5) 小児が遭遇しやすい事故と、安全対策・指導・環境整備について理解する。(6) 家庭との連携について理解する。

授業の計画(全体) 「小児看護学実習要項」を配布します。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目「小児看護学実習要項」を参照して下さい。内容「小児看護学実習要項」を参照して下さい。授業外指示「小児看護学実習要項」を参照して下さい。

第 2 回

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

第 16 回

第 17 回

第 18 回

第 19 回

第 20 回

第 21 回

第 22 回

- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法 (総合) 実習に対する意欲・取り組み方、看護学生としての態度、および看護実践能力を習得するための努力について、実習中のプロセスを重要な評価項目とする。具体的な評価内容については、小児看護学実習要項を参照のこと。

教科書・参考書 教科書：小児看護学, 岡田洋子・荃津智子・佐藤雅子・井上由紀子, 医歯薬出版株式会社, 2002 年；小児看護学 2, 岡田洋子・荃津智子・佐藤雅子・井上由紀子・菅野予史季, 医歯薬出版株式会社, 2002 年；ナースとコメディカルのための小児科学, 白木和夫, 高田哲編集, 日本小児医事出版社, 2006 年 / 参考書：小児の看護アセスメント, ジョイス・エンゲル(塚原正人監訳), 医学書院, 2001 年；受け持ち患児の疾患に関する病態・治療・看護について、各種雑誌の特集号、インターネットを活用して事前学習して下さい。昨年作製した「紙芝居」等の作品を、受け持ち患児の看護に役立てて下さい。

メッセージ 実習期間が短いので、予習・復習を十分に行い、積極的に実習して欲しいですね。子どもが苦手な人は、いろいろ工夫して子どもと関わり、苦手意識を克服してください。教員も実習指導者もサポートしますが、主体は皆さんです。頑張りましょう！

連絡先・オフィスアワー 辻野久美子 tsujino@yamaguchi-u.ac.jp 村上京子 k.mura@yamaguchi-u.ac.jp に連絡してください。

開設科目	看護遺伝学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	辻野久美子・村上京子・飯野英親				

授業の概要 遺伝医療の進展に伴い、現場では遺伝性疾患、染色体異常、家族性腫瘍などをもつクライアントをケアする機会が増えている。このような状況の中で、適切な看護ケアを行うために、看護師は遺伝に関する基礎知識と実践能力をもつことが要求される。本授業では、臨床現場で遺伝的諸問題に対処できるような知識・能力を学ぶ。/ 検索キーワード メンデル遺伝病、染色体異常、遺伝看護、遺伝カウンセリング

授業の一般目標 1. 先天異常について説明できる。 2. 単一遺伝子病の遺伝形式を理解し、疾患にはどのようなものがあるかを説明することができる。 3. 染色体とDNA・遺伝子との関係を理解し、説明することができる。 4. 染色体異常と単一(メンデル)遺伝子病の違いを説明することができる。 5. 遺伝カウンセリングについて説明できる。 6. 遺伝的ケアについて説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：先天異常について説明できる。遺伝現象と遺伝病について説明できる。遺伝性疾患をもつクライアントに対するケアについて理解できる。遺伝カウンセリングについて説明できる。 思考・判断の観点：遺伝性疾患を遺伝看護学的視点から考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 遺伝看護について 内容 遺伝看護の役割, 看護基礎教育における遺伝看護の位置づけ
- 第2回 項目 DNA・遺伝子・染色体 内容 DNA・遺伝子・染色体の関係
- 第3回 項目 遺伝形式 内容 メンデル遺伝形式(常染色体優性・劣性、X連鎖優性・劣性)、多因子遺伝
- 第4回 項目 遺伝性疾患と看護 内容 遺伝看護ケア
- 第5回 項目 染色体異常と看護 内容 遺伝看護ケア
- 第6回 項目 遺伝カウンセリング 内容 遺伝カウンセリングの実際
- 第7回 項目 遺伝看護における家族支援 内容 遺伝看護ケア
- 第8回 項目 筆記試験 内容 試験
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) レポート、試験、出席率などによる(単位認定の最低条件: 総授業数の2/3以上の出席およびレポート提出)

教科書・参考書 教科書: 遺伝看護, 安藤広子・塚原正人・溝口満子編, 医歯薬出版, 2002年

メッセージ 遺伝現象の神秘・不思議さを学び、遺伝病を持つ人への温かい思いやりを身につけて欲しい。

開設科目	助産学実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	6単位	開設期	前期
担当教官	田中満由美・戸部郁代・田中奈美・山元公美子				

授業の概要 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、学内で学んだ助産診断および助産技術に必要な知識と技術を向上させ、実践できる能力を育成する。学生が実習を通して母性観・父性観・生命観を養い、助産のあり方と職業アイデンティティの形成が図れるようにする。/ 検索キーワード 助産過程の展開、助産診断、内診、分娩介助、乳房管理、家庭訪問、電話訪問、集団指導、個人指導

授業の一般目標 周産期における母子とその家族に対する助産過程の展開を通して、学内で学んだ助産診断および助産技術に必要な知識と技術を向上させ、実践できる能力を習得する。実習を通して自らの母性観・父性観・生命観を養い、助産のあり方と職業アイデンティティの形成を図る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：助産診断の根拠が述べられる。問題点を指摘し、優先順位を決定できる。関係書類の記載方法が理解できる。思考・判断の観点：適切な方法で得た情報を診断・予測することができる。助産過程の評価ができ。分娩介助の評価ができる。関心・意欲の観点：助産活動を通して助産師の役割と責任を認識し、言葉に出る。母性観・父性観・生命観についての発言がある。助産管理の視点から発言がある。態度の観点：実際に母親学級を展開できる。計画・実践ができる。妊娠・分娩体験を産婦と共に想起できる。対象・その家族・スタッフ等とコミュニケーションがとれる。技能・表現の観点：正常分娩の方の分娩介助を手順に従って、一人で行うことができる。分娩経過が正常から逸脱した場合は、分娩の介補ができる。乳房マッサージの自己管理を指導することができる。乳房マッサージを行うことができる。退院指導を行うことができる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 実習期間:6/24～8/1 まで 施設:5 施設中、指 定されたいずれ か 1 施設 実習要項参照
- 第 2 回
- 第 3 回
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書：助産学体系 1～12, 青木康子他, 日本看護協会出版会, 2007 年；今日の助産, 北川真理子他, 南江堂, 2007 年；看護のための医学講座第 2 版産科疾患, 日野原重明, 中山書店, 2007 年 / 参考書：マタニティ診断ガイドブック, 日本助産診断・実践研究会, 医学書院, 2007 年；臨床看護技術 (母性・小児編)-その手順と根拠-, 内山和美他, メヂカルフレンド社, 2007 年

メッセージ (1) 詳細は助産学実習要項を参照すること。(2) オリエンテーションには必ず出席すること。(3) 分娩介助・乳房管理・沐浴等の演習は事前に徹底して行っておくこと。(4) 事前学習が不十分である場合は実習中止になることがあります。(5) 助産診断は徹底して事前学習しておくこと。(6) 24 時間体制で 6 週間の実習なので、健康管理に十分注意すること。

連絡先・オフィスアワー 田中満由美 : E-mail tanakama@yamaguchi-u.ac.jp, 研究室 22-2821 戸部郁  
代:22-2825 田中奈美:22-2819 山元公美子:22-2819

開設科目	老年看護学実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	3単位	開設期	前期
担当教官	医学部事務				

授業の概要 老年看護学実習を通して、病院、施設、地域を問わず、高齢者および家族に対して、QOLの向上を目指した看護の展開を行う。 / 検索キーワード 老年看護学実習, 在宅看護学実習, 生活機能, 看護の継続, 他職種との連携, 支援システム

授業の一般目標 1. 老化と加齢変化に伴う高齢者の特性を理解し, 高齢者の生活機能を支えるための個別的な援助方法を学ぶ。 2. 高齢者および家族を支援するための看護の継続, 他職種との連携・協働, 支援システムに果たす看護者の役割について学ぶ。 3. 施設および地域で生活する高齢者を通して, 生きがいおよび QOL を維持・向上させるための方策について学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 老化や疾病に伴う健康上の問題を持つ高齢者の身体的, 精神・心理的, 社会的側面からの情報を基に, 個別的な生活像を説明できる。 2. 高齢者の心身の苦痛を理解するとともに, 事故や二次障害を予測し, 機能低下を予防するとともに, 安全で安楽な療養生活が送れるよう援助できる。 3. 高齢者の個性を踏まえた上で, その人に適した自立への援助ができる。 4. 高齢者や家族(介護者)の立場に立って理解しようとする態度をとることができる。 5. 高齢者や家族(介護者)に対する自己の関わり(看護)を振り返ることができる。 6. 受け持ちの高齢者を通して継続看護に継続看護について考え, 保健・医療・福祉の連携・協働, 支援システムのあり方, 看護管理などに果たす看護者の役割が説明できる。 7. 施設および地域の高齢者を通して, 生きがいおよび QOL を維持・向上させるための方策について説明できる。 思考・判断の観点: エビデンスに基づいた思考ができる。

関心・意欲の観点: 1. 高齢社会の現状と課題について理解する。 高齢者および家族に関して広く知識を探究する姿勢を身につける。 態度の観点: 高齢者および家族の看護を行うにたる態度を身につける。 技能・表現の観点: 1. 安全・安楽な技術を提供できる。 2. 高齢者とコミュニケーションを十分に図ることができる。

授業の計画(全体) 詳細は実習指導要項を参考にしてください。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 高齢社会の現状および高齢者、家族について理解する。 内容 老年看護の展開
- 第 2 回 項目 高齢者および家族への看護の展開を行う。 内容 老年看護の展開を行う。
- 第 3 回 項目 高齢者を取り巻く地域ケアシステムおよびサービスについて理解する。 内容 高齢者ケアに関わる多くの部門で実習を行う。
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 老年看護学実習に必要な知識・技術・態度を総合的に評価する。規定の成績および出席日数に満たない場合は、単位を得ることができないので、注意して下さい。



教科書・参考書 教科書：・老年看護学，在宅看護学の講義で使用したテキストを参照のこと。・適宜，紹介します。 / 参考書：高齢者ケア「疑問すっきり」便利事典，阿部芳江編集，金芳堂，2006年；適時紹介します。

メッセージ 既習の学習の統合をしながら、積極的、意欲的に実習に臨んで下さい。学外の実習となりますので、時間厳守、健康に留意し、事故などにも十分注意のこと。実習ガイダンスの時に指導要綱にそって、詳しく説明します。

開設科目	地域看護学実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	3単位	開設期	前期
担当教官	守田孝恵・山崎秀夫・高橋郁子・檀原三七子・小野順子				

授業の概要 あらゆる健康レベルにある地域住民を対象とした地域保健活動を、各実習施設における活動から理解し、地域看護活動の看護過程の展開として統合する。

授業の一般目標 1. 保健所や市町村で行われている地域保健活動の展開プロセスを習得できる。 2. 各領域における保健事業や疾病対策の実際が理解できる。 3. 保健師活動に用いられる様々な技術について実践を通して習得できる。 4. 保健所と市町村の役割と機能を考察できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 地域保健に関する法的根拠や事業の成り立ち、実施状況をとおして、地域看護過程の展開が結びつけられる。 思考・判断の観点： 地域診断ができる。 関心・意欲の観点： 実習を主体的に実施できる。 態度の観点： 誠実に取り組む。 技能・表現の観点： 実習記録に適切に記述する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 健康福祉センターの業務と保健師活動
- 第 2 回 項目 健康福祉センターの業務と保健師活動
- 第 3 回 項目 健康福祉センターの業務と保健師活動
- 第 4 回 項目 健康福祉センターの業務と保健師活動
- 第 5 回 項目 健康福祉センターの業務と保健師活動
- 第 6 回 項目 市町村保健センターの業務と保健師活動
- 第 7 回 項目 市町村保健センターの業務と保健師活動
- 第 8 回 項目 市町村保健センターの業務と保健師活動
- 第 9 回 項目 市町村保健センターの業務と保健師活動
- 第 10 回 項目 市町村保健センターの業務と保健師活動
- 第 11 回 項目 市町村保健センターの業務と保健師活動
- 第 12 回 項目 市町村保健センターの業務と保健師活動
- 第 13 回 項目 市町村保健センターの業務と保健師活動
- 第 14 回 項目 市町村保健センターの業務と保健師活動
- 第 15 回 項目 市町村保健センターの業務と保健師活動

成績評価方法（総合） 事前学習、実習内容、カンファレンスへの参加、記録、自己評価にそった面接評価

開設科目	看護学卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	看護学専攻の教授、准教授、講師				
<p>授業の概要 看護学専攻の学習を通して抱いた疑問点や興味について、その科学的根拠を探究する過程を通して研究目的、研究方法、研究上の倫理、研究のまとめ方等について教授する。/検索キーワード 看護研究</p> <p>授業の一般目標 1. 看護研究の必要性が理解できる。 2. 既存の研究成果から批判的思考を習得できる。 3. 疑問・課題を考え研究プロセスを理解し、研究成果を論文としてまとめることができる。</p> <p>授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 看護実践や看護学の発展における関連性を説明できる。 2. 倫理的配慮を説明できる。 3. 研究プロセスを理解できる。 4. 研究の妥当性を確保する方策を理解できる。 5. 研究論文がどのように構成されているかを理解できる。 思考・判断の観点： 1. 先行研究の応用・活用可能性を説明できる。 2. 倫理的配慮を説明できる。 3. 適切な研究デザインを選択することができる。 4. 妥当性確保のための工夫・配慮を説明できる。 5. 研究の意義・限界、今後の提案を述べることができる。 関心・意欲の観点： 1. 研究疑問・研究課題に対して、アサーティブに議論できる。 2. 研究に対する今後の関わりを示すことが出来る。 態度の観点： 1. 主体的に行動できる。 2. 倫理的配慮を実施できる。 技能・表現の観点： 1. 自らの意見・考えを論理的に記述・口述できる。</p> <p>授業の計画(全体) 学生が選択した研究課題に対して、担当教官は、以下の内容を看護学専攻の指導ガイドラインに基づいて指導する。(1)看護に関連する自らの研究疑問を明確にすることができる(2)文献レビューができる(3)研究課題、研究目的、研究(概念/理論)枠組みの設定ができる(4)研究仮説を設定できる(量的研究)(5)研究課題・目的に応じた研究デザインの設定ができる(6)適切な標本抽出および標本サイズの設定ができる(7)研究目的に応じたデータ収集法の選択とデータ分析の計画ができる(8)研究計画書に必要な項目を理解し、計画書の作成ができる(9)データ収集ができる(10)適切なデータ分析法の決定と結果の提示ができる(11)適切な結果の解釈、行った研究の看護への意義、研究の限界、今後の提案を示すことができる(12)研究の公表の意義とその方法を理解し、研究成果を文章化できる(13)研究における倫理的配慮の重要性と具体的内容を説明でき、実践できる</p> <p>授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等</p> <p>第1回 項目 オリエンテーション 内容 授業の目標と進め方、成績評価の方法など その他、各担当教官の指導に従う。 授業外指示 導各担当教官の指に従う 授業記録 導各担当教官の指に従う</p> <p>第2回</p> <p>第3回</p> <p>第4回</p> <p>第5回</p> <p>第6回</p> <p>第7回</p> <p>第8回</p> <p>第9回</p> <p>第10回</p> <p>第11回</p> <p>第12回</p> <p>第13回</p> <p>第14回</p> <p>第15回</p> <p>成績評価方法(総合) 1. 看護卒業研究に取り組む姿勢、意欲、倫理性 20% 2. 研究プロセスの理解(上記目標の1~13) 50% 3. 研究論文の内容 30%</p>					

教科書・参考書 教科書：特に指定はしない 参考資料は要項を参照

連絡先・オフィスアワー 各担当教官

# 検査技術科学専攻

開設科目	環境衛生学	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	常岡英弘				

授業の概要 環境衛生学は、保健学科のカリキュラム編成に当たり、公衆衛生学の一分野であったものが独立した授業科目である。環境問題は 1970 年代の公害防止対策から環境影響評価、さらに地球環境問題、廃棄物や自動車公害等へと変化してきた。看護師、保健師としての立場で、身近な居住環境から地球規模の人間居住環境に至るまでの環境を説明し、さらに環境と人の健康との関わりを説明する。また食中毒や食品添加物等の食品衛生についてもこの授業で説明する。 / 検索キーワード 健康、公衆衛生、環境衛生、産業衛生、食品衛生

授業の一般目標 (1) 水環境の変化と健康影響を理解する。(2) 大気環境の変化と健康影響を理解する。(3) 物理的環境の変化と健康影響を理解する。(4) 産業職場の環境変化と健康影響について理解する。(5) 地球規模の環境変化と健康影響について理解する。(6) 栄養と健康について理解する。(7) 食品衛生と健康について知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 水環境の変化と健康影響を説明できる。(2) 大気環境の変化と健康影響を説明できる。(3) 物理的環境の変化と健康影響を説明できる。(4) 産業職場の環境変化と健康影響について説明できる。(5) 地球規模の環境変化と健康影響について説明できる。(6) 栄養と健康について説明できる。(7) 食品衛生と健康について説明できる。 思考・判断の観点：環境が及ぼす人の健康について自分の意見を述べる事が出来る。 関心・意欲の観点：生活の中での環境問題に関心をひろげ、問題意識を高めることができる。 態度の観点：日常生活の中で環境問題について主体的に考えることができる。 技能・表現の観点：地球環境問題について説明・プレゼンテーションすることが出来る。

授業の計画(全体) 授業は毎回プロジェクトを用いる。宿題を出した場合、レポート提出する。最後の宿題は地球環境問題についてを課し、数人の学生にパワーポイントによる発表をしてもらう予定である。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 環境衛生概論
- 第 2 回 項目 生活環境と健康：上水
- 第 3 回 項目 生活環境と健康：下水、廃棄物
- 第 4 回 項目 室内環境
- 第 5 回 項目 環境保健：大気汚染
- 第 6 回 項目 環境保健：水質汚濁
- 第 7 回 項目 騒音、振動
- 第 8 回 項目 I . 産業職場の環境衛生(産業衛生)
- 第 9 回 項目 II . 産業職場の環境衛生(産業衛生)
- 第 10 回 項目 栄養
- 第 11 回 項目 食品衛生
- 第 12 回 項目 電磁波と健康
- 第 13 回 項目 地球環境
- 第 14 回 項目 その他
- 第 15 回 項目 その他

成績評価方法(総合) 期末試験で主に評価するが、出席状況、宿題レポート提出状態、レポート内容、授業内でのプレゼンテーションも加味して総合評価する。

教科書・参考書 教科書：公衆衛生学, 眞野喜洋, 医歯薬出版株式会社, 2006 年

連絡先・オフィスアワー htsune@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：医学部保健学科 4 階

開設科目	検査機器学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	石川敏三				

授業の概要 近年、臨床検査領域では、その機械化や新しいセンサおよび人体機能を模倣した様々な機器・装置が、目ぐるしく開発されている。そこで、講義で物理、化学的基本知識の医療における応用の原理や実際の習得に加え、開発能力も身につけるさせることが重要である。

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ガイダンス（本講義の目標と概要）
- 第 2 回 項目 1．共通検査等機器について
- 第 3 回 項目 秤量装置：天秤、計量器（計測、精度）
- 第 4 回 項目 分離装置：遠心分離器、濾過装置，恒温装置
- 第 5 回 項目 測光装置：光学の基礎について
- 第 6 回 項目 測光装置各論（分光、原子吸光、炎光、蛍光光度計）
- 第 7 回 項目 顕微装置
- 第 8 回 項目 電気化学装置
- 第 9 回 項目 精製水製造装置
- 第 10 回 項目 2．検査機器の実際について
- 第 11 回 項目 自動分析
- 第 12 回 項目 電気泳動法
- 第 13 回 項目 血液検査用機器
- 第 14 回 項目 微生物検査用機器
- 第 15 回 項目 搬送システムと将来の自動化など まとめ

教科書・参考書 教科書：検査機器総論，三村邦裕、ほか，医歯薬出版，2005年；検査機器学の理論と実際，石川敏三，自主出版，2002年

メッセージ 全ての専門科目に繋がるので、基礎を大切にし、学習すること。又、いつも工夫して新しいもができないかを探る習慣・発想を身につけさせたい。

連絡先・オフィスアワー medlibn@yamaguchi-u.ac.jp 16：00～20：00

開設科目	形態学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	友永進, 福本哲夫, 澤田知夫				

**授業の概要** ヒトを正しく理解するための第一歩は、人体の構造と機能を理解することから始まる。この授業の目的は、人体の構造の概要を学修し、それを理解することである。従って、この授業科目は、医療分野の専門基礎教育として極めて重要なものである。また、この授業では、英語で記述された教科書を用いる。それは、人体の構造の理解と同時に医学英語にも精通することを目指すためである。授業時間が限られているため、授業外の学修に期待する部分が多い点にも留意願いたい。/ 検索キーワード human body, anatomy

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** To learn the structure and function of the cells and tissues. To learn organ systems of the human body. To learn the skeletal and muscular system of the human body. To learn the nervous system of the human body. To learn the cardio-vascular system of the human body. To learn the visceral system of the human body. To learn the development of the human body.

**思考・判断の観点:** To learn the structure and function of the cells and tissues. To learn organ systems of the human body. To learn the skeletal and muscular system of the human body. To learn the nervous system of the human body. To learn the cardio-vascular system of the human body. To learn the visceral system of the human body. To learn the development of the human body.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 Cell and Tissues 内容 Structure and function of cells and four types of tissues: (1) Cells and cell organelles(2) Four types of Tissues(a) Epithelial tissue(b) Connective tissue(c) Muscular tissue(d) Nervous tissue 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize structure and function of cell and its organelles.
- 第 2 回 項目 Organ system 内容 Structural and functional characteristics of each organ system will be described. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize characteristics of each organ system
- 第 3 回 項目 Integumentary system 内容 Summarize characteristics of each organ system 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize characteristics of each organ system.
- 第 4 回 項目 Skeletal System 内容 1) Macro-anatomical and microscopic structure of the bone.2) Structure and function of joints. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review all types of human bones.
- 第 5 回 項目 Muscular System 内容 1) Three types of muscles.2) Details of the skeletal muscles: (1) Distribution in the human body; (2) Innervation of skeletal muscles; (3) Function of the major skeletal muscles. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Read/Review additional printed matters distributed. Review the function of your major skeletal muscles during through your daily activities.
- 第 6 回 項目 Blood and The Circulatory System 内容 1) Blood: its cellular constituents.2) Blood Vascular System: (1) Heart; (2) Artery; (3) Vein; (4) Capillary 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Describe a simplified heart in your notebook and fill out names of rooms/spaces and blood vessels. What is the portal vein?What is a sinus in Dura Matter?
- 第 7 回 項目 The Lymphatic System and Immunity 内容 1) Lymphatics, 2) Lymphocytes, Lymphatic Tissues and Immunity 授業外指示 Read thoroughly the particular chapter of the textbook. What is a function of the thymus? Describe characteristics of the lymphocytes.
- 第 8 回 項目 The Nervous System (1) 内容 Cranial Nerves and Spinal Nerves 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize the function of each cranial nerve. Describe a rough distribution of spinal nervous plexuses.



- 第 9 回 項目 The Nervous System(2) 内容 Brain and Spinal Cord 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Summarize classification of the brain. Summarize the cerebral ventricular system; production and circulation of cerebrospinal fluid. What is the blood brain barrier?
- 第 10 回 項目 Viscera and The Respiratory System 内容 1) Characteristics of the hole organ and the parenchymatous organ, 2) The Respiratory Organs: (1) Respiratory Tract; (2) Lung 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review examples of the hole organ. Review examples of parenchymatous organ.
- 第 11 回 項目 The Digestive System 内容 1) Alimentary Canal, 2) Digestive Glands Read the textbook thoroughly. Review the common characteristics among the respiratory tract and the digestive canal.
- 第 12 回 項目 the Urinary System 内容 1) Kidney, 2) Urinary Tract 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review the difference of the respiratory- digestive tracts from the urinary tract. What is the blood urine barrier?
- 第 13 回 項目 The Reproductive System 内容 1) Male Reproductive Organs: (a) Testis, and Female Reproductive Organs; Ovary, Uterus, 授業外指示 Read the textbook thoroughly. Review the origin of primordial germ cells. What is the perineum?
- 第 14 回 項目 Growth and Development 内容 1) Fertilization, 2) Embryogenesis, 3) Organogenesis. What is blood placenta barrier? Review the relationship between the organogenesis and malformation. 授業外指示 Read the textbook thoroughly. What is blood placenta barrier? Review the relationship between the organogenesis and malformation.
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書： Structure and Function of the Body 12th Edition, Thibodeau,GA, & Patton, KT, Mosby, 2004 年 / 参考書： 入門人体解剖学, 藤田恒夫, 南江堂； 人体解剖学 42 版, 藤田恒夫, 南江堂, 2000 年； ナース版医学事典, ステッドマン, メジカルビュー, 1999 年

連絡先・オフィスアワー tomonaga@yic.ac.jp 0836-45-1000

開設科目	解剖学入門	区分	講義	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	服部幸夫・野垣宏・清水昭彦				

授業の概要 保健学科の授業は人体の構造を基礎に形作られている部分が多い。したがって、解剖学用語が解っていないと学習が捗らない。しかも、実際の医療では解剖学用語は日本語だけでなく、しばしば英語が使われる。この現実面を踏まえて、後期の「形態学」講義は英語の教科書を用いて授業がなされる。しかし、急に英語の専門用語が出てきても戸惑うことが予測されるので、その入門編を前期に行なう。 / 検索キーワード 解剖学

授業の一般目標 人体の各部位名を日本語と英語で覚える。教科書の説明を読み、機能を理解しながら覚える。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：人体の肉眼的構造を理解する 思考・判断の観点：人体の構成と、それがいかなる機能を行っているか、を理解する 関心・意欲の観点：人体はいわば小宇宙ともいえる。その入り口に立っていることを自覚し、これからの医学知識獲得への関心を持つ。 態度の観点：医学/医療には膨大な知識が必要とされる。これを理解して初めてまともな医療従事者が成立する。そのためには真摯に努力を重ねる態度が求められる。また同時に、常に医学を「科学」として眺める態度が医療従事者としての職務を豊かにしてくれる。 態度の観点：医学/医療には膨大な知識が必要とされる。これを理解して初めてまともな医療従事者が成立する。そのためには真摯に努力を重ねる態度が求められる。また同時に、常に医学を「科学」として眺める態度が医療従事者としての職務を豊かにしてくれる。

授業の計画(全体) 人体の構造(位置関係、名前)を頭にたたき込んで戴きます。多くのイラストを見ながら学びます。学生さんはデジタル化された「からだの地図帳」を電子辞書で英語の発音をさせながら正しい発音で脳に刻みつけてください。その作業を自分でやって授業に臨みます。授業はポストテスト形式で始まります。これは完全にIT化されており、コンピューターに解答を記入し教官へE-mailで送ります。専門用語のリスニングも含まれています。これが授業の2/3を占めます。残りの1/3は短時間で今回の指定範囲のoverviewあるいはビデオを放映する予定です。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション(概要、ソフトのインストールなど) 内容 パソコンを持っていれば、持参する。
- 第 2 回 項目 (1) 頭と首には何があるか、(2) 頭蓋と頭の血管、(3) 脳と脊髄(2)、(4) 眼
- 第 3 回 項目 (1) 耳、(2) 鼻、(3) 口腔と歯、(4) 咽頭と喉頭、(5) 胸部には何があるか
- 第 4 回 項目 (1) 肺と気管、気管支(2)、(2) 肺胞とガス交換、(2) 呼吸に関する筋肉、(3) 心臓
- 第 5 回 項目 (1) 心臓を養う血管、(2) 心拍動リズムと心周期、(3) 乳房 (4) 腹部には何があるか、(5) 食道
- 第 6 回 項目 (1) 胃と十二指腸(2)、(2) 小腸、大腸、肛門、(3) 消化と吸収、(4) 肝臓(2)、
- 第 7 回 項目 (1) 胆嚢と膵臓、(2) 脾臓、(3) 腎臓(2)、膀胱と尿道
- 第 8 回 項目 (1) 男性生殖器、(3) 女性生殖器(2)、(4) 月経のメカニズム、(5) 妊娠の成立
- 第 9 回 項目 (1) 上肢と下肢の骨と筋肉、(2) 肩関節、(3) 肘関節と手の関節、(4) 股関節と膝関節、(5) 足の関節
- 第 10 回 項目 (1) 上肢の血管、(2) 下肢の血管、(3) 上肢の神経、(4) 下肢の神経
- 第 11 回 項目 (1) 筋肉(2)、(2) 骨と関節(2)
- 第 12 回 項目 (1) 皮膚と毛髪(2)、(3) 血液とリンパの流れ(2)、リンパ系
- 第 13 回 項目 (1) 神経(4)、(2) 内分泌器官とホルモン
- 第 14 回 項目 補講
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 本試で評価します。本試はポストテストで学んだ中から出題します。ただし、ポストテストの結果も評価の参考にします。

教科書・参考書 教科書：「からだの地図帳」, 高橋長雄 監修, 講談社, 1989年; 「英辞郎」, 道端秀樹 監修, アルク, 2005年; 「英辞郎」+翻訳の王様 v5 を使って「からだの地図帳」を学びます。 / 参考書：ネッター解剖学アトラス, F.H.Netter, 南江堂, 2004年; Structure & Function of the Body, Thibodeau Patton, Mosby, 2004年; 「ネッター解剖学アトラス」は教科書として完成されたものです。「からだの地図帳」を補完してくれますので、是非購入することを勧めます。

メッセージ 「英辞郎」は医学専門用語も含めた全ての単語(英和/和英,100万語)をカバーする電子辞書(CD)です。「翻訳の王様」(発音つき CD)は単語/英文の発音や英文の長文読解にも役立ちます。他の辞書は不要です。授業はほとんど IT 授業の予定です。毎回、パソコンが必携です。

連絡先・オフィスアワー 服部 : tel/fax 0836-22-2807, E-mail: yhattori@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	生化学	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	2単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	渡部省二				

授業の概要 生物は物質から構成されており、現代の生命科学を理解するためには、まず生物を構成している物質について知らなければならない。本講義では、生物を構成する元素と化合物について説明し、生物がそれらの化合物を、何から、どのように合成して、どのように分解(すなわち、代謝)しているか、また、これらの物質代謝のためのエネルギーを、どこからどのようにして得て、どのように利用しているのか、そのメカニズムについて解説する。なお、DNA、RNA、タンパク合成に関することは分子生物学(2年前期)で行うので本講義ではふれない。/検索キーワード 酵素、代謝、タンパク質、解糖系、アミノ酸、炭水化物、脂質、ATP

授業の一般目標 生体を構成している個々の化合物の化学構造とその化学的性質を理解する。代謝経路の概略を理解し、その調節機構を学ぶ。エネルギー通貨としてのATPの役割を理解し、エネルギー代謝の概略を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 生体を構成している分子における分子内および分子間で働く力を理解する。 2. タンパク質の構造を知り、タンパク質がDNAの遺伝情報をもとにつくられることを理解する。 3. 生命活動の担い手としてのタンパク質の機能を理解する。 4. 糖代謝、脂質代謝、アミノ酸代謝の概略を説明できる。 5. 代謝調節に関与している酵素をあげ、その調節機構の概略を説明できる。 6. ATPの産生機構の概略を説明できる。 7. 重要な補酵素の名称、化学構造、および機能について説明できる。 思考・判断の観点： 生体内の個々の酵素反応が生体全体にとってどのような意味があるか考え、代謝調節(個々の酵素の活性化、不活性化)がせいた全体にどのような影響があるかを判断する。 態度の観点： 予習、復習をし、まじめに授業に取り組む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 化学結合と分子間に働く力
- 第 2 回 項目 酸、塩基と pKa
- 第 3 回 項目 アミノ酸とタンパク質
- 第 4 回 項目 タンパク質の構造
- 第 5 回 項目 ヘモグロビンとミオグロビン
- 第 6 回 項目 酵素反応速度論
- 第 7 回 項目 反応速度論演習
- 第 8 回 項目 試験
- 第 9 回 項目 酵素活性の調節
- 第 10 回 項目 糖の構造
- 第 11 回 項目 解糖系
- 第 12 回 項目 解糖系の調節
- 第 13 回 項目 クエン酸回路
- 第 14 回 項目 電子伝達系と酸化的リン酸化
- 第 15 回 項目 期末試験
- 第 16 回 項目 光合成と光リン酸化
- 第 17 回 項目 ペントースリン酸経路
- 第 18 回 項目 グリコーゲン代謝
- 第 19 回 項目 糖新生
- 第 20 回 項目 脂質の構造
- 第 21 回 項目 脂質代謝：異化
- 第 22 回 項目 試験
- 第 23 回 項目 脂質代謝：合成と輸送

- 第 24 回 項目 尿素回路
- 第 25 回 項目 アミノ酸代謝
- 第 26 回 項目 ヌクレオチドと 核酸
- 第 27 回 項目 ヘム代謝
- 第 28 回 項目 実験技術 ( 1 )
- 第 29 回 項目 実験技術 ( 2 )
- 第 30 回 項目 期末試験

成績評価方法 (総合) 中間試験および期末試験の成績の平均点に、毎回の授業のレポートの提出回数を加算する。

教科書・参考書 教科書: 生化学キーノート, "B.D.Hames, N.M.Hooper", シュプリンガー・フェアラーク東京, 2002 年; 次の URL に講義資料をおいてあるので、各自ダウンロードすること。(この資料は随時更新しているので更新日を注意のこと。)保健学科シラバスからもリンクしている。 [http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po\\_login/menus/lectures\\_menu.htm](http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po_login/menus/lectures_menu.htm)

メッセージ 講義時間にすべてを網羅することは時間的に不可能であるので、各自テキストで予習、復習すること。毎回の授業の内容を A 4 用紙 1 ページ程度にまとめて次回の授業までにレポートとして提出すること。Word で書いて保健学科ホームページのレポート提出へアップロードしてもよい。

連絡先・オフィスアワー shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	細胞診断学演習 I	区分	演習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	尾野緑				

授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。前期は婦人科領域の細胞診について学ぶ。 / 検索キーワード 細胞診 婦人科

授業の一般目標 子宮頸部扁平上皮領域の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 技能・表現の観点： 子宮頸部扁平上皮領域の基礎知識を習得する。

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション・子宮およびその付属器の解剖組織細胞学
- 第 2 回 項目 スケッチ
- 第 3 回 項目 スケッチ
- 第 4 回 項目 スケッチ
- 第 5 回 項目 スケッチ
- 第 6 回 項目 スケッチ
- 第 7 回 項目 スケッチ
- 第 8 回 項目 スケッチ
- 第 9 回 項目 スケッチ
- 第 10 回 項目 スケッチ
- 第 11 回 項目 スケッチ
- 第 12 回 項目 スクリーニング試験
- 第 13 回 項目 スクリーニング試験
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) ・講義項目に関して、実際にスクリーニングし、スケッチする ・スケッチした疾患に関して、スクリーニング試験を行う

教科書・参考書 教科書： ～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方, 西 国広, 近代出版, 2001 年 / 参考書： CD-ROM 「 Cyto Master 基礎編 vol.1 婦人科 », 椎名義雄・他, ユニバーサルコンピューター, 2004 年

連絡先・オフィスアワー mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL 0836-85-2853

開設科目	細胞診断学講義 I-1	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	尾野緑				

授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。前期は婦人科領域の細胞診について学ぶ。 / 検索キーワード 細胞診 婦人科

授業の一般目標 子宮頸部扁平上皮領域の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 子宮頸部扁平上皮領域の基礎知識を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 顕微鏡の使い方
- 第 2 回 項目 性周期
- 第 3 回 項目 ホルモン細胞診
- 第 4 回 項目 標本作製法
- 第 5 回 項目 Papanicolaou 染色
- 第 6 回 項目 炎症性疾患
- 第 7 回 項目 炎症性疾患
- 第 8 回 項目 修復細胞・化生細胞
- 第 9 回 項目 異形成
- 第 10 回 項目 癌
- 第 11 回 項目 各種分類
- 第 12 回 項目 スクリーニング試験
- 第 13 回 項目 スクリーニング試験
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) ・講義項目について予習レポートを提出する ・講義した内容について小テストを行う ・小テストで基準を満たさない場合、定期試験を行う

教科書・参考書 教科書： ～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方, 西 国広, 近代出版, 2001年 / 参考書： CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.1 婦人科」, 椎名義雄・他, ユニバーサルコンピューター, 2004年

連絡先・オフィスアワー mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL 0836-85-2853

開設科目	細胞診断学講義 I-2	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	尾野緑				

授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。後期は呼吸器領域の細胞診について学ぶ。 / 検索キーワード 細胞診 呼吸器

授業の一般目標 呼吸器領域の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：呼吸器領域の基礎知識を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 呼吸器の解剖組織細胞学
- 第 2 回 項目 感染症・炎症性疾患
- 第 3 回 項目 標本作製法
- 第 4 回 項目 異型扁平上皮
- 第 5 回 項目 悪性腫瘍（肺門部）
- 第 6 回 項目 悪性腫瘍（肺野部）
- 第 7 回 項目 悪性腫瘍（その他）
- 第 8 回 項目 良性腫瘍・縦隔腫瘍
- 第 9 回 項目 スクリーニング
- 第 10 回 項目 スクリーニング試験
- 第 11 回 項目 スクリーニング試験
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合）・講義項目について予習レポートを提出する・講義した内容について小テストを行う・小テストで基準を満たさない場合、定期試験を行う

教科書・参考書 教科書：～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方，西 国広，近代出版，2001年 / 参考書：CD-ROM「Cyto Master 基礎編 vol.2 呼吸器」，椎名義雄・他，ユニバーサルコンピューター，2004年

連絡先・オフィスアワー mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL 0836-85-2853



開設科目	細胞診断学実習 I	区分	実験・実習	学年	1 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	尾野緑				

授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。後期は呼吸器領域の細胞診について学ぶ。 / 検索キーワード 細胞診 呼吸器

授業の一般目標 呼吸器領域の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 技能・表現の観点：呼吸器領域の基礎知識を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 スケッチ
- 第 3 回 項目 スケッチ
- 第 4 回 項目 スケッチ
- 第 5 回 項目 スケッチ
- 第 6 回 項目 スケッチ
- 第 7 回 項目 スケッチ
- 第 8 回 項目 スケッチ
- 第 9 回 項目 スケッチ
- 第 10 回 項目 スクリーニング試験
- 第 11 回 項目 スクリーニング試験
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合）・講義項目に関して、実際にスクリーニングし、スケッチする・スケッチした疾患に関して、スクリーニング試験を行う

教科書・参考書 教科書：～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方, 西 国広, 近代出版, 2001 年 / 参考書：CD-ROM 「Cyto Master 基礎編 vol.2 呼吸器」, 椎名義雄・他, ユニバーサルコンピューター, 2004 年

連絡先・オフィスアワー mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL 0836-85-2853

開設科目	英文多読	区分	講義	学年	その他
対象学生		単位	1 単位	開設期	通年 (前期, 後期)
担当教官	田中経彦				

授業の概要 1) 訳さずに内容が楽しめるやさしい英語の本をたくさん読みます。現在の時点で楽に読める本を「毎日」読み続ければ、徐々に読めるレベルが上がり簡単なペーパーバックを2年後には読めるようになります。専門書を読む時も当然楽になります。2) インターネットで提供されている英語のニュース等の無料サイトを利用して多聴します。検査1年前期は必修で1単位。看護は選択で通年1単位です。検査高学年は選択です。高学年は通年1単位です。選択の場合、自習で多読します。詳細は未定な所があります。/ 検索キーワード 多読、多聴

授業の一般目標 英語で将来有益な情報を入手したり、映画音楽文学等が楽しめるようになるように、英語に慣れ親しむ時間です。興味が持てる楽しい本をたくさん読んで、英語の本を読むのに抵抗がなくなることを目指します。やさしい英語の本を毎分90語~150語でたくさん直読直解して、英文に慣れます。WEB教材により英語の多聴ができるようにします。インターネットの英語をすばやく読めるようになれば、直接世界にアプローチできます。雪だるまを作るように英語を読んだり聞いたりして吸収します。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 読める速さ以上の英語は聞き取れないし理解できないことが分かっている 思考・判断の観点: 英語能力獲得に関しプラス思考を持つようになること。他人やTOEICの点数を過度に気にしないで、自分は必ず向上すると信じていること。 関心・意欲の観点: 夏休に、ペーパーバック、専門入門書、映画ニュース等の英語放送に挑戦する意欲を持つ。時々のご馳走も期待するが、体づくりに日々ご飯を食べているような気持ちで英語に毎日触れようとしている。 技能・表現の観点: 毎分100語以上で英語を直読直解できる。簡単な内容ならばWEB等の朗読がかなり聞き取れる。(これだとTOEIC600点レベルです。英語の成績のいい人は、毎分130語~150語レベル(TOEIC730点)で読めるはずですが。しかし英米人は最低毎分200語(TOEIC830点)で読んで、映画でもよくそれくらいの速さでしゃべっています)

授業の計画(全体) 英語多読多聴方法の解説を受けた後、時間内に多読又は多聴を各自実践する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 英語多読多聴について 内容 英語多読の方法 英語多聴のためのWEBサイト利用について 説明 授業外指示 PCを持参すること
- 第2回 項目 多読多聴 内容 実践(以下同様)
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) 出席点60%、TOEIC500点以上取得者は点数に応じて最高20%までの加点(700点以上満点)、授業態度20%

教科書・参考書 教科書：教材はあるので、購入不要です / 参考書：英語はやさしくたくさん, 伊藤サム, 講談社, 2003年; 100万語多読入門, 古川昭夫、伊藤晶子, コスモピア, 2005年; ロングマン ベーシック英英辞典, ロングマン社編集局, 桐原書店, 2002年; <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/pmt99/pologin/english/index.html> この基礎英英辞典(1800円)は挿絵が多く、常時携帯してちょっとした時間に眺めておけば覚えようとしなくても語彙が増えます。上に挙げた本は指針になりますが、多読を実践継続しなければ無意味です。

メッセージ やさしい英語の本を訳さないで早く読む訓練はTOEICの創設者の一人、三枝幸夫元早大教授(個人)も薦めておられました。多読3原則: 英和辞書は引かない、分からない所はスキップ、つまらなければ別の本。が、英語を読み続けるコツです。(酒井邦秀電気通信大学准教授) 毎分90語から150語程度で読みます。英語に慣れている人は毎分200語で読めます。

連絡先・オフィスアワー [tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp) 0836-22-2857

開設科目	英語読解	区分	講義	学年	1年生
対象学生		単位	1単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	服部幸夫				

授業の概要 英語力の向上には毎日継続的に英文に触れる必要がある、というコンセプトに基づいて、毎朝 20 分間ずつ授業開始直前に、授業に則した教科書(英文原書)の抄読会を提供する。1~4 年次まで、1 セメスター 1 単位で、積み上げ方式で行う。つまり、何回でも受講でき、その度ごとに単位が加算される。但し、卒業単位には含まれない。1 回につき、1~2 頁の進度であるが、そこに出てくる医学専門用語を片っ端に吸収すれば、4 セメスターの受講後には、医学英語のかなりをマスター出来るように組み立てられている。そのみならず、授業より深く専門分野(例えば解剖生理学や病理学など)を理解できる。問題は自己に負けない持続力である。

授業の一般目標 ・英語の原書に持続的に触れ、英語に「慣れる」 ・医学専門用語(英語)を修得する ・TOEIC の加点 ・克己心の養成

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 授業に則した教科書(英文原書)であるので、医療英語の習得のみならず、正規の授業より、やや深く掘り下げた学習が期待される。英語であれ、日本語であれ、コミュニケーションの手段なので、「慣れれば」苦手意識は軽減される。医学用語(英語)の蓄積とともに内容理解も楽になってきて、日本語からの理解から、英文からの理解へと変わってくる。思考・判断の観点: 英文の直訳はしないが、難しそうな単語にはコメントを入れ、また内容の簡単な解説を加える。内容理解により、疾患に対する適切な思考・判断を培う。関心・意欲の観点: 医学あるいは病気に対する興味が「動機づけ」のすべてである。さらに、継続の難しさがあるので、自分に対する挑戦でもある。

態度の観点: 単に参加するだけでなく、その日に読んだ文章の英単語をすべて吸収するぐらいの貪欲さを持って臨んで欲しい。技能・表現の観点: 慣れたら、希望者には「輪読」をして貰う。読み方だけで、その人がどの程度内容を理解しているかが把握できるし、また、読んでいる本人も自らの口で発音することでスピーキングに「慣れる」ことが出来る。

授業の計画(全体) 毎朝 1 コマ目の直前の 20 分間(8:10-8:30)、授業に則した英文原書の抄読を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 2 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 3 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 4 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 5 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 6 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 7 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 8 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 9 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 10 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 11 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 12 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 13 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 14 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書
第 15 回	項目 1-2 ページ/日 x 5 日	内容 授業に則した英語原書

成績評価方法(総合) 出席が最も大きな要素である。

教科書・参考書 教科書: Essential Pathology, Rubin, Lippincot, 2001 年; Structure & Function of the Body, Thibodeau, Mosby, 2004 年 / 参考書: 基本病理学, ルービン(河原栄訳), 西村書店, 2004 年;

「基本病理学」は教科書である「Essential pathology」の訳本です。教員が訳しますが、日本語訳がさらに必要な方はお求め下さい。

メッセージ 続ける自信のない方もチャレンジしてみる事が肝要です。一度挫折しても、次の学期に再チャレンジすることができます。内容のレベルは変わりません。

開設科目	生理機能学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田昌子、野垣 宏、日野啓輔、山田 治				

授業の概要 形態学で学んで人体の各臓器が生体の中で畑足ている役割を系統的に講義し、生命維持の仕組み、その破綻から病気に至る基礎を解説する。松田:循環器、呼吸器機能、腎臓・膀胱の機能日野:消化に關与する臓器の機能；野垣:神経の機能、感覚器の機能、内分泌機能 山田:人体の防御機能、体液、血液の組成と役割

授業の一般目標 1. 各臓器の正常機能を知る。 2. 各臓器の調節機能を理解する。”

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：臓器の基本的構造と機能を説明できる。2) 書く臓器の機能を調節する仕組みを説明できる。3) 人体がホメオスタシスを維持する仕組みを理解する。 思考・判断の観点：臓器の機能が破綻するとどのような現象がおこり、病気につながっていくかという過程を考え、基礎的な症状の由来を理解できる。 関心・意欲の観点：自分の体内で起こる種々の現象のメカニズムについて感心を持つ。 態度の観点：講義テーマに対して、積極的に取り組む姿勢を持ち、疑問を提示し、また質問に対して考えて答える努力をする。

授業の計画（全体） 4分野に分けてそれぞれの担当者が授業を行う。 1. 循環系、呼吸器系、泌尿器系 2. 神経系、感覚機能 3. 体液、血液、免疫系 4. 消化器系

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 腎機能 I 内容 尿生成の仕組み
- 第 2 回 項目 消化管の機能 内容 食道、胃、十二指腸、小腸、大腸についての構造と機能について理解する。
- 第 3 回 項目 腎機能 II 内容 浸透圧の調節、体液中の電解質調節、窒素の排泄
- 第 4 回 項目 肝臓の構造と機能 1 内容 肝臓の構造について理解する
- 第 5 回 項目 腎機能 III 内容 酸-塩基平衡、造血に果たす役割、腎不全の病態
- 第 6 回 項目 肝臓の構造と機能 II 内容 肝臓の機能について理解する
- 第 7 回 項目 循環機能 I 内容 1) 心臓血管の構造と組織学的特徴 2) 心周期
- 第 8 回 項目 胆道系、膵臓の機能 内容 肝臓の機能について理解する
- 第 9 回 項目 循環機能 II 内容 心臓の電気生理学
- 第 10 回 項目 循環機能 III 内容 1) 末梢循環：血圧、血流、脈圧、静脈と動脈、リンパ管 2) 特殊循環：冠循環、脳循環
- 第 11 回 項目 循環機能 内容 心臓および血管の調節機構 1) 神経性調節 2) ホルモン性調節 3) 局所性調節
- 第 12 回 項目 肺の機能的構造 内容 肺の構造と機能的特徴、ガス交換のメカニズム
- 第 13 回 項目 呼吸運動とガスの運搬 内容 1) 血液中での酸素、二酸化炭素の産生、運搬 2) 二酸化炭素と酸-塩基平衡
- 第 14 回 項目 呼吸機能の調節 内容 呼吸機能を調節する仕組み
- 第 15 回 項目 中枢神経系の機能 I 内容 神経組織の構造と働き、中枢神経系の構造、脊髄の構造、
- 第 16 回 項目 血液・体液の組成とその役割 内容 解剖と生理。VTR：驚異の小宇宙人体
- 第 17 回 項目 中枢神経系の機能 II 内容 脳幹の機能、間脳の機能、小脳の機能、大脳の機能、伝導路
- 第 18 回 項目 人体の防衛機能とその仕組み
- 第 19 回 項目 末梢神経系 内容 体性神経系、自律神経系、脊髄神経、脳神経の働き
- 第 20 回 項目 造血器と血液の働き
- 第 21 回 項目 感覚器の機能 内容 感覚の種類、視覚、聴覚、平衡感覚、嗅覚、味覚、体性感覚、内臓感覚
- 第 22 回 項目 液性免疫と細胞性免疫
- 第 23 回 項目 運動器の機能 内容 骨・関節・筋の構造と機能、運動のメカニズム
- 第 24 回 項目 HIV 感染症とエイズ

- 第 25 回 項目 内分泌機能 I 内容 ホルモンとは、ホルモン分泌の調節、内分泌器官の機能  
第 26 回 項目 遺伝の仕組み 1 内容 減数分裂と染色体異常。CD-ROM：人体の神秘ヒトゲノム  
第 27 回 項目 内分泌機能 II  
第 28 回 項目 遺伝の仕組み 2 内容 DVD「DNAって何？」  
第 29 回  
第 30 回

成績評価方法 (総合) 各担当教官がそれぞれ筆記試験を行い、担当時間数により点数を配分し 100 点満点  
中 60 点以上を合格とする。

教科書・参考書 教科書：シンプル生理学, 貴邑富久子, 南江堂, 2006 年

メッセージ 解剖学の本を参照しながら機能を理解すると能率のいい学習ができる。

連絡先・オフィスアワー 松田:Tel & Fax:0836-22-2832 / E-mail [matsudam@yamaguchi-u.ac.jp] 野垣：  
0836-22-2858；日野：0836-22-2824；山田：0836-22-2803

開設科目	臨床医学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	山田治・日野啓輔・市原清志				

授業の概要 臨床医学の授業では、重要な医学用語、病名、医学の基礎的な知識を身につけるために、カラーラストや図版が多く使用されている「病気の地図帳」をテキストに指定して、わかりやすい病気の解説を行う予定である。病気の解説では、病気の病態生理、病理像、症状、予後、合併症、類似の病気との違いなども基本的な重要な面のみ取り上げて説明する。/検索キーワード 病気、疾患、病因、診断、治療

授業の一般目標 重要な医学用語、病名、医学の基礎的な知識を身につける

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 主要な病気の原因と症状を説明できる。 2. 主要な病気における検査の異常を説明できる。 3. 主要な病気の治療の基本を知っている。 思考・判断の観点： 1. 主要な症状から病気の種類、病名を指摘できる。 2. 検査値の異常から病気の種類を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. 病気の病因・病態に関心を持ち、検査値の異常値とを考察する態度を身につける。

授業の計画(全体) 病気の地図帳を1冊読みます。この本を通じて病気のアウトラインを学習します。3名の講師が得意の分野を受け持つ omnibus 形式で行います。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 症候学1 授業外指示 配付資料を読んでおくこと。 授業記録 市原清志
- 第2回 項目 症候学2 授業外指示 配付資料を読んでおくこと。 授業記録 市原清志
- 第3回 項目 頭部の疾患 内容 頭蓋内出血、脳梗塞、脳腫瘍、脳血管性痴呆、アルツハイマー型痴呆、顔面神経麻痺、眼底出血、網膜剥離 授業記録 山田 治
- 第4回 項目 心疾患(1) 呼吸器疾患 内容 心の病気、気管支喘息、気管支炎、肺炎、肺気腫、肺癌 授業記録 山田 治
- 第5回 項目 心疾患(2) 血液疾患 内容 狭心症、心筋梗塞、心不全、心筋症、白血病、悪性リンパ腫、エイズ 授業記録 山田 治
- 第6回 項目 内分泌疾患 内容 糖尿病、高脂血症、痛風、内分泌腺の病気 授業記録 市原清志
- 第7回 項目 心疾患(3) 内容 高血圧症、動脈硬化症、動脈瘤、静脈瘤、乳線炎、乳腺症、乳癌、胸部のその他の病気 授業記録 山田 治
- 第8回 項目 整形外科疾患 内容 骨折、脱臼、捻挫、野球型、野球肘、テニス肘、五十肩、頸椎症、骨粗鬆症、椎間板ヘルニア、腰痛症、変形性関節症、慢性関節リュウマチ、骨腫瘍、論官神経痛、坐骨神経痛 授業記録 山田 治
- 第9回 項目 耳鼻科疾患 内容 中耳炎、花粉症、副鼻腔炎、むしば、歯周炎、歯槽膿漏、口内炎、舌癌、扁桃腺炎、アデノイド、頭と頸部のその他の病気 授業記録 日野啓輔
- 第10回 項目 腎疾患(1) 消化器疾患(1) 内容 胃炎、胃潰瘍、十二指腸潰瘍、胃癌、大腸ポリープ、大腸癌、直腸癌、虫垂炎、痔、癌の発生と転移の仕組み 授業記録 日野啓輔
- 第11回 項目 消化器疾患(2) 内容 肝炎、肝硬変、肝癌、胆石症、胆嚢炎、胆嚢癌、膵炎、膵癌 授業記録 日野啓輔
- 第12回 項目 腎疾患(2) 内容 腎炎、腎不全、尿路結石、腎癌、膀胱癌、前立腺肥大症、前立腺癌 授業記録 市原清志
- 第13回 項目 婦人科疾患 内容 子宮筋腫、子宮内膜症、子宮癌、卵巣腫瘍、腹部のその他の病気 授業記録 日野啓輔
- 第14回 項目 皮膚・アレルギー疾患 内容 湿疹、蕁麻疹、単純性疱疹、脱毛症、免疫・アレルギーの病気、全身のその他の病気 授業記録 日野啓輔
- 第15回

成績評価方法(総合) 【全体】最終評価は期末試験で行います。授業の出席日数が不足すると試験を受けられません。また、1~2コマ毎に小テストを行い、評価の一部に使用します。【観点別】知識の理解



度および思考の判断力は期末試験の Paper test で評価します。関心・意欲は授業中の質問などの積極的な態度を評価します。

教科書・参考書 教科書：「病気の地図帳」, 山口和克 監修, 講談社, 2000 年

メッセージ 解らないところは自宅に持ち帰らず教員に尋ねて下さい。みんなの前で質問することは勇気がいりますが、同じことに疑問を持っている人も必ずいます。

連絡先・オフィスアワー いつでもいるときはどうぞ訪室して下さい。必ず専攻、学年、氏名を名乗って下さい。

開設科目	免疫学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	日野啓輔				

授業の概要 1)免疫学の概念 2)免疫担当細胞についての基礎知識 3)抗体-免疫グロブリンの機能 4)補体の活性化機構とその機能 5)主要組織適合遺伝子複合体 6)免疫応答とその調節 7)生体内の免疫応答 8)抗原・抗体反応とその原理 9)試験管内抗原・抗体反応 10)アレルギー反応について授業を行う。/検索キーワード 免疫、抗原、抗体、補体、免疫グロブリン、免疫担当細胞、免疫応答

授業の一般目標 免疫学の概念として免疫担当細胞にはどのようなものが存在するかを説明できる。また、生体の免疫反応として自然免疫と獲得免疫の概念を理解し、その違いを説明できる。免疫反応に関与する分子のうち主要組織適合遺伝子複合体の役割、補体の活性化機構、役割について説明できる。基本的な試験管内の抗原・抗体反応の種類を挙げることができ、その原理を説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：免疫学の概念として免疫担当細胞にはどのようなものが存在するかを説明できる。また、生体の免疫反応として自然免疫と獲得免疫の概念を理解し、その違いを説明できる。免疫反応に関与する分子のうち主要組織適合遺伝子複合体の役割、補体の活性化機構、役割について説明できる。基本的な試験管内の抗原・抗体反応の種類を挙げることができ、その原理を説明できる。 思考・判断の観点：生体の免疫反応を考える際に、自然免疫、獲得免疫に分けて関与する免疫担当細胞について考察し、どのような機序でその免疫反応が起きるのかを考察することができる。各種の試験管内免疫反応が医学において何故必要なのかを考え、その意義を考察することができる。 関心・意欲の観点：自ら疑問点を解決すべく、講義中あるいは講義終了後に質問をする。教員からの質問に対して、単に知っているあるいは知らないというだけでなく、答えを導き出そうと考察し努力する。 態度の観点：大学生として受身の授業に終始するのではなく、積極的に授業に参加しようとする。学生、教員間だけでなく、学生間においても自らの疑問を解決しようとして積極的に努力する。 技能・表現の観点：疑問点を明確に表すことができる。質問に対して的確な表現で回答することができる。

授業の計画(全体) 授業の概要で示した内容について授業を行っていく。理解の到達度をチェックするために、随時授業中に質問を行うか小テストを行う可能性もある。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 免疫学の概念 内容 液性免疫、細胞性免疫の概念を解説する。
- 第2回 項目 免疫担当細胞 内容 抗原提示細胞、リンパ球、貪食細胞等の機能と免疫応答における役割を解説する。
- 第3回 項目 抗体・免疫グロブリン 内容 抗体、免疫グロブリンの構造と働きについて説明する。また、免疫学的に分類された抗原、抗体の意味について解説する。
- 第4回 項目 補体の活性化 内容 補体の活性化経路ならびに活性化因子について解説する。
- 第5回 項目 補体の機能 内容 免疫反応における補体の生物学的役割について解説する。
- 第6回 項目 主要組織適合遺伝子複合体 内容 主要組織適合遺伝子複合体の構造と機能について解説する。また免疫反応における主要組織適合遺伝子複合体の役割について解説する。
- 第7回 項目 免疫応答とその調節 内容 サイトカインを中心とした免疫応答の調節機構について解説する。
- 第8回 項目 免疫応答とその調節 内容 液性免疫、細胞性免疫の調節や互いの応答について解説する。
- 第9回 項目 生体内の免疫応答 内容 主としてアレルギー反応について解説し、分類発現機序についても解説する。
- 第10回 項目 抗原・抗体反応とその原理 内容 抗原、抗体反応の基本原理について解説する。
- 第11回 項目 抗原・抗体反応とその原理 内容 各種抗原・抗体反応の種類とその異同について解説する。
- 第12回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 沈降反応、凝集反応について解説する。

- 第 13 回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 溶解、中和反応 について解説する。  
第 14 回 項目 試験管内抗原・抗体反応 内容 免疫化学分析方法について解説する。  
第 15 回 項目 免疫学総括

成績評価方法 (総合) 前期末試験の成績を最重要視する。但し、出席率も考慮する。

教科書・参考書 教科書：臨床検査技術学 13 免疫検査学, 小島健一他, 医学書院, 1998 年; 講義用に作成したプリントも使用する。 / 参考書：臨床免疫学, 福岡良男他, 医歯薬出版株式会社, 2001 年

メッセージ 疑問点をそのままにせずに積極的に質問してほしい。

連絡先・オフィスアワー 日野研究室 (22 - 2824)

開設科目	免疫学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	日野啓輔・松井智浩・柳原正志				

授業の概要 1)免疫電気泳動 2)補体価測定 3)梅毒ガラス板法 4)寒冷凝集反応 5)抗核抗体検査 6)赤血球凝集反応 7)輸血検査(ABO,Rh式血液型) 8)輸血検査(交差適合試験、クームス試験)

授業の一般目標 上記の1)から8)の検査を8回の実習ですべて行い、検査の原理を理解するとともに検査手技を修得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 検査の原理を理解する。実験方法、手技が説明できる。 思考・判断の観点： 検査が失敗した時にどこが悪かったのかを学習する。それによりトラブルシューティングが行えるようにする。また、実験のどこがポイントなのか考察することができる。 関心・意欲の観点： 自己の担当だけでなく、積極的に議論して他の人の実習問題点なども理解しようとする。 態度の観点： 常に積極的に実習に取り組むことができる。疑問点を曖昧にせず教科書、実習書あるいは質問を通して解決するように努める。 技能・表現の観点： 免疫検査に必要な基本手技を習得する。

授業の計画(全体) 免疫検査学で講義を行った内容のうち代表的な免疫検査の実習を行うことにより、免疫検査、とくに試験管内の抗原・抗体反応についての原理、測定方法について実際の観点から理解をさせる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 実習説明および準備、採血
- 第2回 項目 第2から第10週までに決められた8つの実習を行う。
- 第3回
- 第4回
- 第5回
- 第6回
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回 項目 実習後片付け
- 第12回 項目 実習ペーパー試験
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) 実習の出席率、実習成績、実習に行うペーパー試験の結果を総合的に判断して評価する。

教科書・参考書 教科書：臨床免疫学, 福岡良男他, 医歯薬出版株式会社, 2001年; 臨床検査技術学 1 3免疫検査学, 小島健一他, 医学書院, 1998年; 独自に作成した実習書も使用する。

メッセージ ひとつひとつの実習に真剣に取り組んでほしい。疑問点は質問すること。

連絡先・オフィスアワー 日野研究室(22 - 2824)

開設科目	免疫検査学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	日野啓輔				

授業の概要 1)アレルギーの分類と発症機序 2)感染免疫 3)自己免疫 4)移植免疫 5)免疫血液学 6)輸血検査 7)梅毒検査 8)肝炎ウイルス、その他の感染症に対する検査 9)自己抗体および自己免疫関連検査 10)免疫機能検査 / 検索キーワード 免疫と疾患、免疫検査

授業の一般目標 前期過程で学習した免疫学を基礎として、疾患に伴う免疫反応、および免疫反応を確認する諸検査の原理・方法・手技について学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：免疫検査の原理を理解しておく。免疫反応が重要な関与をする疾患群について理解する。 思考・判断の観点：疾患形成における免疫の関与について考察し、理解する。

関心・意欲の観点：複雑な生体内の免疫反応について系統立てて考察することができる。また、生体内の免疫反応を知る検査の手順を理解しようとする。 態度の観点：疑問点をそのままにせず、積極的に質問をすることができる。 技能・表現の観点：自己の疑問点を明確に説明することができる。質問に対して、自分の考えを明確にしながら回答することができる。

授業の計画(全体) 疾患と免疫反応の関わりを理解し、その上で診断等に使われる免疫検査の原理、手技について習熟する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 アレルギーの分類と発症機序 内容 前期で概説した アレルギー反応 について詳細な 機序を解説する。
- 第 2 回 項目 アレルギーの分類と発症機序 内容 前期で概説した アレルギー反応 について詳細な 機序を解説する。
- 第 3 回 項目 感染免疫 内容 感染症における 非特異的免疫反 応、特異的免疫 反応について解 説する。さらに これの免疫反応 に関与する細 胞、分子についても解説する。
- 第 4 回 項目 自己免疫と移植 免疫 内容 自己免疫と移植 免疫における免 疫反応の発現機 序について解 説する。
- 第 5 回 項目 免疫血液学 内容 血液型等の輸血 に関する免疫反 応について解説 する。
- 第 6 回 項目 免疫血液学 内容 血液型等の輸血 に関する免疫反 応について解説 する。
- 第 7 回 項目 輸血検査 内容 輸血検査の実際 について解説す る。
- 第 8 回 項目 輸血検査 内容 輸血検査の実際 について解説す る。
- 第 9 回 項目 輸血検査 内容 輸血検査の実際 について解説す る。
- 第 10 回 項目 梅毒検査 内容 種々の梅毒検査 について解説 し、その異同に ついても解説す る。
- 第 11 回 項目 肝炎ウイルス、その他の感染症 に対する検査 内容 肝炎ウイルス、 その他の感染症 の検査の実際と 検査結果の解釈 について解説す る。
- 第 12 回 項目 肝炎ウイルス、その他の感染症 に対する検査 内容 肝炎ウイルス、 その他の感染症 の検査の実際と 検査結果の解釈 について解説す る。
- 第 13 回 項目 自己抗体および 自己免疫関連検 査 内容 自己抗体および 自己免疫関連検 査の実際につい て解説する。
- 第 14 回 項目 免疫機能検査 内容 種々の免疫機能 検査の実際につ いて解説する。
- 第 15 回 項目 免疫機能検査 内容 種々の免疫機能 検査の実際につ いて解説する。

教科書・参考書 教科書：臨床検査技術学 13免疫検査学, 小島健一他, 医学書院, 1998年; 講義用に独自に作成したプリントも使用する / 参考書：臨床免疫学, 福岡良男他, 医歯薬出版株式会社, 2001年  
メッセージ 疑問点をそのままにせず積極的に質問してほしい。

開設科目	病理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	高橋睦夫				

授業の概要 病理学 pathology は病気の本態を解明するのが病理学であり、講義では基本的な病変について、その成り立ちや原因、臓器・組織の変化などを述べる。正常状態を知らなければ病気を理解することは出来ない。特に解剖学との関わりが最も深い。正常状態については質問しながら講義をすすめるので、関連する事項について十分復習して講義に臨むこと。/ 検索キーワード 退行性病変, 代謝障害, 循環障害, 進行性病変, 免疫, 炎症, 腫瘍

授業の一般目標 1. ヒトの正常状態(臓器の大きさ, 位置関係, 機能)が解る。 2. 基本的な病変の種類, 原因, 経過を理解する。 3. 病変の特徴と, 全身に及ぼす影響を理解する。 4. 免疫機構を理解し, 炎症の成り立ちを説明できる。 5. 腫瘍の発生, 種類, 予後などを理解し, 説明することが出来る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 基本的病変の種類をあげることができる。 2. 基本的病変の好発部位を説明できる。 3. 基本的病変の成り立ちを説明することが出来る。 思考・判断の観点: 1. 基本的病変が何故起こるか説明できる。 2. 基本的病変が全身にどのような影響を及ぼすか, 推論できる。 3. 生体は病変にどのように対処するのか指摘できる。 関心・意欲の観点: 臨床検査技師としての役割を認識した上で, 新しい診断法の開発などに寄与できる。 態度の観点: 知識のまる覚えではなく, 常に何故かと疑問を持ち, 理解しようとする意欲がある。

授業の計画(全体) 講義は教科書に則って進めるが, 肉眼や, 組織像が重要であるので教材提示装置やスライドを使って典型的な病変のカラー写真を提示する。授業中に解剖学的知識や前回までの病理学的知識について質問し, 解答できない場合は宿題となる。それらも含めて, 毎回, 授業開始時に5分間小テストを行うので, 十分復習して講義に臨むこと。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 病理学とは? 病因
- 第2回 項目 退行性病変と代謝異常
- 第3回 項目 循環障害
- 第4回 項目 進行性病変
- 第5回 項目 炎症
- 第6回 項目 免疫
- 第7回 項目 感染症
- 第8回 項目 腫瘍1
- 第9回 項目 腫瘍2
- 第10回 項目 先天異常, 老化
- 第11回 項目 各論 循環器系1
- 第12回 項目 各論 循環器系2
- 第13回 項目 各論 呼吸器系1
- 第14回 項目 各論 呼吸器系1
- 第15回 項目 予備

成績評価方法(総合) 定期試験および小テスト

教科書・参考書 教科書: わかりやすい病理学 改訂第4版, 岩田隆子、恒吉正澄、宮原晋一編, 南江堂, 2005年

メッセージ 病理学を理解すれば, 他の専門科目の理解も容易になる。

連絡先・オフィスアワー E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845, 研究室: 保健学科管理棟4階(411), オフィスアワー: 随時大歓迎

開設科目	微生物学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	梅田昭子				

授業の概要 病原微生物は大きく細菌・ウイルス・プリオン・真菌・原虫に分類されるが、原虫の除く全ての病原微生物についての総論の講義を行なう。すなわち各微生物の分類・構造・増殖機構・感染・治療法とワクチン・滅菌と消毒法・検査法について、各微生物間における違いを明確にし微生物全体が把握できるよう講義する。/検索キーワード 病原微生物、ワクチン、抗生剤、消毒

授業の一般目標 病原微生物として挙げられている細菌、真菌、ウイルス、プリオン、原虫について共通点および相違点を正しく理解し、これらが引き起こす感染症の特徴と各感染症に対する予防法と治療法の特徴を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 授業の概要と一般目標に記載している通り、感染症を引き起こす各微生物の特徴を明確にすることと、感染の定義とその起因微生物、各感染症に対する予防・治療法を理解し、病原微生物一般の基礎知識を習得する。 思考・判断の観点： 講義により得た知識から、医療現場で感染症に直面した場合、正しい対処法を判断できる能力を養う。 関心・意欲の観点： 最近いくつかの新しい感染症や病院内での感染症の報道がなされているが、これらのことを身近なものとして関心を持ち、自分自身で学習・検索調査を行なう意欲を養う。

授業の計画(全体) 微生物学の総論を講義する。。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 微生物発見の歴史、微生物の種類とその違い 内容 病原微生物には細菌、真菌、ウイルス、プリオン、原虫に分けられるが、それらの共通点と相違点について解説する。
- 第 2 回 項目 細菌の構造、ウイルス・真菌の構造との比較 内容 各微生物の根本的相違点を中心に、書く微生物の構造について解説する。
- 第 3 回 項目 細菌の増殖機構と培養法、ウイルス・真菌との比較 内容 各微生物の増殖機構はそれぞれ異なり、それに従って培養法も全く異なっている。この点をふまえて、各微生物の増殖・生理機構を解説する。
- 第 4 回 項目 感染の概念、主な感染症・新興感染症・再興感染症 内容 感染の定義を解説し、感染症の種類とその起因微生物について、また細菌問題になっている SARS 等の新興感染症や、結核等の再興感染症について解説する。
- 第 5 回 項目 ヒト常在細菌と日和見感染・院内感染 内容 ヒトには体内・体外に多くの微生物が常在しているが、それらの種類と意義、また、ヒトの健康状態によりこれらの常在微生物が感染源になる意義について解説する。また、自分の常在細菌を採取し考察する。
- 第 6 回 項目 滅菌と消毒 1 内容 病原微生物を取り扱う際、特に臨床において感染症の患者に接する場合にどのような点に注意すべきかを解説し、実際の病原微生物にたいする滅菌法と消毒法について解説する。
- 第 7 回 項目 滅菌と消毒 2 内容 第 6 回の続き。実際の臨床現場では他の患者に感染を移さない注意、また医療従事者本人が感染しないよう注意する点について解説する。
- 第 8 回 項目 化学療法 1 内容 感染症の治療に用いる化学療法剤の作用機序、種類、副作用、耐性について種類別に解説する。
- 第 9 回 項目 化学療法 2、ワクチン 内容 第 8 回のつづき、および感染症にたいする予防法として使用するワクチンについて、その種類、どの程度感染症を予防できるか、いつ頃実施するのか等について解説する。
- 第 10 回 項目 真菌総論 内容 真菌は細菌とは大きく異なっている。この点をふまえて、病原真菌の種類、感染症、治療法等について解説する。

- 第 11 回 項目 ウイルス総論 1 内容 ウイルスは細菌、真菌とは全く異なり、宿主細胞内でのみ増殖する。ウイルスの構造、増殖機構を復習し、ウイルスの分類、感染症、治療法、予防法について解説する。
- 第 12 回 項目 ウイルス総論 2、プリオン 内容 第 11 回の続きで、ウイルスの総論講義のほか、ウイルスとはまた異なるプリオンについて解説する。
- 第 13 回 項目 細菌・ウイルス・真菌の検査法の概要 内容 臨床検査科学専攻 学生を対象としているので、病原微生物の同定に重要な検査法の概要を解説する。
- 第 14 回 項目 バイオハザード、医療現場における感染の危険性とその対策 内容 病原微生物には非常に危険な微生物と、ほぼヒトに常在している弱病原性微生物がある。これらの病原微生物の危険性について法律上の分類とそれらに属する微生物の取り扱い注意について解説し、感染の危険から予防する適切な対処法を解説する。
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：臨床検査学講座「微生物学/臨床微生物学」、岡田 淳 他、医歯薬出版、2001 年；指定した教科書は、あくまで臨床検査技師国家試験に必要な最低知識を記載したものです。講義前に必ず予習し、講義では教科書を読んでいるものとして講義を進める予定です。/ 参考書：戸田新細菌学（改訂 32 版）、吉田真一、柳雄介編、南山堂、2002 年；標準微生物学 (Standard textbook) 第 8 版、山西弘一、平松啓一編、医学書院、2002 年；(1)「戸田新細菌学」吉田真一、柳雄介編、南山堂 (2)「標準微生物学」平松啓一、山西弘一編、医学書院



開設科目	微生物検査学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	梅田昭子・常岡英弘				

授業の概要 病原微生物における各論の講義である。すなわち細菌・ウイルス・真菌における細かな分類と、そこに属する各微生物の特徴・病原因子・感染症・治療と予防について解説し、とくに臨床検査における同定の決め手となる性状については原理とその検査法の説明を行なう。/ 検索キーワード 病原微生物、感染症、細菌同定法

授業の一般目標 臨床微生物検査に必要な細菌・真菌・ウイルス・プリオンにおける各属、各種の病原微生物の個々の性状の正しい知識を習得し、それらが引き起こす各感染症の特徴と予防法・治療法について習熟し、医療従事者として医療現場において感染症に対して適切な判断と対処法が出来る能力を養う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各病原微生物の詳細な性状、それが起因する感染症の特徴・治療法・予防法を習熟する。 思考・判断の観点：得られた知識により、実際の医療現場において感染症に対して適切な診断と対処法を判断できる能力を養う。 関心・意欲の観点：世界中で発生している種々の感染症を身近なものとして関心を持ち、それらに対する予防や対処法を思考する意欲を持つ。

授業の計画(全体) 各論ですので、各微生物の分類に従った順序で講義を行なう予定である。すなわち、細菌・真菌・ウイルスの順で講義し、細菌であれば分類されている属の順序に従って解説を行い、その属の一般的特徴から始まり、各菌種の個々の性状や感染症の解説を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 化膿性球菌
- 第 2 回 項目 腸内細菌科 1
- 第 3 回 項目 腸内細菌科 2、ピブリオ
- 第 4 回 項目 グラム陰性好気性 桿菌
- 第 5 回 項目 グラム陰性微好気 性菌、グラム陽性 好気性桿菌
- 第 6 回 項目 抗酸菌、嫌気性菌 1
- 第 7 回 項目 嫌気性菌 2
- 第 8 回 項目 スピロヘータ・レプトスピラ、マイコプラズマ
- 第 9 回 項目 リケッチア、クラミジア、真菌 1
- 第 10 回 項目 ウイルス総論
- 第 11 回 項目 DNAウイルス
- 第 12 回 項目 RNAウイルス
- 第 13 回 項目 真菌総論
- 第 14 回 項目 真菌各論
- 第 15 回 項目 まとめ

教科書・参考書 教科書：臨床検査学講座「微生物学/臨床微生物学」、岡田 淳 他、医歯薬出版、2001年；講義は一応指定した教科書の順序で講義する予定です。講義内容は教科書に記載されたものより詳しい解説を行なう予定なので、講義前に必ず教科書を読んでくることを条件とします。/ 参考書：戸田新細菌学(改訂 32 版)、“吉田真一、柳雄介編”，南山堂、2002 年；標準微生物学(Standard textbook) 第 8 版，“山西弘一、平松啓一編”，医学書院、2002 年；(1)「戸田新細菌学」吉田真一・柳雄介編、南山堂 (2)「標準微生物学」平松啓一・山西弘一編、医学書院

メッセージ 総論に比べて、覚えなくてはならない事が大変多いです。復習をしっかりと確実に覚えていって下さい。非常勤講師の常岡先生と分担して講義し、週 4 時間続きの講義です。

開設科目	臨床薬理学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	神谷晃・尾家重治				

授業の概要 看護の立場から必須の医薬品に関する知識(薬物の作用、吸収と分布と排泄、効果と副作用、各種剤型とその特徴など)について講義する。

教科書・参考書 教科書：系統看護学講座 専門基礎5 薬理学, 医学書院

開設科目	基礎検査学 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	上田順子・末永弘美				

授業の概要 基礎検査学 I では、現在、病院で行われている一般臨床検査の内容(尿・便)を中心に、各検査法の原理や臨床的意義について講義する。また、臨床検査用検体の採取法や保存法は検査精度に大きく影響するため、尿・便検査の目的にあった検査材料の取り扱い方を説明する。講義と実習を通して、臨床検査に関連する基本的事項を学び、医療従事者としての心構えを修得する。 / 検索キーワード 臨床検査, 検査材料, 検査法, 尿, 便, 保存法

授業の一般目標 尿検査法の原理・方法と意義を理解する。 便検査法の原理・方法と意義を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 尿・便検査項目の臨床的意義を説明できる 思考・判断の観点: 尿・便検査の検査結果より病態を推定できる 関心・意欲の観点: 尿・便検査項目以外の必要な検査項目を討議できる 態度の観点: 与えられた課題を発表(提出)できる 技能・表現の観点: 与えられた課題をわかりやすく発表できる

授業の計画(全体) 基礎検査学実習との同時進行のため、講義内容は実習項目に連動する。最初に、顕微鏡を使用する尿沈渣検査法について講義する。標本作製法をはじめ、各成分の観察ポイントや記載法について学ぶ。次に、便検査法について説明する。その後、化学的尿検査法について学習していく。まず、実習で使用する試薬の作製法や実験ノートの取り方他について説明する。次に、化学的尿検査の各項目について臨床的意義および検査法を講義する。腎機能検査について学習する。最後に、尿検査および基礎検査学実習のまとめを行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 尿沈渣検査法 ( 1 ) 標本作製・成分記載法
- 第 2 回 項目 ( 2 ) 血球・上皮細胞・円柱・他
- 第 3 回 項目 ( 3 ) 結晶・塩類法 ( 4 ) 円柱・異型細胞
- 第 4 回 項目 便検査法 ( 一般的性状・潜血・虫卵 )
- 第 5 回 項目 尿検査試薬準備説明・実験ノートの取り方他
- 第 6 回 項目 尿検査 ( 1 ) 一般的性状
- 第 7 回 項目 尿検査 ( 2 ) 蛋白 授業外指示 基礎検査学 HP/check1
- 第 8 回 項目 尿検査 ( 3 ) 糖
- 第 9 回 項目 基礎検査実習説明
- 第 10 回 項目 尿検査 ( 4 ) 胆汁色素 授業外指示 基礎検査学 HP/check2
- 第 11 回 項目 尿検査 ( 5 ) 血尿 授業外指示 基礎検査学 HP/check3
- 第 12 回 項目 尿検査 ( 6 ) その他 授業外指示 基礎検査学 HP/check4
- 第 13 回 項目 腎機能検査・尿検査まとめ 授業外指示 基礎検査学 HP/check5
- 第 14 回 項目 基礎検査学実習まとめ 授業外指示 基礎検査学 HP/check6
- 第 15 回

成績評価方法(総合) ( 1 ) 授業の中で予習課題を発表する。( 2 ) 定期末試験を実施する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たないものには単位を与えない。

教科書・参考書 教科書: 臨床検査技術学( 9 ) 臨床検査総論, 伊藤機一, 医学書院, 2003 年; 尿沈渣検査法 2000, 伊藤機一, 社団法人 日本臨床衛生検査技師会

メッセージ 基礎検査学実習と同時進行のため、講義内で実習内容を説明する。体調を整えて講義および実習に臨んでほしい。

連絡先・オフィスアワー 上田 順子 [jueda@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:jueda@yamaguchi-u.ac.jp) 0836-22-2833

開設科目	基礎検査学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	岡野こずえ				

授業の概要 基礎検査学 II は臨床検査の概念や医療従事者としての心構えなどの基本的な項目から、検体採取法・保存法や検体検査および採血方法と幅広い。中でも、採血方法は、患者に直接接する医行為であり重要な項目である。また、検体採取法や保存法は検査精度に大きく影響するため、各検査の目的にあった検査材料の取り扱い方を学ぶ必要がある。それら臨床検査に関連する検査の基本的事項を学ぶ。 / 検索キーワード 臨床検査技師、患者、検体の取り扱い法、採血

授業の一般目標 (1) 臨床検査の概念や検査に対する心構えなどを学ぶ。(2) 血液や尿などの検査検体の適切な保存法を学ぶ。(3) 診療検査で最も基本的な尿検査をはじめ、糞便、体液などの検体検査の原理とその意義を学ぶ。(4) 採血方法や患者との接し方を学ぶ。(5) 臨床検査関連項目について班単位で調べ、発表を行う。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：臨床検体および検査結果に影響を及ぼす因子を理解し、説明できる。採血について危険性や有効性を説明できる。 思考・判断の観点：正しい検査結果を出すために対処すべきことを考察し適切な方法を実行できる 関心・意欲の観点：採血・一般検査を含めた臨床検査全般に興味・関心をもち、実施できる 態度の観点：臨床検査技師として精度の高い検査結果を出すことや、採血に及んで適切な態度をとることができる 技能・表現の観点：正確な検査結果を出す技術を身に付け、検査について説明できる。

授業の計画(全体) 1)教科書に沿って臨床検査技師の社会での役割、臨床検査における心構え、採血について、検体の取り扱い方、髄液検査等について解説をおこなう。 2) 8班に分かれて、臨床検査技師に関係するテーマについて調べ発表および討議を行う。 3) 実際の採血方法に付いて演習を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 臨床検査技師の役割と使命 内容 臨床検査技師がどんな職場で仕事をしているかを解説する
- 第 2 回 項目 臨床検査技師の役割と使命 内容 チーム医療の中の臨床検査技師の役割を解説する
- 第 3 回 項目 臨床検査における心構えと一般的注意 内容 患者を対象とした仕事であることを自覚させる
- 第 4 回 項目 採血法 内容 臨床検査技師が採血できる部位や量などについて解説する
- 第 5 回 項目 血液検体の取り扱い方 内容 種々の採血方法と血液検体の処理法を解説する
- 第 6 回 項目 血液検体の取り扱い方 内容 検査項目に適した血液検体の保存法を解説する
- 第 7 回 項目 胃液検査、十二指腸検査 内容 胃液、十二指腸液の採取方法や検査方法について解説する
- 第 8 回 項目 髄液検査、穿刺液検査 内容 髄液、穿刺液の採取方法や検査方法について解説する
- 第 9 回 項目 腹膜透析液、喀痰検査 内容 腹膜透析液、喀痰の採取方法や検査方法について解説する
- 第 10 回 項目 精液、結石検査 内容 精液、結石の採取方法や検査方法について解説する
- 第 11 回 項目 各班に提示された発表用のテーマについて検索 内容 班毎にテーマを出して、それについて検索する 授業外指示 各班からの質問に応じる
- 第 12 回 項目 各班に提示された発表用のテーマについて検索 内容 班毎にテーマを出して、それについて検索する 授業外指示 各班からの質問に応じる
- 第 13 回 項目 各班による発表会 内容 検索した発表内容をスライド形式で発表し、討議する
- 第 14 回 項目 採血模擬実習 内容 採血モデルをつかって、実際の採血方法を体験する
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 期末試験、出席点、テーマ発表で総合判定を行う。

教科書・参考書 教科書：臨床検査技術学(9)臨床検査総論第3版, 伊藤機一他, 医学書院, 2003年

メッセージ 臨床検査技師の役目や業務等を理解する

連絡先・オフィスアワー 5時以降：電話は 0836-22-2837、メールは kozue@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	基礎検査学実習 I	区分	実験・実習	学年	2 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	上田順子・末永弘美				

授業の概要 臨床検査はその役割と使命からも、提出する検査成績には高い精密度と正確度が求められる。この実習は、臨床検査の基礎となる実習である。貴重な患者検体という意識を持つために、自己の尿・便や血液の他、臨床材料を用いて実習を進めて行く。基礎的検査 実習を行うことにより、顕微鏡や分光光度計など臨床検査に必要な測定機器の原理と使用方法を学び、基本技術を体得する。また、検体の採取法、保存法、実技、結果解釈、それら全てに対して「知識と実技」が結びつくように実習を進めていく。/ 検索キーワード 臨床検査, 臨床検体, 尿, 便, 血液, 分析法, 測定機器

授業の一般目標 尿・便検体の採取法をはじめ、取り扱い方や保存法を理解する。顕微鏡や分光光度計、pHメーターなど臨床検査に必要な測定機器の原理と使用方法を理解し、基本技術を体得する。信頼できる実験結果を目指し、結果について十分考察する。薬品類の安全管理、医療廃棄物の処理法などを知る。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 尿・便の取り扱い方や保存法を説明できる 2. 各種測定機器の原理を説明できる 思考・判断の観点：実験結果を考察できる 関心・意欲の観点：実験で得られた結果から生じた疑問点について追加検討実験できる 態度の観点：1. 積極的に実習に参加できる 2. 実習グループメンバーと強調できる 3. 自分の意見を的確に口述できる 4. レポートを提出できる 技能・表現の観点：1. 測定機器を安全に使用できる 2. 自分の意見を論述できる

授業の計画(全体) 最初に、尿沈渣実習を行う。顕微鏡および標本作製の基本操作を学び、尿沈渣中の各成分を識別する。自排尿と患者尿沈渣を実習検体とする。便検査では自己採便後、潜血および寄生虫卵の検査を行う。次に、尿の化学的検査項目を実習する。試験紙法と試験管法を行い、比較検討する。最後に、各種実験機器の基本操作法習得のために分析実習(4項目)を行う。各項目について、レポートを提出する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 顕微鏡の取り扱い方(講義・実習)(1)尿沈渣 内容 自排尿による尿沈渣作製・検鏡
- 第 2 回 項目 (2)尿沈渣 内容 1)自排尿による尿沈渣作製・検鏡 2)患者尿沈渣からの標本作製・検鏡(異常症例1)
- 第 3 回 項目 (3)尿沈渣 内容 患者尿沈渣からの標本作製・検鏡(異常症例2)
- 第 4 回 項目 (4)尿沈渣 (5)尿沈渣試験 内容 患者尿沈渣からの標本作製・検鏡(異常症例3)
- 第 5 回 項目 便検査 内容 採便 検査項目(潜血・虫卵・脂肪)
- 第 6 回 項目 尿検査試薬作製 内容 実習書に記載
- 第 7 回 項目 尿検査1 内容 自排尿の一般的性状・試験紙法・定性検査
- 第 8 回 項目 尿検査2 内容 尿糖・尿蛋白の定性・定量検査:(自排尿,模擬患者尿)
- 第 9 回 項目 尿検査3 内容 尿糖・尿蛋白の定性検査・その他:(自排尿,模擬患者尿)
- 第 10 回 項目 基礎検査実習試薬作製・塩析実習準備 内容 実習書に記載
- 第 11 回 項目 A:塩析・B:体積・C:pH・D:比色
- 第 12 回 項目 (B,C,D,A)
- 第 13 回 項目 (C,D,A,B)
- 第 14 回 項目 (D,A,B,C) 補習・実習後片付け
- 第 15 回

成績評価方法(総合) (1)尿検査実習では、実習ノートを各実習終了後にチェックする。(2)尿沈渣実習の最後に試験を実施する。(3)4項目分析実習ではレポートを提出する。以上を下記の観点・割合で評価する。なお、レポート提出のないものには単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：臨床検査技術学(9)臨床検査総論,伊藤機一,医学書院,2003年;尿沈渣検査法 2000,伊藤機一,社団法人日本臨床衛生検査技師会,2000年/参考書：実習書を配布する

メッセージ 各実習項目は1回のみであるので、限られた時間の中で課題を終えられるよう予習をし、体調を整えて実習に臨んでほしい。やむを得ず出席できない場合は、なるべく当事者が担当教官へ連絡する(メール可)こと。

連絡先・オフィスアワー 上田 順子 [jueda@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:jueda@yamaguchi-u.ac.jp) 0836-22-2833

開設科目	基礎検査学実習 II	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	岡野こずえ・山本美佐・松井智浩				

授業の概要 臨床検査の基礎となる実習である。貴重な患者検体という意識を持つために、臨床材料に近いものを使って、実習を進めて行く。検体の採取法、保存法、実技、結果解釈、それら全てに対して「知識と実技」が結びつくように実習を進めていく。/ 検索キーワード 臨床検査技師、採血、検体、測定値へ影響を及ぼす因子

授業の一般目標 自分が出した検査結果が、臨床診断に反映することを実感する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：臨床検体および検査結果に影響を及ぼす因子を理解し、説明できる。的確な採血技術を取得する。思考・判断の観点：正しい検査結果を出すために対処すべきことを考察・実行できる 関心・意欲の観点：基礎検査項目を含めた臨床検査全般に興味・関心をもち、実施できる 態度の観点：臨床検査技師としてとる精度の高い検査結果を出せる態度を身に付ける 技能・表現の観点：正確な検査結果を出す技術を身に付け、適切な結果を出せる技術を身に付ける

授業の計画(全体) 各自が4つの検査項目について実習を行う。内容は1) 検体採取および保存法と血糖値との関連性、Point of care Testing 法による食事による血糖値の変動評価、2) ビタミン C が尿検査に及ぼす影響、3) クレアチニン クリアランス値測定と臨床的意義、4) 尿沈渣に及ぼす保存法の影響についてである。各検査項目について検体の採取、試薬作製および測定、結果解析の全てを実習し、結果を考察する

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 実習説明と実習準備(器具・試薬)
- 第 2 回 項目 1 班、2 班(A 項目採血)、3 班、4 班(C 項目採血) 内容 A 項目：採血、抗凝固剤および保存による血糖値の変動について調べる
- 第 3 回 項目 1 班(A 項目)、2 班(B 項目)、3 班(C 項目)、4 班(D 項目) 内容 B 項目：ビタミン C 摂取による尿成分に及ぼす影響について調べる。
- 第 4 回 項目 1 班(A 項目)、2 班(B 項目)、3 班(C 項目)、4 班(D 項目) 内容 C 項目：採血、腎機能検査法(クレアチンクリアランス法)を行ない、腎機能検査について調べる。
- 第 5 回 項目 1 班(B 項目)、2 班(A 項目)、3 班(D 項目)、4 班(C 項目) 内容 D 項目：尿の保存法の違いによる尿成分(蛋白、糖、細胞)について調べる。
- 第 6 回 項目 1 班(B 項目)、2 班(A 項目)、3 班(D 項目)、4 班(C 項目)
- 第 7 回 項目 実習説明と実習準備(器具・試薬)
- 第 8 回 項目 1 班、2 班(C 項目採血)、3 班、4 班(A 項目採血)
- 第 9 回 項目 1 班(C 項目)、2 班(D 項目)、3 班(A 項目)、4 班(B 項目)
- 第 10 回 項目 1 班(C 項目)、2 班(D 項目)、3 班(A 項目)、4 班(B 項目)
- 第 11 回 項目 1 班(D 項目)、2 班(C 項目)、3 班(B 項目)、4 班(A 項目)
- 第 12 回 項目 1 班(D 項目)、2 班(C 項目)、3 班(B 項目)、4 班(A 項目)
- 第 13 回 項目 ペーパー試験、後片付け
- 第 14 回 項目 ペーパー試験、後片付け
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 毎回のレポート(20%)、ペーパー試験(80%)

教科書・参考書 教科書：マニュアルを配布する / 参考書：患者さんに伝える臨床検査の説明マニュアル、櫻林郁之介他、医歯薬出版社、2003 年；看護・栄養指導のための臨床検査ハンドブック、奈良信雄、医歯薬出版、2002 年；異常値の出るメカニズム、河合忠他、医学書院、1999 年

メッセージ 臨床検査技師として必要な基礎知識と技術を身に付ける

連絡先・オフィスアワー 岡野は 5 時以降：電話は 0836-22-2837、メールは [kozue@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:kozue@yamaguchi-u.ac.jp)



開設科目	検査機器学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岡野こずえ・篠原紀幸・清水慶久				

授業の概要 実験を行なうに当たっての心構えや服装、器具の選び方と使い方、機器の基本的知識、および実験手技の熟達が要求される。また、出した結果についてレポート整理や解釈など、総合的に学習する。 / 検索キーワード 実習に対しての身だしなみや準備、実習と実習結果の整理と解釈、後片付け

授業の一般目標 全ての実習に必要な実験者の身だしなみ・服装や態度、ピペットやピーカーなど実験用器具の洗浄方法や取り扱い方、実験用試薬類の取り扱い方や試薬の作製方法、一般的な遠心器や分光光度計などの測定用機器の基礎的原理の理解と使用方法を修得させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、実験用器具、実験用試薬類および一般的な機器の使用法や取り扱い方を理解し、説明できる。 思考・判断の観点： 1、実験に必要な器具、試薬、機器等を選び使用することができる。 2、実験の過程を理解し、結果を出すことができる。 3、出した結果を考察できる。 関心・意欲の観点： 1、実験で得られた結果から生じた問題点を追加実験等で解決できる。

態度の観点： 1、実験者らしい身だしなみおよび服装が身に付く。 2、積極的に実験を行なう。 3、実習グループのメンバーと強調できる。 4、自分の意見を主張できる。 5、レポートを作製できる。 技能・表現の観点： 1、測定器具や機器を安全に的確に使用できる。 2、自分の意見を論述できる。

授業の計画（全体） 前半と後半と大きく2つの過程で実習を行なう。前半は、器具の洗浄や取り扱い方、試薬の扱い方や作製方法など基本的な操作を実習させる。後半は、実験目的にあわせた器具の選び方、実験の進め方、測定機器の使い方等を考えさせながら実習を行なわせる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 実習説明と試薬・機器の準備 基本実習（洗浄、採量、天秤、実習室・機器の説明）内容 4班に分かれて、一項目ずつ行なう
- 第2回 項目 基本実習（洗浄、採量、天秤、実習室・機器の説明）内容 ”
- 第3回 項目 ” 内容 班毎に項目を換えて実習を行なう
- 第4回 項目 ” 内容 班毎に項目を換えて実習を行なう
- 第5回 項目 基礎実習（滴定曲線、中和滴定、分光光度計、採量検定）内容 基本実習と同様に4班にわかれて1項目ずつ行なう
- 第6回 項目 ” 内容 班毎に項目を換えて実習を行なう
- 第7回 項目 ” 内容 班毎に項目を換えて実習を行なう
- 第8回 項目 ” 内容 班毎に項目を換えて実習を行なう
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法（総合） 1、後半の実習に関しては、項目ごとにレポートを提出する。 2、実習の出席率とレポート評価から総合判断する。

教科書・参考書 教科書：マニュアルを配布する / 参考書：視覚でとらえるフォトサイエンス化学図録, 黒杭清治他, 数研出版, 2000年; 視覚でとらえるフォトサイエンス生物図録, 鈴木孝仁, 数研出版, 2001年

メッセージ 実習を行なう際の基本的事項を身につける。実習は一回のみであるので、体調を整えて必ず出席するようにして欲しい。やむを得ず欠席した際は、別の時間に補修を行なう。

連絡先・オフィスアワー kozue@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	情報科学演習	区分	演習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	篠原紀幸				

授業の概要 1年生の「情報処理演習」ではコンピュータを電子文房具として扱う能力「情報リテラシー」を習得するために、ワープロソフト等のアプリケーションソフトでさまざまな技法を使ってファイルを作成する作業をしてきた。今度はコンピュータのしくみに話を進め、ファイルとはなにか、Windowsとアプリケーションソフトとの関係は、などコンピュータそのものに関する講義を通じて理解を深めていく。/検索キーワード ハードウェア、基本ソフトウェア、応用ソフトウェア、2進数、ブール代数、論理演算

授業の一般目標 1.ハードウェアの種類や構成を理解できる 2.2進数の計算や2値論理を理解できる 3.OSの働きが理解できる 4.OSと応用ソフトウェアとの関係が理解できる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1.ハードウェア相互の関連を理解する 2.2進数や2値論理を使った演算ができる 3.自分のコンピュータの基本情報を読んで理解することができる 4.OSの役目を理解し、機能を挙げることができる 思考・判断の観点： 1.自分のノートパソコンのセキュリティ対策を講じることができる 2.コンピュータのトラブルが起こしたとき、どこで起きたか、どのようなものか予想することができる

授業の計画(全体) コンピュータの歴史的発展について説明した後、現代のコンピュータのしくみをハードウェア、ソフトウェアの順に解説する。ハードウェアについては種類と働き、相互の関連性を説明する。また論理回路の面から簡単な計算機のしくみを解説する。ソフトウェアについてはOSの役目といくつかの主要な機能を解説する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 コンピュータの歴史
- 第2回 項目 2進数と2値論理、データ表現
- 第3回 項目 ハードウェア構成
- 第4回 項目 CPUと主記憶装置
- 第5回 項目 補助記憶装置
- 第6回 項目 入出力装置
- 第7回 項目 外部接続の規格と通信
- 第8回 項目 基本ソフトウェアの種類と役割 I
- 第9回 項目 基本ソフトウェアの種類と役割 II
- 第10回 項目 基本ソフトウェアの種類と役割 III
- 第11回 項目 ファイルシステム I
- 第12回 項目 ファイルシステム II
- 第13回 項目 ネットワークデバイス
- 第14回 項目 LAN通信プロトコル
- 第15回

成績評価方法(総合) 期末試験 100%

教科書・参考書 参考書：医療情報(情報処理技術編), , ; 他、資料を授業中に適宜配布または口頭で指示する。

連絡先・オフィスアワー Email: nshino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	環境衛生学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	常岡英弘・松井智浩・末永弘美				

授業の概要 1年前期に学んだ環境衛生学の実習である。環境衛生学実習に用いられる基本的な化学的測定方法は、すでに検査機器学で習得したものとす。したがってこの実習では、実習を通じて技術面で検査方法を習得するよりも、むしろすでに学んだ技術を用いて実習課題にアプローチするよう説明する。すなわち環境衛生学実習では、与えられた課題を十分に考慮し、調査対象を自ら選択して正確に測定し、さらに得た測定(調査)結果に対する公衆衛生学的背景を含めて理解し考察するように説明する。なお実習は各人がグループで毎回異なった実習をするよう、実習項目全てをローテーションして実施し、最終の実習項目に関しては試験、あるいは発表させる予定である。/検索キーワード 水質、空気、物理的環境、疲労、食品添加物

授業の一般目標 (1) 水質環境の測定指標・測定意義を理解する。(2) 空気環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定することができ、結果を評価できる。(3) 物理的環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定することができ、結果を評価できる。(4) 疲労の測定意義を説明できる。(5) 見学により環境衛生の現状(検査現場およびごみ処理)を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: (1) 水質環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定し、結果を評価する。(2) 空気環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定し、結果を評価する。(3) 物理的環境の測定指標・測定意義を列挙し、測定し、結果を評価する。(4) 疲労の測定意義を説明し、測定し、結果を評価する。(5) 見学によりごみ処理法の現状を知る。(6) 見学により環境汚染物質測定の現状を知る。思考・判断の観点: 各種環境測定テーマにつき、問題点を指摘出来る。関心・意欲の観点: 各種環境測定テーマにつき、討議できる。

授業の計画(全体) 学生は実習項目全てをローテーションして実施する。よって毎回、すべての実習が行われていることになる。それぞれの項目について、試料の採取や、環境測定場所の決定は学生が考える。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 実習講義、実習準備(試薬作り) 内容 実習項目全てをグループでローテーションして行う。
- 第2回 項目 河川の汚濁試験(DO, BOD、大腸菌群)
- 第3回 項目 湖沼の汚濁試験(SS、BOD、COD)
- 第4回 項目 飲料水(水道水)検査(残留塩素、PH、亜硝酸窒素、細菌数、殺菌力)
- 第5回 項目 食品衛生試験(まな板、包丁、食器の洗浄試験、食品添加物検査)
- 第6回 項目 空気環境測定、疲労検査
- 第7回 項目 騒音測定、電磁波測定、紫外放射線測定
- 第8回 項目 ごみ処理場見学
- 第9回 項目 環境技術センター見学
- 第10回 項目 試験・発表
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) 実習態度、レポート作成、筆記試験で評価する。

教科書・参考書 教科書: 作成実習書を配布する。/参考書: 衛生試験法・注解, 日本薬学会編, 金原出版; 図書館にある衛生試験法・注解(日本薬学会編・金原出版株式会社)を参考とすることが出来る。

開設科目	生化学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	渡部省二・田中経彦・山城安啓				

授業の概要 生化学は生物科学の基礎であり、その実験技術は生物科学のほとんどの分野において利用される。本実習においては、生化学の重要な、また応用の可能性が大きい実験技術を学び、これを習得する。 / 検索キーワード 酵素、細胞分画、電気泳動、プロットイング

授業の一般目標 細胞分画、酵素の抽出、酵素活性の測定、電気泳動、およびプロットイングの技術を学び、これを習得する。実験データをパソコンで処理し、図式化する方法を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：細胞分画の原理を理解する。酵素活性測定の原理を理解する。タンパク質の電気泳動およびプロットイングの原理を理解する。酵素反応の反応速度論を理解する。思考・判断の観点：酵素活性の測定が最適の条件であるかどうかを判断する。実験結果の妥当性を判断する。期待される結果と異なる結果が出た場合、その原因を考察する。態度の観点：欠席せずに、実習内容を予習し、手際よく実験を行う。技能・表現の観点：分画遠心による細胞分画の方法を習得する。酵素活性の測定の技術を習得する。酵素の $K_m$ および $V_{max}$ を実験により求める方法を習得する。ポリアクリルアミド電気泳動、およびプロットイングの技術を習得する。パソコンを使用してデータ解析できる。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 実習説明および 試薬の調整
- 第 2 回 項目 ラット肝臓の細胞分画および小腸からの酵素の抽出 内容 2 班に分け、前半 (第 2-5 週) と後半 (第 6-9 週) を入れ替える。
- 第 3 回 項目 タンパクおよび 酵素活性の測定 (1)
- 第 4 回 項目 酵素活性の測定 (2)
- 第 5 回 項目  $K_m$ 、 $V_{max}$  の測定
- 第 6 回 項目 マウスの各臓器からの酵素の抽出
- 第 7 回 項目 LDH のポリアクリルアミド電気泳動泳動：活性染色
- 第 8 回 項目 SDS-PAGE
- 第 9 回 項目 プロットイング
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) レポートによる

教科書・参考書 教科書：初日にこちらで作成したテキストを配布する。

メッセージ あらかじめ予習し、実習内容を理解しておくこと。実習の資料はホームページ (WEB シラバスからリンク) に掲載されているので参照すること。また、電気泳動の写真等のデータもホームページに掲載。 <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menus/MBpractice.htm>

連絡先・オフィスアワー shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	分子生物学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	渡部省二、山城安啓、柳原正志				

授業の概要 メンデルの法則の再発見から約一世紀、遺伝子が DNA であることが証明されてから約半世紀が経った。そして、20 世紀の最後の四半世紀には遺伝子を中心とした生命科学は驚くべき発展をとげた。この発展に最も大きく貢献したのは組換え DNA 実験技術の開発である。本講義では組換え DNA 実験技術を中心とした実験技術と実験的根拠を含めて、遺伝子の 生化学を広く解説する。 / 検索キーワード 遺伝子、転写、翻訳、DNA、RNA、進化

授業の一般目標 生物がどのような形で自分自身の遺伝情報をもっていて、どのようにしてそれを発現させ、生命活動を営んでいるかを、分子レベルで理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： DNA の構造と複製の機構を理解する。 DNA からタンパク質への情報の流れの機構を理解する。 タンパク質の合成の機構を理解する。 遺伝子の発現調節の機構を理解する。 遺伝子は普遍ではないことを知り、遺伝子の変化の機構を理解する。 遺伝子の変化が進化の原動力であることを理解する。 思考・判断の観点： 遺伝子の分子生物学の基礎を遺伝病、遺伝子治療等の理解に応用できる。 態度の観点： 予習復習をして、まじめに授業に取り組む。

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 ヌクレオチドと 核酸
- 第 2 回 項目 DNA の複製
- 第 3 回 項目 DNA の変異と修復
- 第 4 回 項目 DNA からタンパク質へ：転写
- 第 5 回 項目 DNA からタンパク質へ：翻訳
- 第 6 回 項目 遺伝子と生命の 起原
- 第 7 回 項目 染色体の構造と ゲノム
- 第 8 回 項目 中間試験
- 第 9 回 項目 遺伝子発現の調 節、ウィルスと プラスミド
- 第 10 回 項目 遺伝子の変化
- 第 11 回 項目 進化
- 第 12 回 項目 遺伝子のクロー ニング
- 第 13 回 項目 クローン化した 遺伝子の解析
- 第 14 回 項目 遺伝子データベ ースの利用
- 第 15 回 項目 筆記試験

成績評価方法 (総合) 授業の中で中間試験を行う。 期末試験を行う。 出席が所定の回数に満たない者には 単位を与えない。

教科書・参考書 教科書： Essential 細胞生物学, B. Alberts 他, 南江堂, 1999 年； 次の URL に講義資料をおいてあるので、各自ダウンロードすること。(この資料は随時更新しているので更新日を注意のこと。)保健学科シラバスからも リンクしている。 <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menus/molbiol.htm>

メッセージ 講義の資料はホームページ ( WEB シラバスからリンク ) に掲載されているので 参照すること。 講義時間にすべてを網羅することは時間的に不可能であるので、各自テキストで予習、復習すること。

連絡先・オフィスアワー shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	分子生物学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	渡部省二、山城安啓、柳原正志				

授業の概要 メンデルの法則の再発見から約一世紀、遺伝子が DNA であることが証明されてから約半世紀が経った。そして、20 世紀の最後の四半世紀には遺伝子を中心とした生命科学は驚くべき発展をとげた。この発展に最も大きく貢献したのは組換え DNA 実験技術の開発であろう。本講義では組換え DNA 実験技術を中心とした実験技術と実験的根拠を含めて、遺伝子の生化学を広く解説する。 / 検索キーワード 遺伝子、クローニング、遺伝子診断、個人識別

授業の一般目標 生物がどのような形で自分自身の遺伝情報をもっていて、どのようにしてそれを発現させ、生命活動を営んでいるかを、分子レベルで理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： PCR の原理を理解する。遺伝子のクローニングについて理解する。 ALDH 2 の遺伝子診断の原理を理解する。個人識別の原理を理解する。 思考・判断の観点： 期待される実験結果が出なかった場合、その原因を考察できる。 態度の観点： 欠席せずに、実習内容を予習し、手際よく実験を行う。 技能・表現の観点： PCR の実験技術を習得する。遺伝子のクローニングの実験技術を習得する。 ALDH 2 の遺伝子診断の実験技術を習得する。個人識別の実験技術を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 実習説明および 試薬の調整
- 第 2 回 項目 血液からの DNA の抽出、精製；プラスミドの精製
- 第 3 回 項目 制限酵素による プラスミドの切断とアガロース電気泳動によるプラスミドの切断とアガロース電気泳動による分離
- 第 4 回 項目 アガロースゲルからの DNA の回収、発現ベクターへの組換え
- 第 5 回 項目 Green Fluorescent Protein (GFP) 遺伝子のクローニング
- 第 6 回 項目 Protein (GFP) 遺伝子の発現；ALDH の遺伝子診断
- 第 7 回 項目 Green Fluorescent Protein (GFP) 遺伝子の発現、蛍光顕微鏡による観察
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回
- 第 16 回
- 第 17 回
- 第 18 回
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回

第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) レポートによる

教科書・参考書 教科書：テキストは初日に配布する。

メッセージ あらかじめ予習し、実習内容を理解しておくこと。実習の資料はホームページ (WEB シラバスからリンク) に掲載されているので参照すること。また、電気泳動の写真等のデータもホームページに掲載。 <http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/shwatabe/po-login/menus/MBpractice.htm>

連絡先・オフィスアワー shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp



開設科目	組織学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	尾野 緑				

授業の概要 組織学は疾患を理解するための基本となる学問である。本講義では人体の各器官の組織構築および構成細胞の微細構造とその機能について講義する。/ 検索キーワード 器官 組織 細胞 構造 機能

授業の一般目標 人体の各器官の組織構築および構成細胞の微細構造とその機能を理解し、知識として習得できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各器官の組織構築および構成細胞の微細構造とその機能を理解し、知識として習得できる。 思考・判断の観点：正常の組織構築や細胞の機能を理解することにより、疾患を理解することを容易にする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 上皮組織、支持組織
- 第 2 回 項目 筋組織、脈管系、血液と骨髄、胸腺
- 第 3 回 項目 神経組織
- 第 4 回 項目 リンパ性器官
- 第 5 回 項目 消化器系
- 第 6 回 項目 消化器系
- 第 7 回 項目 呼吸器系、泌尿器系
- 第 8 回 項目 組織学病理学実習中間試験
- 第 9 回 項目 生殖器系
- 第 10 回 項目 内分泌器系
- 第 11 回 項目 皮膚、感覚器系
- 第 12 回 項目 スケッチ
- 第 13 回 項目 スケッチ
- 第 14 回 項目 組織学病理学実習試験
- 第 15 回

成績評価方法（総合）・講義した内容について小テストを行う・小テストで基準を満たさない場合、定期試験を行う

教科書・参考書 教科書：入門組織学, 牛木辰男著, 南江堂, 2002年

メッセージ 組織学講義、病理学講義と組織学・病理学実習を平行して行うので、予習・復習を行うこと

連絡先・オフィスアワー mono@yamaguchi-u.ac.jp TEL0836-85-2853

開設科目	組織学病理学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	高橋睦夫, 尾野 緑				

授業の概要 主要な臓器・組織の正常構造や病変を実習の始めに教員が説明する。その後、そのガラス標本を各自が顕微鏡で観察し、各々の臓器・組織や病変の特徴像をスケッチして、説明を加える。 / 検索キーワード 臓器・組織の正常構造, 病変の形態像

授業の一般目標 主要な臓器・組織の正常構造や病変を実際に顕微鏡で観察することによって、臓器・組織の構造や病変の理解・把握がより確実にできる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. 主要な臓器・組織の正常構造を理解・把握できる。 2. 主要な病変の病理組織像を理解・把握できる。 思考・判断の観点: 1. 臓器・組織の構造から機能を理解できる。 2. 病理組織像から身体に及ぼす影響を説明できる。 関心・意欲の観点: 1. 組織・病理標本を理解・把握するために、組織学や病理学を復習する意欲がある。 2. 解剖学, 組織学, 病理学の知識を形態学と結びつけようとする意欲がある。 態度の観点: 常に疑問を持ち, 自ら調べ, また積極的に質問する意欲がある。

授業の計画(全体) 実習は組織学講義, 病理学講義と平行して行い, 各臓器・組織の正常構造とその病変を器官別に顕微鏡で観察する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 光学顕微鏡の使い方, 実習の説明, 上皮組織, 支持組織
- 第 2 回 項目 筋組織, 脈管組織, 骨髄, 胸腺
- 第 3 回 項目 神経組織
- 第 4 回 項目 リンパ性器官
- 第 5 回 項目 中間試験, 消化器系
- 第 6 回 項目 消化器系
- 第 7 回 項目 消化器系
- 第 8 回 項目 消化器系, 呼吸器系
- 第 9 回 項目 呼吸器系
- 第 10 回 項目 泌尿器系, 男性生殖器
- 第 11 回 項目 女性生殖器
- 第 12 回 項目 内分泌器官
- 第 13 回 項目 皮膚, 感覚器系
- 第 14 回 項目 全体試験, 標本整理
- 第 15 回 項目 予備

成績評価方法(総合) 中間試験(30点満点), 定期試験(70点満点)の合計点(100点満点)で評価する。

教科書・参考書 参考書: 組織学・病理学実習の手引き(ハンドアウト)

メッセージ 毎回, 実習でその日に各自が書いたスケッチを教員が閲覧し, 質問するので, 実習前に講義で習ったことを復習し, 十分理解しておくこと。

連絡先・オフィスアワー E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845, 連絡先: 保健学科研究棟1, オフィスアワー: 随時大歓迎

開設科目	病理形態学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	高橋睦夫				

授業の概要 病理形態学では病理学を基礎にして臓器別により細かく疾患について学ぶ。病理学がきちんと身に付いていれば、病理形態学に出てくる疾患の多くは既にその成り立ちが解っている。病理形態学はその応用であるから、非常に理解しやすいはずである。単に講義を聴くという受け身の勉強ではなく、自分の知識を整理し、考える習慣をつけて欲しい。「何故、どうして、そうなるのか？」を考えるのが病理形態学である。/ 検索キーワード 循環器、呼吸器、消化器、泌尿生殖器、内分泌器、造血管、神経系

授業の一般目標 機能別系統を構成している臓器とその機能や組織像等が基本である。各臓器に特有な重要疾患の特徴、原因、経過、治療などを理解し、その臓器に何故発生し、どの様な影響が全身に及ぶかを考察する。病理学的検査が最も重要視されるのは腫瘍性疾患であり、不明な点は積極的に質問し、正確な知識を身につける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 基本的病変が起こりやすい臓器をあげることができる。 2. 各臓器に特有な疾患は何か理解している。 4. 系統的に臓器を冒す全身性疾患について述べる事が出来る。 5. 各疾患と年齢、性、人種による差異を理解している。 思考・判断の観点： 1. 基本的病変が発生した結果どんな影響が全身に及ぶか説明できる。 2. 全身性疾患の発生病理や、経過を考察できる。 関心・意欲の観点： 1. 病理形態学を学ぶために、病理学を復習する意欲がある。 2. 解剖学、組織学の知識を病理形態学とを結びつけようとする意欲を示す。 態度の観点： 知識のまる覚えではなく、常に何故かと疑問を持ち、理解しようする意欲がある。

授業の計画(全体) 講義は教科書にそって進めるが、病理形態学は形態学中心の学問であり、肉眼像や組織像が重要であるので、教材提示装置を使って、典型的な病変のカラー写真を提示する。講義を聴くだけの受身の授業ではなく、積極的に質問し、学生が中心となる活気ある授業を期待する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 消化器系
- 第 2 回 項目 内分泌系, 泌尿器系
- 第 3 回 項目 生殖器系
- 第 4 回 項目 造血管系
- 第 5 回 項目 神経系
- 第 6 回 項目 病理検査法
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 定期試験(70点満点)と小テスト(3回を予定30点満点)の総合点で評価。

教科書・参考書 教科書：わかりやすい病理学 改訂第4版, 岩田隆子、恒吉正澄、宮原晋一編, 南江堂, 2005年 / 参考書：外科病理学, 向井清他, 文光堂, 2006年

メッセージ 臓器別の病変を学ぶので各臓器の形態や機能の特徴を理解していることが極めて重要。

連絡先・オフィスアワー E-mail: [mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp) , Tel/Fax: (0836) 22-2845 , 研究室：保健  
学科研究棟1 , オフィスアワー：随時大歓迎

開設科目	医動物学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	梅田昭子・柳原正志				

授業の概要 医動物学 Medical Zoology はヒトに病気を引き起こす寄生虫 parasite を中心に学ぶ。寄生虫の形態や生活史が重要であることは当然であるが、どの様にして寄生場所に到り、その結果どんな影響が現れるかは人体の構造がわからなければ理解できない。形態学、病理学との関連が深いので、十分に予習してくること。理解度を自覚するため、適宜小テストを行うので復習を充分行って講義に臨むこと。  
/ 検索キーワード 寄生、宿主、生活史、感染経路、検査法、検査材料、原虫、吸虫、線虫、糸虫

授業の一般目標 1. 寄生虫の生活史を理解している。 2. 寄生虫卵、幼虫、成虫、原虫の形態などを理解し、鑑別できる。 3. 寄生虫の検査法を理解している。 4. どんな臓器にどんな影響が現れるか理解している。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 寄生虫の特徴や検査法や病原性が説明できる。 2. 寄生のメカニズムを説明できる。 3. 宿主の防御機構を理解できる。 思考・判断の観点： 1. 日本における寄生虫の現状を判断できる。 2. 重要な寄生虫疾患とは何か考察できる。 3. 臨床検査における寄生虫検査のあり方を考察できる。 関心・意欲の観点： 1. 寄生虫疾患について興味がある。 2. 鑑別能力を得るため積極的に実習に取り組んでいる。

授業の計画(全体) 医動物学の講義を前半終了した後、知識を身につけた上で、後半から実習を行う。鑑別すべき事項についてしっかり理解した上で、実習に臨む。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 寄生虫総論 内容 寄生虫学とは 寄生現象 分類 発育と生活史 感染と病態 臨床 対策
- 第 2 回 項目 原虫類 内容 原虫類総論 消化管寄生 1 赤痢アメーバ
- 第 3 回 項目 原虫類 内容 消化管寄生 2 ランブル鞭毛虫 大腸バランチジウム クリプトスポリジウム他
- 第 4 回 項目 原虫類 内容 血液・組織寄生 1 マラリア原虫 トリパノソーマ
- 第 5 回 項目 原虫類 内容 血液・組織寄生 2 リーシュマニア トキソプラズマ ニューモシスチス・カリニ 膾トリコモナス
- 第 6 回 項目 吸虫類 内容 吸虫類総論 腸管寄生 肝・胆管系寄生
- 第 7 回 項目 吸虫類 内容 組織寄生 肺吸虫類 住血吸虫類
- 第 8 回 項目 糸虫類 内容 糸虫類総論 腸管寄生 1 裂頭糸虫類 無鉤糸虫 有鉤糸虫
- 第 9 回 項目 糸虫類 内容 腸管寄生 2 小形糸虫 縮小糸虫 幼虫寄生 線虫類の特徴
- 第 10 回 項目 線虫類 内容 線虫類総論 腸管寄生 1 蛔虫 鞭虫 蟯虫
- 第 11 回 項目 線虫類 内容 腸管寄生 2 鉤虫 糞線虫 東洋毛様線虫 旋毛虫
- 第 12 回 項目 線虫類 内容 組織寄生 糸状虫 オンコセルカ 東洋眼虫 幼虫寄生 イヌ蛔虫等  
イヌ糸状虫 アニサキス 有棘顎口虫 広東住血線虫
- 第 13 回 項目 衛生動物類 内容 衛生動物類総論 吸血昆虫類 ダニ類
- 第 14 回 項目 診断・検査法 内容 原虫検査 蠕虫検査 免疫診断法
- 第 15 回 項目 試験 1 1月26日以後は金曜日午前 中実習(詳細は実習開始前に連絡)
- 第 16 回 項目 実習 1 内容 原虫 1
- 第 17 回 項目 実習 2 内容 原虫 2
- 第 18 回 項目 実習 3 内容 吸虫
- 第 19 回 項目 実習 4 内容 糸虫
- 第 20 回 項目 実習 5 内容 線虫 1
- 第 21 回 項目 実習 6 内容 線虫 2
- 第 22 回 項目 実習試験
- 第 23 回
- 第 24 回

第 25 回

第 26 回

第 27 回

第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 (総合) 定期試験、小テスト、実習実技テスト、実習試験を総合して評価する

教科書・参考書 教科書：寄生虫学テキスト，上村清他，文光堂，2000 年 / 参考書：エッセンシャル寄生虫学，多田功，大友弘士，医歯薬出版，1999 年

メッセージ 単位のために覚えるのではなく，信頼される臨床検査技師になるために自発的に知識を深めて欲しい。興味を持つことが第一。

連絡先・オフィスアワー 特に設けない。在室しているかぎり対応するので気楽に研究室を訪れて欲しい。

開設科目	病態生化学 I	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	服部幸夫				

授業の概要 病態生化学 II で臨床化学の検査項目の測定法を学ぶが、その各項目の臨床的意義付けを理解するのが、病態生化学 I である。つまり、検査の背景にある生理あるいは病態生理を学び、その検査から何がわかるのか、を理解する。授業はスライド形式で行うが、全てインターネットにアップロードしておく。スライドには注釈、参考書のページも明示しており、自己学習がやりやすいように配慮されている。次の時間の最初の 20-30 分にポストテストを毎回行う。 / 検索キーワード 臨床化学

授業の一般目標 化学検査各項目の臨床的意義を理解できるようになること。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：化学検査の背景にある病態生理を理解し、その検査の意義を学ぶ。

思考・判断の観点：各検査は必ずしもそれのみで病態を診断できるものではなく、いくつかの検査が組合わさって病態を明らかにできる場合が少なくない。相互の検査値の関連付けが重要である。つまり、知識を統合するためには、思考・判断が重要な要素となる。関心・意欲の観点：臨床検査の背景には病気のメカニズムが存在することを常に認識しておくことが、臨床検査を楽しくさせる秘訣といえる。そしてそれが醍醐味でもある。疑問点は本やインターネットで調べ、知識を深める。一方、未知の問題点は臨床検査上の研究対象となって浮かび上がってくる。関心・意欲は高度職業人としての生き方に極めて重要である。

授業の計画（全体）ポストテストを授業開始直後の 20-30 分で毎回行う。授業はスライドで行う。スライドはアップロードしておく。スライドには自習しやすいように教科書の関連ページ、脚注をつけておく。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 Orientation, Na,K, acid-base, PaO<sub>2</sub>
- 第 2 回 項目 Ca, P,Fe, UIBC
- 第 3 回 項目 BS, pyruvate, ketone bodies
- 第 4 回 項目 HbA<sub>1c</sub>, FA, Alb,1,5-AG, GTT, insulin
- 第 5 回 項目 Lp,TG, Chol, FFA
- 第 6 回 項目 apoLp,Lp(a),HDL-chol
- 第 7 回 項目 hypophysis,thyroid,
- 第 8 回 項目 steroid, 17-KS,catcholamine
- 第 9 回 項目 NPN, UN, urate
- 第 10 回 項目 ammonia,creatinine,
- 第 11 回 項目 bil\_bile acid
- 第 12 回 項目 serum protein,alb, fibrinogen, urine pro, others
- 第 13 回 項目 isozyme(LD), AMY,ALT AST
- 第 14 回 項目 Alp,AcP,g-GT,LAP,ChE,CK,other enzymes
- 第 15 回 項目 tumor marker,drug、function test

成績評価方法（総合）主として本試験で評価する。しかし、ポストテスト（小試験）の結果も参考とする。

教科書・参考書 教科書：異常値の出るメカニズム、河合忠 編集、医学書院、2001 年；この教科書は 3 年次の「臨床病理学」の教科書も兼ねる。3 年次では、臨床化学以外のところも徹底的に学習する。 / 参考書：Review of medical physiology (A Lange medical book) 21th ed., William F. Ganong, Lange Medical Books/McGraw-Hill, 2003 年；Textbook of medical physiology [10th ed], "Arthur C. Guyton, John E. Hall", W.B. Saunders, 2000 年；"Medical Physiology, 10ed", Guyton & Hall, Saunders, 2000 年；"Review of Medical Physiology, 24ed", Ganong, Lange, 2003 年；病態生理学の基本は生理学です。和書の教科書でも結構ですが、Lange の Review of Medical Physiology は昔から定評のある本で、病態

に関しても言及してあります。浅薄な知識を深めて生理学の面白さを味わうことができます。Guyton の Medical Physiology も有名で遜色のない本です。

連絡先・オフィスアワー hattori-ygc@umin.ac.jp



開設科目	病態生化学 II	区分	講義	学年	2 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	後期
担当教官	山城安啓				

授業の概要 特に化学的手法によって生体試料を分析し、病態に有用なデータを提供するという臨床化学という学問領域の講義する。病態生化学 II は測定法や検査値の読み方等に重点を置くが、病態と検査の関係、異常値が出るメカニズムなども講義し臨床との関わりも学んでもらう。また、生体の動態を把握する上で必要な代謝などの生化学の内容も講義する。

授業の一般目標 臨床化学分野における、国家試験に合格できるだけの知識の獲得。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 毎回前回の講義の内容に関する小テストを行い、合計で 6 割以上の成績。

授業の計画（全体） 臨床化学の基礎を総論で説明し、無機質、糖質、脂質、蛋白質、酵素などの個々の項目について、検査法、測定データの読み方、なぜ異常値が出るかをからめて講義する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 総論 1 内容 分析の基礎：単位、天秤、量器、緩衝液制度管理等
- 第 2 回 項目 総論 2 内容 分析の原理と方法：比色法、電気泳動法、イオン選択電極、pH メーター等
- 第 3 回 項目 総論 3 内容 酵素の基礎：酵素を使った測定法と酵素活性測定法
- 第 4 回 項目 無機質 内容 生体内無機質：ナトリウム、カリウム、カルシウム、マグネシウム、鉄、クロール、無機リン、重炭酸イオン、その他の重金属、微量元素（元素）
- 第 5 回 項目 糖質 内容 糖質の分類、代謝、血糖、尿糖、髄液糖、糖尿病関連検査項目、ケトン体、乳酸ピルビン酸
- 第 6 回 項目 脂質 内容 脂質の分類、代謝、TG, コレステロール、リン脂質、NEFA、リポ蛋白の分類、Lp(a)、LDL,HDL
- 第 7 回 項目 ホルモン 内容 ホルモンの分類、下垂体ホルモン、甲状腺ホルモン、副甲状腺ホルモン、副腎ホルモン、性ホルモン、消化管ホルモン、代謝産物
- 第 8 回 項目 非蛋白性窒素、生体色素 内容 非蛋白性窒素の定義、尿素、尿酸、クレアチン・クレアチニン、アンモニア、核酸の代謝、尿素回路、ビリルビン、胆汁酸
- 第 9 回 項目 タンパク質 内容 アミノ酸の構造と分類、血清蛋白、分画、アルブミン、セルロプラスミン、トランスフェリン、フェリチン、フィブリンーゲン等
- 第 10 回 項目 酵素 1 内容 酵素の役割と分類、LDH、AST・ALT、CK、アイソザイム
- 第 11 回 項目 酵素 2 内容 ALP・AcP、PAS、アミラーゼ、Ch-e、-GT、LAP、リパーゼ、アルドラーゼ、MAO、NAG
- 第 12 回 項目 機能検査 内容 機能検査の目的、肝機能、腎機能、膵機能、内分泌機能、外分泌機能
- 第 13 回 項目 薬物血中濃度・腫瘍マーカー 内容 薬物血中濃度測定の目的、測定法、各種腫瘍マーカーの意義と測定法
- 第 14 回 項目 放射性同位元素 1
- 第 15 回 項目 放射性同位元素 2

成績評価方法（総合） 小テストの結果 × 0.4 + 本試験の結果 × 0.6 で評価。

教科書・参考書 教科書：臨床検査技術学 臨床化学, 菅野剛史, 医学書院, 2000 年；臨床検査知識の整理 臨床化学, 藤田勝治, 医師薬出版株式会社, 2004 年

メッセージ 講義を聴くだけで学力はつきません。自ら勉強することでようやく身につきます。受動的ではなく積極的に勉強してください。

連絡先・オフィスアワー 連絡先：yamasiro@yamaguchi-u.ac.jp 22-2863

開設科目	形態機能学実習	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山田治・松井智浩・柳原正志				

授業の概要 本実習は「機能検査学実習」の基礎編に位置づけられる。生理機能学では、人の体の仕組みとその正常な働きと動態を学ぶ。これらの人体の基礎生理に基づく生体反応の中から代表的な7項目選び、その反応を身近な機器を実際使用し、記録をすることにより、基礎的な生理的機能を理解する。また、英語を用いた教材を通じて、生理機能の理解を深める。/ 検索キーワード 生理機能、解剖学、医学英語

授業の一般目標 ?解剖学の知識を深め、その立体構造を述べるができる。?聴覚測定・視覚測定の手技を説明し実施できる。?肺機能検査の意義を説明し実施できる。?血圧・脈拍の意義を説明し正しく測定できる。?心電図の肢誘導についてその意義を説明し測定できる。?筋電図・神経伝導速度についてその意義を述べ測定できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 6テーマの実習についてその原理を説明できる。 2. 見学については、解剖学の立体的な器官の位置構造、名称および機能が説明できる。 3. 聴覚測定・視覚測定の手技を説明し実施できる。 肺機能検査の意義を説明し実施できる。 4. 血圧・脈拍の意義を説明し正しく測定できる。 5. 心電図の肢誘導についてその意義を説明し測定できる。 6. 筋電図・神経伝導速度についてその意義を述べ測定できる。 思考・判断の観点： 1. 得られた結果の説明できる。 2. 高頻度の異常を指摘できる。 関心・意欲の観点： 1. ヒトの生理機能のメカニズムに関心を持つ。 態度の観点： 1. 問題意識を持って積極的に実習に取り組むことができる。 技能・表現の観点： 1. 考察した結果を文章や口頭で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 1回の実習見学を除き、6回はすべて小グループに分かれて実習を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 心電図(肢誘導)測定 内容 生理機能実験室(3) 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。
- 第2回 項目 肺機能検査・聴覚測定 内容 生理機能実験室 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。
- 第3回 項目 視覚・視野・盲点測定 内容 生理機能実験室(3) 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。
- 第4回 項目 頭部解剖学実習 内容 解剖学実習見学 授業外指示 解剖学実習見学は注意事項を必ず読むこと。
- 第5回 項目 ヒトの感覚 内容 生理系実験室 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。
- 第6回 項目 血圧・脈拍測定 内容 生理系実験室 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。
- 第7回 項目 CD-ROMによる解剖・生理実習 内容 第5講義室 授業外指示 実習書を読み、関連領域の参考書を調べておくこと。
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

教科書・参考書 参考書：実習マニュアル(配布プリント)を配ります。図書館等の生理学、解剖学の参考書を必ず読んで下さい。

連絡先・オフィスアワー 山田治：電話は 0836-22-2803、 E-mail は [osamuymd@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:osamuymd@yamaguchi-u.ac.jp)。

開設科目	血液学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山田治				

授業の概要 21世紀の血液学は、分子生物学に基づく病気の病因・病態の解明がめざましく進んでいる。それに伴い、急性前骨髄球性白血病、慢性骨髄性白血病や悪性リンパ腫の治療に、それぞれビタミンAの誘導体、チロジンキナーゼ阻害薬そして抗CD20抗体が有効であることが示されている。本講義では、これらのトピックスを含めながら、基本的な血液細胞の発生、分化・成熟、機能に始まり、各血球系の病気について、成因、診断・検査、治療及び予後についてを解説する。/検索キーワード 臨床血液学、血液疾患、貧血、白血球の病気、出血凝固

授業の一般目標 1)造血器細胞の産生から崩壊までの過程を知り、各血球の機能を理解する。2)赤血球系、白血球系、止血凝固系の異常について理解し、その主要な疾患については具体的な病名を示し、診断に必要な検査を判断し、検査学的な異常を評価できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：血液細胞の造血過程を説明できる。各血球の機能を説明できる。赤血球の減少する疾患、増加する疾患についてその病態を説明できる。白血球の減少する疾患、増加する疾患についてその病態を説明できる。血小板・凝固因子の異常を起こす疾患についてその病態を説明できる。思考・判断の観点：造血臓器の正常および異常細胞を類別できる。赤血球系、白血球系、血小板・凝固因子系の疾患を類別し、その異常を指摘できる。関心・意欲の観点：与えられた資料から、その病態を生じる疾患を検討し、疾患鑑別を討議できる。態度の観点：グループのメンバーと協調し、課題症例の発表に積極的に参加できる。技能・表現の観点：疾病の症状、病因、診断のための検査、鑑別診断、治療について適切な根拠に基づく資料を使用できる。

授業の計画(全体) 血液成分である、血球(赤血球、白血球、血小板)と血漿蛋白についてその生理的形態と機能についてをPower Pointを使用して説明する。また、その減少、増加を起こす病態とその時の血液学的所見、診断方法を講義する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 血液学総論(1) 内容 造血臓器と血液成分・血液の機能について説明する 授業外指示 1)シラバスを読んでおくこと 2)第14回で発表予定の課題症例の資料を配付する 3)資料は各班を編成し授業外で検査手技、基準値を調べ、症例の病名を考える 授業記録 電子テキスト参照
- 第2回 項目 赤血球系(1) 内容 赤血球の産生と崩壊について説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト
- 第3回 項目 赤血球(2) 内容 1)赤血球産生に必要な栄養素の代謝 2)貧血の定義、分類 3)小球性低色素性貧血について説明する 授業記録 電子テキスト参照
- 第4回 項目 赤血球系(3) 内容 大球性貧血について説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト
- 第5回 項目 赤血球系(4) 内容 1)正球性貧血 2)再生不良性貧血 3)二次性貧血について説明する 授業記録 電子テキスト参照
- 第6回 項目 白血球系(1) 内容 正常白血球の機能、分化・生成・崩壊について説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト
- 第7回 項目 白血球(2) 内容 1)白血球増加症 2)白血球減少症 3)HIV/AIDSについて説明する 授業記録 電子テキスト参照
- 第8回 項目 白血球(3) 内容 1)急性白血病 2)MDSについて説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト
- 第9回 項目 白血球系(4) 内容 1)慢性白血病 2)骨髄増殖性疾患について説明する 授業記録 電子テキスト参照
- 第10回 項目 白血球系(5) 内容 1)悪性リンパ腫 2)M蛋白血症について説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト

- 第 11 回 項目 出血凝固系( 1 ) 内容 1 ) 正常血小板の機能、分化・生成・崩壊 2 ) 正常の凝固線溶系について説明する 授業記録 電子テキスト参照
- 第 12 回 項目 出血凝固系( 2 ) 内容 1 ) 血小板減少症 2 ) 血小板増加症 3 ) 血小板機能異常症について説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト
- 第 13 回 項目 出血凝固系( 3 ): 血小板と凝固線溶系 内容 1 ) 血友病 2 ) DIC について説明する 授業記録 電子テキスト参照 小テスト
- 第 14 回 項目 質疑応答 内容 今までの講義の補充と疑問点に応える 授業記録 電子テキスト参照 小テスト
- 第 15 回

成績評価方法(総合) ( 1 ) 授業中に小テストを 7 回行う。( 2 ) 課題症例についてレポートを用紙 5 枚程度で作成し、提出する。( 3 ) 試験を期末に 1 回実施する。以上を、下記の観点、割合で評価する。なお、出席が所定の回数に満たないものには、単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：血液検査学第 4 版, 古澤新平、磯部淳一, 医学書院, 2003 年；血液細胞アトラス [ 第 5 版 ], 三輪史朗, 文光堂, 2004 年；講義は電子テキストに沿って進行する。項目等は教科書に沿っているので講義前に電子テキストと教科書を読んでおここと。また、この教科書は 3 年次の血液検査学実習でも使用する。

メッセージ 質問した人を評価します。疑問を残さないようにしてください。

連絡先・オフィスアワー 時間帯は特に設定しませんが、ノックして、氏名を名乗って入室して下さい。

開設科目	医療放射線学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	松永尚文				

授業の概要 放射線医学の診断、核医学、放射線治療の日常放射線診療の実際を理解するために、画像の成り立ちと各疾患における特徴像、臓器特異性の核種を用いて機能的情報を提供する核医学的診断、放射線診断技術の治療的応用 (IVR) や集学的治療の臨床応用など、high technology を駆使した放射線診療を学習し、低侵襲的な検査の読影と集学的治療の役割を習熟する。また、放射線治療の日常診療の実際を理解するために、悪性腫瘍の由来の性質と放射線治療に対する腫瘍の感受性を学習し、放射線治療の役割を習熟する。 / 検索キーワード 放射線診断、核医学、放射線治療

授業の一般目標 1) 放射線医学の歴史を述べることができる。 2) 放射線医学の基本的事項を説明できる。 3) 単純 X 線写真の画像の成り立ちと所見を説明できる。 4) 超音波の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。 5) CT の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。 6) MRI の原理、画像の成り立ちと所見を説明できる。 7) 血管造影・Interventional Radiology の手技と有用性について説明できる。 8) 核医学の核種、その画像の成り立ちと所見を説明できる。 9) 放射線治療の有用性について説明できる。 10) 放射線被曝と放射線安全防護について説明できる

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 放射線医学総論 内容 放射線医学の歴史、診断に利用される X 線の性質、X 線装置を理解する。
- 第 2 回 項目 X 線診断 内容 造影検査、造影剤について理解する。X 線像診断の基本的なアプローチと心がまえを理解する。
- 第 3 回 項目 X 線診断 内容 X 線検査の基本的装置、検査法の種類と、画像診断の成り立ちを理解する。
- 第 4 回 項目 CT 診断 内容 CT の原理、断層画像表示の要点、造影 CT 検査の適切な施行方法、その意義と臨床的有用性を理解する。CT による全身の断層解剖を理解し、正常像と異常像の区別を理解する。
- 第 5 回 項目 血管造影 内容 血管造影の歴史、血管造影の利点、血管造影の手技、主要な血管造影所見、臨床的有用性と合併症およびその対策を理解する。
- 第 6 回 項目 IVR 内容 Interventional Radiology の概念、種類、臨床的有用性と限界、合併症とその対策を理解する。
- 第 7 回 項目 MRI 内容 MR の原理、MR の各種撮像法の特徴、アーチファクトの種類と原因と対策、MR 検査を安全に行うために留意すべき点、MR 用造影剤についてその種類、使用法などを理解する。
- 第 8 回 項目 超音波診断 内容 超音波診断の原理、各疾患に特徴的な超音波像を理解する。
- 第 9 回 項目 核医学診断の基礎 内容 放射性同位元素の定義と性質、放射性医薬品の特徴、放射線計測原理と使用目的、シンチカメラの構造と撮像原理、各種放射性医薬品で標的臓器が描出される原理、SPECT と PET 検査の原理を理解する。
- 第 10 回 項目 核医学診断の臨床 (1) 内容 各種疾患におけるシンチグラフィ所見を理解する。
- 第 11 回 項目 核医学診断の臨床 (2) 内容 各種疾患におけるシンチグラフィ所見を理解する。
- 第 12 回 項目 放射線治療、1 回目 内容 放射線治療に必要な放射線物理学 ( 単位、装置等 )、生物学的基礎 ( 放射線の作用機序と感受性 )、放射線治療 ( 根治治療と対症照射 ) の適応、照射技術、放射線治療の副作用 ( 急性障害と慢性障害 ) を理解する。
- 第 13 回 項目 放射線治療、2 回目 内容 放射線治療の適応疾患、その有効性、放射線治療手技 ( 外部照射法、内部照射法 )、放射線治療の副作用と対策を理解する。
- 第 14 回 項目 放射線障害と健康管理 内容 自然放射線、医療被曝定量的に理解する。被曝提言策、放射線防護、健康管理についても理解する。
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書：臨床放射線医学、医学書院（2,000 円） / 参考書：標準放射線医学 (Standard textbook) 第 6 版, ”高島力, 佐々木康人監修；中田肇 [ほか] 編集；中田肇 [ほか] 執筆”, 医学書院, 2001 年；標準放射線医学（第 6 版）(CD 付) (医学書院、12,000 円)

メッセージ 臨床放射線医学を教科書とし、教科書に沿って講義をするので、必ず予習、復習してください。

連絡先・オフィスアワー 松永尚文：matsuna@yamaguchi-u.ac.jp、電話 22-2282

開設科目	病態栄養学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	田坂 克子				

授業の概要 適切な栄養管理は、患者の生命維持に必須であるばかりでなく、疾病の治療・予防や周術期の管理を効果的に実施する上で基本となる治療法である。また、患者の QOL 向上させる重要な要因である。この講義では病態の改善に食事療法が重要な位置を占める代表的疾患をとりあげ、その概念、病態、診断、治療（食事療法を中心に）の原則について概説する。

授業の一般目標 1. 栄養素の種類と機能に関する基礎知識をもとに栄養所要量、栄養法の種類と適応、栄養障害の評価方法、治療方法を理解する。2. 腸疾患、肝臓病、腎臓病の病態と栄養サポートに関する知識を習得する。3. 生活習慣病の考え方を理解し、肥満、高脂血症、糖尿病、高血圧の病態と食事療法を中心とした治療法を理解する。

教科書・参考書 教科書：指定しない。授業開始時に授業スライドと詳細な授業ノートを CD-R で配布する。 / 参考書：授業中に適宜紹介する。



開設科目	保健学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山崎秀夫				

授業の概要 地域で生活する人々の健康の保持・増進のための方策を公衆衛生的な視点から 教授する。  
 / 検索キーワード 健康、保健、公衆衛生

授業の一般目標 1．健康増進対策と保健対策について理解する。 2．望まれる健康増進対策と保健対策を考察する。 3．健康水準の把握・評価について考察する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：健康水準を把握・評価方法について述べるができる。ヘルスプロモーションを要約できる。日本の健康対策とその経緯が説明できる。 思考・判断の観点：健康問題対策の問題点を指摘できる。

授業の計画（全体） 講義の概要説明 ヘルスプロモーション 保健衛生行政と生活・健康 公衆衛生と保健学 健康をめぐる諸問題 国民の健康と保健統計 疫学と疾病予防 健康教育とその展開 公衆衛生・保健活動の実際・課題 まとめ

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義の概要説明 内容 担当教員やシラバについて説明する。
- 第 2 回 項目 ヘルスプロモーション 1 内容 ヘルスプロモーションの背景、意義、内容等、ヘルスプロモーションの枠組みについて説明する。
- 第 3 回 項目 ヘルスプロモーション 2 内容 ヘルスプロモーションについて、施策的視点からアプローチし、その実際を説明する。
- 第 4 回 項目 保健衛生行政と健康・生活 1 内容 保健衛生行政の組織的構成と健康政策策定のプロセス等について説明する。
- 第 5 回 項目 保健衛生行政と健康・生活 2 内容 保健衛生行政と国民の生活について説明する。
- 第 6 回 項目 公衆衛生と保健学 内容 公衆衛生と保健学の関わりや相違について説明する。
- 第 7 回 項目 健康をめぐる諸問題 1 内容 健康問題との関わりから人口問題を取り扱い、世界人口、日本人口等について説明する。
- 第 8 回 項目 健康をめぐる諸問題 2 内容 環境問題や食に関わる問題を保健学的視点から説明する。
- 第 9 回 項目 国民の健康と保健統計 内容 国民の健康状態の実態と健康水準を示す諸指標について説明する。
- 第 10 回 項目 疫学と疾病予防 内容 健康問題の本質を探る手法としての疫学や疾病予防の方法等について説明する。
- 第 11 回 項目 健康教育とその展開 内容 健康教育の目的、目標、内容、方法、評価等について説明する。
- 第 12 回 項目 公衆衛生・保健活動の実際・課題 1 内容 公衆衛生活動や保健活動の実際等について説明する。
- 第 13 回 項目 公衆衛生・保健活動の実際・課題 2 内容 公衆衛生活動や保健活動の課題等について説明する。
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 全体的なまとめを行う。
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法（総合） 筆記試験と出席により評価する。

教科書・参考書 教科書：公衆衛生学、小野寺伸夫編、メヂカルフレンド社、2004年

開設科目	緩和ケア論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	東玲子、齊田菜穂子、中尾富士子				

授業の概要 健康レベルが終末期にある人々とその家族を理解し、終末期患者及び家族のニーズ・健康問題を解決するために必要な考え方、理論及び具体的な方法を学ぶ。また、医療現場で患者や家族を取り巻く倫理的課題や終末期患者及び家族に対する看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を学ぶ。  
/ 検索キーワード 終末期看護、緩和ケア、人間としての尊厳、生活の質（QOL）

授業の一般目標 1. 緩和ケア・終末期ケアの概念・意味とその歴史的背景を理解する。2. 終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を理解する。3. 健康レベルの低下に伴い生じてくるニーズ・問題に対して、その人らしさを重視して質の高い生活を送れるような方向で援助する方法を理解する。4. 終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 緩和ケア・終末期ケアの概念とその歴史的背景を述べることができる。2. 終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴を述べるができる（進行がんの一般的な病態生理、告知・病状進行・死別による生理的・心理的反応）。3. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を述べるができる。4. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を述べるができる。5. 終末期患者の生活の質に関わる要因とその測定方法を述べるができる。 思考・判断の観点：1. 対象の生活・生命の質を維持・向上させるような方向で援助することの意味を述べるができる。2. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題をアセスメントできる。3. 健康レベルの低下に伴い生じるニーズ・健康問題を解決するための具体的な方法を選択できる。 関心・意欲の観点：レポート、グループ討議に際して人間の生と死の意味、生命・人間の尊厳、終末医療現場の現状と課題、終末期患者の生活の質（QOL）に関わる要因等の情報収集・活用ができる。 態度の観点：1. 終末期患者や家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、他職種者との連携の重要性を述べるができる。2. グループ討議に積極的に参加している。 技能・表現の観点：グループ討議時の発表、レポートの表現が論理的である。明快な表現ができる。

授業の計画（全体）前半は緩和ケア・終末期ケアの概念・意味とその歴史的背景、終末期医療の現状と課題について教授し、人にとっての死の意味や人としての尊厳を考察する。後半は終末期患者及びその家族の身体的・精神的・社会的特徴、健康レベルの低下に伴い生じてくるニーズ・問題に対する具体的な援助法を教授する。具体的な事例を用いてグループ討議をし、倫理的課題や看護者の役割・姿勢を考察する。中間と終末でグループ討議・発表を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 終末期に関わる 概念と意味及び その歴史的背景 内容 人間の死の意味 緩和ケア、ターミナルケアの概念と意味
- 第 2 回 項目 終末期医療の現状と課題 終末期医療の倫理的課題 内容 告知とインフォームドコンセント 患者の権利、援助に関わる倫理的課題
- 第 3 回 項目 グループ討議 内容 テーマは授業の中で提示する。
- 第 4 回 項目 終末期患者と家族の理解 終末期患者と家族の苦痛と援助 内容 終末期患者の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな苦痛 身体的苦痛の緩和
- 第 5 回 項目 終末期患者と家族の苦痛と援助 内容 精神的苦痛と援助
- 第 6 回 項目 ホスピスケア 内容 ホスピスケアの理念 ホスピスの歴史 わが国のホスピスの現状と課題
- 第 7 回 項目 事例をグループ討議する。発表 内容 事例は授業の中で提示する。授業外指示 レポート提出
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

教科書・参考書 教科書：系統看護学講座 別巻 10 ターミナルケア 柏木哲夫、藤腹明子編集 医学書院  
西暦 2006 年 / 参考書：がんの痛みからの解放とパリアティブ・ケア, "WHO 編, 武田文和訳", "金原出  
版,", 1994 年

連絡先・オフィスアワー 東 玲子 tel:0836-22-2813 azumar@yamaguchi-u.ac.jp オフィスアワー：研  
究室に在否を確認して訪室して下さい。 齊田菜穂子 tel:0836-22-2864 naho@yamaguchi-u.ac.jp オ  
フィスアワー：研究室に在否を確認して訪室して下さい。

開設科目	細胞診断学講義 II-1	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	高橋睦夫・上田順子・尾野緑				

授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。前期は子宮頸部扁平上皮領域および呼吸器の復習と、泌尿器の細胞診について学ぶ。 / 検索キーワード 細胞診 子宮頸部扁平上皮領域 呼吸器 泌尿器

授業の一般目標 子宮頸部扁平上皮領域および呼吸器の復習をする。泌尿器領域の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：泌尿器領域の基礎知識を習得する。 思考・判断の観点：子宮頸部扁平上皮領域および呼吸器の復習をする。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 呼吸器病理組織
- 第 3 回 項目 尿路系病理組織
- 第 4 回 項目 尿路系解剖・組織・生理
- 第 5 回 項目 標本作製法
- 第 6 回 項目 尿路系正常細胞
- 第 7 回 項目 良性非腫瘍性病変
- 第 8 回 項目 腫瘍性病変
- 第 9 回 項目 前立腺・精巣の細胞診
- 第 10 回 項目 腎(その他)
- 第 11 回 項目 細胞像まとめ
- 第 12 回 項目 スクリーニング
- 第 13 回 項目 スクリーニング試験
- 第 14 回 項目 泌尿器筆記試験
- 第 15 回

成績評価方法（総合）・定期試験で総合評価を行う

連絡先・オフィスアワー 高橋睦夫 内線 2845、上田順子 内線 2833、尾野緑 内線 2853

開設科目	細胞診断学講義 II-2	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	高橋睦夫・上田順子・尾野緑				

授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。後期は婦人科、乳腺、甲状腺の細胞診について学ぶ。 / 検索キーワード 細胞診 婦人科 甲状腺

授業の一般目標 婦人科、甲状腺領域の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 婦人科、甲状腺領域の基礎知識を習得する。 思考・判断の観点： 婦人科、甲状腺領域の基礎知識を習得する。 技能・表現の観点： 婦人科、甲状腺領域の基礎知識を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 婦人科系病理組織
- 第 2 回 項目 婦人科 1
- 第 3 回 項目 婦人科 2
- 第 4 回 項目 婦人科 3
- 第 5 回 項目 婦人科 4
- 第 6 回 項目 婦人科 5
- 第 7 回 項目 婦人科 6
- 第 8 回 項目 婦人科 7
- 第 9 回 項目 甲状腺の病理組織
- 第 10 回 項目 甲状腺 1
- 第 11 回 項目 甲状腺 2
- 第 12 回 項目 甲状腺 3
- 第 13 回 項目 同定試験
- 第 14 回 項目 筆記試験
- 第 15 回

成績評価方法（総合） ・ 定期試験で総合評価を行う

連絡先・オフィスアワー 高橋睦夫 内線 2845、上田順子 内線 2833、尾野緑 内線 2853

開設科目	細胞診断学実習 II-1	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	上田順子・尾野緑				

授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。前期は子宮頸部扁平上皮領域および呼吸器の復習と、泌尿器の細胞診について学ぶ。 / 検索キーワード 細胞診 子宮頸部扁平上皮領域 呼吸器 泌尿器

授業の一般目標 子宮頸部扁平上皮領域および呼吸器の復習をする。泌尿器領域の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 思考・判断の観点：子宮頸部扁平上皮領域および呼吸器の復習をする。 技能・表現の観点：泌尿器領域の基礎知識を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 スクリーニング
- 第 2 回 項目 スクリーニング
- 第 3 回 項目 スクリーニング
- 第 4 回 項目 スクリーニング
- 第 5 回 項目 スクリーニング
- 第 6 回 項目 スクリーニング
- 第 7 回 項目 スクリーニング
- 第 8 回 項目 スクリーニング
- 第 9 回 項目 スクリーニング
- 第 10 回 項目 スクリーニング
- 第 11 回 項目 スクリーニング
- 第 12 回 項目 スクリーニング
- 第 13 回 項目 スクリーニング試験
- 第 14 回 項目 泌尿器筆記試験
- 第 15 回

成績評価方法（総合）・スクリーニング法を身につけるために課題を行う・子宮頸部扁平上皮領域・呼吸器・泌尿器に関して、スクリーニング試験を行う

連絡先・オフィスアワー 上田順子 内線 2833、尾野緑 内線 2853

開設科目	細胞診断学実習 II-2	区分	実験・実習	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	高橋睦夫・尾野緑				

授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。後期は婦人科、乳腺、甲状腺の細胞診について学ぶ。 / 検索キーワード 細胞診 子宮頸部扁平上皮領域 呼吸 泌尿器 乳腺

授業の一般目標 子宮頸部扁平上皮領域、呼吸器および泌尿器の復習をする。乳腺領域の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：乳腺領域の基礎知識を習得する。 思考・判断の観点：子宮頸部扁平上皮領域、呼吸器および泌尿器の復習をする。乳腺領域の基礎知識を習得する。 技能・表現の観点：乳腺領域の基礎知識を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション・乳腺病理組織
- 第 2 回 項目 乳腺 1
- 第 3 回 項目 乳腺 2
- 第 4 回 項目 乳腺 3
- 第 5 回 項目 スクリーニング
- 第 6 回 項目 スクリーニング
- 第 7 回 項目 スクリーニング
- 第 8 回 項目 スクリーニング試験
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合）・スクリーニング法を身につけるために課題を行う・子宮頸部扁平上皮領域・呼吸器・泌尿器に関して、スクリーニング試験を行う

連絡先・オフィスアワー 高橋睦夫 内線 2845、尾野緑 内線 2853

開設科目	医療システム概論	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	篠原紀幸・中村準二				

授業の概要 医療従事者にとってもコンピュータに関わる基本的な知識は必須である。これまでにコンピュータに関する多くの知識を身につけて来たが、今回もう一度おさらいしておきたい。8月には医療情報従事者資格の認定試験があるので、これに合格することを目標とする。当講義は2年生対象とあるが、2、3年生対象である。/検索キーワード ハードウェア、OS、コンピュータネットワーク、情報倫理、医療情報システム

授業の一般目標 1. 医療情報技術者資格の認定試験に合格できるだけの知識を習得することを目標とする

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. コンピュータの構造とコンピュータネットワークのしくみを理解する 2. ネットワーク利用の利点と問題点を指摘することができる 3. コンピュータシステムの管理とデータ保守について対策法を指摘することができる 4. ネットワーク利用の倫理を理解する 5. 医療情報システムの特徴を挙げることができる 6. 医療情報システムの管理と保守の対策法および倫理について説明することができる 思考・判断の観点： 1. システム運営、管理における諸問題について問題の分析と対策を考えることができる 2. 医療情報の特殊性を理解し、その適切な利用法について考えることができる

授業の計画(全体) コンピュータのしくみとネットワークに関する一般的な事柄をはじめに解説する。その後山大病院検査部の検査技師長から医療情報システムの特徴、運用および管理などについて解説してもらう。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 コンピュータのハードウェア構成と役割
- 第 2 回 項目 2進数と2値論理、データ表現
- 第 3 回 項目 基本ソフトウェアの種類と役割
- 第 4 回 項目 ネットワーク上で利用できるおもなサービス
- 第 5 回 項目 ネットワークの基本的な構造
- 第 6 回 項目 IP アドレスと関連する諸問題
- 第 7 回 項目 ネットワークプロトコル
- 第 8 回 項目 ネットワーク利用上の問題
- 第 9 回 項目 セキュリティ対策(1)
- 第 10 回 項目 セキュリティ対策(2)
- 第 11 回 項目 医療情報システム(1)
- 第 12 回 項目 医療情報システム(2)
- 第 13 回 項目 医療情報システム(3)
- 第 14 回 項目 医療情報システム(4)
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 医療情報技師資格認定試験受験者は受験結果に基づいて成績をつける。未受験者はレポート提出によって成績をつける。なお、当該試験に既に合格した者は受講を免除し単位(優)を与える。

教科書・参考書 教科書：医療情報 医療情報システム編, 日本医療情報学会他編集, 篠原出版社 / 参考書：資料を授業中に適宜配布

連絡先・オフィスアワー 篠原 nshino@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業



開設科目	英文聴解	区分	講義	学年	2～4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	服部幸夫				

**授業の概要** 1年次の TOEIC の力を持続あるいは更にアップする目的で設けられた選択科目です。英語力は、毎日英語に触れていないと低下する、という原則に基づいています。週に3回各30分ずつ昼休みに行います。そのうちの1回が主軸で、それは日本語の話せない native speaker が加わります。英語会話の話題は前もって参加者に渡しますので、何度も繰り返して聴解して(できれば暗記して)本番に臨んで戴きます。他の2回(30分)の授業はその話題のマスター(聴解)のために費やしますので英語の苦手な方も本番で全く理解出来ないことはありません。できれば自習も含めて毎日(月～金)聴解を実行することが望めます。積み上げ方式の単位認定、つまり前期、後期、各1単位で、学年が進行しても何度でも履修でき、単位を増やすことができます。(ただし、卒業単位には含まれません。)昼休みに参加可能なセメスターで何度でも履修できます。

**授業の一般目標** ・毎日聴解により英語に触れ、英会話に対する「慣れ」を形成する。 ・週1回の本番では、よく理解できているトピックについて討論するので、一言でも討論に加わり、「度胸」つける。 ・ TOEIC の点数をアップする。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** トピックの内容を完全に理解する。理解が出来たら、トピックのリスニング + 反復発声(chasing)により、文章ごと、そこに出てきた単語、イディオムを身につける。  
**思考・判断の観点:** トピックをめぐる週1回の討論会で、更に内容を深め、思考・判断を磨く。 **関心・意欲の観点:** 予習があって初めて楽しい英会話の時間が得られる。予習は反復練習でさして面白くないかもしれないが、身に付いた分、本番がより理解でき、また自分の意見を述べる事が出来れば、英会話を楽しむことができるようになる。 **態度の観点:** 予習も含め、地味な努力の積み重ねが求められる。特に他の学生が休んでいる昼休みの半分(30分/60分)を学習に使うわけなので、ある程度の克己心が求められる。当然のことながら、欠席が多いと単位は貰えない。 **技能・表現の観点:** トピックの叩き台は native speaker によって吹き込まれているので、その文章を丸飲みすることにより、英語らしい表現を獲得する。それを本番で如何に使って、自分の考えを口から出せるか、がポイントである。

**授業の計画(全体)** 1セメスター1単位で、自分の好きな回数だけ履修を重ねることが出来る。単位はその度に1単位ずつ加算される(積み上げ方式)。昼休みに30分間、1週間に3回行う。その中でも native speaker が参加する1回を「本番」と位置づけ、他の2回は本番のための助走とする。できれば、自習も含めて毎日行うことが望まれる。

**授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第1回 項目 VOA1 内容 Test shows heart attack
- 第2回 項目 VOA2 内容 Chocolate and the heart
- 第3回 項目 VOA3 内容 Child soldiers conference
- 第4回 項目 VOA4 内容 Violence against women
- 第5回 項目 VOA5 内容 First migration from Africa
- 第6回 項目 VOA6 内容 Ancient Syrian city
- 第7回 項目 VOA7 内容 Study confirms AIDS began in Africa
- 第8回 項目 VOA8 内容 Methods to stop smoking
- 第9回 項目 VOA or others
- 第10回 項目 VOA or others
- 第11回 項目 VOA or others
- 第12回 項目 VOA or others
- 第13回 項目 VOA or others
- 第14回 項目 VOA or others
- 第15回 項目 VOA or others

成績評価方法 (総合) 基本的には、出席状況が最も重要である。その他、本番での発言や、「助走」での学習態度と進捗具合も参考とする。

教科書・参考書 教科書：資料はすべて教官より配布する。

メッセージ 短時間ですが毎日の練習なので、持続力を要します。しかし、まずは自分の英語力をアップさせたい、との意欲と情熱が一番です。英語多読、2年次以降の英語読解(いずれも選択)を組み合わせると総合的な英語力アップが勧められます。

連絡先・オフィスアワー 服部幸夫 tel/fax: 0836-22-2807, E-mail: hattori-ygc@umin.ac.jp

開設科目	発生遺伝学	区分	講義	学年	2年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	服部幸夫				

授業の概要 ヒトが健康に生まれてくるまでには、受精前から出生までの間にいくつもの段階のバリアーをクリアーすることが必要である。本講義では、生命誕生の仕組みを発生面からスポットを当てて、正常発生、異常発生に関わる遺伝子、遺伝子発現、染色体、遺伝性疾患、環境要因などについての知識を深める。/ 検索キーワード 配偶子(精子・卵子)、遺伝子、染色体、遺伝子異常、染色体異常、遺伝子発現、遺伝形式、遺伝性疾患

授業の一般目標 配偶子(卵・精子)形成過程から出生に至るまでの発生途上で起こりうる異常とその発生機序および予防法について理解する。1. 単一遺伝子病の遺伝形式を理解し、疾患にはどのようなものがあるかを説明することができる。2. 染色体とDNA・遺伝子との関係を理解し、説明することができる。3. 染色体異常と単一遺伝子病の違いを説明することができる。4. 染色体異常の種類と発生機序について理解し、説明することができる。5. 主な染色体異常症について理解し、説明することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 先天異常の原因とその発生機序について説明できる。 思考・判断の観点： 先天異常を遺伝学的観点から、考えることができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 細胞とは。DNAから染色体へ 内容 DNA、遺伝子、染色体
- 第2回 項目 細胞周期、配偶子(精子・卵子)形成過程、発生 内容 成熟分裂(精子・卵子形成過程)
- 第3回 項目 染色体 内容 染色体分析、その異常
- 第4回 項目 メンデルの法則、 内容 優性、劣性遺伝
- 第5回 項目 メンデルの法則に従わない遺伝 内容 中間遺伝、X染色体不活化、ミトコンドリア遺伝、ゲノム・インプリンティング
- 第6回 項目 多因子遺伝、先天異常、後天異常 内容 一般的な成人疾患、がんの分子生物学、家族性がん
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) レポート、試験、出席率などによる(単位認定の最低条件：総授業数の2/3以上の出席およびレポート提出)

教科書・参考書 教科書： 一目でわかる臨床遺伝学, 古閑明彦 監訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル, 2004年

メッセージ 先天異常が生じる機序をよく理解して欲しい。

開設科目	医療情報学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	篠原紀幸				

授業の概要 1年生で、コンピュータを電子文房具として扱う能力「情報リテラシー」を習得し、2年生でコンピュータのしくみについて学んだ。それらを基礎にして当講義ではコンピュータネットワークのしくみと情報保護について一般的な事項を学んだ後、医療情報システムのしくみや特徴について学ぶ。 / 検索キーワード コンピュータネットワーク、プロトコル、セキュリティ、不正利用とその対策、医療情報システム、情報倫理

授業の一般目標 1. 医療情報システムについて学ぶ上で基礎となるコンピュータネットワークのしくみを理解する 2. 情報保護の対策と利用者の倫理について学ぶ 3. 医療情報システムの特徴と導入の意義を理解する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. インターネットのしくみについて基本的な事柄を学び、理解する。 2. 医療情報システムの特徴を学び、理解する。 思考・判断の観点： 1. 自分のノートコンピュータのセキュリティ対策をすることができる 2. 学内LANを利用する際の各種設定を自分ですることができる 3. 医療情報システムに対するLAN内外からの不正アクセスについて具体例を挙げ、その対策案を考えることができる 4. 医療情報システムを利用する際の問題となる事例をあげて説明することができる 関心・意欲の観点： 1. LAN内外からの不正アクセスについて具体例を挙げることができる。その対策案を考えることができる 2. 授業でえた知識が附属病院内における医療情報システムにおいてどのように応用されているか想像をしてみる。

授業の計画(全体) 授業では、以下の順に解説していく。 1. コンピュータネットワーク(インターネット)のしくみ 2. インターネットの不正利用とその対策。ネットワーク利用の倫理 3. 医療情報システムの特徴と利用者の倫理

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 インターネットの歴史
- 第2回 項目 インターネットの種類と特徴
- 第3回 項目 ネットワークの構成
- 第4回 項目 ネットワーク通信プロトコル I
- 第5回 項目 ネットワーク通信プロトコル II
- 第6回 項目 ネットワーク通信プロトコル III
- 第7回 項目 ネットワーク利用の例 I
- 第8回 項目 ネットワーク利用の例 II
- 第9回 項目 セキュリティ対策とデータ保守 I
- 第10回 項目 セキュリティ対策とデータ保守 II
- 第11回 項目 医療情報システムの特性 I
- 第12回 項目 医療情報システムの特性 II
- 第13回 項目 医療情報システムの機能と運用
- 第14回 項目 医療情報の標準化
- 第15回

成績評価方法(総合) 期末試験 100%

教科書・参考書 参考書：医療情報(情報処理技術編)第2版, 日本医療情報学会 医療情報技師育成部会 編集, 篠原出版新社, 2006年; 医療情報(医療情報システム編), 日本医療情報学会 医療情報技師育成部会編集, 篠原出版新社, 2006年; 他、資料を授業中に適宜配布、もしくは口頭で説明する

連絡先・オフィスアワー Email: nshino@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	保健統計学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	常岡・市原				

授業の概要 授業科目名は保健統計学であるが、環境衛生学を除いた範囲の公衆衛生学の授業である。社会医学としての公衆衛生学は、医学の中で最も変化が著しいと思われる。急性伝染病から慢性伝染病へ、AIDSや医療費の問題、少子・高齢社会の問題と社会全体の動きに左右されることが多い。国民の保健医療要求に常に的確に対応できる専門職である臨床検査技師として必要な範囲を、社会医学システムの観点から説明する。

授業の一般目標 (1)人口統計を理解する。(2)疫学の定義と方法論を理解する。(3)感染症の成立と要因、流行とサーベイランスを理解する。(4)主要感染症の分類と疫学像及び対処の仕方を理解する。(5)それぞれのライフサイクルにあった健康管理、保健管理システムを理解する。(6)生活習慣病の定義、特徴、現状、予防、医療費について理解する。(7)老人保健法を主とした、老人問題(痴呆性老人、寝たきり老人等)について理解する。(8)日本の社会保障制度について概要を理解する。(9)健康に関わる地域社会のしくみと保健行政の役割について理解する。(10)保健・医療との関係をふまえながら地域の福祉施策について理解する。(11)衛生統計、保健統計値を理解する。(12)基礎的な統計検定を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: (1)人口統計を説明することができる。(2)疫学の定義と方法論を説明することができる。(3)感染症の成立と要因、流行とサーベイランスを説明することができる。(4)主要感染症の分類と疫学像及び対処の仕方が説明することができる。(5)それぞれのライフサイクルにあった健康管理、保健管理システムを記述することができる。(6)生活習慣病の定義、特徴、現状、予防、医療費について説明できる。(7)老人保健法を主とした、老人問題(痴呆性老人、寝たきり老人等)について説明できる。(8)日本の社会保障制度について概要を述べることができる。(9)健康に関わる地域社会のしくみと保健行政の役割について述べることができる。(10)保健・医療との関係をふまえながら地域の福祉施策について述べるができる。(11)衛生統計、保健統計値を計算でき、説明することができる。(12)基礎的な統計検定が出来る。 関心・意欲の観点: 公衆衛生学的問題に積極的な関心を持つ。 技能・表現の観点: 統計的検定をするために、Excelを使用することができる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 人口問題
- 第2回 項目 疫学
- 第3回 項目 感染症
- 第4回 項目 母子保健
- 第5回 項目 学校保健
- 第6回 項目 成人保健
- 第7回 項目 老人保健・精神保健
- 第8回 項目 衛生行政・衛生法規
- 第9回 項目 社会保障
- 第10回 項目 衛生統計
- 第11回 項目 統計的検定方法(1)
- 第12回 項目 統計的検定方法(2)
- 第13回 項目 統計処理実習

成績評価方法(総合) 定期試験及び統計演習のレポートでもって評価する。

教科書・参考書 教科書: 公衆衛生学, 眞野喜洋, 医歯薬出版株式会社, 2004年 / 参考書: バイオサイエンスの統計学: 正しく活用するための実践理論, 市原清志著, 南江堂, 1990年; 医薬研究者の視点からみた道具としての統計学, 奥田千恵子著, 金芳堂, 2001年; 統計の勉強をするに当たって、下記の本などを参考にするとよい。 バイオサイエンスの統計学: 著者・市原清志(南江堂) 道具としての統計学: 著者・奥田千恵子(金芳堂)

連絡先・オフィスアワー miwamoto@yamaguchi-u.ac.jp 研究室：医学部保健学科4階

開設科目	疫学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	市原清志				

授業の概要 疫学とは人間集団を対象にして人間の健康およびその異常を宿主、病因、環境の各面から包括的に研究し、その増進と予防を図る学問である。人間集団における健康障害の頻度と分布を研究し、そして、そのような分布が生じる原因を統計学的手法を用いて究明する事を理解する。理論と例題で理解を深める。 / 検索キーワード 疫学的尺度、スクリーニング検査、コホート研究、ケース・コントロール研究

授業の一般目標 (1) 疫学の定義と方法論を説明できる。(2) 多様な研究デザインの利点と欠点を説明できる。(3) 基礎的な疫学的尺度を説明できる。(3) 疾病発生のパターンを説明できる。(4) 医学的サーベイランスを説明できる。(5) 疾患の集団発生を説明できる。(6) スクリーニング検査を説明できる。(7) コホート研究を説明できる。(8) ケース・コントロール研究を説明できる。(9) 実験型研究、介入研究を説明できる。(10) 因果関係を説明できる。(11) バラツキとバイアスを説明できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：(1) 疫学の定義と方法論を説明できる。(2) 多様な研究デザインの利点と欠点を説明できる。(3) 基礎的な疫学的尺度を説明できる。(3) 疾病発生のパターンを説明できる。(4) 医学的サーベイランスを説明できる。(5) 疾患の集団発生を説明できる。(6) スクリーニング検査を説明できる。(7) コホート研究を説明できる。(8) ケース・コントロール研究を説明できる。(9) 実験型研究、介入研究を説明できる。(10) 因果関係を説明できる。(11) バラツキとバイアスを説明できる。 思考・判断の観点：授業で取り上げた各領域について、自分の意見を論理的に述べることが出来る。 関心・意欲の観点：問題意識を高めることが出来る。

授業の計画(全体) 授業は毎回プロジェクトを用いる。授業の最後は演習問題で要点を整理する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 疫学とは
- 第2回 項目 疫学入門
- 第3回 項目 疫学的尺度
- 第4回 項目 疾患発生のパターン
- 第5回 項目 医学的サーベイランス
- 第6回 項目 疾患の集団発生
- 第7回 項目 診断学的検査
- 第8回 項目 臨床試験
- 第9回 項目 コホート研究
- 第10回 項目 ケース・コントロール研究
- 第11回 項目 実験研究、介入研究
- 第12回 項目 バラツキとバイアス
- 第13回 項目 疫学の重要問題
- 第14回 項目 遺伝疫学
- 第15回 項目 疫学文献の読み方

成績評価方法(総合) 学期末試験と小テスト、宿題レポートで評価する。

教科書・参考書 教科書：医学がわかる疫学，”熊倉伸宏，高柳満喜子監訳”，新興医学出版社，2004年 / 参考書：疫学：基礎から学ぶために，日本疫学会編集，南江堂，1996年；疫学マニュアル(改訂第6版)，”柳川洋，坂田清美編集”，南山堂，2003年；下記の本などを参考書として薦める。疫学(基礎から学ぶために)：日本疫学会編(南光堂) 疫学マニュアル：柳川洋編(南山堂)

メッセージ 検査技術科学専攻の学生にとって、この科目は選択であるが、臨床監査技師にとっても、今後研究を進めていくときに非常に大事な科目と思う。朝1番の授業であるが、出来るだけ選択を薦める。

開設科目	救急医療概論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山勢博彰、本山仁美、鳩山淳子				

授業の概要 緊急に対応を迫られる救急医療の概要と救急医療システムを解説し、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動について、必要な知識と方法を教授する。また、救急医療で遭遇する事多い疾患・外傷等について解説する。 / 検索キーワード 救急医療、救急医学、救急看護、災害医療、災害看護、外傷、外傷看護

授業の一般目標 1、救急医療の概要と救急医療システムを理解できる。2、救急状況にある患者とその家族の総合的理解と医療職者の医療および看護活動(災害医療を含む)について理解できる。3、救急医療で遭遇する事多い疾患・外傷などの病態とケアについて理解できる。4、基本となる救命技術を身に付ける。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1、救急医療の概要と救急医療システムについて説明できる。2、救急状況にある患者とその家族について説明できる。3、救急医療にかかわる医療職者および看護活動(災害医療を含む)について説明できる。4、救急医療で遭遇する事多い疾患・外傷などの病態とケアについて説明できる。5、心肺蘇生法について説明できる。 思考・判断の観点：1、救急患者のアセスメント能力を高めることができる。2、救急医療に関する諸問題を考えることができる。 関心・意欲の観点：1、救急医療の理解を通して、救命への関心を高めることができる。 技能・表現の観点：心肺蘇生法を実施することができる。

授業の計画(全体) 前半は救急医療や救急医療システム、救急看護全般について解説する。その後、救急患者のアセスメント、家族ケアの考え方、災害医療、救急医療に関する諸問題について講義をし、最後に心肺蘇生法の演習を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 救急医療の概要と特徴1 内容 救急医療とは、救急医療の特徴、日本の救急医療システム、救急医療の今日的課題
- 第2回 項目 救急医療の概要と特徴2 内容 救急医療とは、救急医療の特徴、日本の救急医療システム、救急医療の今日的課題
- 第3回 項目 救急患者と家族の特徴 内容 トリアージと全身の系統的観察、フィジカルアセスメントの考え方と実際
- 第4回 項目 救急患者のアセスメント1 内容 トリアージと全身のアセスメント
- 第5回 項目 救急患者のアセスメント2 内容 呼吸、循環器系のアセスメント
- 第6回 項目 救急患者のアセスメント3 内容 腹部、その他のアセスメント
- 第7回 項目 救急医療で見られる特殊な疾患と外傷1 内容 CPAOA、ショック
- 第8回 項目 救急医療で見られる特殊な疾患と外傷2 内容 循環器、呼吸器疾患
- 第9回 項目 救急医療で見られる特殊な疾患と外傷に対する看護 内容 急性疾患、外傷等に対する看護の考え方と実際
- 第10回 項目 災害医療の概要と特徴 内容 災害医療が展開される状況、災害医療における看護の役割
- 第11回 項目 救急患者への対応 救急医療をめぐる問題 内容 法律、倫理など
- 第12回 項目 救急患者への対応 救急医療をめぐる問題 内容 心肺蘇生法のプロトコール、救急処置と心肺蘇生法
- 第13回 項目 救急患者への対応 内容 心肺蘇生法のプロトコール、救急処置と心肺蘇生法の実際(演習)
- 第14回 項目 救急患者への対応 内容 心肺蘇生法のプロトコール、救急処置と心肺蘇生法の実際(演習)
- 第15回

成績評価方法(総合) 期末試験を主にする。レポート課題有り。



教科書・参考書 教科書：救急看護学, 山勢博彰ほか, 医学書院, 2006年 / 参考書：院内エマージェンシー, 山勢博彰, メヂカルフレンド, 2004年；急変・救急時看護スキル, 山勢博彰, 照林社, 2004年；救急看護論, 山勢博彰, ニューヴェルヒロカワ, 2005年

開設科目	保健福祉行政論	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	檀原三七子				

授業の概要 地域看護を実践する際に必要となる知識として、保健医療福祉行政の根拠法令や仕組み、諸制度の変遷、保健福祉計画の策定から評価までプロセスを具体的に解説した上で、今後のわが国の社会保障制度改革の方向性と課題を考える。

授業の一般目標 保健医療福祉行政の根拠法令や仕組み、諸制度の変遷、保健福祉計画の策定から評価までプロセスを理解し、今後のわが国の社会保障制度改革の方向性と課題を考えることができる。

授業の計画(全体) 【全体】地域保健法を軸に、対象別の各種行政論と社会保障制度全体を学ぶ。【週単位】 1～2週目：保健医療福祉行政の理念と仕組み I、II 3～4週目：保健医療福祉制度の変遷 I、II 5～6週目：ヘルスプロモーション、医療制度改革 7～8週目：医療制度改革、社会保障制度 9週目：母子保健 10週目：高齢者保健 11週目：精神保健 12週目：難病、感染症対策 13週目：地域保健行政における保健師活動と役割 14週目：まとめ 15週目：試験

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 保健医療福祉行政の理念と仕組み I 内容 地域保健に関する制度と仕組みの解説
- 第 2 回 項目 保健医療福祉行政の理念と仕組み II 内容 地域保健に関する制度と仕組みの解説
- 第 3 回 項目 保健医療福祉制度の変遷 I 内容 地域保健に関する制度の変遷の解説
- 第 4 回 項目 保健医療福祉制度の変遷 II 内容 地域保健に関する制度の変遷の解説
- 第 5 回 項目 ヘルスプロモーション、医療制度改革 I 内容 ヘルスプロモーションと医療制度改革の解説
- 第 6 回 項目 ヘルスプロモーション、医療制度改革 II 内容 ヘルスプロモーションと医療制度改革の解説
- 第 7 回 項目 医療制度改革、社会保障制度 I 内容 医療制度改革と社会保障制度の解説
- 第 8 回 項目 医療制度改革、社会保障制度 II 内容 医療制度改革と社会保障制度の解説
- 第 9 回 項目 母子保健 内容 母子保健の制度に関する解説
- 第 10 回 項目 高齢者保健 内容 高齢者保健に関する解説
- 第 11 回 項目 精神保健福祉 内容 精神保健福祉に関する解説
- 第 12 回 項目 難病、感染症対策 内容 難病、感染症対策に関する解説
- 第 13 回 項目 地域保健行政における保健師活動と役割 社会保障制度改革(2) 内容 行政保健師の活動と役割について解説
- 第 14 回 項目 まとめ 内容 追加資料を解説
- 第 15 回 項目 試験

成績評価方法(総合) 期末試験を行う。毎回出席をとる。

教科書・参考書 教科書：保健医療福祉行政論，医学書院，2007年；衛生行政六法平成20年版，新日本法規，2008年 / 参考書：国民衛生の動向，厚生統計協会，2008年

開設科目	科学論文演習	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	石川敏三				

授業の概要 医学・医療の著しい進歩には、科学的思考や資料からの情報整理を的確に行う必要がある。英語資料も含め、総説、原著、症例などを身近に読みこなし、概要の理解をさせる。次にデータを元に論文の作成を細かく解説し、演習する。特に論理的でわかりやすい文章の表現を指導する。多く読み慣れること、あたえられたデータから解釈して考察する方法、いかに発表するか、またこれらの過程における論理的表現と展開を如何にするか、教授する。

授業の一般目標 英語資料の内容理解が出来る。先端研究に追従できる素養が身に付く。実際、データの解釈から如何に背景の情報を関連させ、まとめようとするものの意義を考え、しかも、いかに論理的にするかが身付く。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 資料収集と整理法について 論文の形式、症例報告の場合の違い?
- 第 2 回 項目 論理的記述はどのようにするか?
- 第 3 回 項目 英語論文の読解演習(1)
- 第 4 回 項目 英語論文の読解演習(2) 資料を基に結果の表現方法。
- 第 5 回 項目 英語論文の書き方(1)
- 第 6 回 項目 英語論文の書き方(2)
- 第 7 回 項目 英語論文の書き方(3)
- 第 8 回 項目 輪読演習
- 第 9 回 項目 輪読演習
- 第 10 回 項目 上手な発表方法
- 第 11 回 項目 抄録の書き方
- 第 12 回 項目 症例報告で論理的記述はどのようにするか?
- 第 13 回 項目 例報告で論理的記述はどのようにするか?
- 第 14 回 項目 まとめ
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 期末試験で評価。一部では、レポートや課題も加える。

教科書・参考書 教科書: 科学論文の書き方, B Gustavii(畠山雄二訳), 丸善(株), 2005年 / 参考書: 生命科学論文, 山崎茂明, 中外医学社, 1997年; 必要なものは配布する。

メッセージ 検査技師も学会会議参加や施設内会議や講習会など、幅広く科学的編集の機会が増えた。得られた情報を如何に論理的、科学的にするか理解させる。また英文資料の理解ができるか、上手な発表についても解説する。

連絡先・オフィスアワー 22 - 2888, medlibn@ 17:00-20:00

開設科目	遺伝検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	山城安啓				

授業の概要 検査遺伝学には分子遺伝学、細胞遺伝学、分子細胞遺伝学がある。このうちの細胞遺伝学および分子細胞遺伝学はさまざまな遺伝現象を細胞すなわち染色体レベルで研究する 遺伝学分野である。その理解のためには、染色体に関する知識のみならず、ヒトの遺伝の仕組みを理解することが重要である。本講義では細胞遺伝学・分子細胞遺伝学に重点を置き、染色体の構造・機能および疾病との関係を理解するとともに、広くヒト遺伝医学の知識を習得することを目標とする。 / 検索キーワード 染色体 (chromosome)、ヌクレオソーム (nucleosome)、染色体標本作製法、染色体分染法 (chromosome banding)、FISH (Fluorescence in situ hybridization)

授業の一般目標 1. 染色体と DNA ・遺伝子との関係を理解し、説明することができる。 2. 染色体異常と単一遺伝子病の違いを説明することができる。 3. 染色体検査法について理解し、説明することができる。 4. 染色体の命名法、記載法について理解し、説明することができる。 5. 染色体分染法について理解し、説明することができる。 6. 染色体核型について理解し、記載することができる。 7. 染色体異常について理解し、説明することができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：染色体と DNA ・遺伝子との関係を理解し、説明することができる。染色体標本を作成し、観察することができる。 思考・判断の観点：染色体を遺伝学的観点から見て、考えることができる。 技能・表現の観点：美しい染色体標本を作成し、観察することができる。

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 染色体標本作成 についての説明 とリンパ球培養 開始 内容 染色体標本作成 法 ( 培養液、試料、培養時間、収穫、観察 ) についての概略説明と実際に採血して培養を開始する。
- 第 2 回 項目 染色体標本作成 と観察 ( ギムザ 染色 ) 内容 染色体標本を作成し、ギムザ 染色液で染色後 染色体を観察・スケッチする。翌日の G - バンド 染色体作成のためにスライド を 60 で加熱・放置する。
- 第 3 回 項目 G - バンド 標本作成 と観察 内容 G - バンド 染色体標本を作成し、ギムザ 染色液で染色後 染色体を観察・スケッチする。
- 第 4 回
- 第 5 回
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 ( 総合 ) レポート、試験、出席率などによる ( 単位認定の最低条件 : 総授業数の 2/3 以上の出席およびレポート提出 )

教科書・参考書 教科書 : 臨床検査学講座 遺伝子・染色体検査学, 奈良信夫他, 医歯薬出版, 2002 年

メッセージ 遺伝現象の神秘・不思議さを学んで欲しい。

開設科目	病理検査学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	高橋睦夫・上田順子・山本美佐				

授業の概要 病理検査学実習では病理学的検査に必要な病理組織学的検査法を実習し、病理組織学 や細胞診の基礎を学習する。 / 検索キーワード 永久標本、パラフィン切片、特殊染色、迅速標本、電顕標本、免疫組織化学、病理組織標本、細胞診

授業の一般目標 1. 基本的な病理組織像が理解・把握できる。 2. 組織を切りだし、H E 染色標本が作製できる。 3. 主要な特殊染色標本を作製し、その意義を説明できる。 4. 基本的な良性細胞と悪性細胞が鑑別できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1. 病理組織標本の意義を理解している。 2. 病理組織標本の作製方法を理解している。 3. 細胞診の意義と、観察方法を理解している。 思考・判断の観点： 1. 病理組織標本がどのように臨床に応用されているかを考察できる。 2. 細胞診が何故必要かを考察できる。

関心・意欲の観点： 複雑な病理標本作製過程に関心が高く、意欲を持って取り組んでいる。 細胞診に興味を持っている。 態度の観点： 真面目に実習に取り組んでいる。 技能・表現の観点： 観察に耐える標本が作製できる。 基本的な細胞や組織が理解・認識できる。

授業の計画（全体） 実習についての詳細は後期実習の始まる前に実習マニュアルを配布する。 実習の始まる前に、病理検査学の試験を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 実習前試験 実習準備 内容 組織切り出し ミクロトーム取り扱い方 正常組織の復習
- 第 2 回 項目 実習項目 1 包埋 病理組織学習 内容 実習書参照
- 第 3 回 項目 実習項目 2 薄切 内容 実習書参照
- 第 4 回 項目 実習項目 3 染色 内容 実習書参照
- 第 5 回 項目 実習項目 4 細胞診 内容 実習書参照
- 第 6 回 項目 電子顕微鏡標本作製法（見学） 後片付け
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合） 実習前試験、実習終了時試験および定期試験の総合評価。

連絡先・オフィスアワー E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp , 高橋研究室: (0836) 22-2845 , オフィスアワー：随時

開設科目	微生物学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	梅田昭子・柳原正志				

授業の概要 病原細菌・真菌の取り扱い法、培地の作製法、一般的培養法、染色法、使用後の滅菌法について実習する。また、分離培養法、薬剤感受性試験、生菌数測定法について実習する。 / 検索キーワード 病原微生物同定法、病原微生物取り扱い法

授業の一般目標 病原微生物の取り扱い法と同定法の基礎的技術を習熟する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：2年次に得た知識を基に、病原微生物の同定に必要な培地の作製法、培養法、染色法、滅菌・消毒法の基礎的な手技を習熟する。 思考・判断の観点：感染症に対して適切な診断法と対処法を思考し実行できる能力を養う。 関心・意欲の観点：実習において、ただ指示をされた内容のみではなく、その中から応用できるものを習熟する能力を養う。 態度の観点：病原微生物を取り扱うことに対して細心の注意を払って臨む態度を養う。 技能・表現の観点：病原微生物を取り扱うことに対して、適切な技術を習得していく。

授業の計画(全体) 細菌および真菌の同定に必要な基礎的技術の習得を目的として、培地の作製、染色液の作製、無菌操作、染色法、培養法を実習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 細菌の染色(グラム染色・特殊染色) 培地の作製・滅菌
- 第2回 項目 分離培養法、化膿性菌(Staphylococcus, Streptococcus, Pseudomonas)の同定
- 第3回 項目 Haemophilusの同定、薬剤感受性試験
- 第4回 項目 腸内細菌科の同定1、嫌気性菌の同定
- 第5回 項目 腸内細菌の同定2、真菌の観察、抗酸菌の観察、生菌数測定
- 第6回 項目 自分の検体からの菌の同定
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) 各項目の実習に対するレポートにより評価

教科書・参考書 教科書：実習書の冊子を配布します。

開設科目	微生物検査学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	梅田昭子・柳原正志・常岡英弘				

授業の概要 病原微生物の中から化膿性菌(ブドウ球菌、レンサ球菌、緑膿菌)、腸内細菌科の菌、インフルエンザ菌、嫌気性菌、抗酸菌、真菌について、観察と同定法を実習する。/検索キーワード 病原細菌の同定、真菌観察

授業の一般目標 病原細菌および真菌の同定法を習熟する。すなわち、各種細菌の性状に基づいた培養法および同定の過程と手技の習熟、および真菌の培養法と観察による同定法の習熟を目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 2年次に得た知識を基に、各種細菌の同定に必要な生化学的検査の手技を理解する。また、各種真菌の形態観察から判断される同定技術を理解する。思考・判断の観点: 感染症の患者からの検体から、どのように同定を行い診断を確定するのかを思考していく過程を学ぶ。関心・意欲の観点: 実際に行なう実習内容に留まらず、多くの感染症に対して、適切な判断と対処法を考える意欲を養う。態度の観点: 病原細菌や真菌を取り扱う場合の注意点や取り扱い法に真摯な態度で臨むことを学ぶ。技能・表現の観点: 病原微生物の同定技術を習熟し、実習結果でのレポート作成時における結果や考察等の適切な表現記述について学ぶ。

授業の計画(全体) 主要細菌の同定法について、各週毎にテーマを決めて行なう。主要細菌の同定に必要な手技は個々に違っているため、その菌種に必要な同定法を習熟していく。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 細菌の染色(グラム染色・特殊染色) 培地の作製と滅菌
- 第2回 項目 分離培養法、化膿性菌(Staphylococcus, Streptococcus, Pseudomonas)の同定
- 第3回 項目 Haemophilusの同定、薬剤感受性試験
- 第4回 項目 腸内細菌科の同定1、嫌気性菌の同定
- 第5回 項目 腸内細菌科の同定2、真菌の観察、抗酸菌の観察、生菌数測定
- 第6回 項目 自分の検体からの菌の同定
- 第7回
- 第8回
- 第9回
- 第10回
- 第11回
- 第12回
- 第13回
- 第14回
- 第15回

成績評価方法(総合) 実習態度、レポート内容、期末試験による総合評価

教科書・参考書 教科書: 実習プリントを配布する。

開設科目	免疫化学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山城安啓・田中経彦・松井智浩				

授業の概要 臨床化学分野で測定される代表的項目として、酵素測定、電解質測定、電気泳動法による分析に項目を絞って測定技術と原理を習得する。酵素はアルカリフォファターゼを Bessey-Lowry 法で測定する。電解質はカルシウムを o-CPC 法で測定する。電気泳動法はセルロースアセテート膜による血清蛋白分画を学習する。また、化学分野で測定が多くなってきた免疫学分野の代表的項目の測定技術と原理を習得する。ここでは、免疫比濁法として、血中 IgG の測定を習得する。さらに、その技術をもとに測定法における問題点、疑問点を検討項目とし、各自で計画し実行する。その後まとめて、発表会においてプレゼンテーションを行う。 / 検索キーワード 酵素活性測定、電解質測定、電気泳動法、免疫比濁法

授業の一般目標 臨床検査における化学免疫検査項目を網羅して実習し理解することは不可能である。そこで、代表的な項目を4種類あげるなのでその項目の測定を通じて以下の習得を目指す。1)測定原理を理解し技術を修得する 2)色々な疑問点を見つけ解決する為の手段を考察する 3)結果を考察し、まとめる力を身に付ける 4)他人に分かりやすい説明の為の手法を修得する

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：測定する項目の生体内での機能を説明できる。また、基準値を基に疾患が判定できる。測定法の原理が説明できる。 思考・判断の観点：方法論だけではなく、疾患等との関連を考えたうえでの疑問、問題点を積極的に指摘できる。 関心・意欲の観点：納得いかないデータは何度でもやり直す。その原因は何かを考える。疑問点があれば、図書館やネットなどの資料を利用し解決を試みる。 態度の観点：積極的に試薬作りから始まる実習を行う。また、自分たちが扱う実習器具の洗浄・準備を責任を持って行う。共同作業においては強調した作業を行うことができる。 技能・表現の観点：各項目を設定したレベルで正確に測定できる。2重測定、個人間の統一性、日差再現性など正確な操作が行える。

授業の計画(全体) 4班に分かれて4種類の項目を2回づつ実習する。その後、3日間項目を絞って検討実験をし、発表する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 実習説明および試薬作り 内容 各班に別れて全体の試薬を分担して作る 授業外指示 マニュアルを読んでおくこと。全員が8週間測定できるだけの試薬料を計算しておく
- 第2回 項目 酵素測定法 内容 アルカリフォスファターゼ 授業外指示 アルカリフォスファターゼの基準値、測定原理、その他の測定法、酵素の特徴等を調べておく
- 第3回 項目 酵素測定法 内容 アルカリフォスファターゼ 授業外指示 一般的な酵素の種類、阻害による影響等を学習しておく
- 第4回 項目 電解質測定法 内容 カルシウム 授業外指示 カルシウムの基準値、測定原理、その他の測定法を調べておく
- 第5回 項目 電解質測定法 内容 カルシウム 授業外指示 測定上の注意、実習器具の準備の必要性を考慮しておく
- 第6回 項目 蛋白電気泳動法 内容 セルロースアセテート膜電気泳動 授業外指示 電気泳動の原理を学んだうえで、セルロースアセテート膜電気泳動についても学習しておく
- 第7回 項目 蛋白電気泳動法 内容 セルロースアセテート膜電気泳動 授業外指示 異常を知るためには正常を知っておく必要があるので正常のパターンを調べておく
- 第8回 項目 免疫比濁法 内容 IgG 授業外指示 免疫比濁法の測定原理を調べ、IgGを始めとする抗体の基準値を学習しておく。
- 第9回 項目 免疫比濁法 内容 IgG 授業外指示 免疫比濁法との違いやその他の免疫学的測定法を学習しておく
- 第10回 項目 検討
- 第11回 項目 検討



第 12 回 項目 検討

第 13 回 項目 検討発表 内容 各班に別れて検討項目について解説する。全体でディスカッションする。

第 14 回 項目 検討発表 内容 各班に別れて検討項目について解説する。全体でディスカッションする。

第 15 回

成績評価方法 (総合) 出席し実習を経験することを最重視する。2 日間のショートコースではあるが各実習項目ごとに実習結果をまとめレポート化し、提出させ、理解力を判断する。その後、数人単位での検討実験・発表により、問題発見能力、解決能力、まとめる力、表現力、質問に答えられるだけの理解力を獲得しているかを評価している。

教科書・参考書 教科書：作成マニュアルを配付します。

連絡先・オフィスアワー 山城：メールアドレス；yamasiro@yamaguchi-u.ac.jp, 電話；2863 田中：メールアドレス；tatehiko@yamaguchi-u.ac.jp, 電話；2857 松井：メールアドレス；giants@yamaguchi-u.ac.jp, 電話；2865

開設科目	呼吸循環機能検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田昌子、末永弘美				

授業の概要 心電図、心音・脈波、超音波検査など、循環器の機能を測定する方法について、それぞれの原理と目的について説明し、検査データの解析方法、正常と異常の差、循環器疾患の診断に至るプロセスを統合して講義する。また、呼吸機能検査の原理と応用についても講義する。

授業の一般目標 心電図、心音・脈波、超音波検査など、循環器の機能を測定する方法について、それぞれの原理と目的、検査データの解析方法、正常と異常の差を理解し、循環器疾患の診断に至るプロセスを統合的に説明できる。また、呼吸機能検査の基本的な原理を理解し、その結果を評価できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：1. 検査の目的と検査法の原理を説明できる。2. 代表的な異常症例を解析できる。 思考・判断の観点：1. 循環機能検査の特徴に基づいて、それらの関連を理解し、総合的な診断の過程を説明できる。 関心・意欲の観点：検査の異常値が出てくるメカニズムに関心を持つ。

授業の計画（全体） 前半は循環機能検査の全体的説明を行った後、電気生理学的検査（心電図）、心音図検査、超音波を使った画像検査をそれぞれ説明する。後半は、代表的な心疾患におけるそれぞれの検査における異常を説明する。最終的には、検査の方法のみならず、疾患の診断において、個々の検査をいかに統合的に結びつけるかという思考過程を習得することが必要である。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 循環器検査学の概要 内容 心機能を検査する目的、方法を概説する。
- 第 2 回 項目 心臓の構造と電気生理、心電図 I 内容 心臓の構造、心筋の電気生理
- 第 3 回 項目 心電図 II 内容 心電図による心機能評価
- 第 4 回 項目 心電図 III 内容 リズムの異常、伝導異常 授業外指示 小テスト
- 第 5 回 項目 心電図 内容 心筋虚血
- 第 6 回 項目 心電図 V 内容 その他の心電図異常
- 第 7 回 項目 心電図 内容 特殊心電図：1) 負荷心電図 2) ホルター心電図 3) His 束心電図 1)
- 第 8 回 項目 心電図 内容 心電計の構造 2) 電極 3) 記録法 4) アーティファクト 5) 保守点検 授業外指示 心臓の電気生理・心電図小テスト
- 第 9 回 項目 心音と脈波の由来・性質 内容 1) 音の物理的特性 2) 心音と心周期
- 第 10 回 項目 異常心音 内容 3) 心雑音：収縮期雑音、拡張期雑音
- 第 11 回 項目 異常脈波、検査の実際 内容 頸動脈波 頸静脈波 心尖拍動図
- 第 12 回 項目 超音波の基礎 1 内容 超音波の特性、医療への応用方法 授業外指示 小テスト（心周期、心音、脈波）
- 第 13 回 項目 超音波検査の基礎 2 内容 超音波診断装置、アーティファクト
- 第 14 回 項目 超音波基礎 3 内容 1) Mモード像、2) Bモード像
- 第 15 回 項目 心臓超音波検査 内容 超音波ドプラ - 法による血流測定
- 第 16 回 項目 血行動態の測定 内容 超音波による心機能測定法
- 第 17 回 項目 虚血性心疾患 内容 非観血的検査のまとめ 授業外指示 小テスト
- 第 18 回 項目 心臓弁膜疾患 内容 非観血的検査のまとめ
- 第 19 回 項目 先天性心臓病 内容 非観血的検査の特徴
- 第 20 回 項目 その他の循環器系疾患 内容 非観血的検査の特徴
- 第 21 回 項目 血管エコー 内容 頸動脈エコー
- 第 22 回 項目 呼吸器系臓器の解剖と特徴 内容 呼吸器系臓器の解剖・生理 授業外指示 小テスト
- 第 23 回 項目 呼吸機能検査の基礎
- 第 24 回 項目 換気力学的検査
- 第 25 回 項目 肺泡換気機能検査
- 第 26 回 項目 血液の酸素運搬能測定

- 第 27 回 項目 酸-塩基平衡  
第 28 回 項目 呼吸調節機構、症例検討  
第 29 回  
第 30 回

成績評価方法 (総合) 小テストおよび期末試験の点数により評価する。

教科書・参考書 教科書：臨床検査学講座「生理機能検査学」, 大久保善朗他, 医歯薬出版, 2003 年; 生理機能検査学, 大久保善朗他, 医歯薬出版, 2003 年 / 参考書：生理機能検査マニュアル, 国立循環器病センター生理機能検査部, メディカ出版, 1999 年; 「Rapid Interpretation of EKG's」, Dubin D, Cover Publishing Company, 1996 年

連絡先・オフィスアワー 松田昌子: Phone & Fax:0836-22-2832; e-mail: matsudam@yamaguchi-u.ac.jp  
末永弘美: 0836-22-2853

開設科目	神経機能検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	野垣宏、小島崇紀、清水慶久				

授業の概要 中枢神経疾患の診断に用いられる脳波の意義とその検査法について教授する。(野垣) 脳波装置の構造・特性、電極の装着方法について教授する。(清水) 末梢神経及び運動器疾患の診断に用いられる筋電図検査について教授する。(小島) / 検索キーワード 脳波検査、筋電図検査、末梢神経伝導検査

授業の一般目標 脳波検査、筋電図検査、末梢神経伝導検査について、その意義、測定方法、結果の解釈について理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 脳波検査、筋電図検査、末梢神経伝導検査について、その意義、測定方法、結果の解釈を説明できる。 思考・判断の観点: 検査結果の正常所見や異常所見を指摘できる。

授業の計画(全体) 脳波、筋電図、神経伝導検査等について解説する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 脳波の基礎
- 第 2 回 項目 脳波計の原理
- 第 3 回 項目 電極装着方法
- 第 4 回 項目 正常脳波・睡眠脳波
- 第 5 回 項目 異常脳波
- 第 6 回 項目 アーチファクト
- 第 7 回 項目 脳波判読 授業記録 実際の脳波
- 第 8 回 項目 筋肉の解剖と生理
- 第 9 回 項目 筋電図検査 1
- 第 10 回 項目 筋電図検査 2
- 第 11 回 項目 筋電図検査 3
- 第 12 回 項目 筋電図検査 4
- 第 13 回 項目 筋電図検査 5
- 第 14 回 項目 筋電図検査 6
- 第 15 回 項目 全体のまとめ

成績評価方法(総合) 学期末試験で評価する。

教科書・参考書 教科書: 臨床検査学講座「生理機能検査学」, 大久保善朗他, 医歯薬出版, 2003年

連絡先・オフィスアワー nogaki@yamaguchi-u.ac.jp y-simizu@yamaguchi-u.ac.jp takanori-kojima@h2.dion.ne.jp

開設科目	感覚機能検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	石川敏三・綿貫浩一・足立格郁				

授業の概要 感覚器の解剖・生理学的特徴、それらの機能の検査法、疾患の診断法を教授する。

感覚と神経系の関連：石川 眼底検査：濱生；聴力・平衡機能検査：綿貫

授業計画（授業単位）／内容・項目等／授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 神経細胞の生理：興奮性組織、神経とは？シナプス伝達とは？ 内容 石川教官
- 第 2 回 項目 感覚器のインパルス発生（1） 内容 石川教官
- 第 3 回 項目 感覚器のインパルス発生（2） 内容 石川教官
- 第 4 回 項目 皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚の仕組みと働き。その検査について（1） 内容 石川教官
- 第 5 回 項目 皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚の仕組みと働き。その検査について（2） 内容 石川教官
- 第 6 回 項目 皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚の仕組みと働き。その検査について（3） 内容 石川教官
- 第 7 回 項目 皮膚感覚、深部感覚、内臓感覚の仕組みと働き。その検査について（3） 内容 石川教官
- 第 8 回 項目 眼の解剖・生理 内容 濱生教官
- 第 9 回 項目 主な眼疾患 内容 濱生教官
- 第 10 回 項目 眼科領域の検査 内容 濱生教官
- 第 11 回 項目 聴覚・平衡機能の生理 内容 綿貫教官
- 第 12 回 項目 聴覚検査 I 内容 綿貫教官
- 第 13 回 項目 平衡機能 I 内容 綿貫教官
- 第 14 回 項目 平衡機能 II 内容 綿貫教官
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書：臨床検査学講座「生理機能検査学」、大久保善朗他、医歯薬出版、2003年

メッセージ 生理機能学を理解した上で受講すること。

開設科目	画像検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	菅一能・黒川典枝・佐世正勝・山本滋				

授業の概要 体内の臓器を画像により診断する検査法のうち、核磁気共鳴現象を利用した画像診断法であるMRI(核磁気共鳴画像)、超音波を用いて行なう超音波検査(腹腔内臓器、産婦人科臓器、表在臓)について、原理、目的、正常像、異常像について講義する。/検索キーワード MRI、磁気共鳴画像、超音波検査、腹部超音波検査、

授業の一般目標 検査の原理、異常画像、臨床診断への応用を理解し説明できる。

授業の到達目標/知識・理解の観点: 1)MRI画像の基本原則を理解し、正常像と代表的な異常画像を判別できる。 2)腹部超音波検査の正常画像と代表的疾患について説明できる。 3)産婦人科領域での超音波検査の意義と代表的異常像を説明できる。 4)甲状腺と乳腺疾患の正常と代表的異常画像を説明できる。 思考・判断の観点: 平面像である超音波画像から立体的な構造を想像できる。 関心・意欲の観点: 非侵襲的画像検査の利点と限界を認識し、他の検査・治療との関連に関心を持つ。

授業の計画(全体) 4名の教官がそれぞれの専門領域について講義を行なう。1)MRI(菅) 2)腹部超音波検査(黒川) 3)産婦人科領域超音波検査(佐世) 4)乳房や甲状腺など表在臓器の超音波検査(山本)

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目4月10日(火)MRI1 内容MRの撮像原理 1
- 第2回 項目4月17日(火)MRI2 内容MRの撮像原理 2
- 第3回 項目4月24日(火)MRI3 内容MRの撮像原理 3
- 第4回 項目5月8日(火)MRI4 内容MRの臨床 1
- 第5回 項目5月15日(火)MRI5 内容MRの臨床 2
- 第6回 項目5月22日(火)MRI6 内容MRの臨床 3
- 第7回 項目5月29日(火)表在臓器の超音波診断 内容 乳腺および甲状腺の超音波検査
- 第8回 項目6月5日(火)産婦人科における超音波診断法1 内容 婦人科疾患の超音波検査
- 第9回 項目6月5日(火)産婦人科における超音波診断法1 内容 胎児の超音波診断
- 第10回 項目6月12日(火)腹部超音波検査1 内容 超音波の基礎と正常な腹部臓器の超音波
- 第11回 項目6月19日(火)腹部超音波検査2 内容 腹部超音波検査のまとめ(1)
- 第12回 項目6月26日(火)腹部超音波検査3 内容 各種疾患の腹部超音波像(2)
- 第13回 項目7月3日(火)腹部超音波検査4 内容 各種疾患の腹部超音波像(3)
- 第14回 項目7月10日(火)腹部超音波検査5 内容 各種疾患の腹部超音波像(4)
- 第15回

成績評価方法(総合) 各教官の実施した試験の点数をそれぞれの担当時間に応じた割合に換算し総合点で評価する。

教科書・参考書 教科書: 臨床検査学講座「生理機能検査学」, 大久保善朗他, 医歯薬出版, 2003年

メッセージ 画像検査学には解剖学の知識が必須となるので解剖学をよく勉強しておくこと。臨床検査の領域では画像検査の比重は大きい。

連絡先・オフィスアワー 0836-22-2832(松田:取りまとめ係)

開設科目	画像検査学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	松田昌子・野垣 宏・日野啓輔・末永弘美・清水慶久				

授業の概要 腹部、心臓の超音波による画像検査を行なう。 画像を描出する実習を通して画像検査学で学んだ解剖の知識を、3次元的に理解し、実際の検査への応用を容易にすることを目的とする。

授業の一般目標 1)それぞれの検査の目的、意義、結果について説明できる 2)心臓や腹腔内臓器の解剖、生体内での位置を理解し、基礎的な画像を描出できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1)それぞれの検査法の目的、意義、結果について説明できる 2)提示された異常データの判読ができる。 思考・判断の観点: 実習で得られたデータの意味・問題点を考察し、また、アーティファクトの解決方法を説明できる。 関心・意欲の観点: その日の実習がどのような疾患に応用されるのか関心を持っている。 態度の観点: 1)積極的に実習に関わる 2)同じグループのメンバーと検者・被検者の関係で協調できる。 技能・表現の観点: 各検査の手技を習得する。

授業の計画(全体) 機能検査学実習と組み合わせて行う。4~5グループに分かれ、互いに検者、被検者となって以下のような実習項目を行う。 1)循環系:心電図検査、心音聴診、心音図検査、心臓超音波検査、運動負荷検査 2)呼吸機能検査:スパイロメトリー、 3)神経・感覚器系:脳波検査、神経伝導検査 4)腹部超音波検査:腹部超音波検査、肝臓脈管模型製作

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 10月4日(火) 内容 実習説明、準備
- 第 2 回 項目 10月5日(水) 人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第 3 回 項目 10月11日(火) 人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第 4 回 項目 10月12日(水) 人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第 5 回 項目 10月18日(火) 筋電図検査 内容 上腕骨格筋の電気活動を観察し、神経伝達速度を測定。
- 第 6 回 項目 10月19日(水) 腹部超音波検査 内容 腹部超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 7 回 項目 10月25日(火) 腹部超音波検査 内容 腹部超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 8 回 項目 10月26日(水) 肝臓の血管・胆管走行模型作 内容 門脈、肝動脈、肝静脈の模型を作り、超音波画像を立体的にイメージするトレーニングをする。
- 第 9 回 項目 11月1日(火) 肝臓の血管・胆管走行模型作り 内容 門脈、肝動脈、肝静脈の模型を作り、超音波画像を立体的にイメージするトレーニングをする。
- 第 10 回 項目 11月2日(水) 心臓超音波検査 内容 心臓超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 11 回 項目 11月8日(火) 心臓超音波検査 内容 心臓超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 12 回 項目 11月9日(水) 心電図検査 内容 互いの心電図をとり、基本的な手技を学び、解析する。異常心電図の解析も行なう。
- 第 13 回 項目 11月15日(火) 心音脈波検査 内容 模型を使って正常・異常の心音、脈波を学ぶ。
- 第 14 回 項目 11月16日(水) 運動負荷試験 内容 運動負荷試験法を学ぶ。
- 第 15 回 項目 11月22日(火) 運動負荷試験 内容 運動負荷試験法を学ぶ。
- 第 16 回 項目 11月29日(火) 心電図記録 内容 心電図を記録し、解析する。
- 第 17 回 項目 11月30日(水) 異常心電図解析 内容 異常心電図の解析方法を学ぶ。
- 第 18 回

- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法(総合) レポート、筆記試験、実技試験を総合的に評価する。出席が所定の回数に満たないものは単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：生理機能検査学, 大久保, 医歯薬出版, 2003 年; 実習マニュアル / 参考書：臨床検査学講座「生理機能検査学」, 大久保善朗他, 医歯薬出版, 2003 年

連絡先・オフィスアワー 0836-22-2858 (野垣研究室) 0836-22-2853(末永研究室) 0836-22-2824 (日野研究室) 0836-22-2865 (清水研究室) 0836-22-2832 (松田研究室)



開設科目	機能検査学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	松田昌子・野垣宏・日野啓輔・清水慶久・末永弘美				

授業の概要 互いが被検者となり、神経機能、呼吸機能、循環機能の検査を行い、基礎的検査法の意義・目的を理解し、同時に検査手技を修得することを目的とする。

授業の一般目標 1)それぞれの検査の目的、意義、結果について説明できる 2)基礎的な検査を行うことができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1)それぞれの検査法の目的、意義、結果について説明できる 2)提示された異常データの判読ができる。 思考・判断の観点: 実習で得られたデータの意味・問題点を考察し、また、アーティファクトの解決方法を説明できる。 関心・意欲の観点: その日の実習がどのような疾患に応用されるのか関心を持っている。 態度の観点: 1)積極的に実習に関わる 2)同じグループのメンバーと検者・被検者の関係で協調できる。 技能・表現の観点: 各検査の手技を習得する。

授業の計画(全体) 画像検査学実習と組み合わせて行う。4~5グループに分かれ、互いに検者、被検者となって以下のような実習項目を行う。 1)循環系:心電図検査、心音聴診、心音図検査、心臓超音波検査、運動負荷検査 2)呼吸機能検査:スパイロメトリー、 3)神経・感覚器系:脳波検査、神経伝導検査 4)腹部超音波検査:腹部超音波検査、肝臓脈管模型製作

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 9月28日(火) 内容 実習説明、準備
- 第 2 回 項目 9月29日(水) 人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第 3 回 項目 10月5日(火) 人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第 4 回 項目 10月6日(水) 人の脳波検査 内容 脳波皿電極装着、覚醒脳波、睡眠脳波、負荷脳波の記録、解析
- 第 5 回 項目 10月12日(火) 筋電図検査 内容 上腕骨格筋の電気活動を観察し、神経伝達速度を測定。
- 第 6 回 項目 10月13日(水) 腹部超音波検査 内容 腹部超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 7 回 項目 10月19日(火) 腹部超音波検査 内容 腹部超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 8 回 項目 10月20日(水) 肝臓の血管・胆管走行模型作り 内容 門脈、肝動脈、肝静脈の模型を作り、超音波画像を立体的にイメージするトレーニングをする。
- 第 9 回 項目 10月26日(火) 肝臓の血管・胆管走行模型作り 内容 門脈、肝動脈、肝静脈の模型を作り、超音波画像を立体的にイメージするトレーニングをする。
- 第 10 回 項目 10月27日(水) 心臓超音波検査 内容 心臓超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 11 回 項目 11月2日(火) 心臓超音波検査 内容 心臓超音波検査の基本的な手技を習得し、正常画像をスケッチする。
- 第 12 回 項目 11月9日(火) 心電図検査 内容 互いの心電図をとり、基本的な手技を学び、解析する。異常心電図の解析も行なう。
- 第 13 回 項目 11月10日(水) 心音脈波検査 内容 模型を使って正常・異常の心音、脈波を学ぶ。
- 第 14 回 項目 11月16日(火) 運動負荷試験 内容 エルゴメーターを用いた運動負荷試験を行い、負荷試験の方法、注意点を学ぶ。
- 第 15 回 項目 11月17日(水) 運動負荷試験 内容 エルゴメーターを用いた運動負荷試験を行い、負荷試験の方法、注意点を学ぶ。
- 第 16 回 項目 11月24日(水) 心電図記録 内容 心電図記録・解析

第 17 回 項目 11 月 30 日 ( 火 ) 異常心電図解析 内容 異常心電図の解析方法を学ぶ。

第 18 回

第 19 回

第 20 回

第 21 回

第 22 回

第 23 回

第 24 回

第 25 回

第 26 回

第 27 回

第 28 回

第 29 回

第 30 回

成績評価方法 ( 総合 ) 各実習項目の評価点を統合する。出席が所定の回数に満たないものは単位を与えない。

教科書・参考書 教科書：実習マニュアル / 参考書：臨床検査学講座「生理機能検査学」, 大久保善朗他, 医歯薬出版, 2003 年

メッセージ 十週前に必ず実習書をよく読み、実習の目的を理解しておこなうこと。

連絡先・オフィスアワー 0836-22-2858 ( 野垣研究室 ) 0836-22-2853 ( 末永研究室 ) 0836-22-2824 ( 日野研究室 ) 0836-22-2865 ( 清水研究室 ) 0836-22-2832 ( 松田研究室 )

開設科目	血液検査学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岡野こずえ				

授業の概要 血液や造血臓器の基礎的知識と血液疾患は、すでに血液学で習得している。この講義では、それら知識を基に、血液検査の原理、疾患と検査の関連及び検査成績の解釈等を学習する。 / 検索キーワード 血液検査 血液疾患 採血 血球計測 血液形態鑑別 血液凝固・線溶測定

授業の一般目標 血液検査は血球計測系、血液形態鑑別系、血液凝固・線溶測定系、染色体・遺伝子等多種類の方法が含まれている。それぞれの検査方法について原理、方法および疾患との関連性を理解させる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、血液検査法の原理、方法および血液疾患との関連性を理解する。 思考・判断の観点： 1、血液検査結果と他の検査結果との関連性を理解させる。 2、患者の病態を推測させる。 関心・意欲の観点： 1、一般的な血液検査結果から発展した研究レベルの検査の知識を追求する。 態度の観点： 1、授業は必ず出席する。

授業の計画（全体） 血球計測系、血液形態鑑別系、染色体・遺伝子系、血液凝固・線溶測定系の順番で授業を進めて行く。内容は、1）各検査項目について原理、試薬、方法について解説する、2）検査結果と疾患との関連性を解説する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 検査法総論、採血法 内容 血液検査項目に適した採血方法および血液処理方法を解説する
- 第 2 回 項目 末梢血液検査（Hb、Ht、RBC、WBC、Plt） 内容 Hb、Ht、RBC、WBC、Plt 測定の原理、試薬、測定方法および各種血液疾患における結果について解説する
- 第 3 回 項目 末梢血液検査（血液塗抹標本、自動血液検査法、網赤血球数） 内容 血液塗抹標本、自動血液検査法、網赤血球数について原理や測定方法および各種血液疾患における結果について解説する
- 第 4 回 項目 骨髓検査、特殊血液形態学的検査（特殊染色、LE細胞試験） 内容 骨髓採取法や特殊染色、LE細胞試験について原理や測定方法および各種血液疾患における結果について解説する
- 第 5 回 項目 特殊血液検査（表面マーカー、染色体検査、分子生物学的診断法） 内容 表面マーカー検査や染色体検査について原理、測定方法および各種血液疾患における結果について解説する
- 第 6 回 項目 赤血球系の特殊検査（溶血性貧血に関する検査、シリング試験他） 内容 赤血球系の特殊検査について原理や測定方法および各種血液疾患における結果について解説する
- 第 7 回 項目 白血球系の特殊検査（好中球機能検査、リンパ球芽球化試験他） 内容 白血球系の特殊検査について原理や測定方法および各種血液疾患における結果について解説する
- 第 8 回 項目 免疫グロブリンに関する検査（免疫グロブリン定量）、赤血球沈降速度 内容 免疫グロブリン検査、赤血球沈降速度について原理や測定方法および各種血液疾患における結果について解説する
- 第 9 回 項目 血液凝固検査（出血時間、毛細管抵抗試験、凝固時間、PT、APTT） 内容 出血時間、毛細管抵抗試験、凝固時間、PT、APTTについて原理や測定方法および各種血液疾患における結果について解説する
- 第 10 回 項目 血液凝固検査（血餅退縮、複合凝固因子検査、トロンビン時間他） 内容 血餅退縮、複合凝固因子検査、トロンビン時間等について原理や測定方法および各種血液疾患における結果について解説する
- 第 11 回 項目 血液凝固検査（凝固因子活性の定量、循環抗凝血素、ATIII） 内容 凝固因子活性の量、循環抗凝血素、ATIIIについて原理や測定方法および各種血液疾患における結果について解説する
- 第 12 回 項目 線溶検査（フィブリン平板法、ユーグロブリン溶解時間、FDP） 内容 フィブリン平板法、ユーグロブリン溶解時間、FDPについて原理や測定方法および各種血液疾患における結果について解説する

第 13 回 項目 血小板機能検査（血小板粘着能、血小板凝集能、血小板第 3 因子能）内容 血小板粘着能、血小板凝集能、血小板第 3 因子能について原理や測定方法および各種血液疾患における結果について解説する

第 14 回 項目 その他（新しい凝固線溶検査、血液凝固自動測定装置、血栓検査）内容 新しい凝固線溶検査、血液凝固自動測定装置、血栓検査について原理や測定方法および各種血液疾患における結果について解説する

第 15 回

成績評価方法（総合） 毎回小テストを行い、把握度を確かめながら授業を進めていく。

教科書・参考書 教科書：血液検査学第 4 版，古澤新平、磯部淳一，医学書院，2003 年 / 参考書：血液細胞アトラス 第 5 版，三輪史郎、渡辺陽之輔，文光堂，2005 年；形態学からせまる血液疾患，阿南健一他，近代出版，1999 年

メッセージ 血液疾患や他の疾患に興味を持って、授業を受けて欲しい。

連絡先・オフィスアワー E-mail:kozue@yamaguchi-u.ac.jp Tel:0836-22-2837

開設科目	血液検査学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	山田治・岡野こずえ・山本美佐				

授業の概要 血液学、血液検査学で学んだ知識を、実際の検体(血液)を使用して検査技術を習得する。次に病気を診断するための検査方法とその結果を分析し、血液疾患の診断へと進めていく。/検索キーワード 血液学、血液形態学、CBC、血球計測、血小板機能検査、止血凝固検査

授業の一般目標 血液検査項目は、?血球計測検査、?細胞形態鑑別検査、?凝固・線溶系検査に大別される。これら一つ一つの技術を習得し、結果解析、診断へと関連づけて学習する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1.各実習内容の原理を説明できる。 2.各検査間の関連を説明できる。 思考・判断の観点： 1.実習の結果を判断できる。 2.様々な疾患における各実習の異常発生メカニズムを指摘できる。 関心・意欲の観点： 1.状況に応じて適切に実習するように心がける。 2.検査の手技に関心を持ち実施できる。 態度の観点： 1.問題意識を持ち積極的に取り組むことができる。 2.精度の高い検査が実施できる態度を身につける。 技能・表現の観点： 1.検査結果を考察し、文章や口答で適切に表現できる。

授業の計画(全体) 全体を4グループに編成し、各グループはマニュアルに記載してある日程でA項目からD項目の内容を順次交代で実習する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目A項目(1) 内容 末梢血計測(RBC、WBC、Hb、Ht)2検体、標本作製、ライト染色、網赤血球計測、好酸球計測 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。
- 第2回 項目A項目(2) 内容 末梢血計測(RBC、WBC、Hb、Ht)2検体、標本作製、ライト染色、網赤血球計測、好酸球計測 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。
- 第3回 項目A項目(3) 内容 末梢血計測(RBC、WBC、Hb、Ht)2検体、標本作製、ライト染色、網赤血球計測、好酸球計測 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。
- 第4回 項目B項目(1) 内容 血液塗抹標本分類(末梢血10検体以上、骨髓標本1~2検体) 特殊染色(Alp染色、ペルオキシダーゼ染色、鉄染色) 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。
- 第5回 項目B項目(2) 内容 血液塗抹標本分類(末梢血10検体以上、骨髓標本1~2検体) 特殊染色(Alp染色、ペルオキシダーゼ染色、鉄染色) 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。
- 第6回 項目B項目(3) 内容 血液塗抹標本分類(末梢血10検体以上、骨髓標本1~2検体) 特殊染色(Alp染色、ペルオキシダーゼ染色、鉄染色) 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。
- 第7回 項目C項目(1) 内容 凝固検査(Ca再加試験、トロンビン時間、PT・APTT時間)各2検体、出血時間、毛細管抵抗試験 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。
- 第8回 項目C項目(2) 内容 凝固検査(Ca再加試験、トロンビン時間、PT・APTT時間)各2検体、出血時間、毛細管抵抗試験 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。
- 第9回 項目C項目(3) 内容 凝固検査(Ca再加試験、トロンビン時間、PT・APTT時間)各2検体、出血時間、毛細管抵抗試験 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。
- 第10回 項目D項目(1) 内容 凝固・線溶系検査(FDP検査、フィブリン平板試験) 赤血球抵抗試験、血小板機能検査(血餅退縮試験、血小板粘着能試験) 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。
- 第11回 項目D項目(2) 内容 凝固・線溶系検査(FDP検査、フィブリン平板試験) 赤血球抵抗試験、血小板機能検査(血餅退縮試験、血小板粘着能試験) 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第 12 回 項目 D 項目 ( 3 ) 内容 凝固・線溶系検査 ( FDP 検査、フィブリン平板試験 ) 赤血球抵抗試験、血小板機能検査 ( 血餅退縮試験、血小板粘着能試験 ) 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第 13 回 項目 予備日 ( 1 ) 内容 A ~ D 項目で未実習 の内容 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第 14 回 項目 予備日 ( 2 ) 内容 A ~ D 項目で未実習 の内容 授業外指示 実習マニュアル、教科書を必ず読んでおくこと。

第 15 回 項目 試験

成績評価方法 (総合) 実習態度の評価は、各実習項目は実施に対する積極性、実習結果の問題点を教員と検討する態度および実習後の整理整頓の態度をチェックする。期末試験としては、実習項目の理解度を paper test で評価し、到達度を実技試験で評価する。

教科書・参考書 教科書：血液細胞アトラス第 5 版，”三輪史朗，渡辺陽之輔共著”，文光堂，2004 年；血液検査学第 4 版，古澤新平、磯部淳一，医学書院，2003 年；血液細胞アトラスは少し高いテキストですが、その価値は利用することで、十分元が取れます。説明を読みながらページを繰って下さい。

メッセージ 実習中に疑問があればすぐに教員に質問する。疑問を持ったまま過ごさないこと。

連絡先・オフィスアワー 山田治：電話は 0836-22-2803、メールは osamuymd@yamaguchi-u.ac.jp 岡野こずえ：電話は 0836-22-2837、メールは kozue@po.cc.yamaguchi-u.ac.jp 山本美佐：電話は 0836-22-2853、メールは yamamoms@yamaguchi-u.ac.jp

開設科目	臨床医学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	市原清志				

授業の概要 最初に疾患別症例データベースに基づいて、主要な臨床検査値がどのような病態で変動するかを整理する。その後、剖検症例を中心に臨床検査データの変動がどのような臨床経過と関連しているかを多数の症例で学ぶ。この方式による、臨床検査診断の学習方式は、Reversed Clinicopathological Conference(RCPC)として知られ、簡単な臨床経過の記録と検査経過表から死亡までの病状の変化を、様々な可能性を想定し推論を行う。そして、最後に症例検討会が開催され、詳細な臨床経過と剖検で得た病理所見(実病態)の開示を受け、行ってきた推論の妥当性を検証する。本講義も、後半はRCPC方式で、(1)あらかじめ与えられた課題症例の検査データからその病態の推論を行い、(2)次の授業で発表し、その後、(3)実病態の提示を受ける、という形式で進める。なお、最後の2回の授業は、病棟実習にそなえ、主な疾患の典型症例のカルテを閲覧し、その記載内容の見方と臨床検査の実診療での意義を学習する。/検索キーワード 臨床検査診断学、疾患データベース、RCPC、検査疫学

授業の一般目標 (1) 主要な検査値の病態変動の要因を列挙できる (2) 主要な疾患の典型症例の臨床所見と検査所見との関連性を知り、臨床検査の診断的意義を理解している

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 臨床検査値の変動要因(生理的変動と病態変動)をよく理解している。推定される疾患の病態的特徴(疫学・病因・臨床所見・検査所見・治療法・予後)をよく理解している 思考・判断の観点: 臨床像と臨床検査値の組み合わせから適切な推論を行える。 技能・表現の観点: 与えられた症例について、検討した結果をわかりやすく発表できる

授業の計画(全体) 最初に、主要な臨床検査の変動要因をそう復習する。続いて、主要な約30疾患についてその疫学的、病理学的特性をまとめ、同時に診断上重要となる、臨床所見と検査所見を整理する。また、最新の治療法や予後についても触れる。最後に、計6症例(剖検例)を班毎に割り振り、与えられた検査所見から、どのような病態・疾患を想定できるかを深く考察し、その結果を順に発表してもらい、皆で討議する。これらの勉学過程により、臨床検査が臨床医学に果たす役割を深く認識させる。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第1回 項目 主要検査の生理的病態学的変動要因(1)
- 第2回 項目 主要検査の生理的病態学的変動要因(2)
- 第3回 項目 主要検査の生理的病態学的変動要因(3)
- 第4回 項目 主要検査の生理的病態学的変動要因(4)
- 第5回 項目 主要疾患の臨床検査プロフィール(1)
- 第6回 項目 主要疾患の臨床検査プロフィール(2)
- 第7回 項目 主要疾患の臨床検査プロフィール(3)
- 第8回 項目 主要疾患の臨床検査プロフィール(4)
- 第9回 項目 RCPC 症例演習(1)
- 第10回 項目 RCPC 症例演習(2)
- 第11回 項目 RCPC 症例演習(3)
- 第12回 項目 RCPC 症例演習(4)
- 第13回 項目 RCPC 症例演習(5)
- 第14回 項目 RCPC 症例演習(6)
- 第15回

成績評価方法(総合) 知識と判断力を問うため、ペーパーテストの形で小テスト、定期試験を行う。

メッセージ 病気への関心を高め、実際に臨床検査が病気の診断にどのように使われるかを実践的に学習する大切な科目ですので、意欲的に取り組んで下さい。

連絡先・オフィスアワー E-mail: [ichihara@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:ichihara@yamaguchi-u.ac.jp) Tel/Fax: 0836-22-2884 ( 大学 ) 9:00 ~ 18:30



開設科目	臨床病理学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	服部幸夫				

授業の概要 「生化学」「病理学」「血液学」「臨床医学」などの科目を基本とする「臨床病理学」です。総合学問と言えます。その中で、特にスポットをあてるのは、病態の理解に裏付けされた検査値の解釈です。この目的で「異常値の出るメカニズム」を教科書として用います。検査値は決して無味乾燥なものではなく、それを読む人がその裏に潜む病態を推測し得る時に初めて検査値に命が与えられます。 / 検索キーワード 臨床病理学

授業の一般目標 検査項目およびその組み合わせはどのような病態を反映しているのか、を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：各単元の内容を理解する 思考・判断の観点：病態や検査相互の関連を思考できるようにする 関心・意欲の観点：病気や病態に興味がないと無味乾燥なものになってしまう 態度の観点：毎回の小試験をきちんと受けること

授業の計画（全体）教科書に対する問題集を最初に一括して渡す（ダウンロード可能）ので、授業に関する範囲の問題を教科書を読みながら自ら解答を探索。毎時間の小試験は基本的には問題集から抜粋して出題する。その解答をしながら、解説を行う形態で授業を進める。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション
- 第 2 回 項目 尿の検査 内容 9-35
- 第 3 回 項目 尿、便の検査 内容 36-62
- 第 4 回 項目 血液検査 (1) 内容 63-92
- 第 5 回 項目 血液検査 (2) 内容 93-118
- 第 6 回 項目 化学検査 (1) 内容 119-146
- 第 7 回 項目 化学検査 (2) 内容 147-172
- 第 8 回 項目 化学検査 (3) 内容 173-200
- 第 9 回 項目 内分泌 (1) 内容 201-222
- 第 10 回 項目 内分泌 (2) 内容 223-241
- 第 11 回 項目 内分泌 (3) 内容 242-266
- 第 12 回 項目 酵素 内容 267-300
- 第 13 回 項目 免疫血清 内容 301-332
- 第 14 回 項目 感染症 (1) 内容 333-359
- 第 15 回 項目 感染症 (2)、腫瘍 マーカー 内容 360-387

成績評価方法（総合） 毎回小試験を行い、本試験は小試験を中心に出題する。主な評価は本試験で行う。しかし、小試験の結果も参考とする。2/3 以上の出席が必要。

教科書・参考書 教科書：異常値の出るメカニズム, 河合忠 編集, 医学書院, 2001 年

メッセージ かなりハードな自習科目です。自分との戦いですから、頑張ってください。ゲームを楽しんで戴きたいと思います。

連絡先・オフィスアワー hattori-ygc@umin.ac.jp

開設科目	臨床病態学演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	服部幸夫				

授業の概要 個々の検査値に関して測定法や意義を学んでも、まだ使いこなせるものではない。学習をより確実なものにするためには練習問題をこなす必要があります。これに相当するものが、臨床病態学演習 (drill) です。ここでは、10 数例の症例を提示するので、その症例に即してデータや病態の解釈を行い、かつ病気の知識を深めて戴きます。なお、症例は英語で提示するかもしれませんが、デジタル化された英文資料を提供しますので、英辞郎などの電子辞書を使って能率をあげてください。

授業の一般目標 多数の検査データより推測される病態、病気を理解する。疾患の一つひとつを1枚のカードと認識し、今後そのカードを増やしていく方法を学ぶ。カルテに使われている医学英語に習熟する(カルテが読めるようになる道標とする)

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 検査から得られる病態解釈 疾患の理解 思考・判断の観点: 疾患のメカニズム、およびそれが検査にどのように反映されているかを考察する。 関心・意欲の観点: 病気の理解は自ら調べて、一つひとつを自分のものにしていく作業である。その方法をここで学ぶ。疾患に興味がないければ、検査は面白くないことを理解する。 態度の観点: パソコン授業となるために、インターネットや場合によっては文献検索にアクセスしていく作業が含まれる。自ら積極的に取り組まないと、成果はあがらない。 技能・表現の観点: 検査結果の解釈や疾患で分からない場合でも自ら解決できる技能をすこしでも獲得する。

授業の計画(全体) 症例を与え、それに沿って症例問題に対する解答をインターネットや成書で探して答えていく。疾患にたどり着いたら、その疾患に関して深く学ぶ。毎回小テスト(前回学習した箇所)を課す。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション 症例 1
- 第 2 回 項目 症例 1
- 第 3 回 項目 症例 2
- 第 4 回 項目 症例 3
- 第 5 回 項目 症例 4
- 第 6 回 項目 症例 5
- 第 7 回 項目 症例 6
- 第 8 回 項目 症例 7
- 第 9 回 項目 症例 8
- 第 10 回 項目 症例 9
- 第 11 回 項目 症例 10
- 第 12 回 項目 症例 11
- 第 13 回 項目 症例 12
- 第 14 回 項目 症例 13
- 第 15 回 項目 試験 14

成績評価方法(総合) 主として本試験で評価をしますが、小試験の結果も参考にします。本試験の問題は小試験の問題を中心に出题します。2/3 以上の出席必要

教科書・参考書 教科書: 病気の地図帳, 山口和克(監修), 講談社, 2000年; 異常値の出るメカニズム, 河合忠, 医学書院, 2001年; 英辞郎, アルク; 症例はこちらから渡します。いずれの教科書も1,2,3年次に既に使用しているものです。編入生以外は新たに購入する必要はありません。 / 参考書: 異常値の出るメカニズム, 河合忠 編集, 医学書院, 2001年; Robbins Basic Pathology, "Kumar, et al", Saunders, 2003年; ロビンス基礎病理学, 森亘、他 訳, 廣川書店, 2004年; ビジュアル・ノート, 茨城保, MEDIC

MEDIA, 2005 年； 有用な参考書は上記の如くです。(2) は医学ジャーナルの別冊です。(5) は (4) の訳本です。できるだけ、洋書に馴染むことをお勧めします。

メッセージ 英語での症例では、「英辞郎」を活用することが勧められる。

開設科目	検査精度管理学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	市原清志				

授業の概要 臨床検査値の信頼性を高めるための要件と、それを達成するために必要な一連の方法論を系統的に講義する。ここで検査の信頼性は、測定値の再現性(精度)を高め、偏りの少ない(正確な)値を出し、人為的なミス(検査過誤)の防止に依存している。測定精度・正確度の評価については、新測定法導入時の技術的評価法、管理図を用いた精度のモニターリング法を中心に講義を行う。一方、外部精度管理調査結果から、臨床検査の標準化がどのように推進され、現在の検査の精度がどのような状況にあるのかを学ぶ。さらに臨床検査の臨床的有効性を客観的に評価するための指標とその解釈についても解説する。/ 検索キーワード 精度管理学、標準化、臨床的評価法、技術的評価法、検査過誤

授業の一般目標 ・臨床検査の標準化・精度の現状を理解し、将来の方向性がわかる ・検査の現場で、日常検査の精度管理を実践できる ・検査の技術的評価法を理解し、実際の基礎検討のデータを用いてその評価を行える ・検査の臨床的有用性の評価法を理解し、その計算・作図をできる

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：臨床検査の精度を定量的な評価ができる。臨床検査の精度や安全性に問題をきたす要因について基礎的な知識を持っている。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 精度管理総論
- 第 2 回 項目 内部精度管理法(1)
- 第 3 回 項目 内部精度管理法(2)
- 第 4 回 項目 外部精度管理法と臨床検査の標準化
- 第 5 回 項目 誤差許容限界の考え方と求め方
- 第 6 回 項目 個別管理法と検査過誤
- 第 7 回 項目 測定値の誤差要因(1)
- 第 8 回 項目 測定値の誤差要因(2)
- 第 9 回 項目 基準範囲とカットオフ値(1)
- 第 10 回 項目 基準範囲とカットオフ値(2)
- 第 11 回 項目 検査の有用性の評価法(1)
- 第 12 回 項目 検査の有用性の評価法(2)
- 第 13 回 項目 精度管理演習(1)
- 第 14 回 項目 精度管理演習(2)
- 第 15 回

教科書・参考書 参考書：解説・演習用プリントを毎回配布

メッセージ 3年後期で精度管理学の実際を学びますが、その基礎知識を整理します

連絡先・オフィスアワー E-mail: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2884(大学) 9:00~18:30

開設科目	実験動物学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	石川敏三				

授業の概要 医学・医療の発展における動物の貢献はめざましい。すなわち疾患モデルや病理的状態の生理的、形態学的サンプルとして、極めて重要な価値がある。本講義では、生命科学の発展と人類の幸福に関する、病気の成り立ち(病態メカニズム)や薬物の開発など、幅広く教授する。

授業計画(授業単位)/内容・項目等/授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 1 . 医学の発展における動物のかかわり (相似性など)
- 第 2 回 項目 2 . 動物愛護とストレス緩和
- 第 3 回 項目 3 . 神経研究の実際 (解剖・生理学的アプローチ)
- 第 4 回 項目 4 . 神経研究の実際 (薬理的アプローチ)
- 第 5 回 項目 5 . 神経研究の実際 (神経生化学的アプローチ)
- 第 6 回 項目 6 . 臨床における中枢神経障害の病態の理解
- 第 7 回 項目 7 . 将来予想される治療法と基礎研究との拘り
- 第 8 回 項目 8 . 先端治療薬開発・研究の話題
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

教科書・参考書 教科書：実験動物学, 谷口博一, 医歯薬出版, 2002 年 / 参考書：最新実験動物学, 前島一淑ほか, 朝倉書店, 1998 年

開設科目	臨床細胞診断学実習 I 1	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋睦夫・上田順子・尾野緑・山本美佐				

授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。前期は消化器、体腔液の細胞診について学ぶ。/ 検索キーワード 細胞診 消化器 体腔液

授業の一般目標 消化器、体腔液の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：消化器、体腔液の基礎知識を習得する。 思考・判断の観点：消化器、体腔液の基礎知識を習得する。 技能・表現の観点：消化器、体腔液の基礎知識を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 オリエンテーション・消化器病理組織
- 第 2 回 項目 消化器 1
- 第 3 回 項目 スクリーニング
- 第 4 回 項目 消化器 2
- 第 5 回 項目 スクリーニング
- 第 6 回 項目 消化器 3
- 第 7 回 項目 体腔液 1
- 第 8 回 項目 スクリーニング
- 第 9 回 項目 体腔液 2
- 第 10 回 項目 スクリーニング
- 第 11 回 項目 体腔液 3
- 第 12 回 項目 スクリーニング
- 第 13 回 項目 体腔液 4
- 第 14 回 項目 スクリーニング
- 第 15 回 項目 スクリーニング
- 第 16 回 項目 スクリーニング
- 第 17 回 項目 細胞診専門コース認定試験模擬試験
- 第 18 回 項目 細胞診専門コース認定試験模擬試験
- 第 19 回
- 第 20 回
- 第 21 回
- 第 22 回
- 第 23 回
- 第 24 回
- 第 25 回
- 第 26 回
- 第 27 回
- 第 28 回
- 第 29 回
- 第 30 回

成績評価方法（総合）・定期試験で総合評価を行う

連絡先・オフィスアワー 高橋睦夫 内線 2845、上田順子 内線 2833、尾野緑 内線 2853、山本美佐 内線 2853

開設科目	臨床細胞診断学実習 I 2	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	2単位	開設期	後期
担当教官	高橋睦夫・尾野緑・山本美佐				

授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。後期はリンパ節・その他の細胞診について学ぶ。 / 検索キーワード 細胞診 リンパ節・その他

授業の一般目標 リンパ節・その他の基礎知識を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：リンパ節・その他の基礎知識を習得する。 思考・判断の観点：リンパ節・その他の基礎知識を習得する。 技能・表現の観点：リンパ節・その他の基礎知識を習得する。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 細胞診専門コース認定試験模擬試験
- 第 2 回 項目 リンパ節・その他の病理組織
- 第 3 回 項目 リンパ節・その他 1
- 第 4 回 項目 リンパ節・その他 2
- 第 5 回 項目 リンパ節・その他 3
- 第 6 回 項目 リンパ節・その他 4
- 第 7 回 項目 リンパ節・その他 5
- 第 8 回 項目 スクリーニング
- 第 9 回 項目 スクリーニング
- 第 10 回 項目 スクリーニング
- 第 11 回 項目 細胞診専門コース認定試験
- 第 12 回 項目 細胞診専門コース認定試験
- 第 13 回 項目 合否通知
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合）・定期試験で総合評価を行う

連絡先・オフィスアワー 高橋睦夫 内線 2845、尾野緑 内線 2853、山本美佐 内線 2853

開設科目	医療工学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	石川敏三				

授業の概要 現代医療の進歩を支える各種検査、診断、治療機器や医用材料は、医用工学を基盤とする応用分野である。そこで、医用機器や医用材料の構成や性能を正しく理解し、これらの持つ有効性を十分に活用するため、(1) 生体物性の理解、(2) 電気・電子工学的観点、あるいは (3) 機械・物性工学的観点 (生体・流体力学を基盤とする機能補助装置の原理と実際など) から、実際の医用機器の動作原理、性能および安全管理を教授する。また、最新の知識や技術を取り入れ実際に役立つ内容とし、また機器の開発や展開についても深く理解させる。実習では、これらの知識を用いて電子回路の特性や記録、センサなどを用いる実験からさらに理解させる。又、自己開発で葉、課題をあたえた後ぐる ^ 婦で自由に学び、まとめ、展開学習をさせる。その結果は、発表をさせる。

授業の一般目標 臨床現場における医用機器や医用材料の原理・構成や性能が正しく理解できし、また、これら医療機器の持つ有効性を十分に活用でき、安全対策ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 各種検査、診断、治療機器や医用材料の構成や性能が正しく理解できる。 思考・判断の観点： 生体の物理学的性質と検査機器の原理が多くでが関係することが分かる。 関心・意欲の観点： 生体の物理学的性質と検査機器の原理が多くでが関係することが分かる。 態度の観点： 機器の利用に関心がもてる。 技能・表現の観点： 適切な機器の利用やエネルギーについて安全対策がとれる。

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 講義ガイダンスおよび医学と工学について
- 第 2 回 項目 生体物性 内容 理工学の関係、生体組織の電氣的、機械的、光学的特性
- 第 3 回 項目 生体物性 内容 理工学の関係、生体組織の電氣的、機械的、光学的特性
- 第 4 回 項目 電気・電気素子の基礎 ( 1 )
- 第 5 回 項目 電気・電気素子の基礎 ( 2 )
- 第 6 回 項目 電気・電気素子の基礎 ( 3 ) 内容 電子回路など
- 第 7 回 項目 テスターと計測能動素子、増幅回路の特性
- 第 8 回 項目 オシロと計測、能動素子、増幅回路の特性
- 第 9 回 項目 能動素子、増幅回路の特性、記録器と表示
- 第 10 回 項目 生体からの情報収集 ( 1 ) 内容 センサ
- 第 11 回 項目 生体からの情報収集 ( 2 ) 内容 センサの原理など
- 第 12 回 項目 医用機器の安全管理
- 第 13 回 項目 病院情報処理システムなどとまとめ ( 予備 )
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) 期末試験で評価。一部で、小テストなどを加えることもある。

教科書・参考書 教科書： 医用工学概論, 嶋津秀昭ほか, 医歯薬出版, 2005 年

連絡先・オフィスアワー 午後 4:00 ~ 7:00



開設科目	医療工学実習	区分	実験・実習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	石川敏三・松井智浩				

**授業の概要** 現代医療の進歩を支える各種検査、診断、治療機器や医用材料は、医用工学を基盤とする応用分野である。そこで、医用機器や医用材料の構成や性能を正しく理解し、これらの持つ有効性を十分に活用するため、(1) 生体物性の理解、(2) 電気・電子工学的観点、あるいは (3) 機械・物性工学的観点 (生体・流体力学を基盤とする機能補助装置の原理と実際など) から、実際の医用機器の動作原理、性能および安全管理を教授する。また、最新の知識や技術を取り入れ実際に役立つ内容とし、また機器の開発や展開についても深く理解させる。実習では、これらの知識を用いて電子回路の特性や記録、センサなどを用いる実験からさらに理解させる。又、自己開発で葉、課題をあたえた後ぐるゝ婦で自由に学び、まとめ、展開学習をさせる。その結果は、発表をさせる。

**授業の一般目標** 臨床現場における医用機器や医用材料の原理・構成や性能が正しく理解できし、また、これら医療機器の持つ有効性を十分に活用でき、安全対策ができる。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：検査に用いる様々な機器の原理およびその利用法が理解できる。テスト、オシロコープによる計測、電子回路の特性、安全対策、センサの原理など、幅広く生体医用工学の知識が身に付く。思考・判断の観点：古典的および新しい理論で実用的になった機器の歴史や利用法が分かる。自己開発では課題に対する適切な情報収集や分析が出来る。関心・意欲の観点：電子回路などの実験では、電気現象の観察から機器の動作原理を知ることが出来る。態度の観点：物理学的現収などを多く観察、体験することで、知識として重要な学習となる。技能・表現の観点：脳波計や心電図家など、各機器の原理に基づく正しい利用が身に付く。

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 ガイダンスと基礎実習 1) テスター、オシロスコープによる計測
- 第 2 回 項目 テスターによる計測
- 第 3 回 項目 オシロスコープによる計測
- 第 4 回 項目 ブリッジによるサーミスタ、パルスオキシメータ、フィルタ特性用 記録・表示の実際
- 第 5 回 項目 ブリッジによるサーミスタ、パルスオキシメータ、フィルタ特性
- 第 6 回 項目 差動増幅、直流安定化電源、トランジスタ
- 第 7 回 項目 自己開発コース (バイオテクノロジーの現況と課題)
- 第 8 回 項目 差動増幅、直流安定化電源、トランジスタ
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

**成績評価方法 (総合)** 講義、実習共に、期末試験で 7 割、小テスト+口頭試問 課題レポート:3 割とする。特に実習では、実験内容についてその場で口頭試問をし、又、自己開発では開発能力を問う。

**教科書・参考書** 教科書：医用工学概論, 医学書院, 2003 年; 医学生のための生体工学, ; 他、プリントを配布する

**連絡先・オフィスアワー** 午後 4:00 ~ 7:00

開設科目	病理検査学	区分	講義	学年	3 年生
対象学生		単位	1 単位	開設期	前期
担当教官	上田順子・高橋睦夫・山本美佐				

授業の概要 病理検査学では臨床検査の重要な部門の一つである病理学的検査について学ぶ。病理学的検査の中では組織標本の作成と細胞診が重要な柱である。組織標本の作成過程は複雑で、目的に応じた染色法も理解しなければならない。病理学や病理形態学との関連が深いので、質問しながら講義を進めるので、充分復習して講義に臨むこと。/ 検索キーワード 組織標本作製、固定、脱水、包埋、薄切、染色、凍結切片、迅速標本、細胞診、電子顕微鏡、病理解剖

授業の一般目標 1. 光学顕微鏡や電子顕微鏡による検査の意義が説明できる。 2. パラフィン切片や超薄切片について説明できる。 3. 特殊染色の種類と目的と方法が理解できる。 4. 病理解剖の意義について説明できる。 5. 細胞診の目的や方法や観察法について理解している。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 1. どのような疾患に病理学的検査が必要なのか説明できる。 2. 具体的に H E 標本や電顕標本の作成法を説明できる。 3. 細胞診の有用性を説明できる。 4. Papanicolaou 染色法について説明できる。 5. 病理解剖に関する法律や、病理解剖の概要を理解している。 思考・判断の観点: 1. 病理学的検査と生化学的検査の長所と短所を判断できる。 2. 特殊染色の必要性が考察できる。 3. 組織診と細胞診の長所と短所を考察できる。 関心・意欲の観点: どのような病理学的検査があり、それがどのように臨床に役立つのか興味を持って学ぼうとする意欲を示す。 技能・表現の観点: 与えられた課題をわかりやすく発表できる。

授業の計画(全体) 1~5回(上田担当): 検査の基礎とパラフィン切片の染色について 6回(上田担当): 凍結切片、組織化学、免疫組織化学について 7~10回(上田担当): 基礎、女性生殖器、呼吸器、尿路、体腔液について 11回(高橋担当): 乳腺、リンパ節、甲状腺、神経系について 12, 13回(高橋担当): 電顕標本および病理解剖について 14回: 特別講義(岩田隆子名誉教授)

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 組織診の概要 固定法 内容 1. 検体受付と 処理 2. 切り出し 3. 標本作成 4. 薄切 5. 染色 6. 固定の概要 7. 固定液の種類
- 第 2 回 項目 脱灰 パラフィン包埋 薄切法 パラフィン包埋 法 内容 1. 操作の概要 2. 各種脱灰法 特徴 特性 3. 包埋操作 4. 自動包埋装置 5. ミクロトーム 6. ミクロトーム刀 7. 薄切法 8. 失敗の原因
- 第 3 回 項目 パラフィン切片 染色法 1 パラフィン切片 染色法 内容 1. 色素と染色性 2. 染色器具 3. 染色法の概要 4. H E 染色 5. 多糖類染色 ムコ多糖類
- 第 4 回 項目 パラフィン切片 染色法 2 内容 6. 膠原線維 弾性線維 7. 鍍銀法
- 第 5 回 項目 パラフィン切片 染色法 3 内容 8. 各種特殊染色法 線維素 アミロイド 核酸 神経組織 病原体 生体色素・鉄 血液細胞 内分泌細胞
- 第 6 回 項目 凍結切片・組織化学 凍結切片 迅速組織診 内容 9. 凍結切片作製法 クリオスタット 10. 脂肪染色 11. 組織化学
- 第 7 回 項目 免疫染色・他 分子病理学 内容 12. 免疫染色
- 第 8 回 項目 細胞診断総論 内容 検体採取、処理 固定 染色 迅速細胞診 スクリーニングの実際 悪性細胞の特徴
- 第 9 回 項目 細胞診断各論 1 内容 1. 女性生殖器
- 第 10 回 項目 細胞診断各論 2 内容 2. 呼吸器系 3. 尿路系
- 第 11 回 項目 細胞診断各論 3 内容 4. 体腔液 5. 乳腺・他
- 第 12 回 項目 電子顕微鏡 内容 透過型電子顕微鏡標本の作成 電顕的免疫組織化学 走査型電子顕微鏡
- 第 13 回 項目 病理解剖 バイオハザード・他 内容 病理解剖とは 規則と手続き 病理解剖の実際 死と死後変化 結果の報告 記録と保管
- 第 14 回 項目 特別講義 内容 病理検査学総括

第 15 回

成績評価方法 (総合) 課題発表、中間試験および定期末試験で総合評価を行う。

教科書・参考書 教科書：病理検査学のすべて, 大西俊造他, 文光堂, 2002 年

開設科目	基礎看護演習	区分	演習	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	稲垣順子、辻野久美子、村上京子、田代明子、田戸朝美、檀原三七子、生田奈美可、沓脱小枝子、山元公美子、田中奈美、江藤亜矢子、小野順子、老年教員				

授業の概要 疾病や障害により日常生活行動に援助を必要とするさまざまな発達段階にある対象に対し、安全・安楽・自立・能率を踏まえた看護援助に関する視点を習得し、演習を通し検査時に有用な看護技術の基礎を学習する。 / 検索キーワード 看護技術 検査時

授業の一般目標 1. 疾病や障害により生活行動に援助を必要とするさまざまな発達段階にある対象を理解する。 2. 安全・安楽・自立・能率を踏まえた看護援助に関する視点を習得する。 3. 演習を通して対象が日常生活を送るために必要な援助や検査時の援助の基本を習得する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：さまざまな発達段階にある対象や疾病や障害により日常生活を送るために必要な援助の方法について基本を理解し、その知識を基に検査時に必要な援助方法を説明できる。 思考・判断の観点：看護援助を行うとき、対象を理解し、安全・安楽・自立・能率を考えることができる。実際に行う看護技術の行動の根拠を考えながら、実施する。 関心・意欲の観点：看護技術に必要な知識を調べ、技術の習得を試みることができる。 態度の観点：実際の場面を想定しながら、取り組むことができる。 技能・表現の観点：検査時や日常生活を送るために必要な基礎的な看護技術を実施できる。

授業の計画(全体) 集中して講義と演習を行う。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 看護とは、技術とは、感染予防・環境の調整に関する看護技術 内容 看護に関する講義、手洗い・ベッドメイキングの演習 授業外指示 ユニフォームで着てください
- 第 2 回 項目 日常生活援助技術 内容 活動と休息に関する看護技術(体位変換・ベッド上での移動) 授業外指示 ユニフォームで着てください・Tシャツ・ジャージを持ってきてください
- 第 3 回 項目 小児を対象とした検査時の看護技術・老年を対象とした検査時の看護技術・日常生活援助技術 内容 小児を対象とした検査時の看護技術・老年を対象とした検査時の看護技術・活動と休息に関する看護技術(車椅子・ストレッチャー): 小児を対象とした検査時の看護技術 授業外指示 ユニフォームで着てください・Tシャツ・ジャージを持ってきて下さい
- 第 4 回 項目 日常生活援助技術 内容 衣生活に関する看護技術(寝衣交換・シーツ交換) 授業外指示 ユニフォームで着てください・シャンプー・タオルを持ってきて下さい
- 第 5 回 項目 日常生活援助技術・まとめ 内容 清潔に関する看護技術(洗髪・足浴)・まとめ 授業外指示 ユニフォームで着てください・Tシャツ・ジャージを持ってきて下さい
- 第 6 回
- 第 7 回
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法(総合) 授業や演習時の取り組み状況や参加度、小テスト、レポートを通して評価する

教科書・参考書 教科書：看護技術を根拠からマスターしよう, 吉澤理, 医学芸術社, 2004年 / 参考書：実践的看護マニュアル 基礎技術編, 川島みどり, 看護の科学社, 2002年; 看護技術プラクティス, 竹尾恵子, 学研, 2004年

メッセージ 各担当教官の指示に従って下さい。

連絡先・オフィスアワー 稲垣順子 Tel:22-2851 E-mail:jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp

備考 集中授業

開設科目	検査管理学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	市原清志				

授業の概要 精度管理：3年前期で学んだ検査精度管理学の発展として、臨床検査の各部門で、日常どのような精度管理の工夫が行われているかを学ぶ。また、実際の数値例で、精度管理に必要なデータ解析法を演習する。安全管理と医療システム：臨床検査技師のための法律および医療従事者に関わる各種法律、ならびに現在の医療制度について解説する。また安全管理として、臨床検査技師の立場での医療事故、医療過誤を教示する。 / 検索キーワード 精度管理、標準化、技術的評価法、関係法規、安全管理、検査過誤

授業の一般目標 ・臨床検査の標準化・精度の現状を理解し、将来の方向性がわかる ・検査の現場で、日常検査の精度管理を実践できる ・検査の技術的評価法を理解し、実際の基礎検討のデータを用いてその評価を行える ・検査の臨床的有用性の評価法を理解し、その計算・作図をできる ・臨床検査技師に関わる法規の主な内容とその意味を理解している ・検査業務を行う上での、安全管理の基礎知識を持っている

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：臨床検査の精度を定量的な評価ができる。臨床検査の精度や安全性に問題をきたす要因について十分な知識を持っている。また、検査技師に関する法律を一通り理解している。 思考・判断の観点：検査の精度管理の不備や検査過誤がどのような影響を持つかを考えることができ、計測値の扱いに関してさまざまな状況で正しい判断を行える。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 臨床化学検査と精度管理 内容 大井
- 第 2 回 項目 血液検査と精度管理 内容 常岡
- 第 3 回 項目 遺伝子検査と精度管理 輸血検査の精度管理 内容 岡山・工藤
- 第 4 回 項目 微生物・遺伝子検査と精度管理 内容 水野
- 第 5 回 項目 関係法規：臨床検査技師に関する法律（1） 内容 清水
- 第 6 回 項目 関係法規：医療従事者に関わる法律（2） 内容 清水
- 第 7 回 項目 検査過誤と安全管理 内容 清水
- 第 8 回 項目 医療保険と介護保険 内容 岩本
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法（総合）市原：知識と判断力を問うため、ペーパーテストの形で小テスト、定期試験を行う。岩本・清水：定期試験で評価

メッセージ 3年前期で精度管理学の統計学的な側面を中心に学びますが、その応用にあたります。

連絡先・オフィスアワー 市原：E-mail: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2884(大学)9:00 ~ 18:30 岩本：E-mail: miwamoto@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2854(大学)9:00 ~ 18:30

開設科目	検査情報管理学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	市原清志				

**授業の概要** 近年の急激な技術革新により臨床検査（検体検査）のほとんどが自動化され、手操作で測定される検査項目は激減した。これに伴い、臨床検査技師に現在もっと要求されている能力は、検査の依頼から報告までの情報をどう管理するかであり、検査情報システムに蓄積された膨大な情報を、検査業務や診療支援にどう活用するか自動分析装置から出力される測定値をどう管理するかである。本講義では、検査情報のデータベースの構築法、SQL文という汎用データベース言語を使った、診療支援システムからの情報の抽出法、エクセルなどを使ったデータ解析法を中心に、実際の検査情報を処理する演習を行いながら、解説する。また、日常検査情報を精度管理業務にまた、診療支援にどう活用するかについて、具体的な事例を挙げて、演習も交えて、情報技術がすぐ身に付くよう実践的に解説を行う。/ 検索キーワード SQL、データベース、精度管理、業務支援、臨床支援

**授業の一般目標** 1. 検査情報システムの基礎をなすデータベースの構成を理解できる 2. 簡単なデータベースを構築し、利用できる 3. データベース操作言語である、SQL文を理解し、その基本的コマンドを使える 4. データベースから抽出したデータの検査業務への活用法を理解している

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：データベースの仕組みが分かる 思考・判断の観点：検査システムから抽出した情報の検査業務への活用法を想起できる 関心・意欲の観点：コンピュータの可能性について関心を持ち、それを活用する技術の習得に意欲を持っている 技能・表現の観点：SQL文を使って、データベースの基本的な制御法、特にデータの抽出法に習熟している

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 検査情報システムの基本設計とリレーショナルデータベース
- 第 2 回 項目 データベースの構築法（1）講義
- 第 3 回 項目 データベースの構築法（2）演習 1
- 第 4 回 項目 データベースの構築法（3）演習 2
- 第 5 回 項目 SQL 文の言語体系
- 第 6 回 項目 SQL 文を使った、検査情報の抽出法演習（1）
- 第 7 回 項目 SQL 文を使った、検査情報の抽出法演習（2）
- 第 8 回 項目 SQL 文を使った、検査情報の抽出法演習（3）
- 第 9 回 項目 エクセルを応用した検査情報の解析演習（1）
- 第 10 回 項目 エクセルを応用した検査情報の解析演習（2）
- 第 11 回 項目 日常検査情報を活用した精度管理の実際（1）
- 第 12 回 項目 日常検査情報を活用した精度管理の実際（2）
- 第 13 回 項目 日常検査情報を活用した臨床支援の実際（1）
- 第 14 回 項目 日常検査情報を活用した臨床支援の実際（2）
- 第 15 回

**成績評価方法（総合）** 定期試験の際に実技試験（100%）、2/3以上の出席で受験可能

**教科書・参考書** 参考書：マイクロソフトアクセスに関する解説書をテキストとして利用（未定）

**メッセージ** ノートパソコン必携、データベースソフトには Microsoft Access を利用

**連絡先・オフィスアワー** E-mail: ichihara@yamaguchi-u.ac.jp Tel/Fax: 0836-22-2884（大学）9:00～18:30

開設科目	バイオサイエンス概説	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	石川敏三				

授業の概要 近年の生命科学の発展はめざましく、生命の細胞から個体レベル間での調節機構を解説する。一方、先端医療における各種バイオセンサー、マテリアル、ミュネチックの現状と課題を解説する。臨床検査に限らず、広い視野で医と工学を関連させた生体の調節機構の解析、模倣やセンサー原理の理解や発想を考える。/ 検索キーワード 生命科学、機能再生、細胞再生、生命工学、生体模倣

授業の一般目標 細胞レベルから個体レベルまでのさまざまなホメオスタシス調節機構が統合して理解出来る。細胞の障害過程と修復機転、細胞再生の話題に追従や理解が出来る。生体機能の模倣センサー開発などの現状屋課題が理解できる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 先端のバイオサイエンスの現況と課題が理解できる。 思考・判断の観点： 生命科学研究の進め方、展開が分かる。 関心・意欲の観点： バイオサイエンスの現状認識から新しい発想が可能となる。 態度の観点： バイオ関連の情報収集、分析、活用して、一部では、研究プランが組める。 技能・表現の観点： 先端の情報収集法、実験戦略を持つことなどが身に付く。

授業計画 ( 授業単位 ) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 バイオインフォーマティクス ( 1 )
- 第 2 回 項目 日常検査から着想した「ためしてガッテン」研究事例集
- 第 3 回 項目 日常検査情報を活用した診療支援システムの開発事例集
- 第 4 回 項目 バイオインフォーマティクス ( 2 )
- 第 5 回 項目 生命科学の発展とバイオサイエンス ( 1 )
- 第 6 回 項目 生命科学の発展とバイオサイエンス ( 2 )
- 第 7 回 項目 生命科学の発展とバイオサイエンス ( 3 )
- 第 8 回
- 第 9 回
- 第 10 回
- 第 11 回
- 第 12 回
- 第 13 回
- 第 14 回
- 第 15 回

成績評価方法 (総合) レポート課題で評価する。

教科書・参考書 教科書： 資料を配布する。

メッセージ 著しい医療の進歩中で、バイオサイエンスに関する話題を取り上げ解説し、その基礎と応用に対する興味もてるようしたい。また 3 回は、オムニバス形式で先端研究者により解説する。

連絡先・オフィスアワー 17:30 ~ 20:00



開設科目	健康食品学	区分	講義	学年	3年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	服部幸夫				

**授業の概要** 健康食品は盛況を呈しているが、その根拠は必ずしも確かでない。また、医薬品との相互関係も気になる。健康食品製品の表示にも意味があり、理解しつつ対処することが求められている。そこで、健康食品の分類、特徴、法的側面など、健康食品に関して幅広い知識を伝達する企画がこの授業です。教官はすべて健康食品管理士の認定を取得しており、3年前期終了後の学生がその11月に行われる健康食品管理士認定試験を受験し、合格できることを目指しています。

**授業の一般目標** 健康食品に関して、種類、効能、食品としての適切な表示、違法などの知識を獲得し、健康食品管理士の資格認定を取得する。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点：健康食品一般に関して、一定のレベル以上の知識を備える。 思考・判断の観点：効能はその生化学的構造や生物学的特性を踏まえて理解する。 関心・意欲の観点：食生活は健康保持の上で極めて重要な位置を占める。検査に携わる者は、将来その分析や指導に関わる可能性が少なくない。検査技師から派生する新しい職種の出現も踏まえて医療に関する幅広い関心と意欲が求められる。 態度の観点：授業に出席しただけでは不十分であり、認定試験にも及ばない。自主的に興味を持って臨む必要がある。 技能・表現の観点：スーパーに並んでいる健康食品や食品に積極的に関心を持ち、日常性を体得することが肝要です。

**授業の計画（全体）** 3年次前期に健康食品概論、疾患と食事、医薬品への影響、食品添加物、そして法規を講義する。認定試験で出題される「臨床検査医学総論」はこの講義では触れません。3年次前期までにその講義はすべて終了しますので、受験にはその点は自習で対応する必要があります。

**授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

- 第 1 回 項目 健康食品、保健機能食品、
- 第 2 回 項目 医薬品と健康食品
- 第 3 回 項目 健康食品の取り方、NST
- 第 4 回 項目 疾患と食事
- 第 5 回 項目 医薬品への影響
- 第 6 回 項目 健康食品各論
- 第 7 回 項目 食品添加物
- 第 8 回 項目 健康食品に関する関係法規
- 第 9 回 項目 予備
- 第 10 回 項目 予備
- 第 11 回 項目 予備
- 第 12 回 項目 予備
- 第 13 回 項目 予備
- 第 14 回 項目 予備
- 第 15 回 項目 予備

**成績評価方法（総合）** 出席が最も重要である。

**教科書・参考書** 教科書：健康食品管理士指定研修会テキスト、健康食品管理士認定協会、健康食品管理士認定協会、2005年

**メッセージ** 身近な主題なので、取り付きやすいと思われます。生化学的基礎知識が求められますので、その面の学習にも役立ちます。

**連絡先・オフィスアワー** hattori-ygc@umin.ac.jp

開設科目	病理検査学病院実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋睦夫・上田順子・尾野 緑・山本美佐				

授業の概要 構造制御病態学講座(病理学第一講座)で病理組織標本作製法と病理組織診断について学び、病理部で細胞診標本の作製法と細胞診断法について学習する。/検索キーワード 病理組織標本, 組織診断, 細胞診標本, 細胞診断, 病理解剖

授業の一般目標 病理組織標本の作製, 細胞診標本の作製, 各臓器の組織診断, 代表的な病理組織診断と細胞診断ができる。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点: 病理組織標本や細胞診標本の作製法などを説明できる。 思考・判断の観点: 代表的な疾患を病理組織標本や細胞診標本から判断でき, 知識として習得できる。 技能・表現の観点: 病理組織標本の作製と細胞診標本の作製ができる。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 病理標本作製法, 細胞診標本作製法 内容 病理組織標本の薄切・染色や細胞診標本の作製, 検鏡, 迅速標本作製法の見学 授業記録 当該部署の教職員に学生を監督してもらう。

第 2 回 項目 臓器診断, 細胞診スクリーニング 内容 臓器診断と特殊染色, 迅速標本作製法の見学 授業記録 当該部署の教職員に学生を監督してもらう。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合)・作製した病理組織・細胞診標本の評価・採点・臓器診断, 病理組織・細胞診診断についての評価・採点・出席率は評価の対象としないが, 欠格条件

教科書・参考書 教科書: 指定なし

連絡先・オフィスアワー E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845, 連絡先: 保健学科研究棟 1, オフィスアワー: 随時

開設科目	微生物検査学病院実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	梅田昭子・常岡英弘・柳原正志				

授業の概要 2年次・3年次で履修した講義・実習の臨地修練として、病院検査部で実際に患者からの検体を取り扱い、病原体の分離同定を行なう。 / 検索キーワード 病原微生物、同定

授業の一般目標 講義・実験室における実習が、現実の病院検査室ではどのように行なわれているのかを学び、将来臨床検査技師として微生物検査室に配属された場合、即戦力として勤務できることを目的としている。また、社会人としての訓練も行い、一人前の社会人として勤務できることを目的とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：今までに学んだ微生物の講義と実習が、病院での実際の患者検体でどのように検査されるのかを理解する。 思考・判断の観点：知識を基に、実際の検体についてどのような検査を行えばいいのか、自分で判断できる能力を養う。 関心・意欲の観点：実際の患者検体の検査を通じ、現在どのような感染症が問題となっているのか関心を深め、感染症を予防するにはどのようにしたらよいのか等を意欲的に考える能力を養う。 態度の観点：病院研修を通じて社会人としての自覚を持ち、社会人としての態度を学ぶ。 技能・表現の観点：臨床材料の取り扱いについて学び、同定された病原微生物についての報告の方法を学ぶ。

授業の計画(全体) 各グループ2週間の集中実習です。臨床検体における病原微生物の同定の方法、過程、診断、検体の取り扱い等について2週間でマスターできるようにする。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第1回 項目 臨地修練1週目 内容 第1グループ
- 第2回 項目 臨地修練2週目
- 第3回 項目 臨地修練1週目 内容 第2グループ
- 第4回 項目 臨地修練2週目
- 第5回 項目 臨地修練1週目 内容 第3グループ
- 第6回 項目 臨地修練2週目
- 第7回 項目 臨地修練1週目 内容 第4グループ
- 第8回 項目 臨地修練2週目
- 第9回 項目 臨地修練1週目 内容 第5グループ
- 第10回 項目 臨地修練2週目
- 第11回 項目 臨地修練1週目 内容 第6グループ
- 第12回 項目 臨地修練2週目
- 第13回 項目 臨地修練1週目 内容 第7グループ
- 第14回 項目 臨地修練2週目
- 第15回 項目 臨地修練1週目 内容 第8グループ

成績評価方法(総合) 実習態度、卒業試験による総合評価

開設科目	臨床細胞診断学実習 II	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	高橋睦夫・上田順子・尾野緑・山本美佐				

授業の概要 山口大学医学部保健学科では細胞検査士資格認定試験の受験資格を得られるカリキュラムを設定しており、4年生時に認定試験の受験が可能である。認定試験では婦人科、呼吸器、泌尿器、乳腺など全科的な幅広い知識が要求されるため、試験に合格するためには毎日の知識と技術の積み重ねが必要となる。細胞検査士資格認定試験の試験対策を行う。

授業の一般目標 細胞検査士資格認定試験の合格

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：細胞検査士資格認定試験の合格 思考・判断の観点：細胞検査士資格認定試験の合格 技能・表現の観点：細胞検査士資格認定試験の合格

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

- 第 1 回 項目 スクリーニング
- 第 2 回 項目 スクリーニング
- 第 3 回 項目 スクリーニング
- 第 4 回 項目 スクリーニング
- 第 5 回 項目 スクリーニング
- 第 6 回 項目 スクリーニング
- 第 7 回 項目 スクリーニング
- 第 8 回 項目 スクリーニング
- 第 9 回 項目 スクリーニング
- 第 10 回 項目 スクリーニング
- 第 11 回 項目 スクリーニング
- 第 12 回 項目 スクリーニング
- 第 13 回 項目 スクリーニング
- 第 14 回 項目 スクリーニング
- 第 15 回 項目 スクリーニング

成績評価方法（総合）・細胞検査士資格認定試験模擬試験で総合評価を行う

連絡先・オフィスアワー 高橋睦夫 内線 2845、上田順子 内線 2833、尾野緑 内線 2853、山本美佐 内線 2853

開設科目	免疫化学病院実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	服部幸夫				

**授業の概要** 3年次までに学習した知識を実地で確実なものとする。特に、検体分析の実際と詳細、検体の流れ、患者との触れ合い方など、実地でしか得られない事項を中心に学ぶ。免疫・化学検査（迅速検査）緊急検査を行うが、別項の血液検査、一般検査、輸血検査も含めて一部ローテーション形式で行う。思考を深めるために、問題のある検体に関してテーマを設け、ミニ報告を求める場合もある。/ 検索キーワード 臨床免疫、臨床化学

**授業の一般目標** 検体分析の実際と詳細、検体の流れ（IDを含む）、患者との触れ合い方など、実地研修でしか、得られない内容を中心に学ぶ。

**授業の到達目標** / 知識・理解の観点： どのような項目がどのような原理で分析されているか、を理解する  
 思考・判断の観点： 多くの検体分析をとおして、異常検体の認識を深める。現在行われている異常検体の対処法を学ぶ。 関心・意欲の観点： 異常検体に関しては、場合によっては、文献検索による考察も行いより深い洞察を経験する。 態度の観点： 患者様に対して、あるいは現場で働いている検査技師、訪問中のドクターに対して失礼にならないようにする態度を身につけるように心がける。 技能・表現の観点： 分からないところは自分で調べたり、質問をして解決する。アトラス、成書の参照のみならず、インターネットを活用して解決する習性を身につける。ミニ報告があれば、短時間にポイントを表現できるようにする。

**授業の計画（全体）** より深く検査の実際を理解するために、一部門に2-3週間留まり、上記の目標に沿って研修する。最後の1-2週間は他部門をローテーションする。また、他部門からのローテーションに来る学生に対して、自分である程度の説明ができることを目指す。

**成績評価方法（総合）** 卒業試験を評価基準とする。ただし、実習中の態度、理解度なども含めて総合的に評価する。検査技師も指導者に入るために、検査技師の評価も参考にする。実習なので欠席はよほどの事情がない限り許されない。

**教科書・参考書** 教科書： 臨地実習ノート第2版、北村清吉、他、医歯薬出版、2002年； 臨床化学、臨床免疫学のみでなく、関連科目の教科書はすべて用意する（3年次までに使ったもの）。

**メッセージ** 2,3年生の病態生化学、臨床病理学等で用いた教科書を必携。

**連絡先・オフィスアワー** いつでもどうぞ。

開設科目	機能検査学病院実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	2単位	開設期	前期
担当教官	松田昌子, 末永弘美、常岡えい子				

授業の概要 生理学的検査が行われている病院検査室で、検査手技を実地に見せると同時に、検査者の役割、患者の気持ち、患者と検査者の関係について教える。

授業の一般目標 1)各検査室で実地に行なわれている基本的手技を見学により学ぶ。 2)実地検査で求められる迅速性と患者対応の重要性を学ぶ。 3)検査データを判読する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：それぞれの検査の目的、意義を理解する。 思考・判断の観点：特殊対応や緊急対応が求められる場合にどのような対応をすべきか考える。 関心・意欲の観点：病院の検査室で学生としてできることは何か考えて行動する。 態度の観点：患者との接し方を工夫する。 技能・表現の観点：基本的な生理機能学的検査法を習得する。

授業の計画(全体) Iグループ 6~7人の小グループに分かれ、附属病院の生理系検査室を中心に4週間の実習を行なう。実習内容は実習マニュアルに記載する。

授業計画(授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 心電図検査, 脳波検査・筋電図検査 内容 心電図および脳波検査の解析および検査手技のトレーニングし、か 授業外指示 異常心電図の症例検討を大学内で行う。

第 2 回 項目 画像検査学(超音波検査、MRI 検査) 呼吸機能検査 内容 心臓超音波検査、腹部超音波検査の手技習得、MRI 検査見学 授業外指示 大学の実習室で実技を磨く。

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法(総合) レポートおよび実習態度、試験により評価する。出席が所定の回数に満たない者には単位を与えない。

教科書・参考書 参考書：生理機能検査マニュアル, 国立循環器病センター生理機能検査部, メディカ出版, 1999年; 臨床検査学講座「生理機能検査学」, 大久保善朗他, 医歯薬出版, 2003年

連絡先・オフィスアワー 0836-22-2832(松田) 在室時は訪問可。

開設科目	血液検査学病院実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	岡野こずえ				

授業の概要 血液学、血液検査学、血液検査学実習で学んだ知識と技術について、実際に病院の血液検体を使用して血球の測定、血液細胞の鑑別、凝固・線溶系の測定検査の技術の理解を目的とする。また、実際の患者に接して出血時間等の検査を行い、患者に対応する検査を学ばせる。 / 検索キーワード 臨床検体 患者 血液検査 血液疾患

授業の一般目標 実際の病院で実施されている血液検査項目を学ぶ。患者との接し方を学ぶ。患者検体における異常値の対応の仕方を学ぶ。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点： 1、学校で学んだ知識や技術が病院での実務にどう関連しているかを学ぶ。 思考・判断の観点： 1、個々の患者に適応した検査法や実技を学ぶ。 2、患者結果の解読と病態を把握できる。 関心・意欲の観点： 1、色々な患者検体について検査を実施する。 2、その結果を解読し、それから発展する検査項目を学ぶ。 態度の観点： 1、毎日の実習を確実にこなす。 技能・表現の観点： 1、結果を説明することができる。

授業の計画（全体） 午前は、患者様の対応の仕方や出血傾向検査の補助を学ぶ。 午後は、自動血球計測器の理解、各種血液疾患の末梢血および骨髓塗抹標本の観察、フローサイトメーターの見学、血小板凝集能検査の見学等を行い、多方面から血液検査結果の解析を行う。

授業計画（授業単位） / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等

第 1 回 項目 午前は、患者に接する検査。午後は、各種血液検体検査 内容 採血の見学、出血時間の測定の介助、骨髓穿刺の見学、細胞観察（病的標本の観察と診断）、自動測定器の見学（血球測定器、凝固測定器、血小板機能測定器、フローサイトメーター） 授業外指示 礼儀、服装等に注意する 授業記録 担当の技師が、毎日、評価表に評価を記入する

第 2 回 項目 ” 内容 ”

第 3 回

第 4 回

第 5 回

第 6 回

第 7 回

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回

成績評価方法（総合） 病院での実習評価と卒業試験の結果で総合判定を行う。

教科書・参考書 教科書：臨床検査技術学 血液検査学 第4版, 古澤新平、磯部淳一, 医学書院, 2003年 / 参考書：血液細胞アトラス 第5版, 三輪史郎、渡辺陽之輔, 文光堂, 2004年；形態学からせまる血液疾患, 阿南健一他, 近代出版, 1999年；病院実習用のマニュアルを配布する

メッセージ 病院での実習なので服装、言葉使い、態度等に注意をして臨んで欲しい。

連絡先・オフィスアワー kozue@yamaguchi-u.ac.jp Tel:0836-22-2837

開設科目	臨床検査学実習	区分	実験・実習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	服部幸夫・高橋睦夫・山田治・松田昌子・市原清志・日野啓輔				

授業の概要 病棟に1週間張り付いて、そこで行われている検査関係の見学と理解をはかる。また医師、看護師の活動を見学する。1症例をととして、疾患がどのようにアプローチされているかを学ぶ。

授業の一般目標 臨床の現場で検査がどのように扱われているかを理解する。(依頼、報告、流れ、など)  
1 症例の病態、検査などすべてにわたって理解する。ドクター、看護師の仕事を理解する。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：病棟での検体、検査の動きと理解を行う。 思考・判断の観点：疑問はまず自分で考え、調べ、それでも分からなければ医師や看護師に質問する。 関心・意欲の観点：検査の裏には病態があり、その背後には患者がある。それを感じて検査にあたる。 態度の観点：患者はじめ、医師、看護師、放射線技師、理学療法士、栄養士、そして患者の家族など多くの関係者が出入りする病棟において、失礼のない態度であるように自らの態度を常に自分でチェックする。

授業の計画(全体) 月曜日から金曜日までの1週間を病棟で研修する。1グループ約7名からなる6グループがそれぞれ別の診療科で研修する。各グループに保健学科の教官1名がつき、病棟医、看護師などがサポートする。最後の日(金)に各グループごとにカンファランスを行う。前もって、1日オリエンテーションを行い、カルテの見方、注意事項、場合によってはシステムの使い方を学ぶ。

成績評価方法(総合) 実習中の態度、理解度、カンファランスでの発表の内容により、行う。詳細な方法は各教官で少々異なる可能性がある。出席が最も重要である。

メッセージ H17年度は10月末に行われました。H18年度に関しては、追って案内致します。

連絡先・オフィスアワー hattori-ygc@umin.ac.jp



開設科目	病態生化学演習	区分	演習	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	前期
担当教官	服部幸夫				

授業の概要 検査部のカンファランスに参加して、その発表内容の要旨をまとめる。4レポートが最低条件。ただし、6回以上出席した場合は、レポートなしでも、参加だけで単位を取得できる。

授業の一般目標 検査がどのように検討されているか、あるいは研究されているかを臨床の現場でのカンファランスに参加することにより、具体的に学ぶ。将来、検査技師あるいは他の職種で働く時に同様の検討(研究)を自分が行う時の参考とする。

授業の到達目標 / 知識・理解の観点：検査の検討の仕方を学ぶ 思考・判断の観点：発表されている課題は完全に理解する。 関心・意欲の観点：単に聴くだけでなく、発表者に質問をする。 態度の観点：集団の中での自分の立場を心がけて、失礼のないように、そして萎縮しないように心がける。 技能・表現の観点：検査項目の検討、研究の仕方(方法)を獲得する。(テーマは小さいかもしれませんが、検討にはほぼ決まった方法があります。これを獲得しておく、将来自分でそれを行う時に大変役立ちます。将来、テーマの検討、研究とその発表を重ねていくことが大切です。)

授業の計画(全体) カンファランスは時間外なので、時間内のスケジュールには原則として拘束されない。カンファランスでは1回につき、2演題が発表されます。6演題分のレポートを提出するか、10回以上参加した場合は単位が修得できます。

成績評価方法(総合) レポート提出(6以上) 1回に演題が2つあったら、それぞれ別個に1個のレポートとします。レポートには必ず出席日付を記載する。(出席はチェックする)出席していないのに、レポートのみ提出した者にはこの単位は出ない。また、レポートなしでも9回以上参加した場合は単位が修得できます。この場合は、15回以上が優、12-14回が良、9-11回が可となります。

開設科目	応用薬理学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官					

開設科目	国際看護学	区分	講義	学年	4年生
対象学生		単位	1単位	開設期	後期
担当教官	S. テュラーリ				

**授業の概要** The profession of nursing is the largest group of disciplines in the health workforce, nationally and internationally. Since modern nursing began in the mid 19th Century great strides have been made in raising nursing standards internationally through nursing education and research, the development of policies and practices informed by international co-operation and the ability of nurses to effect change in the workplace. The role of international and nursing organizations in effecting this change is examined in this subject.

**授業の一般目標** The goal of this subject is to enable Japanese students of nursing to learn about international nursing. This is help to improve nursing practice and the health of people through better understanding of the international community of nursing and health care, and its implications for Japanese nursing.

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点** : 1. Provide a definition of international nursing, its purposes and challenges as globalization increases its effects (knowledge and understanding); 2. Demonstrate an understanding of selected international nursing and health organizations, their structures and goals including Japan 's nursing structure, organization, education and issues in the context of a global workplace (knowledge and understanding); **思考・判断の観点** : 3. Critically analyze specific international nursing issues such as the global shortage of registered nurses; the education and training of nurses to ensure a competent workforce; and the development of nursing standards and competencies (Thinking and judgement); **関心・意欲の観点** : 4. Demonstrate a willingness to learn by actively participating in seminars, directed readings, internet searches, classroom discussion and group work (interest and motivation); **態度の観点** : 5. Appreciate the importance of international and national efforts to improve health and the impact on nursing practice locally (Attitude) **技能・表現の観点** : 6. Demonstrate new knowledge and critical thinking skills by passing brief papers, and a final examination (Skill and expression)

**授業の計画 (全体)** International Nursing will be taught in English, with translation available in class. Classes will take the form of seminars, with students expected to contribute and share their ideas and findings from assignment work.

**授業計画 (授業単位) / 内容・項目等 / 授業外学習の指示等**

**第 1 回** 内容 Introduction to subject; brief history of nursing; defining nursing and international nursing. Preparation for Week 2: Explore the websites of the International Council of Nursing (ICN), the World Health Organization (WHO) and the Japanese Nurses Association (JNA). Make notes to answer the following questions: 1. What are the major roles of each organization? 2. What are the values of the ICN? 3. Describe one current major project/activity of each organization? Bring your answers to class so that you can contribute to classroom discussio

**第 2 回** 内容 The role and activities of international and professional organizations in nursing and health care, including ICN, WHO, Sigma Theta Tau, and in-country associations such as the Japanese Nurses ' Association and the Royal College of Nursing, Australia. Assignment due Week 3: Working with the group assigned in class, find one recent journal article that discusses the effects of globalization on nursing practice. Copy this paper, read it and in 200 of your group 's own words, summarize one or two ideas/concepts that you found interesting about the paper. Hand in this assignment with a copy of the journal article so that references can be checked. (Assignment can earn up to 10 marks)

第 3 回 内容 The effects of globalization on nursing practice: socio-economic, and political influences. The effects of ageing, AIDS and migration of populations. Preparation for Week 4: Working in group assigned in class, download from the website of the ICN the following paper: Buchan, J. and Calman, L. (2005) Summary: The global shortage of registered nurses: an overview of issues and actions. ICN, Geneva. In your group answer the following questions: 1. List three critical challenges that effect nursing shortages in various countries and briefly explain why. 2. What is one problem in the health system of any country that may cause a nursing shortage? Hand in this paper in Class 4, (about one page in length) , making sure all group members ' names are included. (Assignment can earn up to 10 marks)

第 4 回 内容 The global shortage of registered nurses: issues such as the recruitment and retention, and migration of nurses. Preparation for next week. Working with your group, download the following paper from the ICN website: Bryant, R. (2005) Issue 1: Regulation, roles and competency development. ICN, Geneva. Read this paper to answer the following questions: 1. What is meant by competency development in nursing? 2. Briefly explain the difference between voluntary regulation of a profession and regulation by statute? 3. Do you think nurses should remain competent throughout their working lives? What is the reason for your answer? (Assignment can earn up to 10 marks)

第 5 回 内容 The regulation of nursing and competency development. Preparation for November 11 - Note there is no class next week: you should use this time to search out information to answer the following questions: 1. List the numbers of Japanese nurses registered in each category? 2. What are the ways in which a nurse can become registered in Japan? 3. List the different types of programs that students can undertake to become a nurse. 4. What other kinds of nursing are there in Japan, beside registered nurses? 5. Briefly discuss one major nursing issue facing the Japanese nursing profession now or in the future. This assignment must be done by the individual, not within a group, and should be about one and a half pages in length. A copy of any article you use must be handed in with your paper. (Assignment can earn up to 25 marks).

第 6 回 内容 International perspectives on nursing education and training, including Japan, Australia, Hong Kong, UK, USA

第 7 回 内容 The involvement of nurses in international nurse: enriching your career, the health of people and the profession.

第 8 回

第 9 回

第 10 回

第 11 回

第 12 回

第 13 回

第 14 回

第 15 回 内容 Final Examination: Date and time to be notified

成績評価方法 (総合) The responsibilities of students: 1. Every student is expected to undertake readings/work on the class topic before each class (see schedule over page). 2. Students are expected to attend all classes: Absences of three (3) or more classes will result in an automatic Fail Grade (D); Absences for any class requires emergency or medical reasoning. 3. Students should never copy of someone else 's work as this may result in a Fail Grade. The only exception to this is papers developed in group assignment work but direct quotes or ideas from other authors must always be referenced. Gradings: A: 80-100 %, B: 70-79 %, C: 60-69 %, and D: Fail Grade Below 60 % If you fail either

your exam or short assignments the decision to give a compensatory examination or a rewrite of any assignments rests with the Professor taking the subject. It is not automatic that this is given. Final gradings will be assessed by: Individual and group short assignments 55 % Final Exam 45 %

**教科書・参考書 参考書** : Recommended References: There is no recommended textbook, but students are expected to undertake a wide range of reading in addition to articles in the schedule. Such articles are: Buchan, J. and Calman, L. (2005) Summary: The global shortage of registered nurses: an overview of issues and actions. ICN, Geneva. Bryant, R. (2005) Issue 1: Regulation, roles and competency development. ICN, Geneva. International Council of Nurses (2003) Tackling the UN Millenium Goals. Available at: <http://www.icn.ch/bookshop.htm> Recommended internet sites: & # 8226; The International Council of Nurses (ICN): [www.icn.ch](http://www.icn.ch) This an excellent site with a wealth of information about international nursing - some areas to explore include: ICN Policies, Nursing Networks, Fact Sheets, Global Nursing Project, Guidelines. & # 8226; Blackwell Publishing: <http://www.blackwellsynergy.com> This site gives you many journals to explore, including our own journal Nursing and Health Sciences. & # 8226; Online Journal of Issues in Nursing: <http://www.nursingworld.org/ojin/> & # 8226; Japan Nurses Association: <http://www.nurse.or.jp/> & # 8226; Royal College of Nursing Australia: <http://www.rcna.org.au/> & # 8226; Google Print: <http://print.google.com/print?q=& btnG=Search+Print> On this site you should type in nursing or international nursing and you can view chapters of the latest books. See if you can find a book that has information about international nursing or health. You may find other sites that are useful - please share these with your colleagues. Some keywords for internet searches: international nursing, international health care, globalization and nursing, globalization of health care, international nursing issues.

**連絡先・オフィスアワー** E-mail Address: [sturale@yamaguchi-u.ac.jp](mailto:sturale@yamaguchi-u.ac.jp)

開設科目	検査技術科学卒業研究	区分	その他	学年	4年生
対象学生		単位	4単位	開設期	通年(前期,後期)
担当教官	専任教官・医学科教官				

**授業の概要** 早い時期に医学部保健学科および医学科教員の各研究テーマが示されます。そのテーマ中から各自の希望に沿って(第5希望の範囲で指導教官を決めます)卒業研究のテーマを決めます。指導は前期と後期の2グループに分かれ、各テーマ毎に約8週間で行われます。研究成果の発表は12月の合同研究発表会で行い、質疑を受けます。その後、発表内容をまとめて卒業研究論文集を作成します。

**授業の一般目標** 1.研究テーマの背景を調査し説明できる。 2.研究内容の方法論を検討することができる。 3.得られたデータを考察し研究内容を説明できる。

**授業の到達目標 / 知識・理解の観点:** 1.研究テーマの背景を理解している。 2.研究に必要な方法論を理解している。 **思考・判断の観点:** 1.予想外のデータがでた時にその原因を考察できる。 2.各種のデータをもとに必要な実験計画を建てることができる。 3.得られたデータをもとに考察を加えることができる **関心・意欲の観点:** 研究内容の問題点を明確にし、解決するための努力をしている。 **態度の観点:** 指導教官とよく打合せを行い、研究内容の理解、解決のための検討、発表内容の整理などの態度。 **技能・表現の観点:** 得られた結果を纏め、その意義を考察し、論文に纏める。

**授業の計画(全体)** 限られた時間であることから、研究内容の背景をできるだけ速やかに理解する。研究内容を把握できたら、どこまで明確にされどこがわかっていないかを検討する。問題点が明確になったら、どのような方法論でそれを解決するかを検討する。得られたデータをもとに更に検討を行う。検討内容を取り纏め、論文にまとめ発表する。

**成績評価方法(総合)** 研究内容に対する取り組み、態度を評価する。指導者に自分の考えを述べ、検討することができる-独創性、判断力、表現力を評価する。データを取り纏め、論文作成発表-判断力、表現力を評価する。

**メッセージ** 指導教官と十分な打合せを行う。その際、どこで研究を行うか、不在の場合の連絡などは確実に行うこと。身だしなみ、言葉遣いも十分注意する。夏休み中の研究指導についても十分相談すること。